千葉県所在古墳詳細分布調査報告書

平成２年３月

千 葉 県 教 育 委 員 会

文化財課

千葉県所在古墳詳細分布調査報告書

平成2年3月

千 葉 県 教 育 委 員 会

序

首都圏に位置する本県では、近年のめざましい経済、社会の発展に伴い、開発事業が特に著しく、その波は県内各所に及んでいます。そのため、地理的景観や歴史的風土に急激かつ大きな変貌が見られ、埋蔵文化財の保存にも大きな影響を及ぼしています。

このような状況の中で、埋蔵文化財の保護を徹底するためには、その所在を正確に把握し、その重要性を一般に十分周知徹底することが必要です。このような観点から本県においては、埋蔵文化財周知地図の整備に努め、各市町村別及び全県版の周知地図の整備をほぼ完了しました。その結果、全県で2万か所余りの所在が確認されましたが、一部を除いて、正確な範囲や時代、性格など個々の詳細な内容までは把握されていないのが現状です。そこで、千葉県教育委員会では一歩前進した周知事業として、遺跡の種類別の詳細分布調査を計画し、国庫補助を受けて第1期に貝塚（昭和55～57年度）、第2期に生産遺跡（昭和58～60）の調査を実施し、その成果を公刊してきました。

昭和61年度からは第3期目の事業として、「王賜」銘鉄剣の発見などで一般の関心も急速に高まりつつある古墳（横穴古墳を含む）を対象とする調査を開始し、4か年をかけて調査を終了しました。その結果、多くの新発見古墳を含め、12,000基にのぼる古墳を確認し、立地、規模、墳形など詳細な内容を記録した調査カードを整備し、実態を把握することができました。

このたび、その成果を報告書として刊行する運びとなりましたが、本書が埋蔵文化財保護のための基礎資料として、また学術的資料としても、広く活用されることを願ってやみません。

終わりに、文化庁を始めとして、御協力いただいた各調査委員の皆様、各市町村教育委員会、各地区文化財センター等の関係者各位に心からお礼申し上げます。

平成2年3月31日

千葉県教育庁文化課長　福　田　　誠

例　　言

1．本調査報告書は、千葉県教育委員会が国庫補助を得て、昭和61年度から平成元年度にかけて実施した千葉県所在古墳詳細分布調査の結果をまとめたものである。

2．調査は、千葉県教育委員会が主体となり、委嘱した調査指導委員、調査員の他、各市町村教育委員会等の協力を得て実施したものである。

3．本書に掲載した地図は国土地理院発行の２万５千分の１地形図を５万分の１に縮小し、複製したものである（承認番号平２関複、第103号）。

4．地図の掲載順序は千葉県の北から東へとし、地図名の前に番号をつけた。なお、紙面の都合上、部分的な使用をしたものがあるが、地図名は原図のままである。

5．各古墳の名称は、原則として旧来からの呼称を用いた。

6．古墳番号は各市町村ごとに１から通し番号を付している。

7．分布地図における古墳の表記は下記のとおり、墳形別にしてある。なお、消滅したものについては白抜きにして表現してある。

古　　墳　● 円墳　　■ 方墳　　前方後円墳　　前方後方墳

古 墳 群　 

横穴　 

横穴群　 

8．原稿の執筆は、第２章、第３章、第４章については調査指導委員及び調査員が分担した。それ以外は、県文化課職員が執筆した。

9．本調査報告書の編集は千葉県教育庁文化課で行った。

目　　次

序　文
例　言
目　次

第1章　調査の方法と古墳分布の概略 …… 1
　第1節　調査の目的と意義 …… 1
　第2節　調査の方法 …… 2
　第3節　調査結果のとりまとめ …… 4

第2章　地区別古墳分布の解説 …… 6
　第1節　東葛飾地区 …… 古谷　毅 …… 6
　第2節　印旛地区 …… 有沢　要 …… 10
　第3節　香取地区 …… 萩　悦久 …… 16
　第4節　海匝地区 …… 萩　悦久 …… 19
　第5節　山武地区 …… 福間　元 …… 22
　第6節　長生地区 …… 福間　元 …… 26
　第7節　千葉地区 …… 田中清美 …… 29
　第8節　市原地区 …… 田中清美 …… 31
　第9節　君津地区 …… 小沢　洋 …… 37
　第10節　夷隅地区 …… 戸倉茂行 …… 52
　第11節　安房地区 …… 戸倉茂行 …… 54

第3章　房総の古墳の特質 …… 58
　第1節　房総における高塚古墳について …… 杉山晋作 …… 58
　第2節　房総における横穴墓について …… 椙山林継 …… 64
　第3節　房総における方形周溝墓等について …… 山岸良二 …… 73
　第4節　房総の古墳の特質について …… 大塚初重 …… 83

第4章　千葉県内古墳一覧 …… 87
　古墳一覧表 …… 88
　分布地図 …… 182

第1章　調査の方法と古墳分布の概略

第1節　調査の目的と意義

埋蔵文化財の所在を一般に周知徹底することは、その保護対策の基本であり、最も重要な施策である。このため、千葉県教育委員会では、国庫補助金や県単独の補助金などにより、市町村別の埋蔵文化財周知地図の作成を推進し、その整備をほぼ終了するとともに、これらの成果を基に、独自の補足調査を加えた全県版の周知地図（4分冊）の刊行を、国庫補助を得て昭和62年度に終了した。さらに平成元年度からは、新たな周知事業として、埋蔵文化財の所在を現地において明示する標柱の設置を計画的に行うこととし、これに要する費用の県費による助成を開始したところである。

これらの埋蔵文化財分布調査の結果、本県においては約23,000か所の遺跡の所在が確認され、上記の周知地図は、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整における基本資料として重要な役割を果たしている。しかしながら、所在の周知に止まらず一歩前進して、数多くの遺跡の性格や範囲を正確に把握し、その中で特に重要で、なおかつ開発による現状変更のおそれのあるものについては、史跡指定を初めとする具体的な保護措置を講じる等、より積極的な埋蔵文化財保護対策も急務となってきた。

このような観点から、千葉県教育委員会では、昭和55年度以来、種類別の遺跡詳細分布調査を開始し、既に貝塚（昭和55～57年度）、生産遺跡（昭和58～60年度）の調査を行い、その成果を公刊してきた。

これらに続く第3期の調査として、昭和61年度から「古墳」を対象として詳細分布調査を実施することとなり、当初3か年計画で事業を開始した。ところが、山林の荒廃により調査の進捗が著しく阻害されたことなどの理由から、期間を4か年に延長し、このたびようやく報告書刊行の運びとなった。

県下の古墳数は、従来約1万基（横穴を含む）とみられてきたが、近年の各種開発の急速な伸長に伴って、発掘調査後に消滅するものが急増している。一方、古墳発生期の鍵をにぎる遺跡として注目された市原市の神門古墳群や、「王賜」銘鉄剣の出土でマスコミにも大きく取り上げられた同じ市原市の稲荷台1号墳などの発掘調査によって、全国的にも房総の古墳文化の重要性と特異性が注目され、一般県民の関心も高まっている。このような状況の中で、古墳の所在状況の実態を把握し、その結果に基づく保護対策を策定していくことは必要不可欠な事業となっている。

今回の調査では、記録保存後に消滅したものも含め12,748基（古墳8,665、横穴4,083）の所在が確認された。未調査のまま消滅し把握しようのないものもかなり存在するであろうこと、従来古墳とされてきたもので踏査の結果古墳ではなく信仰上の「塚」と認められ除外したものも多いことを考えると、本来の所在数はこれよりかなり多かったと見るべきであろう。（詳細な現地確認の結果、中近世のいわゆる塚が、古墳として登録されていたケースもかなりあった訳であるが、これらのデータについても、本報告書に記載したいと考えていたが、紙数の制約もあり果たせなかった。将来において、このような塚についての詳細分布調査も実施する必要を感じている。）

踏査の及ばなかったものも若干はあると思われるが、本報告書に記載されたものが、千葉県において現存するか又は内容の知られる古墳のほぼ全てと理解して差支えないと思われる。ただし、未調査のまま失われた多数の古墳の存在（実数は今のところまったく押さえることができない）を考慮すると、実際に築造された数は、高塚古墳だけで1万基前後に達するものであった可能性は高いと思われる（方形周溝墓は含まない）。

この報告書には、現在において作成した調査カードの内容のごく一部しか掲載できず、古墳分布の概況を示すにとどまった。今後、今回作成した基礎データを基にした個別調査を積み上げ、より充実した古墳資料を整備していきた

いと考えている。

それにしても、今回の調査を通じて、未調査のまま、また記録保存後であったとしても、失われていく古墳の多いことが改めて痛感させられた。今後、その保護対策の充実が急務であることを訴える事実である。既に、今回の調査成果などを基に、県教育委員会は昭和63年度に市原市神門5号墳と君津市飯籠塚古墳の2基、平成元年度には成田市公津原古墳群（40基）と山武郡松尾町大堤権現塚古墳を県の史跡に指定し、埋蔵文化財保護上の大きな前進を図ったところである。今後とも各種の調査結果を活用して、古墳に限らず各種の重要遺跡について史跡指定等の保護対策を推進していく所存であるが、そのためにも本書が各方面で十分活用されることを期待するものである。

第2節　調査の方法

調査は千葉県教育委員会が調査主体となり、古墳に見識の深い学識経験者5名を調査指導委員に委嘱し、現地調査を実施したが、調査地域が広いため、各年度毎に調査地域に詳しい調査員を併せて委嘱し、現地調査、資料調査の充実と円滑化を図った。

調査指導委員及び調査員名簿

昭和61年度

(1) 指導委員

大塚初重	明治大学
椙山林継	国学院大学
杉山晋作	国立歴史民俗博物館
山岸良二	東邦大学付属東邦高等学校
藤下昌信	

(2) 調査員

湖口淳一	(財)千葉市文化財調査協会
菊池健一	同上
森　竜哉	八千代市教育委員会
枝川　旬	柏市教育委員会
有澤　要	(財)印旛郡市文化財センター
川端弘士	同上
宇佐美義春	
原田享二	佐原市教育委員会
平野　功	小見川町教育委員会
勝又貫行	多古町教育委員会
石橋宏克	佐原市立佐原中学校
越川敏夫	
荻　悦久	県立匝瑳高等学校
藤崎宏道	八日市場市教育委員会
古谷　毅	国学院栃木短大付属高等学校

昭和62年度

(1) 指導委員

大塚初重	明治大学
椙山林継	国学院大学
杉山晋作	国立歴史民俗博物館
山岸良二	東邦大学付属東邦高等学校
藤下昌信	

(2) 調査員

田中清美	(財)市原市文化財センター
浅利幸一	〃
加藤正信	〃
浅野雅則	木更津市教育委員会
小沢　洋	(財)君津郡市文化財センター
平野雅之	〃
光江　章	〃
豊巻幸正	〃
戸倉茂行	〃
藤岡孝司	〃
福間　元	芝山はにわ博物館
平山誠一	(財)山武郡市南部地区文化財センター
石本俊則	〃
土屋潤一郎	〃

昭和63年度

(1) 指導委員

大塚初重	明治大学
椙山林継	国学院大学
杉山晋作	国立歴史民俗博物館
山岸良二	東邦大学附属東邦高等学校
藤下昌信	

(2) 調査員

小川力也	茂原市立富士見中学校
鈴木庄一	睦沢町教育委員会
杉山孝則	
松本昌弘	(財)茂原市文化財センター
小川和博	
藤原　均	
戸倉茂行	(財)君津郡市文化財センター
池田和弘	
柴本一郎	富津市立湊小学校
菊池健一	(財)千葉市文化財調査協会
古谷　毅	国学院栃木短大附属高等学校
有沢　要	(財)印旛郡市文化財センター
宇佐美義春	
勝又貫行	多古町教育委員会
平野　功	小見川町教育委員会

平成元年度

(1) 指導委員

大塚初重	明治大学
椙山林継	国学院大学
杉山晋作	国立歴史民俗博物館
山岸良二	東邦大学付属東邦高等学校
藤下昌信	

(2) 調査員

有沢　要	佐倉市教育委員会
荻　悦久	県立匝瑳高等学校
小沢　洋	(財)君津郡市文化財センター
田中清美	(財)市原市文化財センター
戸倉茂行	(財)君津郡市文化財センター
福間　元	芝山町教育委員会
古谷　毅	国学院栃木短大付属高等学校

調査の方法は現地踏査を主体として、既知の古墳の位置、規模、内容等を調査し、調査票を作成した。また、未知の古墳の発見にも努め、新発見古墳についても調査票を作成した。その他、消滅古墳についても文献調査等を行い、調査票を作成した。この調査票は、県教育委員会文化課と調査指導委員が合議の上、別図のように定めた。

調査対象地区は広範囲であるため、3か年に分けて実施した。昭和61年度は旧下総地区（東葛飾郡市、千葉市、印旛郡市、香取郡市、海匝郡市）、昭和62年度は旧上総地区（長生郡市、市原市、君津郡市）、昭和63年度は旧上総地区（長生郡市、夷隅郡市）と旧安房地区（安房郡市）、それに前2か年分の地区の補足調査を実施した。平成元年度は3か年の現地踏査をもとにして作成された調査票を基礎に、資料調査、分献調査を加えて、報告書の作成をした。

第3節　調査結果のとりまとめ

今回の調査において、古墳の数量は大幅に増大した。昭和60年から昭和63年の4か年にわたって実施した『千葉県埋蔵文化財分布地図』と比較すると明瞭である。今回の調査による古墳の総数は8,665基、横穴墓4,129基で、合計は12,794基である。『千葉県埋蔵文化財分布地図』では古墳は7,116基、横穴墓は3,703基で、合計は10,819基であった。1,975基の増加である。その内訳は以下のとおりである。なお、カッコ内は『千葉県埋蔵文化財分布地図』における数量である。前方後円墳644基（567基）、前方後方墳27基、円墳7,015基（5,582基）、方墳777基（533基）、墳形の不明なもの202基（434基）。

増加の理由はいくつか考えられる。発掘調査が増大し、墳丘の失われていたものが、数多く検出されてきている点がまずあげられる。これは横穴墓においても同じ事がいえる。円墳については、今回は塚との関連で数量が増大している。従来、塚として扱われていたものも、発掘調査を実施した結果、円墳を改変して塚に転用している例がよくある事から、古墳あるいは古墳群に隣接している塚については小円墳である可能性も強いので、古墳として扱うものがふえている。今回の調査の最大の成果は墳形の不明であった古墳の数量が半減した事である。目的意識の明確な現地踏査の成果であり、今後の分布調査の指針にもなると思われる。

分布調査の限界も指摘できる。特に横穴墓の確認は難しい。立地条件からして、開口しているもの以外は把握できない。今後、数量が増大してくるものと思われる。墳丘の消滅している古墳も現地踏査だけでは無理があり、今後、やはり増大してくると思われる。

今回の調査においては中世の「やぐら」、中近世の「塚」も対象として、現地踏査を実施し、調査票を作成したが、古墳の性格を明確にするため、本報告書においてはその成果を割愛した。

文献目録を作成したが、紙数の関係で掲載できなかった。これは後日、何らかの方法で刊行したいと考えている。

千葉県所在古墳調査票　　千葉県教育委員会

1	種別	前方後円墳, 前方後方墳, 円墳, 方墳, 帯形不明古墳, 横穴, 塚, その他（　）
2	名称	古墳群　古墳 横穴群　横穴（奥名　） 遺跡　墓
3	所在地	郡　市町村　大字　小字　番地
4	立地	
5	土地の状況	
6	保存状況	完存　部分遺存　消滅
7	形状 規模	墳丘　直径(一辺)＿＿m　高さ＿＿m 全長＿＿m　後円部 直径＿＿m　前方部幅＿＿m 高さ＿＿m　高さ＿＿m
8	調査歴	
9	散布遺物 外部施設	埴輪　円筒, 朝顔, 形象（　） 土師 その他
10	内部施設	
11	副葬品	
12	年代 特記事項	
13	保管場所	遺物 資料
14	指定状況	国　県　市町村　無指定　指定年月日　明治 大正 昭和　年　月　日
15	所有者	氏名 住所
16	地図	1/50,000（　）　1/25,000（　）
17	保存の見通し その他	
調査年月日		年　月　日
調査者氏名		㊞

図面

写真

市町村別一覧表

市町村名	前方後円	前方後方	円	方	不明	計	横穴	総計
千葉市	32		538	59	1	630	12	642
市原市	90	16	1,146	314		1,566	100	1,666
船橋市			11	1	3	15		15
市川市	3		2	1		6		6
習志野市	2		2			4		4
八千代市	2		31	4		37		37
浦安市								
松戸市			15		13	28		28
柏市	2		63	3	2	70		70
野田市			12	1	18	31		31
流山市	2		21	2		25		25
我孫子市	7	2	115		9	133		133
鎌ケ谷市								
関宿町			2		2	4		4
沼南町	15		252	12	11	290		290
佐倉市	13	2	149	10	3	177	3	180
成田市	27	1	292	44		364	8	372
四街道市	10		94	16	1	121		121
酒々井町	5		11	4	1	21	7	28
八街町	2		9			11		11
富里町			5	4		9		9
栄町	30		68	6	1	105	2	107
印旛村	20		185	15	3	223	11	234
本埜村			57	7	1	65	2	67
印西町	9		43	2	5	59		59
白井町			29			29		29
佐原市	37		183	8	6	234	110	344
下総町	25		147	5	8	185	47	232
神崎町	12		56	2		70	2	72
大栄町	8		72	4	10	94		94
栗源町	8		56	2	1	67	3	70
小見川町	25	1	42	3	6	77		77
山田町	3		16			19		19
干潟町	10		21		5	36	4	40
東庄町	5		75		3	83	13	96
多古町	28		267	24	6	325		325
銚子市	1		29	11	8	49	14	63
海上町	1		30			31	1	32
飯岡町	1		4		14	19	27	46
旭市			1		1	2		2

市町村名	前方後円	前方後方	円	方	不明	計	横穴	総計
八日市場市	11		115	11	32	169	49	218
光町	7		35	1		43		43
野栄町			1		1	2		2
東金市	15		208	6		229	118	347
大網白里町			3			3	118	121
九十九里町								
成東町	10		83	6		99	1	100
山武町	22		218	43	7	290		290
松尾町	7		77	8		92		92
蓮沼村								
横芝町	4		36	6		46		46
芝山町	26		251	2		279	4	283
茂原市							193	193
一宮町	1		6			7	61	68
白子町								
長柄町	3		2			5	391	396
長南町	3		15	1	6	25	409	434
睦沢町	4		19	1		24	191	215
長生村								
勝浦市							13	13
大多喜町	2		36			38	49	87
夷隅町	1		3			4	66	70
御宿町							5	5
大原町							79	79
岬町			1			1	86	87
館山市	1		3		5	9	356	365
鴨川市			7		1	8	8	16
鋸南町			1			1	66	67
富山町	1		2			3	13	16
富浦町			1			1	82	83
三芳村			5			5	228	233
白浜町								
千倉町	1		7	1		9	29	38
丸山町	1		3			4	192	196
和田町							14	14
天津小湊町					1	1	1	2
木更津市	32		611	43		686	90	776
君津市	27	2	677	28	2	736	124	860
富津市	16		60	7	5	88	727	815
袖ケ浦町	14	3	378	49		444		444
計	644	27	7,015	777	202	8,665	4,129	12,794

第２章　地区別古墳分布の解説

第１節　東葛飾地区

古　谷　　毅

東葛飾地区は、西を江戸川、北東を利根川、南を東京湾に大きく画され、東では概ね印旛沼水系との分水嶺が郡境となっている。小河川はほとんどがこの二大河川と東京湾に流出するが、北東部には大きく手賀沼が嵌入し、多くの小河川を集めている。このようなことから、東京湾と手賀沼に流出する河川を東京湾水系・手賀沼水系とし、それ以北の江戸川と利根川に流出する河川を江戸川水系・利根川水系とする。

東京湾水系・手賀沼水系には前方後円墳などの有力古墳が多数分布し、とくに手賀沼水系には古墳の集中が著しい。これに対し、北部の江戸川水系・利根川水系には古墳の分布が希薄であり、有力古墳もきわめて少ないことが特色である。

１　江戸川水系

江戸川と利根川に挟まれ、北西に細長く半島状に延びる台地の西半部である。北から五駄沼に流出する小河川、座生川、利根運河、坂川などが開析した樹枝状支谷が台地に入り込み、低地を形成している。古墳は各小河川の河口近くか、開析谷奥部の台地上に立地するが、特に群集するものはない。

比較的顕著な古墳としては、五駄沼に面する台地上の香取原古墳群（野－１）と江戸川に向う小支谷を望む中野久木谷頭古墳（流－10、円）・初石古墳群（流－10付近、円４）・向腹古墳（流－13・方）、坂川北岸の三本松古墳（流－21、前方後円墳）・鰭ヶ崎古墳群（流－22、円２）・芝崎古墳群（流－16・円２）、南岸の小金古墳群（松－１、円６）・相模台古墳群（松－19、伝・円）がある。ほかには、塚群とみられるものを除き、円墳が若干散在する。

このうち埴輪を樹立する古墳群は、香取原古墳群・鰭ヶ崎古墳群・初石古墳群で、単独墳では岩名古墳（野－４、円）・門倉古墳（野－６、円）・中野久木谷頭古墳・三本松古墳がある。このほか、関宿町関宿跡址、野田市金野井遺跡、流山市三輪野山下屋敷遺跡・加町畑遺跡・キッコーマン工場地内でも埴輪が検出されている。なお、顕著な内部施設をもった古墳としては、岩名古墳・北谷津１号墳（流－14、方）で横穴式石室が確認されている。

２　利根川水系

江戸川水系と同じく、細長く半島状に延びる台地の東半部である。北から阿部沼落堀、八間堀、江川、利根運河などが開析した樹枝状支谷が台地に入り込み、低地を形成する。古墳は利根川を望む台地縁辺か、各小河川中流域の開析谷に面した台地上に立地するものが多い。とくに、利根運河とこれに流れ込む江川などの支流沿いには、古墳が集中する。

なお、これ以南の利根川沿いの古墳は、分布にやや空白地帯を挟んでいずれも手賀沼との台地地峡部に集中するため、それらの古墳は手賀沼水系に含めて検討する。

利根運河の奥部南岸には、前方後円墳を含む東深井古墳群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（流－２・３・４、前方後円墳１・円18）、八幡山古墳群（柏－１、円４）に、単独墳や消滅したものを含めると、約40基の古墳が群在していた。また、やや下流の両岸にも、それぞれ下ヶ尾古墳群（流－18、円３）・大山古墳群（柏－３、円５）があり、江川両岸にも大塚山

古墳群（野－９、円３）・瀬戸古墳群（野－16、円３）・二ツ塚古墳群（野－14、円８）・鞍の橋台古墳群（野－15、円３）のほか、円墳や方形周溝墓が散在する。

そのうち埴輪を樹立する古墳群は、広義の東深井古墳群と呼べる範囲だけで、東深井古墳群Ⅰ・東深井１号墳（流－１、円）・一ノ台古墳（流－５、円）から比較的豊富に出土する。横穴式石室は東深井古墳群Ⅰ・二ツ塚古墳群で確認されている。

３　手賀沼水系　―対岸地域、南岸地域―

概略、手賀沼を挟んで南北両岸に大別されるが、北岸には３地区、南岸には４地区を設定することができる。北岸は東西に延びる狭長な台地であり、西から花野井・我孫子・湖北の３地区がある。これに対し、南岸はやや規模の大きな小河川によって台地が大きく分断され、それぞれ半島状の小空間を形づくっている。西から、小河川の中では最大規模で柏市・沼南町境を北流して手賀沼に注ぐ大津川の流域と、柏市域で大津川河口左岸の戸張地区、沼南町域で大津川河口右岸の船戸地区がある。また、さらに東には、西流する染井入落と金山落によって南北を開析された台地が手賀沼に細長く半島状に突き出している片山地区がある。このほか、手賀沼の西には大堀川・地金堀流域の松ヶ崎地区がある。

まず、北岸地域から見てゆく。

花野井地区は、北からの開析谷と南の地金堀に挟まれた台地地峡部にある。古墳は利根川に面する台地端に有力な古墳が分布するほか、小円墳が点在する。台地北縁から大きく入る支谷が形成する舌状台地端には、塚原古墳群（柏－７、前方後円墳１・円５）・やきつね山古墳（柏－４、円）・城の越古墳（柏－４付近、伝・円）があり、いずれも埴輪を伴っている。また、東方の利根川の面する独立丘には、古式古墳と推定される弁天古墳（柏－12、前方後方墳）が所在するほか、南に入る浅い谷に面する前留古墳群（柏－５、円３）などが点在する。なお、塚原古墳群の大塚古墳は粘土槨、庄左ェ門古墳は割竹形木棺、やまもと古墳は横穴式石室で、顕著な内部施設をもつ。

我孫子地区は、東西に延びる半島状の台地基部にあたり、北側に大きく入る樹状の開析谷が広い低地を形成している。南側は沼幅が狭まった手賀沼の西半部に面し、対岸の戸張・船戸地区を指呼の間に望む位置にある。この手賀沼に面した台地南縁に有力な古墳が集中的に分布する。西から、単独墳の金塚古墳（我－１、円）・日立精機１号墳（我－２、前方後円墳）に続いて、日立精機古墳群（我－３、前方後円墳２・円１）・根戸船戸古墳群（我－４、前方後円墳４・円２）・白山古墳群（我－５、前方後円墳１・円14）、やや離れて子の神古墳群（我－９、前方後円墳１・円14）・並塚古墳群（我－10、円５）・高野山古墳群（我－11、前方後円墳１・円８）が集中的に分布する。また、東方には比較的大型古墳の水神山古墳（我－13、前方後円墳）と香取神社古墳群（我－12、方１・円２）・西大久保古墳群（我　15、円２）のほか、円墳が散在する。このほか、台地北側の舌状台地端には利根川に面して、久寺家古墳群（我－43、円２）がある。埴輪は、子の神古墳群・高野山古墳群・久寺家古墳群と、単独墳の金塚古墳から出土している。また、内部施設は水神山古墳が割竹形木棺で、横穴式石室をもつ古墳は日立精機古墳群・根戸船戸古墳群・白山古墳群・子の神古墳群・高野山古墳群に含まれ、ほかに日立精機１号墳・水神山北古墳（我－17、不明）がある。

湖北地区は、半島状の代地東部を占め、南北から多くの開析谷が入る。対岸の代地までは最短でも1.5km以上ある。古墳はこれまでの２地区に比べて顕著な古墳はみられないが、地区西部にはとくに多数の小古墳が群在することが特徴である。まず、西方の南北から開析された地峡部の台地北端には、利根川に面して西原古墳群（我－21、円２）岡発戸古墳群（我－22、円９）が位置する。一方、やや離れて東方の台地には、北から大きく入る開析谷に面して、中峠北古墳群（我－29、円９）・中峠上古墳群（我－30、円10）、台地上には中峠南古墳群（我－28、円11）・中峠下古墳群（我－32、円３）・下中宅地裏古墳群（我－33、円３）のほか、小古墳が点在する。また、さらに東方の利根

川・手賀沼に面した台地端には、高根古墳（我－34、円）・羽黒前古墳（我－38、前方後円墳？）・花輪前古墳（我－40、帆立貝式古墳）などの比較的顕著な単独墳が点在することが注意される。埴輪は、岡発戸古墳群・中峠北古墳群と高根古墳・羽黒前古墳で確認されている。また、横穴式石室を内部施設とする古墳は、中峠上古墳群・中峠南古墳群と羽黒前古墳である。

松ヶ崎地区は、手賀沼の西端に流出する大堀川とそれに注ぐ地金堀の流域である。古墳の分布は希薄で、わずかに腰巻古墳群（柏－16、円３）・町田台古墳群（柏－17、円２）・かたぎ山古墳（柏－15、円）が分布するが、詳細は不明である。

一方、南岸地域も西から見てゆくことにする。

戸張地区は、北を手賀沼、東を大津川に画された台地であるが、対岸までは１km足らずの距離である。古墳の分布はきわめて少なく、手賀沼に面する天神台古墳群（柏－18、円５）だけであるが、顕著に埴輪を囲繞する古墳が多い。このほか、大津川に面した台地端には方形周溝墓・戸張遺跡（柏－37、前方後方形周溝墓）が点在するほか、大規模な集落が密集するなど注目される地区である。

大津川流域は、支流の形成した開析谷が樹状に拡がり、流域に幅広い低地を形成しているが、下流は手賀沼の沼面の標高とほぼ同じである。古墳はほとんどが中流域や支流の谷を望む台地端、または台地上に集中する。遠く手賀沼を望む下流右岸の突端には浅間古墳（沼－１、前方後円墳）が位置し、台地上には追花古墳群（沼－２、円３）が所在する。中流域左岸には、北から中山越古墳群（柏－20、円３）・稲荷下古墳群（柏－21、円３）・浅間神社古墳群（柏－28、円３）・西向原古墳（沼－17、前方後円墳）が開析谷を望む台地端に、鷲ノ山古墳群（柏－23、円３）・上人塚古墳群（柏－26、円６）・三ノ台古墳群（柏－27、円３）・庚申前古墳群（柏－29、円３）が台地上にある。同じく右岸には、北から神明社裏山古墳（沼－11、円２）・関根古墳群（沼－12、円５）・宮田原古墳群（沼－15、円15）が台地端に、塚崎古墳群（沼－８、円２・方２）・中島古墳群（沼－13、円９）・小山古墳群（沼－14、円５）が台地上にある。埴輪をもつ古墳は認められず、内部施設も不明で、塚である可能性が高いものも多い。

船戸地区は、北を手賀沼、南を染井入落に画された半島状の台地である。対岸の我孫子地区とは、手賀沼を挟んで指呼の間にある。古墳はほとんどが手賀沼を望む北端に集中し、有力古墳も多い。北から大きく樹状に拡がる開析谷の谷口部を望む舌状地の突端に、船戸古墳群（沼－22、前方後円墳６・円26）・箕輪古墳群（沼－23、前方後円墳１・円３）が集中的に群在する。同じく東方の台地北縁にも、天神山古墳群（沼－29、前方後円墳１・円５）・北ノ内古墳群（沼－31、円２）、南縁には道堀古墳群（沼－27、円２）があるほか、円墳が点在する。なお、須賀古墳（沼－30、円）は低地に立地し、注目される。埴輪は、箕輪古墳群・天神山古墳群・北ノ内古墳群の各古墳群で認められ、船戸古墳群では横穴式石室・箱式石棺を内部施設とする古墳がある。

片山地区は、南を金山落に画され、東西に手賀沼に突き出た半島状の台地である。北側からは多くの開析谷が入る。古墳は手賀沼を望むこれらの谷口部の台地端か、染井入落に面する南縁に多く分布する。台地北縁には、西からオツコシ古墳群（沼－45、円４）・片山古墳群（沼－46、前方後円墳１・円80・方４）・北作古墳群（沼－47、前方後円墳１・円１）が群在し、東端には城戸古墳群（沼－63、円５）・宮前古墳群（沼－64、円４）がある。台地南縁には、染井入落全域を見渡す位置にある六本松古墳（沼－49、前方後円墳）に続いて、西から下柳戸古墳群（沼－51、前方後円墳１・円４・方１）・南郷古墳群（沼－53、円２・方１）・柏作第１古墳群（沼－56、円３・方１）・柏作第２古墳群（沼－56、前方後円墳１・円７）・原古墳群（沼－57、円10）・池田古墳群（沼－59、円10）・新堀古墳群（沼－61、円２）・布施東原古墳群（沼－62、円３）が連なり、台地上には原出口古墳群（沼－55、円10）がある。また、染井入落の上流左岸には城之堀古墳群（沼－38、円３）・藤ヶ谷古墳群（沼－39、不明）がある。なお、中郷古墳群は（沼－52、円２）はこれらに近接するが、片山古墳群などと同じく北から入る開析谷を望む位置にある。埴輪をもつ古墳

は認められず、片山古墳群の大半のものをはじめ、塚である可能性が高いものが多い。ただし、北作古墳群の２基はいずれも粘土槨を有する前期古墳で、注目される。

4　東京湾水系

西を江戸川に画され、東京湾に面して東南に拡がる台地で、北は手賀沼水系・江戸川水系、東は印旛沼水系と分水嶺を隔てて接する。東京湾に注ぐ国分川・大和川・海老川が開析した樹状支谷が南から入り、広い低地を形成している。古墳は早くから開発が進んだためか、数は少ないものの比較的大型の有力な古墳が国分川と海老川河口付近に集中的に分布する。

まず、江戸川と国分川に挟まれた南北に細長く延びる台地西南縁には、栗山古墳群（松－18、円２）・丸山古墳（市－１、円）が江戸川に向う開析谷の谷口部に対峙して所在する。やや南方に江戸川を望んで明戸古墳（市－２、前方後円墳）があり、台地南縁には東京湾を望んで弘法山古墳（市－４、前方後円墳）・太鼓塚古墳（市－６、方）が連なる。さらにこれらの中間の台地上には、法皇塚古墳（市－３、前方後円墳）・真間山古墳（市－５、円）が所在する。また、国分川上流の低地を望む舌状台地端には、河原塚古墳群（松－13、円５）が位置するほか、天神山古墳（松－９、円）や方形周溝墓、大半が塚である可能性が高いものの円墳が点在している。埴輪は、栗山古墳群（松－18、円２）・丸山古墳・明戸古墳・法皇塚古墳で検出されるほか、低地の菅野付近でも出土しており、その存在が顕著である。また、河原塚１号墳は端部に粘土を置いた木棺直葬墳であり、明戸古墳は箱式石棺、法皇塚古墳は横穴式石室を内部施設としている。

海老川の河口部の台地には、海神古墳（船－10、円）が支谷の奥部に位置し、周辺にも円墳が点在する。付近の竹ノ越付近でも埴輪の出土が認められ、ほかにも古墳が所在した記録があり、本来相当数の古墳があったものと考えられる。一方、東方の東京湾に向う開析谷の谷口部の台地端には、根神社古墳（習－１、前方後円墳）・鷺沼古墳群（習－２、前方後円墳１・円２）が所在し、鷺沼Ａ号墳では埴輪が検出されている。また、鷺沼古墳群は石室・箱式石棺を内部施設とし、海老川の河口部付近の古墳伝承地でも石室の記録が数多く残っている。

5　まとめ

東葛飾地区の古墳は、大きく江戸川水系・利根川水系・手賀沼水系・東京湾水系に分かれて分布する。全体では、前方後円墳33基、前方後方墳１基、円墳468基、方墳28基（内、方形周溝墓５基・前方後方周溝墓１基）で、合計532基を数える。しかし、それぞれの分布の状態には粗密があり、とくに全長50ｍを越えるような古墳は手賀沼水系・東京湾水系に限られている。

時期的にも、確実に前期に遡るような古墳は手賀沼水系にしか認められない。中期古墳も明確なものは手賀沼水系・東京湾水系に限られ、全体に後期古墳が主体である。このようなことは前方後円(方)墳などの分布にも表れており、江戸川水系と利根川水系には前方後円墳・前方後方墳が１基づつであることに対して、手賀沼水系は前方後円墳26基、前方後円墳１基、東京湾水系は前方後円墳５基・大型円墳１基を数える。

一方、埴輪の出現は中期末に手賀沼西部において認められるが、その後、出土古墳は手賀沼水系の我孫子地区、利根川水系の利根運河流域、東京湾水系の国分川流域に集中的に分布するほか、各地に点在しており比較的濃密な分布を示す。むしろ古墳の分布が顕著であるのに対し埴輪の分布が希薄な地域は、利根川水系の江川流域、手賀沼水系の湖北地区・片山地区・大津川流域、東京湾水系の海老川流域であり、横穴式石室墳の分布との関係が注目される。

第２節　印旛地区

有　沢　　要

利根川流域には肥沃な水田地帯とともに大小の湖沼が散在するが、千葉県側においては印旛沼、手賀沼を代表的なものとしてあげることができる。本節において対象とする地域は、この印旛沼を中心として分布する11市町村からなる地域であり、千葉県北部においては手賀沼周辺と同様に古墳の分布密度が高い地域として知られている。

印旛沼は現在、北部調整池及び西部調整池に分断され印旛捷水路、中央排水路によってのみ結ばれているが、これは江戸時代以降に活発化した干拓の結果であり、本来はW字形の姿を持つものであった。更に時代を遡り、古墳時代をみると現利根川、手賀沼、霞ヶ浦と一体となった広大な内海（香取海）を形成していたものと考えられており、印旛沼はこの内海の入江の一つ（印旛浦）を形成していたものと思われる。

遺跡の分布状況をみると地域全般において確認されているものの、分布密度には偏りがみられ豊富な水源を持つ印旛沼周辺に多くの遺跡が存在するのに対して、分水嶺となる台上部においては稀薄となることがわかる。当該地域の西部には東葛地区、東部には香取、山武地区、南部には千葉地区の各遺跡集中地区が存在し、分水嶺となる地域にベルト状に巡る遺跡過疎地域の存在は、当該地が古代においてある意味で一つの独立していた空間を形成していた可能性を示唆しているものと思われる。

今回の分布調査によって地域全体で1000基を超す古墳が確認されているが、その分布状況には遺跡と同様の著しい偏りがみられ、印旛沼に面する地区に多くの古墳が造営されるのに対して、分水嶺となる八街町、富里町においてはそれぞれ10基程度の古墳しか確認されていないことがわかる。このことは前述した空間の設足を補足するものと考えられ、古墳時代においても独自の空間を形成していたことを示唆している。

古代において水系の持つ役割は極めて大きいものと理解され、集落跡・古墳群形成の背景には生活基盤としての水系の存在があることは従来より指摘されているとおりである。以下、当該地域の古墳時代の様相を理解する一助とするために地形及び古墳の集中度からいくつかの水系を設定し、各水系の概要について記すことにしたい。

当該地域の水系を大別すると印旛沼北岸、南岸、西岸に分けられ、北岸は更に現利根川に面する印西・本埜地区（印西地区）、印旛沼に半島状に突き出す印旛村を中心とする地区（印旛地区）、印旛沼と根木名川に挟まれた半島状の地区（栄地区）、根木名川右岸地区（荒海地区）に、西岸は成田・酒々井地区（成田地区）、南岸は印旛沼と高崎川に挟まれた半島状の地区（佐倉地区）、鹿島川流域の地区（千代田地区）、鹿島川と新川に挟まれた地区（八千代地区）の８地区に細分される。

１．手賀沼水系 —東岸地域—

内海であった印旛沼に半島状に突き出ていたと思われる当該地区は、西側に手賀沼を擁し、東西から入る小河川によって開析された支谷によって複雑な地形を形成している。

古墳の分布は手賀沼方向から入る開析谷谷口部である大森・宮内付近と小林・笠神付近に大別される。前者には大越台古墳（印西１）、浦部古墳（印西５）、後庵山古墳群（印西13）、和泉古墳（印西11）、大森古墳（印西16）、上宿古墳（印西15）などがある。いずれの古墳も群を形成せずに単独の古墳として散在する点に特徴を持つ。墳形は円墳を主体とし、前方後円墳は大森古墳が挙げられるにすぎない。一方、小林付近には全長45ｍを超す前方後円墳を主墳として他に３基の前方後円墳を擁する道作古墳群（印西26）、馬場古墳（印西27）、駒形古墳（印西28）、埴輪を樹立する小林古墳群（印西31）、当該地区においては古式に比定されると思われ特殊埴輪、五領式土器を利用した壷棺を

持つ鶴塚古墳（印西30）などが存在する。なお、本埜村地域においては、従前より竜腹寺古墳群（本埜９）などが知られていたが、今回の調査の結果をみる限りにおいてはその大半が塚の可能性が高いものと判断された。大森地区に比較すると盟主的な性格を持つ古墳を中心に群の形成がみられることがわかる。

２．印旛沼水系 —北岸地域—

当該地域は全域を印旛沼に半島状に張り出していたものと考えられ、東西に長い半島状の台地に直交するように大小の開析支谷が入り込み、南北方向に狭長な樹枝状台地が形成され、複雑な地形を呈している。

古墳は半島状に突きでた先端部分にあたる吉高・平賀地区及び半島状に突きだした台地基部にあたる吉田・岩戸地区に多く分布する。吉高地区には埴輪を持つ前方後円墳として著名な吉高山王古墳（印旛26）、吉高家老地古墳群（印旛32）、３基の前方後円墳を擁する吉高三角山古墳群（印旛34）などが印旛沼に面して存在する。また、印旛沼から入る小支谷に面して埴輪を有していたといわれる堀尻古墳（印旛30）、吉高舟戸横穴群（印旛28）などが存在する。

平賀地区東部には印旛沼に面する独立台地状に営まれ前方後円墳１基を含む11基の古墳からなる平賀花島古墳群（印旛46）、平賀神津古墳群（印旛47）、南部にはそれぞれの支群中に盟主的な前方後円墳を含む平賀勧堂古墳群（印旛49）、平賀古井戸古墳群（印旛51）の支群の他、平賀駒形古墳（印旛53）、平賀仲ノ台古墳（印旛54）などの有力墳が存在する。各古墳及び古墳群は近接しているものの、それぞれが異なった台地上に占地している。これらの造墓の背景にある集団が単一であるか、有機的な紐帯関係を持った諸集団であるのか現段階では明らかではないが、今後調査例の増加にともなって明確にすべき興味深い課題であろう。これら有力古墳の平賀山ノ下塚群（印旛50）、平賀榎台古墳群（印旛52）など小円墳の集中する地区があるが、規模が極めて小さく当該時代より後出のものであると思われる。

平賀地区の西、北側から支谷の入る山田地区に支谷に面して前方後円墳１基を含む13基からなる山田稲荷前古墳群（印旛39）、同じく前方後円墳２基を含む山田上鶴巻古墳群（印旛38）があり、当該地区からは支谷開析口方向に前述した吉高地区の古墳群を望むことができる。以上、山田地区を含めた平賀・吉高地区は、印旛沼北岸地区における一つの中心的な地区に位置づけることが可能であろう。

一方、W字状を呈する印旛沼の西側部分において、北側から台地を張り出す岩戸・吉田地区をみると、吉田地区に前方後円墳２基を含む西ノ原古墳群（印旛１）、小支谷を挟んだ岩戸地区には岩戸百保古墳群（印旛２）、岩戸聖天古墳群（印旛５）、岩戸黒儘古墳群（印旛９）などの古墳群がみられる。

平賀地区及び岩戸地区の間には瀬戸、鎌苅、師戸地区などがあるが、鎌苅苅屋古墳群（印旛14）、鎌苅炭焼古墳群（印旛16）などの小規模な古墳群が散在するのみであり、注目すべき古墳は存在しない。

３．印旛沼 —北東岸地域—

印旛沼が現利根川と合流し、最も湖幅を広げる部分の東岸に存在する北に張り出す台地上に位置するのが栄町の全域及び成田市の一部を包括する本地域である。台地東側には根木名川によって開析された大きな支谷が入り込むとともに、小河川によって開析された小支谷が変化のある地形を形成している。印旛沼に面する安食、酒直、松崎地区及び根木名川によって開析された支谷に面する南羽鳥地区に多く古墳が分布する。北に張り出した狭長な台地先端部分にも北辺田古墳群（栄６）、上原古墳群（栄７）、竜台古墳群（成田１）などがあるが、印旛沼に面して造営された古墳群とは比較すべくもない。

安食地区には武者塚古墳（栄１）、三峰古墳（栄２）、小台古墳群（栄３・４）、上町古墳（栄５）がある。小台古墳群は宅地造成に先行して調査が実施されている。２基の古墳はいずれも前方後円墳であり「変則的古墳」としての

性格を有している。報文中では副葬品の内容から６世紀末葉に位置付けられている。酒直地区には酒直遺跡群（栄10）、竜角寺尾上遺跡（栄11）、竜角寺古墳群（栄13・成田３）、上福田古墳群（成田４）、大竹古墳群（成田５）などが集中的に存在する。酒直遺跡群は宅地造成に先行して調査が実施されており円墳１基、方形周溝状遺構５基が検出されている。このうち円墳は後述の竜角寺古墳群に包括されるものと考えられる。竜角寺尾上遺跡（竜角寺尾上古墳）は狭い舌状台地に所在し、長方形を呈する周溝からなる。確認時点において既に墳丘の大半を失っており、周溝外のほうが周溝内より高まっていたという。周溝に囲まれた中央部には５ｍ×５ｍ、深度3.5ｍの大きな土壙内には多量の焼土と大きな炭化材の堆積が観察された。焼土、炭化材ともに投げ込まれたものではなく、土壙内において何らかの目的のもとに焼かれたことが明確である。また、土壙内からは長さ30㎝を越す鉄釘数本が検出されている。本遺構の性格については今後検討されることとなろうが、注目される遺構である。

竜角寺古墳群は千葉県内にあっても有数の基数を誇る著名な群集墳であり、栄町竜角寺、成田市大竹にまたがる広大な地域に広がる古墳群は前方後円墳36基、方墳６基、円墳71基からなる。竜角寺古墳群造営の時期については概ね６世紀初頭から７世紀後葉と考えられている。また、本古墳群に隣接して存在する法起寺式の伽藍配置を持つ竜角寺が本古墳群の終焉の時期に前後して創建されていることも古墳群造営の背景にある集団の変化を想起する上で興味深い事象である。竜角寺古墳群中には全国的にみても最大級の規模を持つ岩屋古墳（栄13－105）、ミソ岩屋古墳（栄13－106）などの方墳、浅間山古墳（栄13－111）に代表される前方後円墳が存在する。岩屋古墳の造営時期については７世紀初頭から後葉までの諸説があるが、現段階では確定するにはいたっていない。浅間山古墳は本古墳群に造営された前方後円墳中で最大の規模を誇る古墳で全長66ｍを測る。他の前方後円墳の規模が概ね40ｍ以下であるのに対して隔絶した存在であることがわかる。竜角寺古墳群には県内においても最大級の群集墳とそれを支えた背景である集団の性格、全国的にみても最大級の終末期古墳である岩屋古墳とその系譜の上に創建されたと考えられる竜角寺の存在など、当該地域のみならず古墳時代から律令時代への変遷を理解する上で欠かすことのできない多くの問題が包括されており、今後の検討課題となろう。

上福田古墳群は前方後円墳２基、方墳２基、円墳８基からなる古墳群である。上福田古墳（成田４－７）、上福田古墳13号墳（成田４－13）は共に岩屋古墳と同様の石材によって構築された横穴式石室を擁している。

一方、南羽島地区には南羽島古墳群（成田２）がある。前方後円墳２基を含む34基の古墳からなる古墳群であり、開析された小支谷に面して広く分布するため古墳群としてのまとまりを欠くように思われる。小さくは小支谷の西側に存在する前方後円墳を含む支群と東側の小支谷に面する円墳を主体とする支群にわけることが可能であろう。

４．根木名川水系

根木名川によって開析された広い支谷から東に向かって尾羽根川、荒海川、取香川によって開析された各支谷が存在し、支谷に沿って小古墳群が存在する。最も北に位置するのが12基の円墳からなる磯部古墳群（成田24）であり、尾羽根川によって開析された支谷を挟んで香取地域の古墳に対峙する。荒海川によって開析された支谷に沿う荒海・土室地区には荒海古墳群（成田34）、土室古墳群（成田25）がある。荒海川と取香川によって開析された支谷に挟まれた芦田・野毛平地区には西側より新妻古墳群（成田27）、八幡台古墳群（成田26）、関戸古墳群（成田33）、東金田古墳群（成田32）、浅間台古墳群（成田31）、長田古墳群（成田30）、堀ノ内古墳群（成田29）などが支谷に沿って展開している。小支谷に沿ってやや台地内部に入った部分には野毛平古墳群（成田28）が存在する。南側部分の川栗・吉倉地区に眼を転ずると川栗台古墳群（成田35）、久米野古墳群（成田36）がある。本地区に展開する古墳群はいずれも円墳を主体とする小支群であり、野毛平古墳群中に含まれる前方後円墳である推出し古墳（成田28－４）以外に特筆すべきものは存在しない。

５．印旛沼水系 —東岸地域—

成田ニュータウンが造成され印旛沼から入り込む小支谷の大半が埋め立てられてしまったが、本来は根木名川、江川などによって開析された小支谷が台地に深く入り込み複雑な崖線を呈していた。古墳は北須賀・台方地区、八代・公津地区、下岩橋・上岩橋地区に多く分布する。特に八代・公津地区に展開する公津原古墳群（八代・瓢塚・船塚古墳群の総称）は、竜角寺古墳群と並び称される大古墳群として注目される。

北須賀地区は江川により開析された支谷によって八代・公津地区と隔絶され、印旛沼に向かって陸橋状となって突き出す狭長な台地上に占地する。古墳群は台地に沿うように展開し、北側から全長40ｍを超す前方後円墳３基を含む６基からなる勝福寺古墳群（成田18）、五郎台古墳群（成田19）の古墳群が認められる。台方地区は北須賀地区の基部にあたる台地上に占地し、台方古墳群（成田20）、大塚古墳（成田21）、道場台古墳群（成田22）がある。台方古墳群中には石枕を出土した台方１号墳（成田20－１）、埴輪を有する同４号墳（成田20－４）が存在する。また、大塚古墳も内容は不明な点が多いが鏡・玉類を伴出しており、大古墳群に近接して営まれる小古墳群としての性格が注目されるところである。

八代・公津地区には八代台古墳群（成田11）、天王・船塚古墳群（成田12）、瓢塚古墳群（成田13）が連続して存在する。各古墳群域の設定については問題があり、大きな古墳群（公津原古墳群）を設定した上で小支群を設定する手法が有効であると思われる。八代古墳群は前方後円墳２基を含む27基で、天王・船塚古墳群は前方後円墳である天王船塚１号墳（成田12－１、通称船塚古墳）、前方後円墳である天王船塚31号墳（成田12－31、通称天王塚）を盟主とする37基で、瓢塚古墳群は瓢塚５号墳（成田13－５）を盟主とする43基で構成されていた。成田ニュータウンの造成に先行して大規模古墳を除く多くの古墳が調査されている。

本地区の西側に位置し、根名木川支谷に面する山口地区及び日吉倉地区に山口古墳群（成田15）、殿台遺跡（成田16）、日吉倉遺跡群（富里１）がある。日吉倉遺跡群中には海獣葡萄鏡を伴出した松ノ木台２号墳（富里１－１）、横矧板鋲留短甲を伴出した烏山２号墳（富里１－３）は富里町における稀少な当該時代の遺跡であると共に、その内容によっても注目する必要があろう。

下岩橋・上岩橋地区には下岩橋仁階古墳（酒々井１）、宗吾・飯仲古墳群（成田23、酒々井２）、伊篠石堂古墳（酒々井３）などが存在する。前方後円墳４基を含む18基の古墳で構成される宗吾・飯仲古墳群は勝福寺古墳群、台方古墳群などと同様に公津古墳群との関連を考慮しながら検討すべき性格を持つ古墳群と理解される。また、印旛沼の湖水面に近い沖積平野部には上岩橋大鷲神社古墳（酒々井５）、上岩橋和田ノ原古墳群（酒々井４）が存在する。印旛沼に面して造営された古墳の大半が沼を眼下に望む台地上に占地していたのに対し特異な印象をあたえる。

６．印旛沼水系 —南東岸地域—

印旛沼に向かって半島状に突き出す東西に長い狭長な台地上に本地域は存在する。南には鹿島川より分岐する高崎川によって開析された支谷が広がり、小支谷とあいまって複雑な崖線を形成している。古墳は岩名、酒々井地区といった印旛沼に面した地区及び六崎、天辺、墨地区といった高崎川支谷に面した地区に多く分布している。

印旛沼に突きでた台地の先端部にあたる飯野地区には土浮坂花古墳（佐倉14）、飯野見通し古墳（佐倉17）などの小円墳と萩山古墳群（佐倉18）、飯野堀之内古墳群（佐倉19）などの円墳を主体とした小古墳群が点在し、将門・酒々井地区といった台地基部付近には将門２号墳（佐倉50）、鬼塚古墳（酒々井８）、狐塚古墳（酒々井９）などの前方後円墳が印旛沼に面して点在している。高崎川支谷左岸には支谷に面して山崎ひょうたん塚古墳（佐倉25）、並木古墳（佐倉26）、本佐倉西屋上り古墳（酒々井10）といった前方後円墳が単独で造営されているほか、墨小盛田古墳（酒

々井13)、墨八石古墳（酒々井14）などの方墳が存在する。墨小盛田古墳は酒々井総合公園内に復原されている長方形を呈する古墳であり、箱式石棺の主体部を有している。平面形態は竜角寺尾上遺跡の長方形遺構に類似している。

高崎川支谷右岸には弥生時代の環濠集落として著名な大崎台遺跡（佐倉27）が所在する。大崎台遺跡においては弥生時代の遺構と共に五領期に比定されると思われる方形周溝墓が検出されている。同様の遺構は隣接する棒作遺跡(佐倉28)、高崎川を挟んで対峙する高岡大山遺跡（佐倉53）においても確認されており、高塚古墳との関係を探る上で貴重な資料を提供している。高崎川支谷をさらに進むと石川古墳（佐倉32)、高崎鈴木内１号墳（佐倉54)、天辺内山１号墳（佐倉60）などの前方後円墳のほか寒風後作１号墳（佐倉55)、直弥寺古墳群（佐倉59)、八木宇賡１号墳（佐倉56)、馬橋鷲尾余１号墳（酒々井15)、墨六所神社古墳（酒々井16）などの円墳が点在する。高崎川支谷における最深部には尾上平台１号墳（酒々井11)、尾上平台２号墳（酒々井12）があるが、以後分水嶺となる富里町域には古墳は所在しない。

７．印旛沼水系 —南岸地域—

鹿島川は北総地域において最大の流域をもつ河川である。千葉市土気付近に端を発する鹿島川は千葉市、四街道市、佐倉市の市境付近を流れ、印旛沼の湖畔に近い寺崎地区で高崎川と合流し、印旛沼に注ぐ。流域には本流によって開析された支谷のほか本流に注ぐ小河川によって開析された小支谷が発達している。本地域は鹿島川及び隣接して流れる手繰川によって開析された支谷に沿って南北に長い台地上に占地している。古墳は鹿島川支谷の大篠塚地区、馬渡地区、手繰川支谷の下志津地区、千代田地区に多く存在する。

印旛沼に面する地区には光勝寺瓢箪塚古墳（佐倉13)、臼井小笹台古墳群（佐倉12)、江原台遺跡（佐倉62）などがある。光勝寺瓢箪塚古墳は石枕を出土したことで著名であり、近接する臼井小笹台古墳群では既に墳丘は失っていたものの埴輪を持つ前方後円墳、方墳、円墳が並んだ状態で検出されている。江原台遺跡においては方形周溝墓が検出されている。鹿島川支谷をのぼると大篠塚地区に古墳の集中をみることができ、大篠塚西台古墳群（佐倉33)、大篠塚古墳（佐倉34）を代表的なものとして挙げることができる。鹿島川を挟んで対峙する馬渡地区に形象埴輪を出土したことで著名な姫宮古墳（佐倉36－６）を盟主とする馬渡浅間脇古墳群（佐倉36）が存在する。飯塚地区には飯塚15号墳（佐倉42－15）を盟主とする飯塚古墳群（佐倉42)、宮内芋戸古墳群（佐倉43）が所在する。宮内芋戸古墳群は前方後円墳１基を含む10基からなり、従来飯塚古墳群のみで論じられていた当該地区の古墳時代の様相を知る貴重な資料を提供するものと考えられる。鹿島川支谷に沿って開析された小支谷沿いには佐倉第３工業団地造成に先行して調査された立山遺跡（佐倉65)、向原遺跡（佐倉66)、池向遺跡（佐倉67）が所在する。調査された古墳は140基以上であり、方形周溝状遺構も60基を超すといわれる。いわゆる「変則的古墳」が多く含まれている。用草地区には宮前１号墳（八街６)、摩拝塚１号墳（八街７）が所在する。共に帆立貝形の墳丘形態を持ち、箱式石棺、横穴式石室の主体部を擁している。八街町域において初めて調査された古墳であり、八街町における古墳文化を明確にするために寄与することとなろう。当該支谷から台地に入る小支谷沿いにはこれら古墳群のほかに川戸古墳群（四街道15)、西畑古墳群（四街道13)、和田古墳群（四街道14)、相ノ谷古墳群（四街道16）などが所在するが、相ノ谷古墳群に前方後円墳１基が含まれるのみであり、注目すべき古墳は存在しない。

手繰川支谷に眼を転ずると下志津地区に飯郷作遺跡（佐倉９）がある。飯郷作遺跡からは前方後円墳２基、方墳２基、方形周溝墓23基が検出されているが、このうち前方後方墳１基と方墳２基、方形周溝墓５基はそれぞれ周溝を共有して造営されている。重複する遺構の前後関係は明確であり、前方後円墳、方墳、方形周溝墓の順に築かれた墓制の形式差及び規模の差は被葬者の性格を反映しているものと考えられている。千代田地区には御山遺跡（四街道２)、清水遺跡（四街道３)、新久遺跡（四街道４)、出口遺跡（四街道５)、物井古墳群（四街道７)、千代田遺跡（四街道

９)、池花南遺跡（四街道８）などが集中的に営まれている。池花南遺跡を除く６遺跡は本来同一古墳群を形成しているものと考えられる。前述した飯郷作遺跡が当該地域における初現的位置を占めるのに対し、本遺跡は古墳時代後期における代表的な古墳群に位置付けられよう。

８．印旛沼水系 —西岸地域—

印旛沼の西部に流入する新川は神野地区において神崎川と分岐し、南方向に向かって広い開析谷をつくる。この開析支谷沿いの両岸に展開するのが本地域である。古墳は先崎・神野地区、平戸・桑納地区、萱田・村上地区に点在する。印旛沼の西端に近い先崎・神野地区には湖面に近く微高地に存在し石枕を出土したと伝えられる先崎高塚１号墳（佐倉１)、神野芝山古墳群（八千代16)、保品栗谷古墳群（八千代17）などがある。神野芝山４号墳は未調査のまま消滅したが、粘土郭の主体部を持ち径40ｍほどの円墳であったと伝えられ石枕、鏡などの副葬品のほか、形象埴輪を擁していたと伝えられている。先崎高塚１号墳と共に当該地域においても古い段階に比定されると考えられる。新川に神崎川が合流する平戸地区には平戸台古墳群（八千代１)、田原窪古墳（八千代２)、真木野古墳（八千代３)、間見穴古墳群（八千代４）などが所在する。いずれも規模の小さな円墳を主体とするものである。前記した古墳が占地する台地の南端の支谷に面して桑納古墳群（八千代６）がある。帆立貝形を呈する桑納２号墳（八千代６－１）と円墳１基からなる古墳群であるが、桑納２号墳からは形象埴輪、円筒埴輪など八千代市内で唯一の埴輪が検出されている。

新川を挟んで対峙する萱田・村上地区には菅地ノ台古墳（八千代７)、井戸向遺跡（八千代11)、ヲサル山遺跡（八千代12)、七百余所神社古墳（八千代８)、根上神社古墳（八千代９)、村上古墳群（八千代10)、村上第１号古墳（八千代15）などが点在している。村上第１号墳は横穴式石室を持つ方墳であり、豊富な副葬品を擁していたことで著名である。

９　ま と め

以上、煩雑ではあったが印旛沼周辺地域を８水系に分けその概要を記してきた。その結果、当該地域の古墳分布状況が以下の３類型に分類することが可能であるとの結論に達した。

１．盟主的な大古墳を中心とした長期間にわたり大きな古墳群を形成する地域。

２．開析谷に沿って盟主的な古墳の回りに基数は少ないもの古墳群を多く形成する地域。

３．地域を代表する古墳が多くの場合単独で存在し明確な古墳群を形成しない地域。

の３類型である。１は竜角寺古墳群、公津原古墳群に代表され、広い地域に影響を及ぼす力を持った集団を背景に成立したと考えられる。２は印旛地域、千代田地域に点在する古墳群に代表され、地域的に限られた集団を背景に造営されたと考えられる。３は印西地域、佐倉地域、八千代地域に点在する古墳に代表されるものである。

各類型が何を意味するものであるかは今後更に検討を続けていきたいと思う。

第3節　香取地区

荻　　悦久

香取地区は水系によっていくつかの小地域に分けることができる。ここでは下総町周辺・大須賀川流域・小野川流域・黒部川流域・東庄町周辺の各小地域ごとに記述することとし、文化圏を勘案して銚子市の利根川沿いもここで扱う。また、栗山川流域は海匝地区の項にゆずる。

1．根木名川流域

根木名川の支流、尾羽根川に面して若干の分布が見られるが、多くは利根川に臨む台地縁辺に占地する。

大日山古墳群は前方後円墳1、円墳2で構成される。2号墳は54ｍの前方後円墳で木炭槨を内部主体とし、棺内より剣・短冊形鉄斧・玉類などを出土している。5世紀初頭までの築造と推定され、当地では最古の古墳であるが、次代の首長墓は発見されていない。この古墳は常陸に通じる水上交通の要衝に位置しており、そのことが古墳造営を促したものと考えられる。

利根川の砂堤上には馬場古墳（篠塚神社古墳）をはじめ、数基の古墳が築かれている。馬場古墳は石枕・剣・石製模造品を出土しており、5世紀後半でも比較的古い時期に位置づけられる。当地では、この頃になって低地に古墳が造られはじめたのではないかと考えている。

高倉古墳は尾羽根川に位置するが、墳形・規模・内部主体とも不明である。石枕・鉄製三葉環頭柄頭・石製模造品などが伝わっている。5世紀後半の古墳で、環頭柄頭からは勢威の程が窮えるものの、周辺に有力な古墳群は見当たらず、継続的な古墳の築造はなかったと考えられる。

滑川坂ノ上古墳群は前方後円墳2基を含み、うち4号墳は全長70ｍとこの地域最大規模である。前方部の発達した、最終段階の前方後円墳と考えられている。後期末のものとしては、下総でも有数の古墳である。

横穴では滑川横穴が注目される。壷鐙を出土し、横穴にも有力なものがあることを示している。

この地域では、首長墓系列を追うことができないことを確認しておきたい。

2．大須賀川流域

大須賀川左岸には、鴇崎古墳群中の天神台古墳は30ｍの中型円墳で、剣・石製模造品を出土した。直刃鎌の模造品を含むこと、また石製刀子の編年観から5世紀前半の築造と考えられる。この時期の古墳は比較的少ないため、天神台古墳の存在は注意される。

西部田1号墳（堀之内1号墳）は径18ｍ、石枕・立花・鉄鏃などをもつ5世紀後半の円墳である。西部田古墳群中には、この時期の古墳が数基含まれているものと思われる。

舟塚原4号墳は全長45ｍを測る中型前方後円墳である。内部主体は判然としないものの箱形石棺と予想され、土器から6世紀中葉の古墳と考えられる。舟塚原古墳群は、4号墳以降、後期を通じて造営が続けられた古墳群と考えている。

大須賀川左岸では、6世紀前半の古墳は不明だが、5世紀前半の鴇崎天神台古墳以降後期末までの古墳が認められ、それらが下流域に集中していることが看取される。

大須賀川右岸では、中流に堀篭浅間古墳群が形成される。発掘調査時には小規模な方墳2基が残っていた。いずれも4世紀後半の古墳と考えられるが、墳形・貧弱な副葬品は在地的な古墳のあり方を示している。支谷を生産基盤とした豪族の古墳であろう。

大須賀川・利根川に面する台地上に大戸天神台古墳群が立地する。この古墳群は前方後円墳2、円墳4、長方墳1、方墳1で構成される。天神台古墳は全長60ｍの前方後円墳で、前方部が低平な古式な墳形から、4世紀末の年代が与えられている。宮作1号墳は19×16ｍ、石枕・立花・剣・石製模造品などを出土した5世紀後半の古墳である。方墳の2号墳も年代に大きな開きはないものと思われる。他の前方後円墳・円墳については未調査で年代の決め手はないが、5世紀末から6世紀初頭までのものとする見解も提示されている。

天神台古墳群から谷を隔てて東側の台地に、円墳3、長方墳4、方墳2からなる山之辺手ひろがり古墳群が所在する。3号墳は20×14ｍの長方墳で、遺物の出土状態など不明な点は多いが、注目すべき内容を備えている。石枕・立花・硬玉製勾玉・碧玉製管玉・三環鈴・鉄鏃などが出土しており、石枕から管玉は同一の内部主体に伴うようである。石枕は定式化以前のものと考えられる。立花は勾玉四個を緊縛した類をみない形態をとり、袋造りの脚のものを含む。袋造りの脚をもつ立花は茨城県鏡塚古墳にみられ、本例は鏡塚古墳例より後出的だという。勾玉には両面穿孔の丁子頭のものを含み、管玉も細身のもので、玉類には古い様相が認められる。以上の伴出遺物の年代観から、本墳の築造は5世紀初頭から前葉とおさえてよいであろう。三環鈴は小形の四分の一・有脚式で、類例の少ないものである。大阪府七観古墳は5世紀半前代にまで遡るが、他の二例は後半に下る。本例が金張製であるとすれば、5世紀後半とするのが妥当であろう。鉄鏃は腸抉片刃矢式で、やはり5世紀後半代と考えられる。とすると、先に想定した築造年代との開きが大きすぎるが、その解釈は正式報告をまって行いたい。また、2号墳（8ｍの方墳）からは焼成後底部穿孔の小形坩が出土し、4世紀後半の墓制を示すものとして注目される。

5世紀後葉、低地に前方後円墳が出現する。森戸古墳群権現前古墳は前方部周溝の一部を確認しただけで規模は不明だが、出土した埴輪は次に挙げる大法寺古墳例に先行するとされ、5世紀後葉の古墳と判断される。埴輪をもつ前方後円墳であり、天神台古墳群の系譜上にある首長墓と考えられる。同古墳群大法寺古墳は、埴輪を樹立した60ｍの前方後円墳である。表採された埴輪は全て円筒埴輪で、薄手の大形品である。台形のしっかりしたタガをもち、外面調整は一次タテハケのみで二次調整は施されない。こうした埴輪の特徴や、後述の禅昌寺古墳とのかねあいから6世紀初頭頃の築造と考えている。

森戸大法寺古墳の後、西に1.3kmほど離れて禅昌寺古墳が築造される。推定全長60ｍの前方後円墳である。画文帯鏡・武器・武具・馬具など副葬品は優れた内容をもち、香取海の拠点を占めた武人の姿を彷彿とさせるものがある。6世紀前葉の所産と考えられる。このように、5世紀後葉から6世紀前葉まで、三代に亙って大須賀川の低地に前方後円墳を築いた勢力が他に卓越していたことは認めてよいであろう。

6世紀中葉から後葉の古墳は低地に認められないが、次の塚越古墳の存在を考えれば低地に築かれていた可能性も否定できない。塚越古墳は禅昌寺山古墳の西1.2kmに位置する。墳形・規模とも不明だが、馬鐸が伝わっている。突線を用いる点、金鈴塚古墳例に通ずるものがあり、6世紀末から7世紀初頭の年代を考えている。

大須賀川右岸、片野の台地上にも古墳群が形成される。前方後円墳15・円墳33で構成される有力な古墳群である。出土古墳は特定できないが群中出土の石枕があり、古墳群の形成は5世紀代にまで遡ると考えられる。しかし、以後連綿と築造が続いたのではなく、古墳造営が活発になるのは6世紀中葉以降のことと予想している。片野前野辺田11号墳は埴輪をもつ32ｍの前方後円墳で、直刀・鉄鏃などを出土している。6世紀中葉の築造と考える。片野新林古墳群には60ｍ・50ｍの2基の前方後円墳がある。いずれも後円部径と前方部幅がほぼ等しく、6世紀後半の古墳と考えられる。南北約3.5kmの狭長な台地の両側に谷が入り、生産の場になっていたものと想像される。また、小野川水系や太平洋に注ぐ栗山川水系も至近距離にあり、このことも古墳群形成の背景にあったと考えている。

大戸白幡古墳群や毛造古墳群も注意されるが、内容に不明な点が多いため、ここでは触れない。

関峯崎横穴群は、総数100基以上と考えられる大規模横穴群である。3号横穴からは関東で初めて金銅製押出仏が出土した。貴重な発見であり、横穴も看過し得ないことを如実に物語っている。

大須賀川右岸では、4世紀後半、在地的な方墳（長方墳）が出現し5世紀後半まで残る。一方、4世紀末頃定型化した前方後円墳が出現し、5世紀後葉に低地に進出して6世紀末から7世紀初頭まで首長墓系列が続くとみている。

3．小野川流域

小野川下流の沖積地に、前方後円墳と円墳の古墳群が形成されている。

仁井宿十三塚からは石枕が出土し、5世紀代から古墳が築造されていたことが知られる。浅間神社古墳は全長70ｍの前方後円墳で、タガがくずれた埴輪をもつ。6世紀後半でも新しい時期のものと考える。

神道山古墳群も小野川水系に属すると思われる。前方後円墳1・円墳11からなり、神道山古墳は全長47ｍ。後円部径と前方部幅が拮抗する墳形からは、6世紀後半の年代が考えられる。

小野川流域は古墳の絶対数が少ないが、6世紀後半になると浅間神社古墳のような有力古墳が出現するのである。

4．黒部川流域

黒部川流域には多くの古墳が認められる。

一之分目古墳は正確な位置が知られず、墳形・規模も不明。石製模造品が伝わるだけだが、刀子のつくりや短冊鉄斧の模造品を含むことから5世紀初頭までの所産と考えられる。

利根川砂堤上の三之分目古墳群は、前方後円墳5基を中心とした極めて有力な古墳群であり、一之分目古墳の系譜をひくものと思われる。三之分目1号墳は60～70ｍの前方後円墳と考えられているが、年代を知る手掛かりはない。大塚山古墳は全長118ｍを測る下総第一の古墳である。長持形石棺を内部主体とすることが明らかとなっているが、副葬品は知られない。埴輪は黒斑をもつもので、基部をつくらない成形技法など茨城県舟塚山古墳例と共通する点が多い。本墳の年代は、舟塚山古墳に与えられている5世紀中葉と考えておく。大塚山古墳は常陸に通じる水上交通の要衝に立地しており、その掌握によって畿内王権と結びついたものと考える。富田1～3号墳はいずれも40ｍ前後の前方後円墳で、主軸方向は大塚山古墳に共通するようである。3基とも埴輪をもつが詳細は不明で、築造時期の比定も困難である。ただ、特に古い様相は認められず、6世紀中葉頃までは下るのではないかと予想している。

6世紀後半になると、城山の台地上に前方後円墳7基をふくむ城山古墳群が形成される。1号墳は、埴輪をもつ68ｍの前方後円墳である。片袖の横穴式石室から、舶載三角縁神獣鏡をはじめ武器・武具・馬具・天冠などの副葬品を出土した。その豊富な内容は大塚山古墳からの系譜を想定するのに充分である。須恵器蓋坏はTK43かTK209期のものであり、6世紀後半でも末に近い時期の古墳と考えられる。また、三角縁神獣鏡が前期古墳に特徴的な遺物であることからすれば、4世紀中葉頃から当地の豪族は畿内王権との関係をもっていたものと考えられる。

黒部川右岸では阿玉台北A－007号墳が最も遡る時期の古墳である。全長25.5ｍの前方後方墳で、内部主体は失われていたが、4世紀後半頃のものと思われる。支谷を基盤にした勢力であろう。

沖積地を見渡す場所に形成された布野台古墳群は、前方後円墳1・円墳3からなる。3号墳は28ｍの前方後円墳で、前方部北側の張り出しから小札鋲留衝角付冑・横矧板鋲留短甲を出土している。5世紀後半の築造と考えられるが、次代の首長墓は見当たらない。

この地域には、舶載三角縁神獣鏡の配布を受けた首長から、一之分目古墳・大塚山古墳・富田古墳群・城山古墳群と、時期的な消長はあるが有力な古墳を築造した勢力があった。その勢力は畿内王権と結び、後期までは下総でも最も力をもっていたと考えられるのである。

5．利根川下流南岸地域（東庄町）

当地は、古墳分布が比較的希薄な地域である。

羽計古墳群・寺台古墳群の前方後円墳は後期後半のものと考えられるが、いずれも小規模である。

橘古墳群は円墳主体の群集墳で、本来はかなりの基数だったと思われる。後期に築造が開始された古墳群と考えている。

馬鐸・瓶を出土した東今泉古墳は利根川の砂堤上に立地する。削平されて墳形・内部主体とも不明だが、小型の古墳ではなかったようである。採集した埴輪はタガがくずれ、6世紀末頃の年代を示している。

6．利根川下流南岸地域（銚子市）

利根川沿いにいくつか古墳群が存在する。

西栗古墳群は小規模な円墳・方墳が多いが、1号墳は径38ｍの大円墳である。発掘調査時にはすでに半壊しており、内部主体は検出されなかった。報文では常総型古墳を想定しているが、これほど大規模なものは例がない。再検討の余地があるように思われる。

大八ツ横穴群は利根川下流域に通有の構造をとっており、当地がその文化圏に属していたことを示している。

7　ま と め

以上、小地域ごとに古墳分布の概要を述べたが、香取郡市全体をみると、利根川に面する台地上に偏在していることが看取される。また、利根川の砂堤上にも古墳がみられ、それらに有力なものが多いことも注目される。このことは、香取海が水上交通路として重要な役割を果たしており、その掌握こそが豪族の優位性を保証するものであったことを物語っているように思える。

また、この地の豪族のうち、大須賀川下流と黒部川下流の勢力が継続的に古墳を築いており、殊に三之分目大塚山古墳を擁し畿内と密接な関係をもっていた後者は、極めて優勢な勢力であったと言えよう。

第4節　海匝地区

荻　　悦久

香取地区の項で記述した銚子市の利根川沿いは除き、栗山川水系全体をここで扱う。栗山川流域・椿海西岸・椿海東岸・銚子（太平洋岸）・九十九里平野の小地域にわけて記述する。

1．栗山川水系

栗山川の上流域、常盤川との合流点を俯瞰する台地上に柏熊古墳群が営まれる。この地は、栗山川を遡れば大須賀川水系に通じ、常盤川に沿って進めば黒部川水系に近い。2号墳（杓子塚古墳）は80ｍの前方後円墳で、有段口縁壺・埴輪をもつ。有段口縁壺には土師器と埴輪質のものがあり、大形で新しい様相をもっている。埴輪は小片でスカシも確認されていないが、房総最古の埴輪として注目される。5世紀末初頭までの築造と考えられる。6号墳（おけ塚古墳）は40ｍの円墳とされているが、80ｍクラスの前方後円墳との指摘もあり、踏査の結果その可能性が強いことを確認した。ただし、前方部はすでに崩落している。この古墳には年代の決め手がないが、合流点をよりよく望む占地

をとっていることから、2号墳に先行すると考えたい。このように柏熊古墳群は二代に亙って有力な古墳を造営した古墳群であるが、次代には見るべき古墳を築いていない。

常盤川に面する台地上に北条塚古墳が築かれる。全長70ｍと当地においては大型の前方後円墳である。副葬品は知られないが、埴輪はタガがくずれた新しい様相をもち、6世紀後半の所産と考えられる。前方部幅が後円部幅を上回る墳形からも、上記の年代は支持されよう。北条塚古墳と系譜関係にあるような有力古墳は認められない。

北条塚古墳から常盤川を1.8kmほど遡った台地上に小川・土仏古墳群が営まれている。小川土仏1号墳は40ｍクラスの中型前方後円墳で、墳形からは6世紀後半頃のものと考えられる。恐らく、この時期から古墳築造がはじまったのであろう。古墳群の造営主体は、支谷の生産力を背景とした勢力と思われる。

栗山川の支流に面して大塚「古墳」がある。70ｍほどの円墳あるいは方墳とされているが、事実とすれば提起する問題は極めて大きい。しかし、現地踏査では古墳である確証が得られないどころか、自然地形の公算が大きいと判断された。ここでは自然地形としてこれ以上立ち入らない。

栗山川中流域では、栗山川と多古橋川の合流点近く、多古橋川に面して多古台古墳が築造される。19.5ｍの円墳で、木棺直葬の内部主体から直刀・剣・石製模造品などが出土した。須恵器小型壺はTK208かON46期のものとされており、5世紀後半の古墳と考えられる。この古墳は小規模であり、また、周辺に有力な古墳も見当たらない。継続的に古墳を造営した勢力ではなかったようである。

中流域左岸には坂並白貝古墳群が形成されている。当地有数の群集墳で、栗山川に面する台地縁辺に偏在する傾向がある。多くは後期後半の小円墳であるが、50ｍの前方後円墳（29号墳）と35ｍの円墳（51号墳）を含んでいる。29号墳は、高さでは後円部が前方部を凌駕するものの、後円墳径と前方部幅はほぼ等しく、6世紀後半の古墳と考えている。51号墳は前方後円墳の可能性があるとのことで、そうすると70ｍクラスの古墳ということになる。年代・内容は不明である。坂並白貝古墳群の南の台地には淀台古墳群があるが、これも48ｍの前方後円墳を中核とした古墳群で、坂並白貝古墳群と同じような性格の古墳群と考えている。さらに南に位置する飯上井台古墳群も同様に理解できよう。

栗山川の支流、借当川に面する台地上に塚原古墳群がある。1号墳は35ｍの前方後円墳で、盗掘を受けていたが、粘土を用いた施設から刀子・滑石製偏平勾玉が出土した。5世紀後半の古墳と考えるが、群中の小円墳は後期後半に下るものが多いように思われる。

塚原古墳群より1.5kmほど南、栗山川左岸の小下田原古墳群は6基の前方後円墳を含む古墳群である。しかし、これらの前方後円墳は30ｍクラスと小規模で、卓越した勢力を窮えるものではないか。墳形からして、6世紀後半に築造が開始された古墳群と考えている。

下流域左岸には、宝米の台地上に古墳群が営まれる。小円墳主体の群集墳で、築造は後期後半に下るものと考えている。

さらに南の小川台古墳群は、前方後円墳6基を含む古墳群である。1号墳は径28ｍの円墳で、木棺直葬の内部主体が2基検出された。剣・鉄鏃・有孔円板・臼玉などが出土しており、5世紀後半の年代が与えられる。5号墳は33.4ｍの前方後円墳で、形象埴輪をもち、木棺直葬の内部主体から直刀・鉄鏃・鐙などを出土している。周溝の模倣坏はTK209に類似し、鐙の出土からも6世紀後半の古墳と考える。前方後円墳としては小規模だが、鐙の出土は注意される。群中の他の古墳は、後期後半から終末期のものと考えている。とすれば、この古墳群は、5世紀後半に中型の円墳を築いたものの長らく古墳造営が停止し、再び築造が行われたのは6世紀後半になってからということになる。少なくとも、小川台古墳群中に、1号墳以降の首長墓系列を追うことはできない。

芝崎古墳群は栗山川右岸では最南の古墳群で、九十九里平野に面している。前方後円墳を含むが小規模なもので、大きな勢威をもっていたとは考えられない。

栗山川下流の小下田横穴群は数十基と当地最大規模だが、全容が明らかにされないまま消滅したものが多い。調査された横穴は7世紀代のもので、その形態はバラエティーに富んでいる。当地の横穴のタイプは、今後の研究課題である。

栗山川は一級河川でいくつかの支流が注いでおり、それぞれに小地域が形成されている。しかし、これらの小地域で、古墳時代を通じて首長墓を造営し続けた地域はない。栗山川流域全体をみても、5世紀中葉や6世紀前葉の古墳は今のところ見当たらない。

2．椿海西岸地域

鏑木古墳群は前方後円墳7基を含む有力な古墳群である。滝台古墳は58ｍの前方後円墳で、古式な墳形を採ることから、5世紀初頭までの古墳と考えられる。滝台古墳の後、長く造墓活動は途絶え、次にこの地に古墳が現れるのは6世紀中葉から後葉頃である。37.2ｍの前方後円墳、鏑木大神古墳がそれである。副葬品は知られないが、埴輪はタガが低く、上記の年代を示している。以後、6世紀後葉から末頃まで数基の前方後円墳が相次いで営まれるが、いずれも小・中型のものである。御前鬼塚古墳は105ｍの大型前方後円墳である。遺物が全く知れないため年代比定は困難であるが、壮大な墳丘にもかかわらず埴輪をもたないことからすると、埴輪消滅後の古墳とするのが妥当であろう。6世紀末乃至7世紀初頭の、最終段階の前方後円墳と考えたい。この時期では下総最大規模であり、大いに注目されるところである。鏑木古墳群は椿海に面するが、同時に、背後の常盤川を通じて栗山川に達し、黒部川水系からも至近の距離にある。こうした立地が、古墳築造のひとつの要因であったと考えている。

真々塚「古墳」は借当川の上流に位置する。直刀・剣・鉄鏃などを出土し、60ｍの「墳域」が想定されているが、内部主体は判然としない。鉄鏃は5世紀初頭のものであり、この時期の古墳としては内部主体の構造に難点がある。狭い川に面する立地も、この時期には相応しくない。ここでは古墳との判断は保留したいが、政治勢力があったことは理解されよう。

広之台古墳群も借当川の上流に立地する古墳群で、円墳4基からなる。3号墳は25ｍの円墳で、直刀・剣・鉄鏃・石墳模造品などを出土した。5世紀後半でも新しい時期が想定される。5号墳もほぼ同時期の所産であろう。

関向古墳は、墳形・規模とも不明だが、砂岩を立てた上に河原石を積んだ特異な横穴式石室をもつ。飾大刀・馬具・銅鋺などの年代は7世紀前葉に下るが、これらは追葬に伴うものであり、築造時期は7世紀初頭までは遡るものと思われる。本墳も鏑木古墳群と同様、椿海に臨みながら、なおかつ借当川で栗山川に通じている。

椿海西岸には横穴も多いが、その実態は充分に把握されていない。ただ、共通する形態のものが分布していることを考えると、文化的なまとまりをもった地域であったことは理解できる。それがどのくらいの範囲であったかは、今後の研究に委ねざるを得ない。

この地域には、滝台古墳のような古手の古墳もあるが、最も勢力をもったのは御前鬼塚古墳や関向古墳の築造された後期末と考えてようであろう。

3．椿海東岸地域

椿海東岸の北部は、利根川に流入する小河川の最奥部にあたる。この地は古墳の分布そのものが希薄で、有力な古墳は見当たらない。

4．太平洋沿岸台地（銚子周辺）

この地域では、鶴見川流域に古墳群・横穴群がみられる。

辰松古墳群は現存３基だが、石棺材が散在しており、本来は有力な群集墳であったものと思われる。

５．九十九里平野

現在では３ヶ所に古墳群を認めるが、本来はもっと多かったのではないかと考えている。宅地化や土地改良事業で消滅したものと思われるが、現在では確かめる術もない。

海匝地区では栗山川流域と椿海西岸に有力な古墳群がみられる。しかし、どちらの地域も継続的な首長墓を営むことはできなかったようである。

第５節　山武地区

福　間　　元

山武郡は、沖積平野の三日月型の九十九里平野と、粘土層、成田砂層、ローム層からなる下総台地に区別され、西部を占める下総台地を南北に数条の川が開析して谷を造り、九十九里平野を貫流し、太平洋に注いでいる。

この山武郡を流れる河川は、北から栗山川及び栗山川の支流高谷川、木戸川、境川・成東川・十文字川（平野部で合流し、作田川となる）、北幸谷川（真亀川）であり、それぞれの河川流域に大小の古墳群が形成されている。

山武郡は、昭和20年代からさかんに古墳の分布調査や大学による学術調査が行われ、その資料が刊行されて、古墳の密集地帯であることは古くから知られていた。又、早くから川戸彰、平岡和夫両氏が郡内の古墳の分布調査を実施し、武射の国の奥津城の所在が明らかにされてきていた。近年には、各市町村教育委員会から埋蔵文化財分布地図が発行されて、古墳の分布もより精密なものとなってきている。昨年には、平岡和夫氏が今までの分布調査の集成とも言える『千葉県九十九里地域の古墳研究』なる書を出版されている。それら多くの先学の業績を後づけし、河川水系ごとの古墳分布と、調査された古墳の概略を見て行きたい。

１　栗山川水系

栗山川は、九十九里を流れる河川の中では最も長く、最も広い流域と奥深く樹枝状に谷田が入り込んだ様子は、他の河川にみられない大きな特徴である。下流域で横芝町の古墳群の前方後円墳１基、方墳３基、円墳７基の木戸台・町原古墳群、円墳５基の姥山古墳群、前方後円墳１基、円墳７基の取立古墳群（寺方古墳群）、円墳１基の長倉古墳が確認されているが、どの古墳群も煙滅・削平されているものが多く、残存状態は良くない。

栗山川の支流・高谷川は、山武郡の最北部にあり、上総国と下総国をわけ、最上流部には、円墳11基の大里田辺古墳群、円墳７基の菱田（加茂）古墳群、前方後円墳１基、円墳１基の大殿台古墳群があり、大里田辺台７号墳は、径45ｍの円墳としては、芝山町最大の大型円墳である。中流域では、前方後円墳１基、円墳８基の上吹入・林古墳群、前方後円墳１基、方墳２基、円墳２基の谷津古墳群、すでに煙滅してしまった数基の吹入横穴群と４基の東風山横穴群が確認されている。下流域の栗山川と合流する付近には前方後円墳４基、円墳15基の殿部田古墳群がある。全長33.3ｍの殿部田５号墳は、昭和49年、芝山はにわ博物館によって調査され、円筒・人物・馬・家型埴輪などの埴輪列が出土しているが、主体部は不明である。

２　木戸川流域

木戸川は、樹枝状に侵食を受けた谷田もさほど深くない比較的直線的な川である。上流部には、前方後円墳１基、円墳３基の五十石古墳群、および前方後円墳13基、円墳180基と山武郡最大数の古墳を数える山田・宝馬古墳群、前方後円墳２基、円墳２基以上の高田古墳群がある。特に山田・宝馬古墳群は、現在では、削平され煙滅して畑地になっている所が多いが、昭和30年代までは平坦な所が少ない位に古墳だらけであったと言う。したがって調査された古墳も多く、21基を数える。そのすべてを記述する事は出来ないので、主なものの概略を以下に記す。

22号墳は、昭和37年、早稲田大学によって調査され、凝灰砂岩の箱式石棺から直刀３、銀象嵌鉄製円筒太刀柄頭、鉄鏃45以上、銀張り耳環２などを検出している。

35号墳（宝馬１号墳）は、昭和53年芝山はにわ博物館が調査し、円筒・人物・靱型埴輪の列を検出している。主体部は、攪乱されていて、鉄鏃片を検出したのみであった。

57号墳も早稲田大学が昭和37年に調査し、直刀５、鉄鏃７、鞘尻金具１、帯金具１、耳環２などを検出している。

又、1989年には、㈶山武郡市文化財センターが、径40ｍの84号墳を調査し、墳頂部の箱式石棺から直刀、鉄鏃、ガラス玉などを検出した。この古墳は、墳丘から出土した土師器から６世紀初めの古墳である事がわかった。

103号墳は、㈶千葉県文化財センーが昭和56年に調査し、主体部は、切り石積の箱式石棺で、鉄鏃19、耳環１、ガラス玉36、土製小玉などを検出した。

120号墳も㈶千葉県文化財センターが同時期調査し、直刀２、鉄鏃21、水晶切子玉10、琥珀製なつめ玉16、ガラス小玉349、七製小玉57などを検出している。

164号墳（通称宝馬にわとり塚）は、昭和32年に早稲田大学が、昭和62年には㈶千葉県文化財センターが調査している。埴輪列と箱式石棺を検出しており、直刀、鉄鏃、銀製刀子、轡、雲珠、耳環、ビーズ玉などを出上していると言うが報告が未完のため詳細は不明である。

高田古墳群も坂井利明氏によって昭和40年、３号墳が調査されている。全長40ｍの前方後円墳からは、円筒・人物・馬型埴輪の列が発見され、主体部は、箱式石棺で、直刀２、鉄鏃、刀子１、耳環、ガラス玉が出土している。

中流域には、古墳群が多く、円墳４基の小池上人塚古墳群、円墳４基の下ノ内古墳群、円墳５基の三田古墳群、前方後円墳２基、円墳３基の小池古墳群、前方後円墳１基、円墳３基の船塚古墳群、円墳３基の向野古墳群、前方後円墳２基、円墳16基の中台古墳群（芝山古墳群）などがある。舟塚２号墳は、昭和41年早稲田大学によって調査され、主体部は横穴式石室で、直刀、鉄鏃、小玉、釘などが出土したと言う。

中台５号墳（通称姫塚）は、昭和31年、後述の６号墳（通称殿塚）とともに早稲田大学によって調査され、埴輪列の配列がほぼ原位置を推定させるに足る状態で出土した事により、埴輪研究の進捗に寄与した記念すべき調査であった。主体部は、前方部南側に開口した横穴式石室で、直刀13、方頭太頭１、金銅装太刀１、鉄鏃多数、刀子２、金銅製雲珠５、鉄地金銅張杏葉１、轡１などを検出している。

中台６号墳（殿塚）は、盾形の二重周溝をもった横芝町最大の前方後円墳で、頭椎太刀１、直刀５、金銅鈴８、金環６、銅椀などを検出し、昭和33年、姫塚と共に国の史跡に指定された（。６世紀後半から７世紀初頭に築造されたものかと思われる。その他、昭和54年には、㈶千葉県文化財センターによって、鯉ヶ窪１・２・３号墳（中台16・17・18）が調査されている。

下流域では、円墳12基の大塚古墳群、前方後円墳１基、方墳１基、円墳14基の金尾古墳群、方墳５基、円墳６基の御城内古墳群、円墳16基の上大蔵古墳群、円墳２基の下大蔵古墳群、方墳１基、円墳６基の蕪木台古墳群、前方後円墳４基、円墳14基の蕪木古墳群、前方後円墳２基、円墳５基の大堤古墳群、円墳２基の猿尾古墳群の各古墳群がある。

大塚１号墳は、径85ｍを測る県内でも最大級の円墳である。

蕪木１号墳（朝日の岡古墳）は、昭和27年、日本大学軽部氏によって調査されたもので、横穴式石室は、切石専積み構造であったという。円筒・人物・馬型埴輪が出土している。６世紀後半頃の築造であろうか。

蕪木２号墳（蕪木５号墳・名城５号墳）も昭和28年、日本大学によって調査され、直刀12、鉄製鋌片、鉄製雲珠１、辻金具１、金銅製刀子鞘１、金銅製巾着型器具、が出土している。

大堤１号墳（大堤権現塚）は、全長117ｍの前方後円墳で、山武郡最大の古墳である。昭和31年日本大学によって調査され、頭椎太刀１、圭頭太刀１、直刀１、金銅装刀子片、金箔などを検出している。７世紀前半の築造であろうか。

3　境川流域

作田川の支流・境川の最上流部には、円墳の中津田古墳がある。昭和52年平岡和夫氏によって調査されている。上流域から中流域にかけての左岸は、山武町埴谷から成東町真行寺にかけて連続的に古墳群が続き、群構成に検討の余地を残すものの上流部から前方後円墳４基、円墳12基の埴谷古墳群、前方後円墳２基、方墳37基、円墳39基の諸木内古墳群、前方後円墳２基、方墳１基、円墳48基、不明４基の胡麻手台古墳群、前方後円墳９基、円墳４基の根崎古墳群、方墳２基、円墳17基、不明３基の麻生新田古墳群、前方後円墳２基、方墳４基、円墳13基の真行寺古墳群、前方後円墳１基、円墳10基の富田古墳群と続いている。

埴谷10・11・12号墳は、昭和３１年川戸彰氏によって調査されている。径43ｍの麻生新田３号墳は、通称カブト塚と呼ばれ、昭和41年川戸彰氏によって調査され、馬具などを検出した。

直径45ｍの新行寺19号墳（経僧塚）は、山武町と境界を接した成東町の飛び地で、昭和43年から昭和45年にかけて、早稲田大学によって調査された。円墳から円筒・人物・馬・家型埴輪が出土し、主体部は、横穴式石室と箱式石棺の２つで、埋葬施設の変遷を探る上で興味ある調査例である。銀装の圭頭太刀や各種の馬具を検出した。７世紀を境とした築造時期が考えられる。

それに反し、境川右岸には見るべき古墳群がなく、わずかに上流域で、方墳１基、円墳４基の萩ケ谷古墳群、円墳の南桜台古墳、円墳の鍛治畑古墳、親田北横穴群、前方後円墳１基、円墳４基の市場古墳群などの１基ないし数基の小古墳群が確認されるのみで、極めて対象的で、この地域の特性を際だたせている。

4　成東川流域

もう一つの作田川の支流・成東川流域の古墳群は、上流域に東金市域の前方後円墳１基、円墳20基の極楽寺古墳群、円墳３基の下布田古墳群、山武町域に方墳１基、円墳10基の武勝古墳群があるが、削平、煙滅が激しく、残存している古墳は、極めて少ない。中流域左岸には、円墳12基の椎崎古墳群が確認されているがこちらも保存状態はよくない。左岸の森台地域では、森台古墳群が広範囲にわたり築造されており、４支群にグルーピングした。Ⅰ群は、前方後円墳１基、方墳１基、円墳22基であり、Ⅱ群は、円墳５基、Ⅲ群は、円墳８基、Ⅳ群は、円墳７基から構成されている。

Ⅰ群は、昭和53年、青山学院大学によって11基が調査されている。その内の９号墳（７号墳）からは、円筒・人物・馬型埴輪が出土している。

下流域では、成東町で前方後円墳３基、方墳２基、円墳23基の板附古墳群、前方後円墳１基、円墳８基の湯坂古墳群、前方後円墳２基、円墳22基の和田古墳群、円墳３基の宮前古墳群が築かれており、宮前古墳群以外は、いずれも大規模な古墳群である。

板附古墳群は、数度にわたって調査されており、昭和26年には、日本大学によって板附け15号墳（不動塚）が調査

され、昭和29年には、同じく日本大学によって13号墳、14号墳（西の台）が調査され、昭和45年には平岡和夫氏が17号墳（４号）、21号墳（２号）、26号墳（１号）が調査されている。昭和54年には国立歴史民俗博物館の研究調査の一環として、４号墳（駄ノ塚）が白石太一郎、杉山晋作氏によって調査されている。１辺60ｍの方墳の主体部・横穴石室は盗掘を受けており、金銅製の歩揺付き雲珠などわずかな遺物しか検出しなかったが、検出した須恵器からこの古墳の築造は、７世紀前半と思われる。

5　十文字川流域

十文字川も作田川の支流であるが、流路は短く、西側におもに谷田を造るという傾向が見られる。上流域では、小規模な円墳６基の榎台古墳群、円墳９基の滝沢古墳群があり、中流域には、円墳４基の菅谷古墳群、円墳10基の馬場古墳群、前方後円墳１基、円墳７基の井戸谷古墳群、方墳１基、円墳４基の焼き山古墳群があるが、いずれも小中規模のものである。

下流域になると様相は一変し、前方後円墳６基、方墳４基、円墳54基の家之子古墳群、円墳33基の道庭古墳群と山武郡南部地域では、数のうえでは最大級の古墳群が築造されている。

家の子古墳群は、昭和42年、川戸彰、丸子亘氏によって調査され、道庭古墳群は、有沢要氏によって調査され、報告は未完であるが、東金市で初めての、山武郡最西端の円筒・人物埴輪出土地である。

6　北幸谷川流域

北幸谷川流域では、最上流域の、大網白里町で、円墳１基を確認している金谷野Ａ遺跡、円墳２基からなる金谷古墳群、東金市域で、円墳１基の道円坊古墳、円墳３基の養安寺古墳群の小規模な古墳が見られ、下流域では、前方後円墳７基、円墳38基と大規模な油井古塚原古墳群と方墳１基と円墳11基の大豆谷古墳群の両古墳群と対象をなしている。

油井古塚原古墳群は、昭和41年に、川戸彰、下津谷達夫氏により前方後円墳１基と円墳12基を調査している。

又、山武郡南部地域で特筆すべきは、沖積平野と接する房総海蝕丘陵中腹の砂質泥岩に穿たれている横穴墓群である。

東金市域では、峰下横穴群、玉崎神社裏横穴群、上行寺裏横穴群、新宿横穴群、岩崎横穴群、谷横穴群、朱塗りの横穴が確認されており、上行寺裏と朱塗りの横穴以外は、10数基から20数基と多い。そのうち、岩崎横穴群に付いては、㈶山武郡南部地区文化財センターによって、1987年に調査されている。

大網白里町内は、前述の様にわずかに古墳も確認されているが、むしろ長生郡と似て横穴群集地域といえる。餅木横穴群、風谷横穴群、小西横穴群、養安寺横穴群、宮谷横穴群、北後谷横穴群、本宿横穴群、熊野神社横穴群、小中横穴群、瑞穂横穴群、瑞穂小学校裏横穴群、永田横穴群が現在までに確認されている。そのうち、北後谷横穴群、本宿横穴群、小中横穴群、瑞穂横穴群については、いずれも山武郡南部地区文化財センターによって調査されている。

第６節　長生地区

福間　元

長生郡は、房総半島のほぼ中央、南北に走る房総丘陵の東側にあり、太平洋岸九十九里浜の南端に位置している。長生郡の中央部は、一宮川水系の大小の支流によって開析された支谷が樹枝状に発達し、房総丘陵の裾部と茂原市域を中心に広がる沖積平野とが交錯し、複雑な地形的景観を見せている。

一宮川水系の支流は、北から阿久川、豊田川、一宮川本流、三途川（長南川）、鶴枝川、埴生川、長楽寺川、瑞沢川があり、一宮川本流と埴生川以外は、さほど流路は長くないのが特徴である。

長生郡市域は、高塚墳墓が極めて少ないと言うより、ほとんど無いのが最大の特徴であり、茂原市では、阿久川、豊田川、一宮本流のいずれの流域でも確認していない。

長柄町では、豊田川上流域で、全長20ｍの前方後円墳、柳作古墳が１基確認されている。また、一宮川上流で、前方後円墳１基と中流域で、要害古墳群の前方後円墳１基と円墳１基を確認している。いずれも未調査の古墳である。

長南町では、埴生川上流域で、円墳１基の大谷古墳と円墳２基の地引古墳群が、中流域では、前方後円墳２基、円墳２基の油殿（あぶらでん）古墳群がある。油殿古墳群は１号前方後円墳が、昭和49年と昭和50年にわたって墳丘測量と、周溝の調査が早稲田大学によって行われている。調査概報（註１）によると、全長93ｍの古墳の墳丘裾部から５世紀前後の土師器壷が検出されており、後述する能満寺１号前方後円墳に続くものとして注目された。

又、長楽寺川下流域には、前方後円墳１基、円墳10基、方墳１基、墳形不明６基の計18基の能満寺古墳群がある。その内、前方後円墳１基と円墳２基が長南町地域に所在する。

その前方後円墳は、昭和22年11月に、明治大学によって発掘調査されており、当地域のみならず、千葉県を代表する古墳として知られているとともに、県内における前期古墳の最初の調査例として記念碑的古墳であると言える。報告書によると（註２）、全長73.5ｍ、後円部径51ｍ、同高6.5ｍ、前方部幅20ｍ、同高４ｍを測る。後円部のほぼ中央には、主軸に平行して、長さ7.5ｍ、幅２ｍの木炭槨が埋納されていた。槨内からは、鏡２、鉄剣１、直刀１、ガラス製小玉10、銅鏃８、鉄鏃、鉄斧、やりがんなどが検出されている。又、後円部墳頂から埋葬儀礼用に供献されたとみられる高坏、器台、底部穿孔壷などを検出したという。これらの出土遺物から本古墳の築造年代を４世紀後半としている。

睦沢町では、長楽寺川上流域で佐貫山部田遺跡で、円墳１基を、中下流域で、全長45ｍのひな塚前方後円墳１基と能満寺古墳群の方墳１基と円墳が確認されている。

埴生川下流域では、全長42ｍの大谷木前方後円墳と円墳１基の大塚古墳、前方後円墳２基、円墳２基の富貴楽古墳群があり、両流域いずれの古墳とも未調査である。

瑞沢川上流域では、円墳３基からなる日之子台古墳群、全長27.7ｍの前方後円墳１基と円墳４基からなる森・長楽寺古墳群がある。下流域では、円墳４基の浅間山古墳群、円墳１基の上市場古墳が確認されている。

その内、浅間山１号墳は、昭和48年12月睦沢町教育委員会によって調査されている土壙２基が検出され、第一主体部からは、変形獣形鏡・剣・直刀・鉄鏃・三輪玉・有孔円板を検出しており、第２主体部からは、剣・鉄鏃・胡録・絞具・環状鉄製品が出土している。そして、この古墳の築造年代は５世紀後半と推定される。

また、昭和63年には、睦沢町教育委員会によって、森・長楽寺古墳群中の１・４・５号墳が調査されている（註４）。１号前方後円墳は、全長27.7ｍを測り、地山整形された古墳のプロポーションは古式の様相を示すが、この古墳に伴う遺物は検出しなかったという。４号墳は、東西に長い径15.5ｍの長円墳とでも呼ぶもので、自然地形を利用し、一部盛土をしているという。出土遺物は、須恵器甕片、土師器坩がある。５号墳は、東西長10.6ｍを測る盛上された円墳で、主体部は土壙で、出土遺物は、土器は無いものの、土壙内から、直刀１、刀子１、鉄鏃６、鉄斧１を検出している。築造時期については、調査者は、４号墳を５世紀末頃、５号墳を６世紀末から７世紀初頭としているが、５号墳については、もう少し時期を遡らせてもよいのではないだろうか。

一宮町における高塚墳も瑞沢川下流域の待山古墳群のみである。７基の古墳からなり、そのうち１基は、昭和40年、上智大学によって調査されている。

この調査報告は、上智大学史学会が昭和38年から昭和42年にわたって断続的に行ってきた長生郡の総合調査の一環として、他の長生郡内の横穴墓の分布調査や、発掘調査報告とともに『東上総の社会と文化』という大部な報告書（註５）の中に所収されている。

それによると、径23ｍ前後の円墳ないし帆立貝式古墳で、円筒埴輪列を検出したという。築造時期を示すような遺物は検出しなかった。

以上、一宮川流域の高塚古墳に限って述べてきた訳であるが、長生郡では、極めて多くの横穴古墳が確認されている。阿久川流域には、龍教寺裏、神楽坂、河向、藤谷、落ノ下、渋谷、大笹、雪内、土井際、田取、洞坂堰うら、洞坂、北谷、内谷、八谷、御領、打越の17ヵ所、計31基の横穴墓群がある。いずれも１基ないし２、３基の小規模なもので、グループとしてのまとまりも雪内横穴から北谷横穴の間の地域でわずかに認められるだけである。

豊田川流域には、長柄町のヨジ山、大仏谷、針ヵ谷長房滝谷、山根・喜多谷、桜谷・笠松、桜谷、谷ヵ谷、大正寺裏、大丸・関谷、力丸、茂原市の宿谷、宿、真名、庄吉、押日Ⅰ群、打越、久下、国府関、下谷、野本Ⅰ群、野本Ⅱ群、押日Ⅱ群、舟戸、山崎Ⅰ群、山崎Ⅱ群、山崎Ⅲ群、山崎Ⅳ群、長谷の27か所、計191基の横穴群がある。この流域の横穴群は、１基のみの単独横穴は、山根・喜多谷と野本横穴のみで、他は数基ないし10数基の横穴群であるという特徴がある。特に、下流に近い国府関地区付近に集中的に築かれ、山崎横穴群や押日Ⅰ群、久下、舟戸、長谷横穴群などは、いずれもが10数基以上の横穴で構成される大規模なものとなっている。

山崎横穴群は、昭和53年～55年にわたって千葉県文化財センターが46基（註６）、昭和61・62年に茂原市文化財センター（現長生郡市文化財センター）が14基の横穴を調査している（註７）。

一宮川本流は、当然ながら流域面積も広く、流路も長いことから最も多くの横穴が築かれた地域である。長柄町では、刑部・月川、刑部・八重垣神社、刑部・稲塚、金谷・小金谷、針谷・東谷、立鳥・斉藤ヶ谷、間ヶ谷、桜谷・辻谷、榎本・年切、榎本・太平台、榎本・垣ヶ谷、榎本・和合、徳増・元六谷Ⅰ群、徳増・元六谷Ⅱ群、徳増・下谷、円覚寺裏、大津倉長柳、金谷畠山、立鳥・汲井谷、鴇谷・鴇谷西部Ⅰ群、鴇谷・鴇谷西部Ⅱ群、万作、中関、谷多部、宮下、下山ノ谷、宮ノ台、鴇谷・鴇谷東部Ⅰ群、鴇谷・鴇谷東部Ⅱ群、日陰、向井、動免、高山脇谷、松ノ木、高山、寺前、節ヶ谷、須合、近江谷の40か所、334基の横穴がある。

長南町では、和合谷、桜木下、殿ヶ谷、長照寺裏、西見田、ホイトド、集会所裏、垣添、馬場谷、添作谷、七つやぐら、木樵谷の各横習を棚毛横穴群とし、小谷Ａ、小谷Ｂ、大谷横穴を今泉横穴群としている。小平田、三本松、水ノ口、中ノ郷を又富横穴群としている。三ヵ谷横穴群の20か所、109基の横穴がある。茂原市域では、箕輪横穴群の７基のみが一宮川本流に含まれ合計61群、450基の横穴を確認することができた。

一宮川本流上流域においては、大規模な横穴は立鳥・汲井谷の64基が際だっているのみで、他は、１基ないし数基の横穴がほとんどで、集中する傾向は認められない。それに反し、中流域は、左岸では、鴇谷東部、徳増の横穴群が、右岸では、棚毛横穴群、又富横穴群など一宮川本流のみならず、長生郡中でも最も密集した地域である。

又富中ノ郷横穴は、昭和42年８月、上智大学によって２基の横穴を調査している（註８）。

１号墳は、玄室部3.75ｍ、高さ2.5ｍである。天井部は、寄棟平入りの形態をしており、床面は左右２つの棺床を

有している。羨道部は、長さ４ｍであった。出土遺物は、玄室内には認められず、羨道部入口付近床面から若干の須恵器の破片が出土したという。

２号墳は、玄室の奥行き3.25ｍ、高さ1.8ｍを測る。天井部は、寄棟平入りの形態をしている。床面は、１号墳と同じく平坦で、左右に２つの棺床がある。羨道部は、長さ４ｍであった。出土遺物は、羨道外の左側に主軸に平行して一列に須恵器の短頸壺が並んでいた。

三途川（長南川）流域は、一宮川流域では流域面積が最も狭く、谷も浅い支流である。上流から深沢、大関谷、三途台Ａ、三途台Ｂの４群、９基とも少なく、中流域は、井山、吹羅の２群24基がある。井山横穴は、玄室は小形ながら20基と多い。下流域も米満、堰向、宮田谷の３群、36基の横穴がある。上・中・下流と数こそ少ないものの整然と合計９群、69基の横穴がある。

鶴枝川は、流路が短く、長南町の北東端と茂原市の南西端が接するわずかな部分にのみ横穴墓が築かれている。長南町側、やや上流域では、法華谷東と法華谷西の２群、22基のみで、左岸と右岸に分かれるものの、集中して築かれている。茂原市よりでは、樹枝状に開析された谷に沿ってややばらけ、福作谷、一ノ関、大作、大谷、大坪、早野、上浄法寺、穴蔵前、鏡谷、出口、立木、三ケ谷の12群、29基が確認されている。１基のみのものが５か所あり、この流域では合計14群、51基が確認されたことになる。

鏡谷横穴群の１基は、1983年に調査され、８世紀代の土師器と須恵器が出土したという（註９）。また大坪遺跡からは、五輪塔が検出されている。

埴生川流域は、川の蛇行も激しく、一宮川本流と同じように広く開析されて、谷田は極めて大きい。

長南町地域では、上流から小沢Ａ、小沢Ｂ、報恩寺、滝ノ台、葛田Ａ、葛田Ｂ、地引Ａ、地引Ｂ、地引Ｃ、地引Ｄ、地引Ｅ、西湖、八坂、妙詮寺、上茂原、久原、永井、八坂、うり谷、木ノ村の20群、117基が確認できる。睦沢町地域では、関戸、大谷木山の神、大谷木来光、大谷木、北山田富士の下、北山田御堂堂、北山田越地、北山田白ケ谷、北山田北長谷、寺崎風呂屋、寺崎城ノ内、寺崎玄知ノ下の12群、33基の横穴が確認されている。地引横穴は、Ａ群の１・２号、Ｂ群の１・２号墓が、1965年８月上智大学によって調査されている（註10）。

それによると、Ａ群１号墓は、玄室の奥行き3.6ｍ、高さ1.8ｍで、天井部の形態は壁に接する部分がまるい平型である。出土遺物は、鉄製の鐔、直刀片、刀子、鉄鏃、歯、須恵器坏、短頸壺があった。

Ａ群２号墓は、玄室の奥行３ｍ、高さ1.8ｍで、天井部の形態は、アーチ型で、床面の棺床施設は３か所あった。出土遺物は、鉄鏃、耳輪、須恵器横瓶、短頸壺、坏、椀、土師器坏であった。

Ｂ群１号墓は、玄室の奥行3.2ｍ、高さ1.5ｍで、天井部は、平形の形態である。棺床施設はない。出土遺物は、鉄鏃、直刀片、小玉、須恵器坏片、土師器坏片と少ない。

Ｂ群２号墓は、玄室の奥行４ｍ、高さ1.7ｍで、天井部の形態は、１号墓と同様に平型であった。棺床施設はない。出土遺物は、須恵器細頸壺、土師器坏、高坏及び人骨と歯が検出された。

以上、報告書にしたがって記載してみると、この４基の横穴墓は、７世紀の前半から８世紀の前半にかけて築造・使用されたものと思われる。

又、睦沢町でも寺崎玄知ノ下横穴１号墓が、昭和63年に睦沢町教育委員会によって調査され、提瓶と甕が出土している。

長楽寺川は、埴生川の支流で、長南町と睦沢町の町境、下芝原・芝原宿辺りで埴生川に合流している。流路も短く、横穴群の密集もみられず、わずかに中流域に散在しているだけである。次郎ケ谷、佐貫、副円寺裏、佐貫森ノ谷Ａ、佐貫森ノ谷Ｂ、鞠ケ谷Ａ、鞠ケ谷Ｂ、鞠ケ谷Ｃの８群、18基を確認している。いずれも１基ないし２・３基のものである。

瑞沢川も、埴生川の支流であり、長楽寺川より下流、下の郷・下宿辺りで埴生川と合流しているが、横穴群の分布位置をみると開析された谷の奥まで築かれており、古代の瑞沢川の流路は、現在の地図でみるよりもかなり複雑で蛇行していたことを窮わせる。

睦沢町では、上流から大上杉山Ａ、大上杉山Ｂ、大上杉山Ｃ、房谷、大上坪六、長楽寺Ａ、長楽寺Ｂ、長楽寺Ｃ、大上飯沢、上之郷下山田、上之郷上山田、東谷、上之郷井戸谷、上之郷石川Ａ、上之郷石川Ｂ、上之郷釜ケ坪Ａ、上之郷釜ケ坪Ｂ、上之郷神戸、上之郷向天ケ谷、上之郷上天ケ谷、上之郷安喰Ａ、上之郷安喰Ｂ、上之郷橋戸Ａ、上之郷橋戸Ｂ、鴨谷Ａ、鴨谷Ｂ、下の郷入山津、下の郷宗祇谷、下の郷東谷Ａ、下の郷東谷Ｂ、下の郷次郎田谷、清水谷、岩井、下の郷小谷、下の郷月代台、岩井堰谷、岩井大谷、岩井谷ノ下Ａ、岩井谷ノ下Ｂ、岩井北東行寺Ａ、岩井北東行寺Ｂ、岩井修理田Ａ、岩井修理田Ｂ、岩井堂谷、大坊谷、池谷田、上市場分堰前の47群の138基の横穴墓を確認している。

いずれも横穴群も１基ないし数基で構成される小規模なもので、次郎田谷横穴群の12基が目立つぐらいである。

上之郷地区の小支谷に集中しており、その内の東谷横穴墓の１基が、昭和56年、明治大学によって学術調査されている。睦沢町教育委員会から出された報告書（註11）によると、玄室部の奥行3.5ｍ、高さ1.8ｍで、天井の形態は、ドーム型をしている。羨道部は、長さ1.8ｍ、幅1.0ｍで、排水溝が認められる。出土遺物は、土師器坏10、土師器高坏４、須恵器提瓶１、鉄鏃１、刀子１、戸井２及び人骨を検出した。この１号墳の使用時期は、７世紀の初めより中葉であるという。

一宮町は、玉前神社付近から南に延びる支谷沿いにわずかながら横穴群が築かれている。上流から見ていくと奥谷、柚ノ木、浅間、岡田前、細田Ａ、細田ｂ、小池、東院、西門前台の９群、61基を確認している。単独の横穴墓は無く、奥谷、西門前台の２基が最小で、柚ノ木が17基、細田Ａが12基を確認している。

柚ノ木横穴群は、昭和39年、上智大学によって４基の横穴墓が調査されている（註12）。

Ａ－１号墓は、奥行2.1ｍ、高さ1.35ｍで、天井部の形態は、ドーム型で、床面中央に棺床が掘込まれている。出土遺物はすべて羨道部から出土している。管玉１、耳環１、土師器坏１、土師器壺１であった。

Ａ－２号墓は、玄室の奥行２ｍ、高さ1.2ｍで、天井部の形態は、ドーム型である。中央に棺床が掘込まれている。出土遺物は、須恵器壺１、須恵器横瓶１、及び貝釧と思われる半片が検出された。

Ａ－３号墓は、床室は、奥行2.8ｍ、高さ1.5ｍで、天井の形態は、ドーム型である。棺床は、２棺床である。羨道部が8.8ｍときわめて長いのが特徴である。出土遺物は検出されなかった。

Ｂ－１号墓は、玄室の奥行3.05ｍ、高さ1.95ｍで、天井部の形態は、アーチ型である。棺床は、２つの掘込まれている。出土遺物はほとんどなく、須恵器の椀が出土したのみであった。

この４基の横穴墓の使用された時期は、出土した遺物から７世紀後半から８世紀前半頃であろうか。

第７節　千葉地区

田　中　清　美

千葉地区の水系については、北部より花見川水系、鹿島川水系、都川水系、村田川水系の４地域に分けられる。これらの河川は鹿島川（利根川水系）を除いて、すべて東京湾に流出する。

先づ、花見川水系では、対象地区は、下流域であり、当地域は、他地域に比較すると、古墳群の分布は、希薄である。右岸では、椎崎・武石・大小塚、そして、鉄鉋塚、東鉄鉋塚などの古墳群が存在するが、東鉄鉋塚（前方後円墳

１基、円墳６基）を除けば、ほとんどが、数基のみの古墳群である。左岸は、高台南（前方後円墳）、追舎、大山、陣屋台、子安、殿山などの古墳群で、同様に小規模な構成である。

１．鹿島川水系

鹿島川水系では、対象地区は、上流地域に限定され、最上流地域では、都川との分水嶺付近に位置する。特に最上部の二ツ塚古墳群などがあげられる。また、上流部旨に、右岸、左岸の区別も識別が困難であり、姫塚、上人塚、六所などの古墳群は、単に上流部の占地として踏えておく。それら以外では、右岸、左岸としてとらえることが出来、右岸では、御手野（前方後円墳２基、円墳７基）、水垂、山宇志路、小間子、中道、経塚、ムカエなどの古墳群が存在する。右岸では、浅間ビョ、外道、花井田、谷部多、権現堂などの古墳群が存在するが、総じて基数は少ない。

２．都川水系

次に、都川水系では、幾技かの支流が存在し、大きくは、北部の２支流と南側の本流域に分けることが出来る。北部域では、鳩原、草原、宮野木原、塚原、西街道（前方後円墳か）、城山、勝田台などの古墳群が存在する。いずれも小古墳群であり、本流域に比較すると希薄である。本流域では、数量等多くなり、右岸では貝殻後、大塚、高品第２、石神、浜道（円墳７基）、戸張作（前方後円墳２基、円墳15基）の古墳群、最下流域に、鷲塚（前方後円墳）、白旗古墳などが存在する。さらに、もう一本の南側の小谷（支流）には、ワリ山、光蓮寺台、上ノ台、家の上、松山台、台、作、台畑（円墳13基）、若郷、立木南、田向南、和田前、御所ヶ原郭などの古墳群が認められる。左岸は、聖天、瀧ノ谷、作山、聖人塚、へたの台、台、内野（前方後円墳、円墳11基）、台の坊、菱名、菱名台などが認められる。さらに上流部では、吾妻、台畑、塚原、中原（前方後方円墳３基、円墳６基）などの古墳群が存在する。さらに、最上流域では、舟塚（前方後円墳）、能真坊、宝善寺山（円墳12基）、東城楽台、長塚などの古墳群が存在している。

市域の最も南側に位置する村田川水系では、数量、規模ともに大きくなる。当地域は、左岸及び、右岸中流域が、市原市に属するため、右岸下流域北側が中心である。下流からは、大覚寺山（全長70ｍ）、七廻り塚、八人塚、赤塚、兼塚、高沢、生浜、馬ノ口、椎名崎（前方後円墳３基、円墳14基）、池入、小金沢（前方後円墳２基、円墳12基以上）、狐塚、大膳野、庚塚、池田、愛宕、柏崎台、大作台、にとな、榎作、赤井などの古墳群が存在する。

古墳の立地については、ほとんどが、洪積台地上に占地されており、より広い沖積低地を確保できるほど、数量、

千葉市の主要古墳

	町名	名称	規模(ｍ)	墳形	流域
1	生実町	大覚寺山古墳	63	前方後円	村田川右岸
2	〃	七廻り塚古墳	54	円	〃
3	上気町	舟塚古墳	44	前方後円	都川、鹿島川分水嶺
4	椎名崎町	人形塚古墳	41	〃	村田川右岸
5	平川町	笹目沢２号墳	40	前方後方	鹿島川上流
5	大木戸町	狐塚２号墳	40	〃	村田川上流
7	大厳寺町	大厳寺古墳	39	円	村田川右岸(北支流)
8	平山町	中原４号墳	35	前方後方	都川右岸(上流)
8	北谷津町	上ノ台１号墳	35	前方後円	都川右岸
10	生実町	南二重堀４号墳	34.6	円	村田川右岸

規模の大きい古墳群が存在している。したがって、都川、村田川の下流域ほど、濃密な分布を示している。

古墳の規模では、別表のとおり、前方後円墳では、大覚寺山の63ｍが最大で次に円墳の七廻り塚54ｍ、次に舟塚44ｍ、地割線が確認された人形塚が41ｍである。規模の面では、村田川流域の大覚寺山と七廻り塚が他に比して特筆される。

また、当地域の前期古墳としては、墳形から大覚寺山古墳が想定されている。また、中期では、石神２号墳より、石枕、石製模造品、鉄器など、七廻り塚古墳から、直刀、剣、鉄斧、鎌、鉾、小型仿製鏡、滑石製模造品、臼玉など、上赤塚１号墳より石枕、立花、銅釧などが出土している。後期では、椎名崎古墳群に代表される切石積みの横穴式石室を主体部とする古墳が多く、愛宕山、荒久、舟塚なども同様な埋葬形体を示している。

当地は、隣接する他地域と比較すると古墳分布は、希薄といえるが、村田川流域を主とする一部濃密な分布は、いわゆる菊間国造、さらに都川流域等については、千葉国造に対応する勢力の影響を暗示していると考えられる。

横穴については、現在のところ、４地点が認められているが、量的には少なく、希薄な地域である（別表）。いずれも本格的な調査がなされておらず、不明な点が多い。形態は、複式構造でアーチ及びドーム形天井をもつと推定される。

千葉市域の横穴

	名称	基数	所在地	流域
1	大椎	2	大椎町西要	村田川上流
2	城山		小仲台町城山	都川北支流
3	乙払込	8	小食土町乙払込	小中川上流(太平洋出入)
4	南谷	8	〃　南谷	〃

第８節　市原地区

田中清美

市原地区の水系は、北側に千葉市との境付近を東から西に流れる村田川水系と市原市の中央部を南東から北西に流れる養老川水系の２流域に大きく分けられる。また、この他に小河川として、村田川と養老川流域に挟まれた北側東京湾寄りの地域（能満川、山田橋川等に代表される水系）と養老川の南側に位置する椎津川、片又木川に代表される水系がある。したがって、ここでは、村田川、養老川の二大水系と小河川の２水系の４水系をとりあげて各水系ごとの特色をあげてみたい。

１．村田川水系

先づ、村田川水系については、右岸では、下流域北側が千葉市域に入るが、大覚寺山等の著名な古墳が存在している。下流域から中流域にかけては、近年、千原台団地の造成に伴ない、草刈古墳群を中心とした大規模な調査が実施され多大な成果を上げている。この草刈古墳群は、前方後円墳３基、前方後円墳１基、方墳33基以上、円墳100基以上という規模で、他の古墳群の多くが未調査であるが、当地域の他の古墳群をはるかにしのぐ規模、数量を誇っている。しかし、右岸上流域には、ほとんど古墳分布は、みられなくなり、最上流域（千葉市域）の大木戸町や土気町に至ってわずかに出現してくる様相がみられる。

村田川両域の主な古墳

	名　　称	種　類	規模(m)	時　　期
1	権現山古墳	前方後円	90△	5世紀末～6C初
2	潤井戸高野前古墳	〃	90△	5世紀?
3	大厩二子塚古墳	〃	63	〃
4	大覚寺山古墳	〃	63	4世紀
5	東関山古墳	〃	61.3	6世紀?
6	杉山古墳	〃	60	5世紀?
7	新皇塚古墳	前方後方	60△	4世紀
8	大厩浅間様古墳	円	52	〃
9	姫宮古墳	前方後円	47	6世紀
10	菊間天神山古墳	円	44	5世紀
11	長者塚古墳	〃	40	6世紀
12	草刈１号墳	〃	38	5世紀
13	草刈大塚占墳	〃	35	4世紀末～5世紀初
14	千原台Ａ99号墳	前方後方	27	4世紀

左岸では、右岸に比すと、下流域から上流域まで連綿と古墳群が存在する。まず、最下流域の東京湾を望む洪積台地上には、菊間古墳群（前方後円墳３基、前方後方墳１基、円墳13基以上、方墳４基以上）その上流域には、下郷、大厩二子塚（前方後円墳）、大厩、久々津、天王台（円墳26基以上）、杉山、山王後、小谷、永吉権現山、下野寺谷古墳群（前方後円墳３基、円墳10基、方墳１基）、東鹿ノ原、西鹿ノ原、下鈴野、長者塚、高田観音台（円墳45基以上）などの多くの古墳群が存在する。また、中流域の支流神崎川流域には、小田部、荻作、などの小古墳群もみられる。規模は、別表のとおりであるが、菊間権現山と潤井戸高野前の両前方後円墳が推定で長軸90ｍと考えられている。しかし、両古墳とも、保存状況が悪く、未調査であり、不明な点が多い。ついで、大厩二子塚、東間山、杉山などの60ｍ前後の古墳が存在する。また、右岸に比して規模が大きい点が特筆される。ところで、当地域は、古墳の立地が、河岸段丘の存在により、潤井戸地区付近を中心として３段の占地が認められる。特に左岸が顕著であり、最も村田川に近い低い段丘上に、高野前、久々津古墳群等が、２段めには、杉山、宿後など、最も高い地点には、菊間古墳群から連綿と続く多くの古墳群が立地している。

時期からみると、４世紀頃と推定される古墳として小日部１号墳（東海系土器、玉類など）、新皇塚（直刀、、剣、珠文鏡、石釧など出土）、大厩浅間様（剣、珠文鏡、石釧など出土）、千原台Ａ99号墳や下鈴野１号墳、川中１号墳などが上げられる。さらに５世紀頃では、大型の前方後円墳のほとんどが当時の築造と考えられる。また、小谷１号墳（前方後円墳）からは、円筒埴輪列が42体分検出されている。

村田川流域の横穴は、わずかに２ヶ所確認され、いずれも未調査である。十人寄合横穴は、村田川左岸支流の葉木川左岸に４基、柳田横穴は、村田川上流右岸に５基認められている。いずれもアーチ型の天井部をもつ。

当地域は、いわゆる菊麻国造の支配中心地として想定されており、特に村田川両岸の中流から下流域に存在する。古墳群は、勢力の強大さを物語るものである。

２．養老川水系

次に養老川水系については、右岸では、養老川の海岸平野に五井古墳群、御蔭目浅間神社古墳（形象埴輪をもつ前方後円墳）が存在する。さらに、下流に最も近い洪積台地上には、昭和47年から昭和63年にかけて国分寺台地区の大規模な調査が実施されている。当流域では、加茂、根田、神門、諏訪台、東間部多、西広、山倉などの古墳群が調査されている。特に諏訪台古墳群は、前方後円墳７基、前方後方墳８基、円墳20基、方墳130基以上を数える。さらに、中流域から上流へと連綿と古墳群が続いている。山倉堂谷、海士、福増、武士、北旭台、松崎、大城台、妙香、上原台、浅間山、奉免、米沢、江子田、などが存在し、最奥部に永田と大和田の古墳群が認められる。当地域には、２段の洪積台地が存在し、１段めの低い台地には、海士、武士、松崎、牛久などの古墳群が立地する。

左岸では、当地域を代表するような大規模な古墳群である姉崎古墳群が存在する。前方後円墳を主とする当群は、いわゆる上海上国造の支配中心地として想定されている。二子塚は、海岸砂丘に立地し、本来は、幾つかの古墳が存在していたとみられる。最下流を望む洪積台地上には、天神山、釈迦山、山王山などの前方後円墳が占地される。さらに上流には、今富塚山、海保大塚の大型古墳がみられ、海保、引田、安須（円墳26基）、高坂、中高根、報恩寺（前方後円墳２基、方墳３基、円墳20基）、佐是（前方後円墳４基、方墳２基、円墳28基）、吉野（前方後円墳４基、方墳４基、円墳54基）などの古墳群が続き、最奥部は、上流域の殿部多、皿郷田茂が存在する。当地域の古墳の規模は、別表のとおりである。最大は、前方後円墳の菊間天神山の130ｍ、次が今富塚山の113ｍ、姉崎二子塚の110ｍである。時期別では、右岸の神門古墳群中の３、４、５号墳が古墳の出現期の問題として注目される遺跡であり、東間部多２号、16号、中流域の牛久１、２号墳なども前期の古墳として考えられている。姉崎古墳群では、天神山→二子塚（５世紀後半）→山王山（６世紀前半）→原１号→鶏窪→六孫王原（７世紀）等の変遷が推定されている。また、諏訪台48号墳からは盤龍鏡が出土し、５世紀の所産とみられる。市原市内より出土した鏡については、別表のとおりである。さらに、江子田金環塚からは、馬具を主とする出土品が注目され、中流域での勢力の強さが伺える。

横穴では、19群105基が確認されている。別表のとおり、主に中流域に集中している。

３．その他地域

次に、村田川と養老川に挟まれた北側地域の能満川、山田橋川に代表される水系については、稲荷台、南向原、千草山１号、三島台、向原台、定掘込、仙台原、山木などの古墳群が存在する。稲荷台１号墳は、王賜名鉄剣で知られているが、当地域は、以前より菊麻、上海上国造の支配地域との中間地帯として考えられており、それ旨、稲荷台１号墳の被葬者の様な特殊な人物が出現したと想定されている。三島台、向原台、仙台原、山木は、東京湾を望む台地上に占地している。いずれにせよ、これらの古墳群は、前方後円墳をもたず、10数基程度の規模をもっている。

養老川の南隣地の椎津川に代表される地域では、日の宮、永藤、志々通、白谷などの小谷に面した古墳群と、袖ケ浦町との境付近の台地上に立地する椎津茶畑、中林などの古墳が存在する。これらの古墳も、大規模、大型の古墳はみられない。

養老川流域の主な古墳

前方後円墳

	大字	名称	規模(m)	時期	流域
1	姉崎	天神山(台の大塚)古墳	130△	4C	養老川下流(左岸)
2	今富	塚山古墳	113△	4C	養老川下流(左岸)
3	姉崎	二子塚古墳	110△	5C	養老川下流(左岸)
4	姉崎	釈迦山古墳	91△	4C	養老川下流(左岸)
5	姉崎	原1号墳	80△	6C	養老川下流(左岸)
6	姉崎	山王山古墳	70	6C	養老川下流(左岸)
7	佐是	佐是1号墳	60	6C?	養老川中流(左岸)
8	江子田	富士台古墳	56	5C	養老川中流(右岸)
9	中高根	金比羅台1号墳	55	5C	養老川中～下流(左岸)
10	江子田	金環塚古墳	48	6C	養老川中～下流(左岸)

前方後方墳

4世紀型

1	西広	東間部多2号墳	35.5	4C	養老川下流(右岸)
2	西広	東間部多16号墳	22.5	4C	養老川下流(右岸)

7世紀型

1	姉崎	六孫王原古墳	45.4	7C	養老川下流(左岸)
2	村上	諏訪台古墳	38.8	7C	養老川下流(右岸)
3	村上	諏訪台古墳	29.5	7C	養老川下流(右岸)
4	西広	東間部多11号墳	25.5	7C	養老川下流(右岸)

円墳

1	武士	鍋塚古墳	60※	5C	養老川下流(右岸)
2	松崎	丸山塚古墳	50?	5C?	養老川中～下流(右岸)
3	村上	諏訪台10号墳	40	6C	養老川下流(右岸)
4	安須	安須1号墳	39.2	5C	養老川中～下流(左岸)
5	西広	持塚1号墳	38	5C	養老川下流(右岸)

市原市内出土の青銅鏡

番号	名称	遺跡名	保管場所
1	珠文鏡	新皇塚古墳	千葉県立房総風土記の丘
2	内行花文鏡		
3	変形神獣鏡	西広モチ塚古墳(持塚1号墳)	千葉県立上総博物館
4	蟠螭文鏡	二子塚古墳	国学院大学
5	変形獣鏡		
6	鏡片		
7	変形四獣鏡	山王山古墳	
8	方格規矩鏡	富士見塚古墳	早稲田大学
9	内行花文鏡	御霊崎三夜塚古墳	野田市郷土博物館
10	盤龍鏡	諏訪台48号墳	市原市文化財センター
11	珠文鏡	大厩浅間様古墳	市原市文化財センター
12	内行花文鏡	御林跡遺跡	市原市文化財センター
13	不明		
14	珠文鏡	小田部新地遺跡	市原市文化財センター
15	変形獣形鏡	草刈24号墳	千葉県文化財センター
16	珠文鏡	草刈遺跡C区	千葉県文化財センター
17	珠文鏡		
18	珠文鏡	草刈遺跡D区	千葉県文化財センター
19	鏡片		
20	素文鏡	根田第6号墳(辺田1号墳)	市原市文化財センター
21	素文鏡	西谷18号墳	市原市文化財センター
22	素文鏡	草刈六之台遺跡	千葉県文化財センター

養老川流域の横穴墓

	名　　称	基数	所　在　地	
1	浅　間　台	6	上原字浅間台	
2	鷹　ノ　巣	1	安須字鷹の巣	
3	堂　部　田　山	3	妙香字堂部田山	
4	東　代　山	1	妙香字東代山	
5	境　部　多　岱	1	米沢字境部多岱	
6	稲　荷　台	1	米沢字稲荷台	
7	真ヶ谷殿部多	7	真ヶ谷字殿部多	
8	池　和　田	3	池和田字大宮部田	
9	池　和　田　城	3	池和田字城廻	
10	藪	2	藪字石名沢	
11	岩	10	岩字梁沢	1976年調査
12	外　部　多　ヤ　ツ	40以上	外部多字岩井戸他	
13	大　和　田	8	大和田字緑岡	1986年調査
14	宮　　原	1	高滝字宮原	
15	西　国　吉	11	西国岸字亥ノ水作他	8基調査
16	南　総　中	3	牛久字江子田	1977年調査
17	大　城　台	1	土字字大城台	
18	真　福　寺　前	1	米沢字真福寺前	

第9節　君津地区

小　沢　　洋

千葉県南西部に位置する君津地区（君津郡域）は、県下でも最も古墳の分布密度が高く、かつ大形古墳の多い地域として知られている。この地域では、小櫃川・小糸川の2大河川を中心に顕著な古墳分布が認められ、さらに南部を流れる湊川などの流域にも、横穴墓を主体とした古墳分布圏がある。

当地域においては、小櫃川下流域の祇園・長須賀古墳群、小糸川下流域の内裏塚古墳群を始めとして、明治時代～昭和初期に発掘された古墳も多く、優れた副葬品の出土することから、古墳研究史上古い時期から注目を浴びてきた。しかしその反面、木更津の低地部など早くから市街化が進んだ区域では、幾多の重要古墳が学術的な調査の機を逸して湮滅してしまったことが惜しまれる。一方、近年に至っては、昭和48年暮れに開始された木更津市請西古墳群の調査を皮切りに、台地・丘陵部に存在する古墳群の本格的な発掘調査が実施されるようになった。とくに昭和50年代後半以降になると、開発区域の拡大に伴って、それまで調査の手がほとんど加えられていなかった小櫃川・小糸川中流域の古墳の発掘も相次いで実施され、また分布調査の進展とともに新発見の古墳も増加して、次第にその全体的様相が解明されつつある。

君津地区は現在、袖ケ浦町・木更津市・君津市・富津市という面積の広い4市町から構成されるが、これらの市町域は近・現代の度重なる町村合併・編入によって形成されたものであり、河川流域を単位とした地理的な区分とは必ずしも一致するものではない。整理上、現在の市町域と水系（古墳分布圏）との対応関係を概略的に見ると、袖ケ浦町には主として小櫃川下流北岸域が、木更津市には小櫃川下流南岸域と矢那川流域が、君津市には小櫃川中流域と小糸川流域の大部分が、富津市には小糸川河口部南岸とそれ以南の諸河川（岩瀬川・小久保川・八染川・湊川・白狐川・金谷川）の流域が含まれる。

本稿では、君津地区を①小櫃川下流域北岸、②小櫃川下流域南岸・矢那川流域、③小櫃川中流域、④小糸川下流域、⑤小糸川中流域、⑥小糸川以南諸水系の6地域に分けて古墳分布の概要を述べてみたい。

1．小櫃川下流域北岸

清澄山系に源を発する小櫃川は総流長75kmを測り、養老川と並ぶ千葉県内最長級の河川である。下流域においては河岸沖積地の幅が広く、その北岸と南岸とを大きく隔てている。地形的、地質的にも北岸と南岸では相違があり、北岸が下総台地の延長というべき平坦面の広い台地地形をなしているのに対し、南岸は河川敷の間近まで狭隘な丘陵地形が迫っている。ここで述べる小櫃川下流北岸地域は、主として現在の袖ケ浦町域（中川・富岡地区を除く）であり、小櫃川の北を流れる蔵波川などの諸河川流域も包括する。

小櫃川下流北岸域における古墳分布の総体的な特色としては、前方後円墳の数が少なく、円墳のみによって構成される古墳群の多いことが挙げられる。また、小櫃川下流南岸域・小櫃川中流域に比べれば、確認される古墳の絶対数も少なく、一古墳群中に占める古墳数も数基ないし10基前後のものがほとんどとなっている。確認古墳数が相対的に少ない点については、その一因として、この地域では平坦地が広いために耕地化が早く進み、削平された古墳の数が多いことも考慮する必要があろう。鼻欠古墳群・境古墳群・山王辺田古墳群など、周溝跡の検出によって存在の判明した古墳群が多く認められることも、その一端を示すものである。しかしながら、矢那川下流域の請西古墳群や小櫃川中流域の戸崎古墳群に匹敵するような大規模群集墳が見当たらないことは確かであり、前方後円墳の僅少性とも相まって、小櫃川水系の中での相対的な古墳分布上の劣勢は免れない。

浜宿川・久保田川・蔵波川などの小河川が流れる袖ケ浦町北部の長浦地区は、養老川水系と小櫃川水系の中間に位置する古墳分布の稀薄な地域であり、古墳は点在的に認められているに過ぎない。小規模ながら群として確認されるのは、蔵波川流域の神田古墳群・大谷古墳群の２か所に限られる。蔵波川北岸の台地上には美生古墳・坂下古墳という２基の小規模前方後円墳の存在が知られ、前者は前方部が削平されているが、後者は良好な遺存度を保ち、前方部の狭小な形態を呈する。最近周辺部の発掘調査で方墳跡と見られる遺構も検出されており、本来数基の古墳群をなしていた可能性がある。また蔵波川南岸台地の奥まった地点に「角山古墳」として登載される一辺50ｍの大形方形墳丘が存在するが、形状がきわめて整っており、近隣に古墳が認められない点などから見ても、中近世の塚の可能性が強い。

小櫃川下流北岸域における古墳分布は、主として河岸沖積地に面した台地南縁部に沿って認められる。

その起点的な位置にあり、際立った存在となっているのは、海岸線に面した小櫃川北岸域最西端の独立丘陵状をなす台地突端部に占地する前方後円墳・坂戸神社古墳である。田中新史氏らの略測によれば、墳丘全長約63ｍ・後円部径約35ｍ・前方部長約28ｍ・同幅18ｍ以下とされ、現在知られる限りでは小櫃川北岸流域最大の古墳である。前方部が狭長で前端部の開きが小さく、後円部と前方部の比高差が大きい古式のプロポーションを備えており、小櫃川水系に拠点的に存在する前期前方後円墳の一つとして注目される。立地や墳丘規模（全長・後円部径・前方部長）は、南岸（鳥田川流域）の手古塚古墳とほぼ等しいが、前方部の向きが反対であり、また前方部の幅が手古塚古墳よりも一回り狭い点が留意されよう。なお『君津郡誌上巻』には、坂戸神社境内の古墳から勾玉２個が出土したという伝聞が記されている。

この坂戸神社古墳を最西端として、東西に延びる台地縁辺部沿いに顕著な古墳分布を認めることができる。このうち、台地縁辺西部の神納・飯富・下新田地区では、幾つかの古墳が調査されており、その内容の一端が判明している。この地区で注目される古墳としては、二段築成の大形円墳（径36ｍ）で造出しを有する卒土神社南古墳、同じく円墳としてはやや大形の規模をもつお紬塚古墳（径28ｍ）などがあり、ともに埴輪を有している。確認調査の行われたお紬塚古墳では武具・動物などの形象埴輪の存在も認められ、出土した須恵器・土師器の年代観と合わせて６世紀前葉～中葉の築造と推定される。また卒土神社南古墳から採集された円筒埴輪はこれより幾分古い特徴を示し、６世紀初頭前後の築造年代が考えられる。埴輪をもつ古墳としては、上記の２古墳のほかに、周溝跡のみの調査された境２号墳がある。同古墳の円筒埴輪には２次調整ヨコハケが認められ、卒土神社南古墳にやや先行する５世紀後葉の年代を与え得る。小櫃川南岸の清見台Ａ　４・８号墳の埴輪に併行する段階の資料であり、君津地域における埴輪をもつ小規模古墳の初現例の一つとして注目される。以上のように、袖ケ浦台地西部では埴輪を有する古墳が５世紀後半以降継起的に認められている点が特記されよう。

他方、海岸側の台地西縁部に接した鼻欠古墳群では、周溝跡のみの検出された３～５号墳から、TK23～47型式の須恵器・異形腸抉式鉄鏃・鉄製釣針などが出土しており、埴輪は有さないながら５世紀後半代に継続的に築造された一群として捉えられる。ただし同一古墳群中では未調査の１号墳において横穴式石室の存在が確認されており、３～５号墳との時期的な隔りが想定されるとともに、小櫃川北岸では稀少な石室墳となっている。横穴式石室墳としては、他に『君津郡誌』に記載された奈良輪・福王丸塚古墳が知られるが、所在地を特定し得ない。このほか当地区では未調査の古墳として、お紬塚古墳と同一の群として括れる相伝谷・仲頭・辻子・谷塚の諸古墳、迎坂古墳群・大野台古墳群・鏡ケ峰古墳群・真里場古墳群・堂野古墳群などの存在しているが、10～20ｍ級の円墳がほとんどである。このうち独立丘状の高所に占地する飯富鏡ケ峰の古墳については『君津郡誌』に鏡の出土が伝えられている。また堂野古墳群中には小規模前方後円墳と目されるもの（５号墳）があるが、墳形についてはやや疑問がある。

台地縁辺中部の三ツ作・大曽根・岩井地区では、のぞみ野ニュータウンの造成に先駆けて山王辺田古墳群の調査が

実施されている。弥生後期～古墳前期集落と複合する古墳群で、40ｍ級の前期前方後円墳１基と10基以上の円墳・10基前後の方墳が発掘されており、小規模な古墳の多くは調査時すでに墳丘を失っていたと見られる。報告書未刊のため詳細な内容は知り得ないが、前方後方墳の存在を含め、当地域の古墳出現期の様相を考える上で看過し得ない古墳群と言えよう。また山王辺田古墳群の北に隣接して、東洋大学考古学研究会による測量調査の実施された墓山古墳群があり、このうちの１基に切石積の内部施設の存在が確認されている。横穴式石室かどうかは明確でないが、今のところ鼻欠１号墳例とともに北岸域では数少ない石材使用内部施設の確認例となっている。このほか当地区には宮後古墳群・雲塚台古墳群・大塚台古墳群などがあり、最も基数の多い大塚台古墳群中に40ｍ級の前方後円墳１基が確認される。

台地縁辺東部の上泉・野里地区には、上泉古墳群・定度岱古墳群・愛宕古墳群・寒沢古墳群・平之台古墳群などがあり、さらに小櫃川支流の松川流域に沿って東側へ奥まった永吉・川原井地区にも小規模な古墳群の分布が認められている。これらの中で注目されるのは、上泉古墳群中に存在する二段築成の大形円墳・上之山古墳である。下段の基底径46ｍで、卒土神社南古墳よりも一回り大きく、造出し状の突出も観察されるが、現状の形態はやや不整となっている。最近になって確認調査が実施されたが、周溝形態・造出しの存否を明確化するには至らず、埴輪を含めて時期決定の直接的手掛りとなるような遺物も検出されなかった。他にこの地区では、定度岱古墳群と同一台地上の打越岱遺跡で、石櫃に火葬骨を埋葬した奈良時代の低墳丘方形墓数基が調査され、終末期古墳に後続する墓制の実態が明らかにされている。

なお小櫃川北岸の沖積地帯には、新しい時期の塚と考えられるものが点在するのみで、明確な古墳の存在はほとんど知られていないが、南岸河口部における古墳の分布状況から推すると、塚の中に古墳を改変したものが含まれている可能性、あるいは消滅古墳のあった可能性も否定することはできない。

２．小櫃川下流域南岸・矢那川流域

小櫃川下流南岸域は、君津郡域の中でもとくに高塚古墳の分布密度が高い地域である。この地域の古墳分布は、地理的に次の３ないし４つの区域に分けて把握するのが適当と思われる。１は小櫃川河口部南岸の沖積地に立地する古墳群、２は小櫃川本流沿いの丘陵地帯に分布する古墳群、３は小櫃川の南を流れる中級河川・矢那川流域に分布する古墳群、４は南西部の海岸線に面した丘陵（鳥田川・畑沢川流域）に分布する古墳群であり、４については３の矢那川流域に包括して考えることもできよう。このうち２の区域については、中流へと向かってほぼ連続的に古墳分布が認められているため、袖ケ浦町（旧平川町域）と木更津市（旧富来田町域）の境界付近で便宜的に中流域と区分した。

小櫃川河口部南岸の沖積地には、現在大半が市街化している元新地・長須賀・祇園地区を中心に、首長系古墳と見られる大形・中形の前方後円墳の存在が認められる。高柳銚子塚古墳・長須賀丸山古墳・金鈴塚古墳・酒盛塚古墳・稲荷森古墳・図那浅間古墳・祇園大塚山古墳などであり、「馬来田国造」の系譜に結びつく歴代の首長墓として理解されている。これらのうち、銚子塚・丸山・金鈴塚・稲荷森の各古墳は今日墳丘の残骸を残すのみであり、大塚山・酒盛塚に至っては墳丘が全く失われている。また発掘の行われた記録がない図那浅間古墳は、70～80ｍ級前方後円墳の可能性があるが、周囲が宅地化し墳丘の変形も著しいため、墳形にはなお疑問点が多い。さらに元新地地区には松面古墳・塚の越古墳、祇園地区には小の塚古墳・鶴巻塚古墳といった首長系後期円墳（横穴式石室・石棺を内部施設とする）の存在が知られているほか、砂丘列に沿って幾多の円墳群の存在していたことが記録されている。しかし今日その姿をとどめているものはほとんどなく、本来の分布状況を把握することが難しい。

これらの前方後円墳・円墳の多くは明治年間～昭和初期に発掘、破壊されており、昭和25年に調査された金鈴塚古墳がかろうじて学術的な記録を残しているに過ぎない。今のところ、これらの古墳について周溝確認等の再調査が行

われたものは皆無であり、近年の急速な再開発・市街地拡大に関連してその実施が急がれる。とくに5世紀代の盟主墳と目される高柳銚子塚古墳・祇園大塚山古墳の周辺は、現在も耕地として残されているので、充分調査の余地があり、また図那浅間古墳を始めとして、丸山古墳・稲荷森古墳など墳丘の一部が残存する古墳については測量図を作成することも急務であろう。

次に小櫃川南岸に接した丘陵地帯に分布する古墳群について見ていきたい。その西部にあたる菅生・笹子地区の丘陵は、総体的に脊せ尾根で関東ローム層の堆積が薄く、丘頂部に粘土層・山砂層の露呈している場所がしばしば見られる。古墳群は丘陵尾根に列状に分布し、地山整形によって構築されているものが多い。この地区には小形の前方後円墳、あるいは円墳に造出しを付したと見られる形状の古墳が比較的多く見受けられるが、明瞭な周溝をもたないために、発掘調査によっても墳形を確定し得なかったものがいくつか存在する。この地区では、清水谷古墳・祝崎古墳群・高千穂古墳群・順礼海道古墳・四留作1号墳などの調査が行われているが、このうち清水谷・祝崎1、2号・高千穂7号・四留作1号の各古墳は5世紀中葉～後半代の築造と考えられ、当地区の丘陵上における墓域形成の初現を示唆している。この地区の河岸低地部に所在する菅生遺跡からは、古墳中期～後期の遺物が多数出土しており、基本的に低地に集落、丘陵に墓域といった土地利用のなされていたことが窮える。なお、まとまった数の古墳調査が実施されている高千穂古墳群では、6世紀後葉・末葉に至る継起的な古墳の造営が明らかにされている。

丘陵群中部の椿・滝ノ口地区では、袖ケ浦・木更津両市町域にまたがる椿古墳群が総数45基を数え、最も規模の大きい古墳群を形成している。古墳は細尾根に沿って列状に長く並び、40m級前方後円墳2基を含む。調査は全く行われていないが、当地区の丘陵地帯における古墳群形成の実態を解明する上で、代表的な例となり得る古墳群であろう。また支流・遣水川に面した滝ノ口向台古墳群では、最近の発掘調査で前方後方墳・方墳からなる群構成の一端が明らかにされ、前方後方墳を核とする群集型前期古墳の造営形態の一例を提示するところとなった。

丘陵群東部の打越・阿部・下根岸・大竹などの地区は、小櫃川流域の中でも古墳分布密度が目立って高い地区の一つであり、平ケ作1号墳・北上原3、6号墳・谷畑1号墳・内出原(2)号墳など40～50m級前方後円墳の数も多い。これらの前方後円墳は、どちらかといえばこの地区でも北側の古墳群に偏って認められる。当地区東側の古墳群は「大竹古墳群」という総称のもとに、昭和61年以降ゴルフ場造成に伴う大規模調査を実施中であり、群構成の一端が明らかにされているが、半数以上の古墳が盛土保存の対象となったために、全体像を把握するまでには至っていない。大竹地区の丘陵は、西部・中部の丘陵群に比べ、なだらかで平坦面が広く、古墳も面的な分布を示す。これまでの調査成果によれば、各古墳群（支群）がある程度時期的なまとまりを示しているようであり、造墓域の移動を窺うことができる。唯一全面調査の実施された二又堀古墳群においては、調査古墳のすべてが低墳丘を備えた10～15m級の前期方墳であり、副葬品は少数の玉類もしくは土師器のみで、方形周溝墓の延長線上にある墳墓群として捉えられる。三ツ田台古墳群では、古式須恵器を伴う円墳数基が調査されており、5世紀代を中心とした墓域と考え得る。このうちやや大形の(3)号墳からは珠文鏡が出土している。また向神納里古墳群では、円筒埴輪を廻らせ周溝内に埴輪棺を埋設した30m級の円墳などが調査されており、6世紀代を中心とした群形成が考えられる。埴輪を有する古墳は尾畑台古墳群中にも一基確認されているが、やはり30m級の大形円墳となっている。大竹地区では、弥生時代中期・須和田期の方形周溝墓を初現として、奈良時代の火葬骨を伴う方形墓に至るまで、各時代の墳墓群が重層的に展開しており、集落との関連で巨視的な墓域の変遷を跡づけることが可能と思われる。

続いて矢那川流域に目を転じてみたい。矢那川河口部の沖積地、かつて四房ケ原と呼ばれていた付近一帯（現在の文京周辺）にも幾つかの古墳が散在していたことが『君津郡誌』等の記載によって知られが、現存するものはほとんどない。木更津中学校（現木更津高校）建設の際「石槨」が発見されたという記録があり、低地部の古墳には横穴式石室を有するものが多かったことが推測される。中には環頭大刀などが出土した古墳もあったとされ、長須賀・元新

地地区に連なる後期首長系集団の墓域に含まれていたと考えることができよう。

矢那川流域丘陵部の古墳群については、下流北岸・下流南岸・中、上流域に分けて概観してみたい。

下流北岸の太田・清見台地区はすでに市街化しており、現存する古墳は少ない。丘陵の西端である太田山丘陵には、北裾部に鳥越古墳、南側丘頂部に太田山古墳が存在する。鳥越古墳は発掘調査の結果、全長25mの前方後方墳と判定され、方格規矩鏡・石臼・石杵などの遺物が出土し、5世紀前半代の築造と推定されている。太田山古墳は確認調査の結果、全長40mの柄鏡型前方後円墳と推定され、墳丘裾部検出の土師器から、やはり5世紀前半頃に遡る古墳の可能性が強まった。両古墳とも地山整形によって墳丘を区画しており、とくに太田山古墳の墳形については再考の余地がある。いずれにしても丘陵最西端に占地するこの2古墳は、前半期における準首長クラスの古墳として注目してよい存在である。

その東側の清見台地区には、造成前に最低22基以上の古墳が確認されていたが、一部の発掘調査が実施されたのみで、多くの古墳が未調査のまま壊滅している。調査古墳のうち、現清見台南4丁目付近に所在したと見られるA支群の4、8号墳から、2次調整ヨコハケを有する円筒埴輪が出土しており、その他の遺物相から見ても5世紀中葉～後半代を中心とした古墳群であったことが知られる。

さらに東の中尾地区には、小形前方後円墳1基を含む東谷古墳群があるほか、「中尾横穴群」と総称される幾つかの横穴墓群の存在が認められる。このうち発掘調査が行われた西本谷横穴群中の2基は、いずれも平面逆梯形・アーチ型天井で玄室前壁をもつ形態のものであったが、同一横穴群中には、特徴的な尖頭アーチ型天井の横穴も確認される。また西入・金屋敷横穴群中には線刻壁画をもつ横穴もある。

矢那川下流南岸の請西地区は古墳分布がきわめて濃密な地区である。請西地区の古墳群は、丘陵を分かつ谷によって大きく4群に区切られる。海岸に近い側から、高部古墳群（総数約40基）、塚原古墳群（総数50基以上）、大谷古墳群（確認12基）、請西古墳群（約150基）と称されており、最も大きい請西古墳群は、矢那に属する2群を合わせおよそ10支群に細分される。上記のうち高部古墳群は南端部の2基が調査されているのみであり、詳細が明らかでない。塚原古墳群では虫食い的な調査で、円筒・形象埴輪を有する5世紀代の円墳（池端古墳）、6世紀代の40m級前方後円墳1基と円墳数基及び箱形石棺をもつ7世紀代の方墳などの内容が判明している。大谷古墳群については未調査である。最も稠密な古墳分布が見られる請西古墳群では、土地区画整理事業に先立ち、昭和49～51年にかけて大規模な調査が実施され、その後10年間のブランクを経て、昭和61年から再び本格的な調査を実施中である。これらの調査によって、請西古墳群では次第にその支群構成の実態が解明されつつある。個々についての詳述は避けるが、これまでの調査成果を総合すると、概ね次のような墓域の中心の移動を跡づけることができるようである。

野焼（弥生後期）→庚申塚（弥生末期）→大山台（古墳前期）→鹿島塚（5世紀前半？～中頃）→野焼・東山（5世紀後半）→大山台（5世紀末～6世紀前半）→道上谷・山伏作（6世紀後半）→諏訪谷横穴群（6世紀末～7世紀前半）→山伏作（7世紀後半）→東山・大山台（8世紀）

上に示したアウトラインは、今後の調査の進展によってなお補足・修正が必要であり、また請西の丘陵に展開する各時期の墓制が果たして一系統の集団によるものであるかどうかについても、周辺の古墳群との関連で再吟味する必要があろう。いずれにしても集落の推移との関係の中で墓域の変遷をたどれる遺跡として、請西古墳群の調査は、今後の当地域の古墳時代研究に重要な意味をもつ。なお鹿島塚支群の丘陵先端部に、請西地区では唯一の大形前方後円墳・鹿島塚古墳（14号墳）が存在する。丘尾切断型の前方後円墳であり、全長80mという計値が提示されているが、計測の仕方では65～70m規模とも見られる。鹿島塚支群全体の時期相から考えると、平野部の前方後円墳に先行する首長墓となる可能性も高い。

続いて、矢那川中・上流域（矢那地区）の古墳群を概観したい。この地区では未だ発掘調査の行なわれた古墳が少

なく、断片的に内容が知られるのみである。古墳は河岸段丘状の微高地および背後の丘陵地に分布しており、総体的に小規模な円墳が多い。またこの地区は木更津と高倉観音を結ぶ街道筋にあたるためか中近世の塚が多く、古墳として登載されたものの中にも相当数新しい時期の塚が混在している可能性がある。数少ない調査古墳の一つとしてこの地区の中程に位置した大原古墳がある。やや大形の円墳であったとされ、鉄鏃・鉄斧・二環鈴などとともに古式の円筒埴輪が出土しており、5世紀後葉～末葉の古墳と見られる。またこれよりやや下った地点にある矢畑1号墳も、鉄剣・石製模造品等の出土から5世紀後半代の古墳と見做される。今のところ内容が明らかなのはこの2基のみで、他の古墳群の実態は不明である。比較的密集度の高い古墳群として、左岸の上中郷古墳群、右岸の南畑・下三光路・下名主ヶ谷古墳群などがあり、これらは流域中央部付近に近接して存在する。この地区には古墳中期～後期の大形集落遺跡である花山遺跡が存在しており、一つの集団領域として括ることが可能であろう。古墳分布はこの付近から上流へ向かうに従って稀薄となり、草敷地区の出台・下草敷谷古墳群をもって途絶えている。

最後に南西部海岸側、桜井・大久保・小浜・畑沢地区の丘陵に分布する古墳群について述べたい。旧波岡村域（桜井を除く）に属するこの地区は、小櫃川水系と小糸川水系の中間に位置し、古墳時代においては南側の須恵国造の領域に含まれていた可能性もある。

鳥田川右岸の丘陵地帯には、峯古墳群・西谷古墳群・九反目古墳群などが存在する。このうち、峯古墳群の突端部に位置した瑠璃光塚古墳は、海蝕砂岩使用の横穴式石室をもつ6世紀末葉期の古墳と判明している。乱石積系横穴式石室は、当地域では主として低地部の古墳に認められるものであるが、当古墳の場合、丘陵の高所に構築された例として今のところ稀少な存在であり、小糸川下流北岸地域（坂田・大和田地区）との関連が注目されるところとなっている。また九反目古墳群では、君津中央病院の建設に先立って数基の古墳が消滅したが、その内容は知られていない。

鳥田川左岸から海岸線側の丘陵地帯には、三角縁神獣鏡等の出土で著名な前期前方後円墳・手古塚古墳（消滅）をはじめ、鶴ヶ岡古墳群・俵ヶ谷古墳群・関田塚古墳群・中越古墳群などの存在が知られ、さらに丘陵南縁部の畑沢川に沿って、浜ヶ谷古墳・畑沢埴輪窯跡・二十歩横穴群・勝象谷横穴群・石澄横穴群が存在する。この地区では区画整理事業に伴って昭和60年以降いくつかの古墳の調査が行われ、また最近では国道127号線の拡張工事に伴い石澄横穴群が新発見、緊急調査された。このうち、手古塚古墳に最も近い丘陵上にある俵ヶ谷古墳群では、前期方墳6基・後期円墳1基・単独の箱形石棺1基が調査され、方墳中の1基（4号墳）からは捩文鏡と水晶勾玉等の玉類が出土している。該期の小規模方墳の副葬品としては傑出した内容を有しており、手古塚古墳被葬者との密接な関係が窺われる。一方、関田塚古墳群は丘陵斜面に構築された2基の終末期方墳で、1号墳は切石積横穴式石室、2号墳は組合せ式箱形石棺を内部施設とする。7世紀後葉～末葉の所産と見られ、2号墳の石室は請西地区から山伏作5号墳の石室と構築手法の共通するものであった。また箱形石棺については、手古塚古墳の占地した丘陵の東斜面にも石棺が存在したという伝聞があり、小浜地区の丘陵上に比較的多く存在していたようである。

畑沢川寄りの丘陵南縁部は、1970年代の初めに宅地造成が行われており、未調査のまま削平された古墳があった可能性もある。しかしこの地区の丘陵は総体に痩せており、むしろ斜面を利用して窯跡や横穴群の構築されていることに特色がある。内裏塚古墳に円筒・形象埴輪を供給したと見られる畑沢埴輪窯跡は窯1基が調査されているのみで、工房跡の存否を含めた周辺部の徹底的な調査がなされ得なかったことが惜しまれる。因みに当埴輪窯跡から最も至近距離にある浜ヶ谷古墳でも円筒埴輪の存在が認められているが、時期相は当窯跡の埴輪より新しく、6世紀代に下降するものと見られる。

横穴群の中では、畑沢団地造成の際に一部が破壊された勝象谷横穴群で家形天井をもつ横穴数基が確認され、人骨や土師器が出土している。また最近調査された石澄横穴群は、軟弱な砂層中に掘削されたものであったが、意外に遺存度は良く、隔壁（玄室前壁）の存在やアーチ型天井・逆梯形を基調とした平面形態等において矢那川流域の中尾・

西本谷横穴群との共通点が見出される。小櫃川下流・矢那川水系では、中尾・太田・請西・大久保の4地区において拠点的に横穴群の存在が知られ、それぞれの間に異なった特徴、または共通した特徴が認められる。これらの形態的な異同が時期的な変化を反映するものかどうか、また横穴群と高塚古墳の時間的な併行関係、造営集団の相違など今後着目すべき検討課題は多い。

3．小櫃川中流域

小櫃川中流域の古墳群については、現木更津市域（旧富来田町域）に属する北部の左岸と右岸、現君津市域（旧小櫃村・上総町域）に属する中南部の左岸と右岸に分けて概観してみたい。

北部左岸の下郡・田川地区では、丘陵上に数基ないし十数基単位で古墳群が分布しているが、小規模古墳が主体で前方後円墳は少ない。この地区では、送電線工事・山砂採取事業等に伴って比較的多くの古墳調査が実施されており、点的ながらもその様相の一端を窺い知ることができる。

戦後早い時期に調査された下郡古墳は、前方部の短い前方後円墳と報告されたが、後世の変形が著しい点から墳形にはやや問題が残る。環状鏡板付轡・鹿角装刀子等が出土し、6世紀後半代の築造と推定される。また『君津郡誌』にも所載される石神山陵古墳は小規模な前方後円墳と見られ、かつて墳丘上に石材が存在していたという伝えがある。前方後円墳としてはこの2基が知られるのみである。

鉄塔建設に伴う一連の調査古墳のうち、塚に再利用されていた下部出多古墳からは、現在房総風土記の丘資料館に展示されている須恵器大甕などが出土し、6世紀後半の築造と見られる。北谷古墳は木炭槨状の特殊な埋葬施設をもつ低墳丘方墳であり、終末期以降の所産と考えられる。一方、熊野谷・西ノ根谷古墳群では、TK208型式前後の古式須恵器を伴う5世紀中葉～後葉期の円墳（熊野台2号墳・西ノ根谷4号墳）が調査され、隣接する南谷古墳群でも周辺部の調査でTK216型式の須恵器が検出されている。また西ノ根谷5号墳からは、周溝に連接する礫槨状の埋葬施設が検出され、調査時の所見では4号墳に先行する時期の築造と判定されたが、周溝から出土した完形の須恵器長頸壺の帰属如何に若干の疑問が残されており、むしろ横穴式石室との関連性も考える必要があろう。

山砂採取に先立ってある程度面的な調査が行われた宮脇古墳群では、方墳から円墳への過度的形態を示す5世紀前半代の古墳と、7世紀代の須恵器を伴う低墳丘墳群が調査され、5世紀と7世紀における小規模群集系墓制の連続性に関する問題点を提起することとなった。なお、西ノ根谷・宮脇両地点からは弥生中後期の方形周溝墓、北谷古墳の隣接地（田川遺跡群第1・2地点）からは古墳前期の方形周溝墓が検出されており、これらを含めてこの地区における墓制の推移を理解する必要があろう。

中流域の北部右岸地区では、河岸低地部に立地する稲荷塚古墳・仲山田古墳の2円墳が円筒埴輪の存在が確認されている。これらは三箇・丹過遺跡群の確認調査で明らかにされたものであり、埴輪の特徴では稲荷塚古墳が5世紀末葉、仲山田古墳が6世紀前半の様相を示す。今のところ小櫃川流域では、これより上流には埴輪を持つ古墳の存在が確認されていない。一方、丘陵部の真里谷地区では調査古墳が皆無であるが、真里谷古墳群中に3基の前方後円墳が確認されており、注目すべき存在となっている。このうち2基は60～70m級の規模を持つが、いずれも地山整形によって墳丘を築成していると見られ、墳丘範囲を明瞭には把握し得ない。立地的には前半期の古墳と考えるのが妥当であろうが、君津郡域における丘陵上前方後円墳のこれまでの調査例を回顧すると、後期古墳が含まれる可能性も否定できない。

現君津市域に属する中南部は、古墳時代全期間を通じて独自の地域圏を形成していたとも考えられる古墳密度が高い地域であり、小櫃の3大古墳とも称すべき古式の大形前方後円墳も存在する。小櫃川中流域では、下流域と同様に川の右岸側に広く沖積地が開けており、左岸側は段丘状をなして丘陵地形が迫っている。そして古墳分布は右岸の側

において顕著であり、群集性が強い。

左岸の戸崎地区には脇原・峯・鶴舞・戸崎（上原・城山）古墳群などがあり、矢那川下流域の請西古墳群に匹敵するような古墳の一大密集地を形成する。占墳は低位段丘から丘陵上へかけて連綿と造営されており、開墾等によって失われたものも相当数あることを考慮するならば、本来の実数は現存総数をさらに大きく上回るものであったと考えられる。前方後円墳は現在、脇原古墳群中に１基、戸崎古墳群中に５基が確認されており、それぞれ30～50ｍ級の規模をもつ。また円墳の中では、戸崎古墳群北部・万福寺裏手に所在する40ｍ級の大形円墳などが注目される。このうち基数の多い戸崎古墳群については従来の遺跡分布図と古墳番号を照合することが困難であったため、今回の分布調査に基づいて独自の仮番号を付した。

戸崎地区の古墳群については、早く東京帝国大学の坪井正五郎・柴田常恵らが注目し、踏査を行うとともに明治42年12月に幾つかの古墳の発掘を行っている。その発掘報告は残念ながら公にされなかったが、『君津郡誌』によれば、戸崎野持の前方後円墳から直刀・馬骨が、戸崎塚の越の石槨を持つ古墳から須恵器・鉄鏃・歯が、戸崎脇原の円墳２基から直刀・須恵器が、戸崎城山の前方後円墳から柄頭が、同円墳から直刀が、戸崎中山の円墳から剣・鉄鏃の出土したことが記されている。これらの発掘古墳を現在では個々に特定することが難しいが、例えば戸崎（35号）前方後円墳のように十字トレンチ状の発掘形跡のある古墳があり、その一つに該当するものと考えられる。このほか地元住民により発掘された古墳も幾つかあったと見られ、地元酒造家・宮崎氏宅には亀甲文を打出した金銅板・刀装具・石製模造品類など多くの遺物が保管されているという。近年本格的に発掘調査が行われた古墳はないが、戸崎古墳群中に位置する戸崎城山遺跡の調査地内で、削平された前方後円墳の周溝跡（戸崎(30号)墳）が検出されている。この古墳は、古墳時代中期の住居跡群の上に築造されており、周溝の平面形態から見ても後期古墳（６世紀代）と考えられる。このほかの前方後円墳も、墳丘形態から見てその多くが後期のものと推定され、戸崎（31号）墳・(35号）墳にように括れ部の細い特徴的な形態を示すものもある。

戸崎よりやや南下した岩出地区の丘陵には、中流域最大級の前方後円墳・飯籠塚古墳（岩出４号墳）が存在する。丘陵縁辺部の傾斜面に前方部を北に向けて築造されており、測量調査の結果、墳丘全長100～105ｍ・後円部径50ｍ・前方部幅35ｍという計測値を得ている。後円部と前方部の比高差は約７ｍを測り、前方部が狭長で開きの少ない柄鏡型の形態から、前期古墳であることはほぼ疑いないと見られる。また同一丘陵の上部斜面には低墳丘の古墳３基が確認されており、これらは前期型の方墳である可能性が強い。

その南の寺沢地区には、標高100ｍを越える出戸丘陵の尾根上に低墳丘の古墳が３基、また小櫃川に接した低位丘陵上には総数60基以上を数える大群集墳・寺沢古墳群が存在する。寺沢古墳群の中央には大規模な養鶏場が建てられているが、かつてはその敷地内にも多くの古墳が存在していたと見られる。寺沢古墳群中には前方後円墳は確認されておらず、大小の円墳および低墳丘方墳から構成される。円墳中最大のものは径35ｍを測る。発掘調査は、寺沢古墳群西端の一支群というべき国光古墳群中の円墳２基について実施されているのみであり、いずれも６世紀後半代の築造と判明している。

さらに南の久留里周辺地区では、小櫃川がＵ字形を描いて蛇行しており、川筋の細長い丘陵上に日陰山・上野台・御陣屋古墳群、段丘上には松葉古墳・松葉東古墳が存在している。前方後円墳は日陰山古墳群中に１基確認されているが、遺存状態は不良であり、やはり括れ部の細いことを特徴とするものである。また上野台古墳群には帆立貝形の可能性をもつ25～30ｍの大形円墳がある。これ以外の古墳は概して小規模であるが、上野台・御陣屋の両古墳群に方墳の多いことが注意されよう。但しその一部には円墳が後世の改変を受けたと見られるようなものもある。またこの地区には日陰山横穴群・向郷横穴といった横穴墓の存在も認められ、とくに日陰山横穴群では、２群32基にのぼる多数の横穴が確認されている。高塚古墳については、今のところこれより上流には確実なものが知られていないが、塚

と称されるものは幾つか点在しており、今後新たに古墳が確認される可能性もあろう。しかし少なくとも群集形態をなす古墳は見当たらないようである。なお横穴墓に関しては、久留里からさらに４km程上流にかけ離れた広岡地区において、戸穴横穴群（３基）の存在が知られている。

一方、記述は前後するが、中流域中南部の右岸側には、三田浅間神社古墳・萩野台古墳群・長谷川古墳群・館之内白山神社古墳群・上新田古墳群といった古墳群が存在している。これらの古墳群は、久留里線小櫃・俵田駅間東部の丘陵を中心に分布しており、その北側の下郡・小櫃間には、丘陵が狭隘であるためか古墳の空白地帯が存在し、また南側の俵田・久留里間は土砂採取によって丘陵の一部が失われている関係もあってか、古墳の存在を確認することができない。

三田浅間神社古墳は、丘陵頂部の高所に単独で位置し、径約40ｍを測る中流域でも屈指の大形円墳である。地山整形によって墳丘を築成していると見られ、墳頂面は削られて神社の廃屋が建っている。萩野台・長谷川両古墳群は、丘陵細尾根上に造営された円墳群であり、特に規模の大きなものは見られない。

館之内古墳群中の白山神社古墳は、舌状に張り出した丘陵先端部に前方部を西に向けて築造された前方後円墳で、略測による墳丘長76ｍを測る。前方部が狭長で後円部との比高差が大きい古式の形態であり、地形に制約された盾形周溝が廻っている。後円部頂に盗掘坑があり、内部施設の残存が危ぶまれるものの墳形は明瞭で全体的な遺存度は良好である。占地状況は飯籠塚古墳との共通性が強いが、飯籠塚古墳に比べて前方部がやや開く形態を示すようである。この古墳は別名・小櫃山古墳とも言われ、大友皇子（弘文天皇）の陵墓とする伝承とも絡んで古くから注目されている。後円部後方の陪塚的位置にある一円墳が明治期に八木奘三郎らによって発掘され、海獣葡萄鏡・直刀・鉄鏃などの遺物が出土しているが、白山神社古墳との時期的な隔りは大きい。この円墳を含めて、白山神社古墳の周囲に４基、また背後の丘陵上には12基の円墳が確認されている。

上新田古墳群に所属する箕輪浅間神社古墳も、前期型前方後円墳の可能性があり、飯籠塚古墳・白山神社古墳とともに小櫃３大古墳の一つに数えられる。占地する場所の標高は３基のうちで最も高く、南側に突出した丘陵尾根の先端部を利用して築造されている。墳頂部が掘り窪められて浅間神社の社殿が建ち、南側へ下る参道両側の土手状の高まりが前方部と考えられる。前記の２古墳とは異なり、墳丘の大半を地山整形によって築成しているためか、前方部側面の区画などが明瞭でなく、現状では前方後円墳と明確に断定することはできない。略測による墳丘長は100～110ｍを測り、前方後円墳とすれば飯籠塚古墳と並ぶ小櫃川中流域最大クラスの古墳となる。なお当古墳の存在する丘陵の上部は比較的広い平坦面となっており、20基以上の円墳が確認される。この中には造出しを有すると見られるやや大形のものが２基認められている。また同一丘陵上には、石祠を伴う小規模な塚が10基ほど存在しているが、これらも本来は古墳であった可能性がある。なお丘陵上北部には篠竹等が密生して立ち入り不能な区域もあり、古墳数は少なからず増加することが考えられる。

４．小糸川下流域

小糸川は総流長56kmで、小櫃川よりも流域面積は狭く、河口部の三角洲も一回り小さい。小糸川下流域については、現富津市に属する河口部南岸の沖積地、現君津市に属する下流北岸の丘陵・台地・段丘上、下流南岸の台地・丘陵上の３区域に分けて概述してみたい。なお本稿においては、中流域との境界は扇状地が大きく開ける三直・六手付近に設定した。

河口部南岸の沖積地には、内裏塚古墳・九条塚古墳・稲荷山古墳・三条塚占墳など100ｍ以上の大形前方後円墳を始め、大小の前方後円墳・円墳・方墳合わせて30基以上が確認される内裏塚古墳群が存在し、「須恵国造」とその一族の墓域に比定されている。このうち大半の古墳は６世紀後半以降に築造されたものと考えられ、横穴式石室を内部

施設としている。この古墳群については、千葉県教育委員会刊行の測量調査報告書を始めとして、既に多くの文献で詳細が論じられているので、ここでの詳述は避け、最近の調査成果を中心に2、3点を付け加えて置くにとどめたい。

この地区においては、戦後急速に無計画な宅地化が進んだ結果、狭小な街路が入り組み、排水路等も整備されないままの状態となっている。近年古墳群の主要部にあたる二間塚地区を中心とした土地区画整理事業が計画され、それに関連した古墳の範囲確認調査、および宅地造成等に先立つ古墳調査も相次いで実施されている。最近の調査では、古墳群南端部において、L字形プランの横穴式石室をもつ下谷古墳が新たに確認され、武平塚古墳から琴塚古墳へかけての古墳分布の連続性が明らかとなった。未確認の古墳はこのほかにもなお多くあるものと思われ、市街化が進む前の航空写真などを手掛かりとしながら、追跡調査を随時行ってゆくことが必要であろう。また保存整備を前提とした三条塚古墳の調査では、埴輪の存在しないことが改めて確認されたほか、横穴式石室内部の遺存状態が意外に良いことも判明し、一部発掘した石室最前部から銅鏡・馬具・須恵器などが出土している。この調査により、盟主級前方後円墳の編年序列は、内裏塚→九条塚→稲荷山→三条塚となる蓋然性がきわめて高くなった。このほか、最近内部施設の再調査が実施された古墳として、中形前方後円墳の西原古墳と終末期方墳の亀塚古墳がある。

続いて、現在君津市街となっている小糸川下流域北岸は、君津郡内でもとくに湮滅古墳の数が多い区域である。この区域では、昭和30年代後半から大手企業の社宅造成が始まり、引き続き40年代後半までの間に大規模な土地区画整理事業が実施されたため、充分な分布調査がなされぬままに多くの古墳が消滅しており、本来の分布状況を復原することが困難となっている。造成と並行して幾つかの古墳調査が実施されているが、各報告書あるいは『君津町誌』掲載の分布図の間で、古墳の位置や名称に関する異同・混乱も少なくない。現存するものは、県指定の大形古墳と市街地外縁部の丘陵に残る一部の古墳に限られる。

海岸線に近い西側の大和田・坂田地区の丘陵では、横穴式石室をもつ権現塚古墳・虫神古墳、箱形石棺をもつ東仲田古墳、花里山横穴群などが調査されている。このうち、権現塚古墳の石室はT字形、虫神古墳の石室はL字形のプランを呈し、両者とも自然石乱石積で、対岸に位置する内裏塚古墳群内の一連の横穴式石室との関連が窺われる。横穴式石室墳でありながら丘陵上・丘陵斜面に占地するという対岸との相違点と合わせ、被葬者の性格が問題とされよう。また東仲田古墳の組合せ式箱形石棺は、距離的にも近い木更津市南西部の小浜地区で調査されている石棺と近似しており、相互の関係が窺える。横穴群の存在を含め、小櫃川水系と小糸川水系を結ぶ海岸側での後期における墓制の共通性が指摘される。

君津駅東方の久保・北子安地区では、水道山古墳・納戸山古墳・納戸山寺山横穴群・北子安堀込古墳・東山古墳群などが調査されているが、径30mの大形円墳と記録される天神山古墳など、未調査のまま消滅している古墳も多い。上記のうち水道山古墳（久保二子塚古墳）は丘陵頂に立地する小規模な前方後円墳であったが、内部施設は遺存しなかったと言われる。納戸山周辺の古墳・横穴については『君津町誌』に簡略な記載があるのみで、報告がなされていないため、位置関係を含めて不明な点が多い。なお、この地区の東部の丘陵上に残存する穴谷古墳群中に前方後円墳1基が知られるが、墳形には疑点がある。

段丘状の緩斜面をなす南子安地区には、多数の円墳が群在していたと見られ、区画整理以前の開墾等によって失われた古墳も多かったようである。調査の行われた古墳として、子安坂古墳・馬門古墳・下迫古墳・南子安古墳ほか数基がある。このうち、馬門古墳からは円筒・家形埴輪、鉄剣・鉄斧・石墳模造品などが出土しており、群中でも古い5世紀後半代の築造と考えられる。但し埴輪については良好な資料に欠ける。この段丘の南縁部には、40m級前方後円墳の花輪堂古墳が存在するが、現在は後円部を残すのみとなっている。また河岸低地部には、鉄剣が出土したとされる杢師古墳がある。

東側の八重原台地周辺（外箕輪・内箕輪地区）は、下流域北岸の中でも注目すべき古墳が集中する区域である。舌

状に張り出した台地縁辺部に立地する道祖神裏古墳は、君津郡域で最大の規模をもつ墳丘長56mの前方後円墳であり、確認調査で周溝部から五領式土器が検出されている。その南600mの沖積地には、盾形周溝を有する墳丘長86mの大形前方後円墳・八幡神社古墳が存在する。墳丘は中段幅が広い二段築成で、後円部径と前方部幅が拮抗しており、周溝も開きの少ないU字形を呈するという外観から、中期古墳の可能性が強いと見られる。近年後円部側周溝の一部が発掘されたが、埴輪を含めて時期決定の手掛かりとなるような遺物は何ら検出されなかった。今のところ、この2基の古墳が内裏塚古墳群形成前段階における小糸川水系の最有力首長墓として位置づけられる可能性が強い。このほか道祖神裏古墳と同一台地上には、短甲2領が出土した径37mの大形円墳・八重原1号墳、中心主体が箱形石棺であったと見られる墳丘長46mの前方後円墳・星谷上古墳を始めとして、宇曽貝古墳群・下新田古墳群・野馬木戸古墳群などが存在していたが、現存するのは道祖神裏古墳の至近にある上ノ山古墳（低墳丘方墳か）のみで、他はすべて消滅している。また道祖神裏古墳と八幡神社古墳の中間の沖積地にやや大形の円墳（法木作2号墳）が現存しており、その西側にはかつて大形の方墳（法木作1号墳）と考えられる墳丘も確認されていたが、すでに削平されている。以上のように、前・中期に首長級の大形古墳が築かれた当地区では、その後も一定の優位性を保つ古墳が継続して造営されていたことが窺われる。

次に下流域南岸へと目を転じてみたい。この地域では河岸沖積地に面して平坦な台地が広がっており、三船台古墳群・上野台古墳群・元秋葉台古墳群といった古墳群が分布している。このうち中央の上野台古墳群では、台地縁辺部に沿って2基の前方後円墳（65m、43m）が並んでおり、良好な遺存状態を保つ。また最も古墳の分布密度が高い元秋葉台古墳中には、墳丘長45mを測る帆立貝形古墳（造出し付円墳）1基が存在するほか、隣接して30m級の大形円墳2基が確認される。さらに支谷を隔てて南側の台地にも30m級円墳・中荘台古墳がある。これらの前方後円墳・大形円墳がこの地区における首長の系列をなすものであろう。なお元秋葉台の東斜面には横穴群の存在も認められている。この地区では未だ発掘調査はほとんど行われていないが、元秋葉台古墳群中の1円墳（32号墳）が唯一トレンチ調査され、墳頂から5世紀後葉の須恵器・土師器が出土している。また荘台の台地上には、石製模造品類が出土して祭祀遺跡の可能性が指摘されている下荘台遺跡がある。

一方、これらの台地の背後にある三舟山の丘陵上にも、上荘台古墳群・小香古墳群・水ケ谷北、南古墳など幾つかの円墳群の存在が知られているが、調査は全く行われていない。

5．小糸川中流域

小糸川中流域は、小糸川の流れが北流から西流へと大きく変換する糠田・根本付近を境に大きく2分することができ、この屈曲点以南は右岸側にやや広く平坦地が開けているが、屈曲点以西では左岸側の沖積地幅が広くなる。古墳分布は、屈曲点以西では左岸（南岸）の方において顕著であり、丘陵のかなり奥まった地区にまで古墳・横穴の分布が確認されている。これに対して右岸（北岸）側における古墳分布は、これまでに確認されている限りきわめて散在的である。また屈曲点以南の地域では、両岸に拠点的にまとまった数の古墳群が分布しているが、基数の上ではむしろ右岸（東岸）側に顕著な分布が認められる。

西部北岸の練木・大鷲地区では、小規模ながら群を形成するものとして大山越古墳群と近年発見された籾山古墳群とがあり、籾山古墳群中に70m級前方後円墳の可能性をもつ墳丘が1基確認されている。また大山越古墳群の南端には径40m級で二段築成と見られる大形円墳がある。ともに北岸では注目される存在と言えよう。このほか過去の分布調査で円墳として登載されているもの（西郡・滝ノ台・いご塚など）が孤立点在的に認められているが、自然丘と判別し難いようなものが多い。またこの地区には、奥谷・桶田谷・池ノ谷・台といった横穴が散在するが、いずれも単基のみの確認となっている。この地区はまだ分布調査が網羅的に行われていないため、今後新たに古墳・横穴の確認

される可能性はあるが、分布密度そのものが稀薄であるという傾向は変わらないものと思われる。

次に西部南岸の状況について西側から順に概観していきたい。国道127号線に面した浜子・小山野地区は丘陵が狭隘であり、横穴墓の分布密度がとくに高い。まとまった古墳群としては、河岸沖積地に面した尾根上に分布する中谷古墳群があり、その中程に40ｍ級の大形円墳（４号墳）が１基確認されている。その東斜面に中谷横穴群があり、さらに南には胡摩伝横穴群・堰谷横穴・小山野横穴群が存在している。このうち５基が確認される胡摩伝横穴群中には、家型宝形造天井をもつもの、コ字形棺台で船の線刻壁画を有するものがそれぞれ認められる。また小山横穴群は昭和初期に小熊吉蔵が踏査して克明な記録を残しており、総数36基にのぼる横穴が知られていたが、その後の土砂崩れ等により、現在視認できるものは南側支群の数基に限られる。コ字・Ｌ字形に配された棺台・棺床を有するものが多く存在するほか、家型天井をもつものや、肋骨状に梁を陽刻した荘厳な造りの横穴もある。

小山野よりさらに南東に奥まった大山野地区にも幾つかの古墳・横穴群が確認される。まとまった古墳群として宮下西谷古墳群・大山野古墳群があり、前者においてやや大形の円墳が確認されている。横穴群はこれらよりも南に隔って位置しており、放泉地横穴群・折越横穴群などが知られる。この地区の横穴群についても小熊吉蔵による踏査記録があり、放泉地26基・折越谷５基の横穴が記されるが、最近の踏査では放泉地の５基が確認し得るのみである。隔壁・棺床をもつもの、天井部の造作など小山野地区の横穴との共通点が多く、人物等の線刻壁画が描かれた横穴も存在する。小山野・大山野地区の横穴群に見られる特色は、長生郡長柄町周辺など東上総地域との関係が強く窺われるものである。

再び北側の川沿いに戻って、六手地区の様相を概観したい。この地区では前方後円墳・狐山古墳を中心として、川代古墳群・常代神社古墳・谷田横穴群・奥中谷古墳群・奥中谷横穴群・神裏塚古墳・熊野前古墳・六手西谷古墳群・鹿島台古墳群などが分布しており、一つのまとまりとして括ることができる。狐山古墳は、丘陵端を整形した墳丘長57ｍの狭小な前方後円墳で、近年行われた確認調査により円筒・形象埴輪が検出され、その年代観によって６世紀中葉前後の築造と考えられる。小糸川中流域では傑出した古墳の一つとして位置づけられよう。円筒埴輪は川代古墳群中の30ｍ級円墳（４号墳）からも採集されており、その特徴は狐山古墳よりも古相を示す。30ｍ級円墳は丘陵上に存する鹿島台・奥中谷古墳群中にも各１基認められている。神裏塚・熊野前古墳は河岸段丘上に立地する古墳でともに規模は小さい。常代神社古墳は神社によって削られた墳丘状の高まりであり、自然丘の可能性もあるが、古墳とすればかなり大きな規模のものとなる。横穴では、奥中谷横穴群中に隔壁をもつものが認められている。

その東側の泉・白駒・中島地区には、白山裏古墳・反田古墳群・熊野裏古墳群・君ケ作古墳群、横穴・白駒古墳群・竹際古墳群・長昭寺古墳群・武勇谷古墳群、横穴・上武勇古墳群・万崎古墳群・糠田横穴群などが知られ、小糸川中流域における古墳分布の中心をなす。白山裏古墳は河岸沖積地に面した独立丘陵上に位置し、地山整形による墳丘長35ｍ前後の帆立貝形前方後円墳と目されるが、裾部が崩落しており、墳丘範囲は明瞭ではない。その南西の丘陵細尾根上にある反田古墳群中には円墳１基と方墳２基の存在が確認され、さらに南に奥まった丘陵上には25～30ｍ級の円墳が並ぶ君ケ作古墳群、前方後円墳１基を含み発掘調査の行われた白駒古墳群の存在が知られている。白駒１号墳は地山整形といえども墳形の整った墳丘長45ｍの前方後円墳であり、後円部高と前方部高がほぼ等しいながら、前方部幅が狭く括れ部が細いという特徴的な形態を示す。円丘部に二等辺三角形の前方部が連結したようなこのタイプの墳丘形態は、君津郡域内各地の同規模後期前方後円墳にしばしば認められるものである。埋葬施設の構造は充分に把握されなかったが、遺物の出土状況から複数の埋葬主体があったと考えられ、副葬品目は直刀・刀子・鉄鏃に限られる。鉄鏃の型式等からは６世紀の中でもやや古い段階に位置づけることが可能と思われ、合わせて調査されたⅡ・Ⅲ号円墳もこれに近い時期の築造と推定される。

丘陵尾根に総数16基が分布する竹際古墳群では、従来の分布調査で東側に２基の前方後円墳が登載されていたが、

いずれも前方後円墳とは見做し難いものであり、これらとは別に西側浅間神社付近において新たに１基の50ｍ級前方後円墳（15号墳）が確認されている。円墳は25ｍ級のものが１基存在するほかは概して小規模である。長昭寺・武勇谷・上武勇・万崎古墳群はいずれも円墳のみから構成され、上武勇古墳群中に30～35ｍ級の大形円墳が１基、万崎古墳群中には25ｍ級の方墳の可能性をもつ墳丘が存在する。首塚古墳は河岸段丘上に立地する円墳で、墓地に利用されており、塚の可能性もある。

次の丘陵の奥部の尾車・草牛地区に分布する古墳について見ていきたい。尾車地区には丹後塚・天皇塚の２基の前方後円墳と南丹後塚・北天王塚・羽黒下・皿引といった円墳の存在が認められる。丹後塚古墳は丘陵の北側突端部に占地する墳丘長40ｍ前後の前方後円墳で、墳形はやや変形されているが、後円部と前方部の高さが拮抗した括れ部幅の狭い墳形を呈する。最近この古墳の周溝の一部が確認調査されている。天皇塚古墳は丘陵頂の狭い平坦面に占地する墳丘長約50ｍの前方後円墳で、後円部径と前方部幅がほぼ同程度であり、後円部の方が高い。小糸川中流域の前方後円墳の中では良好な遺存度を保つものである。一方、草牛地区に孤立して存在する御陵塚古墳は、墳丘長約50ｍの前方後円墳とされるが、形状は崩れており、大形円墳ないしは自然地形の可能性もある。測量調査による墳形確認が必要であろう。

最後に、上流に近い小糸川屈曲部以南の古墳群について概観したい。西岸の駒久保古墳群中には、最近墳丘測量の行われた前方後円墳・駒久保６号墳が存在する。北側へ張り出した丘陵突端に前方部を北へ向けて占地し、墳丘長42ｍ・後方部長24ｍ・前方部幅12ｍという計測値が得られている。後方部頂の平坦面が広く、前方部は低平で開きが小さい。立地状況・形態ともに下流域の道祖神裏古墳に近似しており、前方部前端が山道によって一部削られる以外は概ね良好な遺存状態を保つ。またこの古墳の西側に隣接して小規模な方墳１基が確認されていることも注意すべきである。前方後方墳は、当古墳を含め君津郡域に現在６基（山王辺田２号墳・向台８号墳・同９号墳・鳥越古墳・道祖神裏古墳）が知られるが、鳥越古墳以外はいずれも近接して方墳（またはその可能性が高い墳丘）が認められており、他地域における傾向とも軌を一にする。なお駒久保古墳群中には、このほかに現存径28ｍで墳丘高の高い大形円墳・８号墳・墳丘長50ｍ前後の前方後円墳と見られる10号墳（新確認）等があり、古墳群の形成過程が注目される。

このほか南部西岸には福岡古墳群、また東岸には高塚古墳群・金越古墳群・大井戸八木古墳群・金ケ谷古墳群・金岡古墳群・大野台古墳群といった古墳群が存在し、比較的基数の多いものが目立つが、前方後円墳を含むものは見当たらない。30ｍクラスの大形円墳は福岡・金岡・高塚古墳群中に各１基認められている。また大井戸古墳群では、近年実施された確認調査で、低墳丘墳の多いことが明らかとなり、方墳の割合が大きいことが予測される。横穴では、西岸に総数８基が確認される市宿横穴群が知られ、周囲を土取りによって削られた島状の丘陵斜面がかろうじて残された状態となっている。

これらの古墳群よりさらに上流の旧清和村域にも幾つかの塚が点在しており、その中には『君津郡誌』や『清和村誌』に古墳として紹介されているものもある。しかし近年の分布調査でこれらのほとんどは、規模や形状等から中近世の塚と判定されており、今回も市・県の分布地図に従ってこれらを古墳として扱わなかった。ただ将来この地区にも新たに古墳が確認される可能性は否定し得ないであろう。なお上流の植畑地区に「ひょうたん塚」と称される大形前方後円墳が一部の遺跡地図に登載されているが、現地踏査の結果、自然地形であることが確認されている。

６．小糸川以南諸水系

小糸川より南には、岩瀬川・小久保川・染川・湊川・白狐川・金谷川といった中小の河川が、房総丘陵から浦賀水道へと注いでである。これらの流域は現富津市のうち旧大佐和町・天羽町に属する地域である。この地域には横穴墓が圧倒的に多く、高塚古墳は海岸寄りを中心に散在的に認められるに過ぎない。上記の河川の中では湊川が最も流域面

積が広く、横穴とともに高塚古墳もやや多く分布している。以下、小糸川以南地域については、高塚古墳と横穴墓に分けて様相を概観してみたい。

先に述べた内裏塚古墳群の南には、神明山と呼ばれる独立状の丘陵が西側へ張り出しており、富津岬の付け根を南北に界している。この神明山のふもとの低地に円筒埴輪を有するかす塚古墳があり、本来小規模な前方後円墳であったとされているが、現状では崩壊が著しい。また神明山の丘陵突端にも前方後円墳かと見られる墳丘が確認されていたが、発掘調査の結果２基の円墳と判明し、副葬品は何ら出土しなかった。これより南東へ下って岩瀬川流域の絹地区には、やはり前方後円墳であったとされる絹稲荷古墳が存在する。現存する部分は後円部と考えられ、墳頂部に神社の社殿が建つ。墳丘上には海蝕痕のある砂岩が散在していることから、内部施設は横穴式石室である可能性が強い。

岩瀬川と小久保川が接近して河口部に至る大貫地区には、墳丘長86ｍの前方後円墳・弁天山古墳が存在する。丘陵端の高まりを利用して築成された古墳と考えられるが、盾形周溝を備え、基本的に低地の大形前方後円墳と同様の整然とした企画を有する。昭和初期に国史跡に指定されながら墳丘の崩壊が著しい状態であったが、昭和54年までに復原整備が完了し、往時の威容を甦らせている。円筒埴輪列を有し、天井石に縄掛突起を有する特殊な竪穴式石室から、鉄留甲冑片・鉄剣・鉄鏃・鎌等が回収されており、埴輪の特徴と合わせて５世紀末葉前後の築造と推定されている。孤立した存在であり、内裏塚古墳と九条塚古墳の年代的空隙を埋める首長墓として、「須恵国」の５世紀史に多くの問題を投げかける古墳となっている。弁天山古墳の付近には、小久保川を隔てた低地に堀込古墳という現状方形の墳丘らしきものが確認されているが、これは自然丘の残骸である可能性が強い。また小久保川の河口に近い丘陵上には、向原古墳群という名称で調査された数基のマウンドであるが、遺物は全く検出されず、古墳でない疑いも濃い。これらは横穴群の上部の尾根上に存在しており、横穴に付属したマウンドとの見方もある。同様の横穴上マウンド群は、神明山南東部の丘陵に存在する東風谷・内田・池田横穴群の上部の尾根にも認められており、その実態の解明に関心が持たれる。このほか小久保川上流域に下岩入大塚山古墳という円墳が単独で確認され、古墳的な外観を示しているが、周辺に全く古墳が見当たらない現状からは、新しい時期の塚である可能性も大きいと言わざるを得ない。

さらに南に下って、染川（八染川）下流域の佐貫平野には、数基の円墳の群在が確認されている。この内の１基である一本松古墳が調査され、直刀が出土したというが、詳細は明らかにされていない。塚畑古墳群と称される円墳群の多くは、圃場整備に伴って未調査のまま湮滅しているが、神社となっている御陵塚古墳がかろうじて現存する。墳丘を挟って敷設された参道の脇に砂岩礫が積まれており、横穴式石室を有していた可能性が強いと見られる。なお染川の上流域にも大坊古墳と呼ばれる墳丘が単独で確認されているが、古墳としての確証に欠けるものである。

湊川流域では、北岸部の丘陵を中心に比較的多くの古墳が確認されている。下流域には周溝調査の実施された富士見台２号墳があり、５世紀末葉に遡る円筒埴輪が出土している。同一丘陵の南突端部では、岩井古墳の存在が知られていたが、最近の確認調査で、認知されていた古墳とは別に25ｍ規模のやや大形の円墳周溝跡の存在が判明した。また大満横穴群の上部尾根には低墳丘の古墳数基が確認されている。一方下流域低地部の水田中には、町田古墳・租宮原古墳・上北原古墳・塚田古墳があり、このうち、町田古墳は裾部に石材が露呈することから、石室の存在する可能性がある。中流に近い更和地区には、土取りによって削平された際に円筒埴輪が出上した高山古墳群の存在が知られる。このほか中流域・桜井地区の丘陵上には、牛鳴瀬古墳群・児ヶ墓古墳群があり、児ヶ墓古墳群中に30ｍ級大形円墳１基が認められる。

白狐川下流の竹岡地区には、仲宿・松原の２古墳が知られていたが、仲宿古墳はすでに消滅し、松原古墳も墳丘上に神社が建って、基底部を残すのみとなっている。海蝕痕をもつ砂岩材が社殿前に幾つか置かれていることから、横穴式石室を内部施設としていた可能性が強いと見られる。また中流には萩ノ作古墳という円墳が認められていたが、現存しない。さらに白狐川から南西に隔った丘陵奥地にも朱塚古墳という円墳が確認されているが、古墳かどうかは

定かでない。金谷川流域には高塚古墳は確認されていない。

以上、小糸川以南諸水系における高塚古墳の様相については未だ解明されていない部分が多い。弁天山古墳は例外的な存在としても、富士見台２号墳の調査によって少なくとも５世紀後半代には小規模古墳の築造がなされていたことは明らかであり、その後横穴墓の造営が主体となる趨勢の中で、各河川の河口低地部には横穴式石室をもつ古墳も幾つか築造されていたようである。平地の面積が狭い関係からか、耕作や宅地化に伴って稀少な高塚古墳の多くがすでに削平・半壊の憂き目に遭っていることが惜しまれる。

続いて当地域の主体を占める横穴群の様相について概観してみたい。神明山南東の丘陵斜面には、７支群73基確認の大規模横穴群である内田（鹿島）横穴群を中心として、池田・岩崎・下平治・東風谷横穴群があり、谷を隔てて東側の丘陵には表・障子ヶ谷横穴群がある。内田・池田横穴群については、過去に一部の横穴の実測調査が行われ、内田横穴群内で線刻壁画および「田」の線刻文字などが確認されているが、詳細な調査は実施されておらず、基数についてもさらに増加する可能性がある。線刻壁画は表・障子ヶ谷横穴群でも確認されている。

岩瀬川・小久保川下流域には数基単位からなる多数の横穴群が密集しているが、このうち向原・山岸横穴群の発掘調査が行われている。両横穴群では無棺台・無棺台タイプの横穴が主体をなし、隔壁を有するものも一部認められる。玄室に貝殻を敷いたものが見られることは、横穴式石室・横穴を問わず君津郡域における普遍的な特色といえる。また岩瀬川中流域には県史跡となっている絹根方横穴群があり、群中の横穴のすべてが隔壁・無棺床タイプによって占められる。１号横穴に「大同元年」・「許世」、10号横穴に「木」の線刻文字が見られるほか、線刻壁画を有するものも認められている。絹根方よりさらに上流では、開口横穴の多い公家町横穴群において、やはり隔壁・無棺床の横穴が主体を占めることが確認されている。一方、小久保川中流域にある岩井作横穴群では、近年の発掘調査の結果、無棺台・無棺床タイプが主であることが判明し、３号横穴において「倭文」の線刻文字が発見された。棺床をもたない代わりに区画溝や敷石を有する横穴の見られることが本横穴群の特色となっている。総体的に岩瀬川・小久保川の２河川流域では、隔壁を持つものを含めて、棺床を有さない横穴が多いという傾向を認め得る。

染川流域は、上の２水系に比べれば確認される横穴の総数はやや少なく、亀田Ｃ横穴群のように消滅してしまったものもある。下流の亀田Ａ１号横穴では、人物・馬・船などを描いたと見られる多彩な線刻壁画が見つかっている。中流域南岸の神宿横穴群では発掘調査が実施され、８基中全てのものに棺台・棺床が認められている。埋没していたためか内部の遺存状態が良く、ほとんどの横穴から人骨・貝殻とともに副葬品が検出され、中でも鋸の出土等が注目される。出土土器の様相からは、７世紀初頭～前葉頃の比較的短期間内に相次いで造営されたものと考えられる。未調査開口横穴の中では、中流域北岸の清水横穴群において有棺床タイプと隔壁・無棺床タイプの両者が確認されるほか、下流域の古船横穴群では隔壁・無棺床タイプがやや多く見られるようであり、形態頻度の上では、湊川流域と岩瀬・小久保川流域との中間的様相を示しているとも言えるようである。

湊川流域では、北岸を中心に多数の横穴分布が認められる。大満横穴群・西山横穴群の発掘調査が行われているほか、牛房茂行氏らによる開口横穴の綿密な実測調査の成果が公にされており、その様相の概略を知り得る。ほぼ群全体が発掘された西山横穴群では、調査横穴30基のうち６割が棺台・棺床を持ち、２割が無棺台・無棺床であった。大満横穴群でも、発掘・実測横穴50基余りのうち半数が有棺台・棺床のものによって占められ、無棺台・無棺床は２割未満、隔壁・無棺床は約３割で、棺床（刳抜式）を付設したものが圧倒的に多く認められる。また隔壁を持つものも、岩瀬川流域の絹根方横穴群などと比較すれば隔壁高が低く、隔壁・有棺床のものも少数認められるといった特徴が指摘される。有棺床の横穴が多いという傾向は、実測調査の行われた入山・崩下横穴群などでも普遍的に見られる。線刻壁画については、大満横穴群および水神Ａ横穴群中に帆船を描いたものが認められている。

白狐川・金谷川流域および両河川中間の海岸線にも幾つかの横穴群が分布しているが、遺存状態は総じて悪い。こ

のうち比較的多くの横穴が開口する白狐川中流域の仲村横穴群では、有棺床の横穴が5基、無棺床のものが2基確認されている。この地域の海岸線には古墳時代の遺物を伴う海蝕洞穴もある。

以上のように、小糸川以南諸水系における横穴群には、それぞれの水系で少しずつ異なった形態的特色・傾向性が認められるようであり、今後時期的な形態変化と地域性な形態差の両軸から諸地域の横穴の分類・編年作業を構成してゆく必要があろう。

7．おわりに

君津郡域における古墳・横穴分布の概要について、地図上を彷徨しながら至って羅列的に長々と語ってきた。膨大かつ多様な内容を持つ当地域の古墳文化をより簡潔に言い尽そうとすれば、どうしても恣意的・選択的な資料の解釈論に陥り、また筆者のような浅学の良くまとめきれるところでもないので、詳細分布調査という本書の主旨に添ってガイドブック的役割に徹すべく、あえてこのような長文を提出する結果となった次第である。未踏の丘陵地帯が多い当郡内では、未だ分布調査が徹底されているとは言い難く、今後本報告書を基礎として漸次補足・修正の加えられてゆくことが望まれる。なお古墳等の名称は基本的に従来の分布地図所載のものを踏襲したが、字名の誤記や不適切なものについては可能な範囲で訂正した。

本稿の執筆過程では、君津郡市文化財センター職員諸氏ならびに松本勝氏より多くの助言をいただき、また図表作成にあたっては大崎紀子氏の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

第10節　夷隅地区

戸倉茂行

夷隅地区は、房総半島の南半部を占める房総丘陵の北東端部に位置する。この房総丘陵は、南から鋸山－清澄山丘陵、夷隅丘陵、大多喜丘陵に大別でき、勝浦市周辺では海によって侵蝕された海蝕崖が形成されている。この夷隅地区には、房総半島における大河川の一つである全長約65kmの夷隅川が房総丘陵の谷間を流れ、大多喜町、夷隅町、大原町に河岸段丘を形成して、下流の低地帯から太平洋へ注いでいる。また、海岸部には低地がほとんどなく、海岸部まで丘陵が達している地域が多い。

このような地形的環境にある夷隅地区の古墳・横穴分布状況等について、南の勝浦市周辺から述べることにしたい。

勝浦市周辺は、海岸部まで丘陵が達する地形にあり、低地がほとんどなく、見るべき河川が流れていない。5群12基の横穴が散在して、海蝕崖に分布している。ここの長網横穴群（8基）では発掘調査が実施されている。各横穴とも前半部が崩落しているが、逆台形平面の横穴で、出土した土師器、須恵器などの遺物から、少なくとも6世紀末葉から8世紀まで使用され、最盛期が8世紀にあったと考えられている。

大原町の塩田川流域では、岩船台下横穴群（13基）など2群20基が分布しているが、形態などは不明である。

では、夷隅地区を縦横に流れる夷隅川とその支流における古墳・横穴の分布状況について、上流域から述べることにする。上流域では、夷隅川流域に分布せず、支流の西畑川流域に猿下横穴群（5基）など5群10基の横穴が分布するが、古墳は知られていない。中流域の最奥部にあたる夷隅川西岸の大多喜町横山地区には、横山内岡台遺跡（円墳8基）など4群15基にのぼる小規模な群集墳が散在している。このうち、横山古墳群の1基から直刀と馬具が出土した。明治時代に採集されたものである。馬具には鉄地金銅張の剣菱形杏葉とｆ字形鏡板が含まれており、東国において馬具が普及し始めた6世紀初頭頃の築造であろう。また、横山古墳群の3号墳では、周溝内から石製模造品と鬼高

Ⅰ式の土師器が出土した。5世紀末葉～6世紀初頭頃の築造と考えられる。横穴は、愛宕山横穴群（27基）など3群34基が分布するが、形態などは明らかでない。一方、同地区の東方にあたる下大多喜地区の丘陵上には、円墳20基からなる高谷古墳群や前方後円墳1基と円墳11基からなる台古墳群などの群集墳が分布する。台古墳群では、前方後円墳の発掘調査が実施され、直刀、土師器、須恵器が出土した。また同古墳群中の円墳1基から、半円方格帯神獣鏡、馬具、鉄鏃、玉類が採集されている。この半円方格帯神獣鏡は、埼玉県稲荷山古墳から出土した辛亥年在銘鉄剣と伴出した鏡の同范鏡として注目されている。この稲荷山古墳は6世紀初頭頃の築造と考えられ、該期がそれに近い時期の古墳であろう。次に、やや下った中流域北岸の夷隅町には、上野横穴群（17基）など24群66基の横穴が散在する。能実地区に5群7基、神置・小高地区に13群35基など小分布域を形成している。このうち、上野横穴群の3基は、袖を有する縦方形・横方形のアーチ形天井を呈する横穴で、刳抜棺床が認められた。また、河岸段丘上に、円墳3基の谷古墳群などが分布している。対岸にある大原町の支流落合川流域では、沢部横穴群（16基）を含む9群57基が分布する。ここに分布する横穴群の多くは、橋口定志氏の論考に紹介されており、これを参考にすると、両袖で逆台形を除く各プランを呈する横穴が認められ、隔壁を有するものが多く、刳抜棺床主体であった。夷隅川下流域の岬町では、南岸に東前横穴群（25基）など4群35基が分布している。東前横穴群では、5基の発掘調査が実施されている。両袖・横方形の横穴が多く、いずれも隔壁が認められた。並列する2～4の刳抜棺床に特徴が認められ、出土遺物から7世紀～8世紀初頭へかけて使用されていた横穴群と考えられている。また、夷隅川流域では、唯一の埴輪を有する三門古墳が低地に単独で分布する。対岸の北岸では、支流熊田川流域の岩熊地区に3群10基、谷上・椎木地区に5群10基以上の横穴が分布している。このように、夷隅川とその支流域では、中流域最奥部に群集墳がやや集中して形成されているのに対して、横穴はいくつかの小分布域が各地域に散在する傾向が認められた。古墳の様相を見ると、夷隅川中流域の北岸では、金銅張の馬具類や半円方格帯神獣鏡など卓越した副葬品が出土した円墳が点在している。この地域では、これらの円墳の被葬者が当時の地域的な支配者であったと考えられる。また、各古墳の出土遺物から、ここでは各群集墳が6世紀初頭頃に築造が開始されたか盛行していた可能性が認められる。一方、横穴を見ると、袖の存在によって玄室と羨道が区別された、いわゆる高壇式の隔壁を有する横穴が多く、内部施設が刳抜棺床主体である形態的な地域的特色が、夷隅川流域の全域で認められた。これは、当地域における一般的な様相を示すものと言える。しかし、西方の丘陵地帯を隔てた東上総地区に多い整正系の家型天井を有する横穴は知られていなく、この地区との形態的な様相に差異は認められるが、隔壁・刳抜棺床に見られる基本的構造など類似点は多い。このような様相を考えると、短絡的な見方ではあるが、各横穴群の一元的な形成過程が推測できる。背景には、谷津田開発などが考えられ、その時期は東前横穴群に見られるような7世紀代であろう。このように、古墳と横穴の年代差は大きく、相互の関連性は現状では見い出せない。また、『日本書紀』では、安閑元年（534）に大和朝廷の直轄地である伊甚屯倉が夷隅地区に設置されたと記述されているが、伝承かどうかは別として、その内容に迫まるような政治的・社会的情勢が当時の夷隅地区にあったと推測できる。今後は、このような点を改めて勘案して、古墳・横穴の様相を見ていくことが夷隅地区における古墳史解明の一助になろう。

第11節　安房地区

戸　倉　茂　行

安房地区は、房総半島の南端部に位置する。地形的に見ると、北から鋸山－清澄山丘陵、鴨川低地帯、嶺岡丘陵、館山低地帯、安房丘陵に大別することができ、谷床部にあたる地溝帯に沿って多くの中小河川が派生して、東京湾あるいは太平洋に注いでいる。また、鴨川低地帯と館山低地帯以外には広い低地帯がなく、樹枝状丘陵に挟まれた小さな低地帯が海岸部に多い。

この安房地区は、養老二年（718）に上総国から安房国として独立しているが、その後一時的に併合され、再度独立した経過を経て、現在では安房郡市となっている。しかし、房総丘陵の一つである鋸山－清澄山丘陵により上総国から分断されている地形的要因によって、古くから独立した地域文化圏を形成している。

１．安房西部地域

さて、このような地形的・歴史的環境にある安房地区における古墳・横穴の分布状況等について、東京湾岸にあたる安房西部地区から、各河川流域毎に概要を述べたい。

北から、鋸山に近い保田川流域では、横穴はなく、小円墳の房ヶ谷古墳１基が分布するにすぎない。一方、佐久間川流域では、河口に近い海岸部に横穴９群63基の小分布域がある。これが、安房西部地区における横穴分布の北限となる。海岸部に分布するため、風化した保存状況の不良な横穴が多い。大黒山・岩井袋・板井ヶ谷・大乗院横穴群など10～30基ほどの横穴群が含まれている。このうち、大黒山・大乗院横穴群の数基が『鋸南町史』で紹介されている。大黒山横穴群については11基しか確認できなかったが、本来約30基からなる横穴群として知られ、内２基は１基が無袖・横方形・アーチ形天井、１基が右片袖・逆台形・アーチ形天井を呈し、他の横穴はほとんどが無羨道形態で無棺台棺床らしい。大乗院横穴群は、本来24基で、当地区では唯一の両棺台棺床（無縁）を有する横穴１基が含まれていた。やぐらに改変された可能性があるが、多くの横穴は無袖・横方形・平形天井を呈する共通性が認められた。その他、板井ヶ谷南横穴と、観音ボラ・大乗院横穴群のうち数基には、岩盤を横長の袋状に掘削した小形横穴があった。更に、内陸部寄りの佐久間川流域には、堤ヶ谷北・堤ヶ谷南・森越などの横穴が散在する。

岩井川流域は、古墳・横穴の分布が希薄で、北岸に前方後円墳１基・円墳２基の恩田原古墳群が、南岸には基数１～４基の冷水・大谷・岩婦・鬼ヶ谷横穴群など５群13基が分布するにすぎない。冷水・大谷横穴群では、佐久間川流域に多い無袖・横方形・平形天井の横穴が認められたが、高さが低くなる傾向が窺われた。これらの各横穴は、特に冷水１号横穴の閉塞施設（門穴）の存在から、造墓当初から無羨道形態で玄室のみ掘削された可能性を看取でき、同一形態の横穴も同様であったと考えられる。

富浦町の汐入川流域では、豊岡地区に12群76基にのぼる横穴が分布しているが、古墳の存在は知られていない。この汐入川流域の低地は狭く、対岸の樹枝状丘陵が真近に迫るような地形の支谷毎に、高田南横穴群（12基）・沢又横穴群（４支群23基）とその他の小規模な横穴群が、密集状態で一つの小分布域を形成している。この汐入川流域でも、高田南・高田西など多くの横穴群において、無羨道形態で、無袖・平形天井を呈し、玄室平面形が縦方形・横方形・逆台形の３タイプに分かれる横穴が多数を占めていた。また、高田南２号横穴は、奥壁を掘削した壁内棺床が認められた唯一の類例である。

以上、鋸山－清澄山丘陵から嶺岡丘陵へかけての東京湾岸にあたる、鋸南・富山・富浦の各町内では、玄室のみ掘削された棺台・棺床などの内部施設がない、無羨道形態の横穴が多数分布するという地域的特色が顕著に認められ、

従来言われている安房タイプの横穴とは異質な存在を示している。また、岡本川の南岸にあたる大房岬では、単独で分布していた円墳の大武佐古墳が知られ、造成工事中に直刀、刀子、鉄鏃、須恵器などが出土したが、詳細は不明である。

次に、館山低地帯を流れる平久里川、山名川、滝川、汐入川などの中小河川流域における古墳・横穴の分布状況について述べる。まず、平久里川流域では、館山低地帯を望む北岸の嶺岡丘陵に二ヶ所の小分布域が認められた。海岸部に近い稲原地区周辺では、菅ノ入Ａ横穴群（28基）を含む７群54基の横穴と稲原古墳が分布している。内陸部寄りの正木地区周辺では、上御狩Ａ横穴群（15基）を含む３群23基の横穴と、前方後円墳の上御狩大塚山古墳が分布しているが、詳細は不明である。同河川の上流域では、東岸の嶺岡丘陵に、６群66基の横穴群と円墳の明石古墳が分布している。これらの各横穴群は、水系こそ相違するものの、山名川流域の各横穴群と同一の一大分布域を形成している。形態や内部施設など同様で、おそらく共通した形成過程が想定できよう。

そこで、館山低地帯から内陸部へ奥深く入った山名川流域の古墳・横穴の分布状況について見ることにしたい。この山名川は、館山低地帯へ流れ出て名前を滝川と変えた後、平久里川に合流して、館山湾に注いでいる。同河川が流れる谷は広く、両岸に比較的大きな支谷が開析されており、ここでは北岸を中心とした一定の地域内に数多くの横穴群が群在している。その基数は17群151基を数え、丸山川流域の珠師ヶ谷地区周辺とともに、安房地区における二大分布域を形成している。なお、古墳は、山名川の流れる谷の入口付近に円墳の延命寺古墳１基が分布するのみである。では、このような分布状況を示す各横穴群の概要について述べてみたい。この山名川流域における横穴の分布状況を詳細に見ると、池之内・御庄地区と山名地区を中心とする二ヶ所の集中分布域に分離可能である。池之内・御庄地区では、池之内横穴群（28基）、在戸横穴群（36基）を含む６群82基が分布する。一方、山名地区では、舟ヶ作横穴群（16基）、鬼ヶ作横穴群（15基）を含む９群60基が分布している。では、両地区における横穴群の形態などについて、平久里・山名川流域の横穴略測調査を実施した柴本一郎氏の略測図を参考にして、説明を加えたい。池之内・御庄地区では、池之内・在戸横穴群に、平面形がおおよそ逆台形を呈し、玄室と羨道が区別されていないアーチ形天井の横穴が多い。内部施設は、池之内横穴群の判明する全基と、在戸横穴群の多くに壁内棺床が認められた。ここで、壁内棺床について述べると、従来据台式と言われている棺床のことで、奥壁か左右両側壁の一部をおおよそ長方形の箱状に掘削して、内部を棺室状にして木棺等を安置した内部施設である。この閉塞施設には、壁との間に閉塞板をはめた仕切溝が入口付近に施される「はめ込み式」と、入口の周囲を窓枠状に掘り込んで閉塞板を押え込んだ「押え込み式」の二種類が認められる。このような内部施設を有する横穴が、いわゆる安房タイプの横穴として知られている。また、在戸横穴群では、その他に奥棺台棺床（無縁棺床）や、内部施設のない無棺台棺床の横穴が認められた。次に、山名地区を見ると、北戸妻・年ノ宮神社脇横穴群では、玄室と羨道が明確に区別された両袖・正方形あるいは縦方形の横穴が多く、内部施設を見ると刳抜棺床を有する棺台を造付けた横穴が12基中５基認められた。谷の最奥部に位置する舟ヶ作横穴群の形態は、池之内・在戸横穴群に類似するが、内部施設には無縁棺床を有する棺台が多いという相違点があった。更に、山名川東岸の江田横穴群は、池之内・在戸横穴群と形態をほぼ同一にしている。以上のことから、前述した平久里川上流域東岸に分布する谷津・六代横穴群など６群の横穴群では、袖の存在や刳抜棺床が認められることから、山名地区の北戸妻・年ノ宮神社脇横穴群と形態的な類似点が多く指摘できる。

この山名川下流の滝川流域を見ると、館山低地の中央部付近に、宿内古墳など円墳３基が各々単独で分布する。内陸部へ入った南岸の安房丘陵にも、峯古墳１基が分布しているが、詳細は不明である。横穴は、南岸の安房丘陵に二カ所の小分布域が認められる。稲地区では、岩井作横穴群（16基）を含む３群29基が分布している。このうち、岩井作横穴群には、別名高壇式と言われている隔壁を持つ家型天井の横穴が含まれている。また、安東・水岡地区では、小網横穴群（10基）など５群27基が分布している。

館山低地の南端部を流れる汐入川流域は、横穴群が３群散在するのみで、分布は希薄である。大網横穴群では、い

わゆる整正系で、棟木等を浮き彫りした、隔壁を有する横穴が存在しており、安房地区にこのような横穴があることは注目に値しよう。

次に、房総半島先端部に近い安房丘陵を流れる巴川流域を見たい。この流域は滝川流域と同様に分布が希薄で、安房地区における古墳・横穴分布の南限地域にあたる。古墳は、過去に発掘調査が実施された相ノ沢三ツ塚古墳１基のみで、直刀１振が出土した。横穴は、栗ノ前横穴群（５基）と大塚山横穴群（４基）が分布しており、栗ノ前横穴群には隔壁を有する横穴が含まれていた。その他、館山低地帯には、山名川から遠く外れた館山市角田横穴群がある。ここでも棟木等を浮き彫りした整正系の家型天井を有する横穴が認められた。また、館山市の平砂浦を眺む安房丘陵の一角に、翁作古墳が分布している。墳形は明らかでないが、周辺にもう１基古墳が分布していたらしい。この翁作古墳の出土遺物には、単鳳の環頭大刀、毛頭大刀など大刀３振、鹿角装刀子、須恵器（高坏、長頸壺、甕）などがあった。６世紀第４四半紀頃の築造と考えられ、被葬者など解明すべき点が多い。

２．安房東部地域

これまで、安房西部地区について触れてきたが、次に太平洋岸の安房東部地区について述べることにしたい。

安房丘陵を流れる千倉町の瀬戸川流域では、本郷上ノ岱古墳群のような前方後円墳１基を含む群集墳や、一反田古墳群、大和田古墳、雲龍寺古墳などが分布している。なかでも、本郷上ノ岱３号墳は全長35ｍの帆立貝式前方後円墳で、横穴式石室が外見できる。横穴は、深作横穴群（11基）を含む５群29基が散在している。深作横穴群では、玄室と羨道が袖により区別された形態と無袖で区別されていない形態があり、壁内棺床を有する横穴があった。日向薬師横穴群（５基）では、４号横穴が発掘調査され、７世紀中葉頃の須恵器平瓶が出土した。無袖・逆台形を呈し、無縁棺床のある棺台を有している。

次に、安房地区における横穴の二大分布域の一つを形成する丸山川流域について見たい。横穴の分布状況を詳しく見ると、おおよそ三カ所の分布域に分けることができる。内陸部の丸山川東岸にあたる珠師ヶ谷地区では、14群115基にのぼる横穴群が集中分布域を形成している。下粟野第１横穴群（25基）、大庭横穴群（24基）などが密集状態で群在する。一方、珠師ヶ谷地区対岸には、安楽寺横穴群（13基）など３群21基が、また同下流域西岸の加茂・安馬谷地区には、塚崎横穴群（17基）など９群35基が、各々広範囲に散在して分布している。横穴の形態は、三カ所の分布域ともほぼ同一であった。無袖で玄室と羨道が区別されていない。逆台形平面の横穴が主体であるが、珠師ヶ谷地区の大庭・石堂横穴群と対岸の清水・安楽寺横穴群に袖により区別されている縦方形の横穴が認められた。天井形態は、主としてドーム形とアーチ形が混在していた。また、内部施設を見ると、安房タイプの壁内棺床を有する横穴が多く、無縁棺床や刳抜棺床を有する棺台を造り付けた横穴が少なからず認められた。それから、永野台第１横穴群中には、高さ2.5ｍの高い隔壁を有する横穴１基が含まれていた。古墳の分布状況を見ると、丸山川東岸に４基が散在している。このうち、永野台１・２号墳では発掘調査が実施されている。同１号墳から、女性人物を含む形象埴輪や、円筒埴輪、須恵器（短頸壺）が出土しており、５世紀後半の築造と考えられている。同２号墳は、墳丘を削平されていたが、全長25ｍの前方後円墳と推定されている。この丸山川流域と、次の原川及び加茂川南岸の丘陵地帯は、嶺岡丘陵に含まれる。

和田町の原川流域には、浅地横穴群（６基）など５群14基の横穴が分布している。寺谷横穴群では、両袖・正方形で平形天井を呈する。無棺台棺床の横穴１基が認められた。また、筒井・向畑横穴群では、壁内棺床を有する横穴が含まれている。なお、古墳の分布は知られていない。

鴨川低地に近い曽呂川南岸の河口付近には、岡波太横穴群（３基）など２群４基が分布しているが、形態などは明らかではない。

この鴨川低地を流れる加茂川流域の古墳・横穴の分布状況は、待崎川流域と同様に希薄で少ない。横穴は、かなり内陸部へ入った加茂川上流北岸に、大山横穴群（４基）が分布しており、この大山横穴群が鴨川低地における唯一の横穴群で、現在まで他の横穴群は知られていない。形態などは不明で、分布状況を考えると特異な存在である。また、同河川の下流域では、金塚古墳、廻塚古墳、毛無古墳などが散在している。待崎川北岸の河口付近には、広場北古墳など円墳５基が群集して、一古墳群を形成している。このうち、後広場１号墳では、大正年間に縄かけ突起を有する刳抜式石棺が検出され、直刀と鉄鏃が出土した。この鉄鏃は鏨箭式で、６世紀後半から一般化する棘篦被が認められることから、該期以降の築造と考えられる。刳抜式石棺の類例は少なく、貴重である。

天津小湊町の二間川流域では、石棺が検出された清澄山麓古墳１基が、内陸部に分布している。同町の大風沢川東岸の河口付近には、西蓮寺裏横穴１基が分布するのみで、鴨川低地とともに、安房東部地区における古墳・横穴分布の北限地域と言えよう。

３．ま と め

上記のように、安房地区における古墳・横穴の分布状況などについて述べてきたが、古墳の基数が少なく、横穴の基数が古墳を遥かに凌駕している状況を再確認できた。まず、このような分布状況にある古墳についてまとめたい。群集墳としては、岩井川流域の恩田原古墳群（３基）、瀬戸川流域の本郷上ノ岱古墳群（５基）、丸山川流域の永野台１・２号墳（２基）など前方後円墳１基を含む古墳群や、平久里川流域の宝珠院遺跡（３基）、持崎川流域の広場北古墳を含む５基など円墳のみで構成された古墳群が各河川流域に単独的様相を帯びながら分布しているが、基数はいずれも少ない。その他は、古墳１基が単独墳として各地域に分布する。また、様相がわずかに判明する翁作古墳・永野台１号墳・後広場１号墳など３基を見ると、埋葬施設や副葬品の優劣など質的内容が他の古墳と大きく相違している。これは、築造時期の差はあるが、各古墳の築造に至る歴史的背景が全く異質であることを反映したものと考えられ、各地域毎に当時の政治的・社会的様相が異なっていたことを示している。

次に横穴を見ると、従来から壁内棺床を有する横穴が安房タイプの横穴と考えられていたが、これとは異なった形態上の地域的特色が顕著に認められた地域があった。例えば、安房西部地区の佐久間川から富浦町の汐入川流域へかけては、無羨道形態で玄室のみ掘削された横穴が多数分布していた。また、同西部地区を流れる三芳村の山名川流域では玄室と羨道が区別されておらず、内部に壁内棺床を有する横穴が池之内地区に多く認められた。しかし、同河川流域の山名地区から、丘陵を隔てた安房東部地区の丸山川流域へかけての地域では、無袖形態が主体を占めているものの、袖により玄室と羨道が区別されている横穴や、無縁棺床か刳抜棺床を有する棺台を造り付けた横穴が一部に認められた。このような後者における様相は、周辺地域でも同様であり、安房地区における一般的な様相を示していると言える。その他、特筆すべき点として、館山低地を望む安房丘陵南岸の滝川・汐入川流域及び周辺地域の一部では、隔壁を有する横穴でいわゆる整正系の家型天井を呈するものがいくつか分布している。これまで知られていなく、東上総地方における横穴に極めて類似する。また、各地域における横穴の分布状況を見ると、山名川・丸山川流域は拠点的な分布状況を示しており、ある特定の大集団を構成する一族が一定の生活圏に累積的・累世的に横穴を造墓していった所産と考えられる。判断する材料はないが、そこには、おそらく谷津田開発の成功という強い生活基盤が背景にあったと思われる。更に、小拠点的な分布状況を示すいくつかの河川流域についても、被葬者集団の生活基盤は谷津田と考えられ、小集団による地域開発が背景にあろう。この時期は不明だが、関東地方における古墳築造が衰退化していった７世紀代主体の造墓であった可能性が、上総地区における調査例から看取できよう。なお、被葬者集団を把握することはできないが、いくつかの古代氏族の墓制や氏族間の交流が、横穴の形態や古墳の埋葬施設に反映されていると考えられ、今後は忌部氏など安房地区に渡来した古代氏族との関連性を追求していくことが、安房地区における古代史解明の糸口となろう。

第3章　房総における古墳の特質

第1節　房総における高塚古墳について

杉　山　晋　作

1．前方後円墳

早期前方後円墳の存在

東京湾に流入する養老川下流域の北岸、市原台地上で神門5号墳・4号墳・3号墳の3基の、前方後円墳に似た墳丘を有する墳墓が調査されている。3基に共通して見られる供献土器の比較によって、それらの築造が5号墳・4号墳・3号墳の順に行われたものと判断される。その想定順序に従えば、主丘の後円部に付属する前方部的部位が、通路的構造から前方部的構造へと発達していることとなり、その想定の妥当性を裏付けている。3基とも主丘部が明確に高い盛土で構成され、かつ、主丘の平面形が円形である点は、県下他地域の同時期墳墓と異なるところである。同じ市原地域にある小田部古墳が同様の平面形を有するものであったと推定されていることも合わせて、養老川下流域が千葉県下の古墳出現期において特殊な地域であったものと現時点では理解される。神門3号墳は、前期古墳にも見られる武器などが副葬されていて、供献上器の諸相も加味すると、狭義の古墳の範疇に含めることには異論が少ないと思われるが、4号墳と5号墳に関しては、土器が示す諸様相をもってこれを古墳時代の土器と判断せず、両者を古墳でなくその前段階の墳丘墓であるとする考えも出されている。土器論を展開する余裕はないのでここではさておくとしても、4号墳の定角式鉄鏃は近年西日本の各所で認められ始めた初現期古墳出土の鉄鏃に類似する点が多く、その被葬者の活動期を本格的前方後円墳確立の前夜に求めることが可能である。5号墳の多孔鉄鏃はこれよりさらに古く、その祖型を濃尾地方から近江地方にかけて見られる銅鏃に求めるのが妥当と思われる。この両墳の築造期は東日本のみならず西日本においても盛んに地域間交流が行われたと、土器研究からも推測されている。両墳が東日本における地域間交流の結果として出現したものであることは、出土土器に北陸系・東海系要素の認められるものが顕著であることによって理解されよう。日本における古墳時代開始の指標とされる前方後円墳と呼ぶには、埋葬施設に木棺を被覆する竪穴式石室を、副葬品に三角縁神獣鏡類を、そして明確な前方部を必要とする、という基準からすれば、神門古墳群の3基ははずれるのであるが、畿内において最古式に属すとされる箸墓古墳はその内部が明らかでなく、また椿井大塚山古墳に古式の銅鏃が存在することを考慮し、なおかつ、それ以前かとも推測される纒向石塚古墳の前方部が極めて整然としたものであることをも認識するならば、いま唱えられている前方後円墳出現期がさらに遡る可能性もあって、神門古墳群の3基を墳丘墓でなく古墳の築造段階に入った地方における古墳の1つと認識することも許される余地が残されている。千葉県下において調査された前期古墳より古く位置付けられるのが神門古墳群の3基であり、しかも、全国的にも本格的前方後円墳の確立期あるいはそれ以前にも遡る可能性を有している。これらは、主丘をめぐる溝が他の同時期墳墓より幅をもって壮大である。いま、全国的にみても前期前方後円墳より前の段階にも位置付け得るものであるかの論議はさておくとしても、これら市原台地に初現する古墳は、手古塚古墳など少なくとも房総における典型的な前期古墳として認識されているものより遡る時期に属し、かつ、その様相も異なることが明らかであるので、とりあえずは、房総半島内での適用に限るとして早期前方後円墳と理解したい。

大型前方後円墳の分布とその時期

房総における前方後円墳の規模がどの範囲にもっとも多いのかについては、統計的処理をまたねばならないが、概して、後期に至っては前方後円墳の規模が縮小してくるのが一般的であり、大型の基準数値を示すことが当時の首長の勢力を比較するに有効とはならない場合がある。しかし、それでもなお、地域内で相対的に卓越した規模を誇る古墳が造営されることがある以上、その卓越の基準を想定して有力首長勢力の盛衰を窺う参考とすることができよう。いま、墳丘を残す前方後円墳の墳丘長が40～60ｍの例が多く見られることをもって、60ｍ代以上の規模を有する前方後円墳が房総各地における卓越した規模の首長墓であるとできるが、その場合の数はかなり多くなる。そこで確実を期して、墳丘長が90ｍ前後の規模以上の前方後円墳を卓越した勢力をもった有力首長墓であるという想定で、房総における大型前方後円墳の分布をながめると、そこに房総各地の盛衰を見ることができる。

まず、東京湾東岸の南部、小糸川下流域南岸には内裏塚古墳群があって、内裏塚古墳をはじめ九条塚古墳・三条塚古墳・稲荷山古墳等の大型前方後円墳が密集して存在する。その北部、小櫃川下流域にも南岸の長須賀古墳群に金鈴塚古墳があり、その詳細は不明ながらも大型前方後円墳であったかと推定される銚子塚古墳や祇園大塚山古墳がその近隣に所在することをみると、ここにもやはり集中して存在した可能性が高い。この小櫃川流域では、中流域でも大型前方後円墳の存在が知られる。白山神社古墳に加えて、最近、飯籠塚古墳が確認され下流域のものより古い時期であることが想定される。さらに北部の養老川流域では下流域南岸の姉崎古墳群中に天神山古墳や姉崎二子塚古墳・釈迦山古墳などがあって、ここでも南岸の一角に集中していると理解される。近くではあるが、今富塚山古墳がやや離れて存在することも注意しておく必要がある。その北部、村田川流域では菊間古墳群にその可能性を残しているが、いまひとつ有力なものが認められない。東京湾東岸ではその他に大型前方後円墳を認めることができない。転じて、内陸部の印旛沼周辺にもまた大型前方後円墳を認めることが困難である。現・利根川流域については、下流域の三之分目大塚山古墳が知られる。隣接地域で、太平洋側にある椿海周辺では御前鬼塚古墳が大型である。また、九十九里沿岸の中心部に位置する山武地域では、大堤権現塚古墳を筆頭として殿塚古墳・西の台古墳などが近接して散在している。そして、九十九里平野の南端部には油殿古墳があるものの、大型としては単独的な存在として知られている。そのさらに南は半島南端部まで大型前方後円墳の存在が知られていない。これらの大型前方後円墳分布地域には、それよりやや規模の小さい前方後円墳も存在している。これらの地が、国造本紀にいう国造の本拠地でないかと推定されていることと矛盾するものでないことは注目される。即ち、小糸川流域を須恵国、小櫃川流域を馬来田国、養老川流域を上海上国、村田川流域を菊間国、印旛沼周辺を印波国、現・利根川下流域を下海上国、九十九里地域を武社国、その南を伊甚国とする推定である。

以上の大型前方後円墳を、従来の時期区分に従って前・中・後期に分けてその継続性をみると、地域差が出てくる。小糸川流域には前期に属するものがなく、中期から後期にかけてほぼ継続して造営されているが、小櫃川下流域では中期から後期にかけて、同中流域では前期から中期にかけて造営されたものと推測されている。養老川流域では前期を主として中期にかけて造営されているが、後期には顕著なものがない。利根川下流域においては中期や後期に散在して見られるが継続性をもたずにいる点が特徴的である。九十九里地域に至っては、前期・中期になく後期に至って継続して見られ、かつ、地域内の小集団間で動いていることを知る。九十九里の南端部では前期のみが知られるにすぎない。

これを有力首長を囲む集団の盛衰と関連づけることができれば、房総各地における各時期の有力集団の隆盛地をみることができる。前期において最も隆盛を誇ったのは上海上国であり、続いて馬来田国や伊甚国であった。中期に入って最も盛んな勢力を誇ったのは須恵国であるが、上海上国・馬来田国はその勢力を維持しており、新しく、下海上国が加わる替わりに伊甚国が没落する。そして後期に至っては、武社国が台頭し、須恵国・馬来田国・下海上国は勢

力を残すが、上海上国が没落することになる。このような状況をみると、古墳時代の房総各地においてそれぞれの首長を頂点とする政治勢力は、生産基盤の優劣に関わりなく盛衰をくり返していると理解できるのであり、首長を中心とする政治勢力の強弱は、生産基盤とはまた別の要因を加えることによって生成されたことが知られる。

低地造営の前方後円墳

房総の古墳の立地は、半島の地形の特色から、台地上または低丘陵上と沖積地に分かれている。多くは前者の台地上または低丘陵上に占地しているのであるが、面積比率は小さいながらも、河川や湖沼に接する沖積地の何か所かに占地する古墳がある。

小糸川下流域にある内裏塚古墳群は沖積地にあって、中期に形成を開始し後期も継続する。5世紀中葉と推測される内裏塚古墳を最大規模とし、その後、大型前方後円墳のみならず小型の円墳などもまた同じ低地に造営されている。

小櫃川下流域にある長須賀古墳群も低地に位置する。最大規模かと推測される銚子塚古墳をはじめとし、祇園大塚山古墳・金鈴塚古墳などの大型前方後円墳のほか、ここでも小型の古墳が存在したものと推定されている。

養老川下流域に属する姉崎古墳群は多くが台地上に位置するが、そのうち最大級の姉崎二子塚古墳が低地に造営されている。東京湾岸の低地占地の古墳と同じく砂丘列上に造営されたものであるが、ここでも小型古墳が存在するものの、後期の大型前方後円墳は再び台地上に占地するようになる。やや離れた今富塚山古墳が低位の河岸段丘上に位置するものとして、その時期が注目される。

あとは、利根川下流域に移って、佐原市大戸古墳群などと小見川町三之分目大塚山古墳などに低地造営の古墳を見るにすぎない。佐原周辺での低地の古墳はその実態が未解明であるが後期を中心としており、小見川でのそれは中期に始まるものである。

さて、これら当該地域で低位置に造営された古墳に一・二の特色をみることができる。その1つは、各地域の台地や丘陵など高所に造営されていた墳墓が、中期おそらく5世紀中葉の段階に低地に降りて造営されることになったその時期である。今富塚山古墳がそれより古く遡る可能性があるという見解もあるが、これを除くとほぼ同時期といえよう。そして、それらが各地における最大規模級の墳丘を有するものであることも注意しておく必要がある。すなわち、各地域において首長の権威がもっとも高揚し最大規模の墳丘をもつ墳墓を造営する段階に至って、その立地も従来と異なった低地に変えることが行われたと推測されるのである。しかし、その後も低地に首長墓を造営し続け得たのは、小糸川下流域と小櫃川流域であり、他は再びその立地が台地上に戻っている。わずか利根川下流域で、一部が低地にも残って造営されたことが知られるのみである。

後期小型前方後円墳の多数造営

房総においては、後期に小規模の前方後円墳を多く認めることができる。房総における前方後円墳の基数が600基をこえ、関東各地あるいは全国でも最大数を数えるが、その大半はこの後期小型前方後円墳によるものである。これを全国各地の同時期の前方後円墳と同じ政治的・社会的水準でみることには慎重でなければならない。その多さに、家父長的家族の台頭が進み、多くの家族が形成されたかの如き解釈を単純に与えるわけにはゆかない。しかし、全国と同水準の階層を与えることができないにしても、これほどの数を造営し得た意味は重要であり、今後の詳細な検討が必要である。

前方後円墳の長方形周溝と外堤

房総には、前方後円墳の周溝外縁の平面形が長方形を呈する例が数基認められる。香取郡神崎町舟塚原古墳・匝瑳郡干潟町御前鬼塚古墳・千葉市人形塚古墳・山武郡横芝町殿塚古墳などが知られており、いずれも後期に属すると考えてよい。また、山武郡松尾町大堤権現塚古墳や山武郡成東町不動塚古墳や山武郡横芝町殿塚古墳など、内周溝の外側には今日も高さを見せる堤をもつものがある。発掘調査による確認が必要であるが、顕著に外堤をのこすことは注

目される。

2. 前方後方墳

前期前方後方墳の分布

房総では前期の前方後方墳も水系毎に散在する。東京湾岸では小糸川流域に道祖神裏古墳、小櫃川流域に山王辺田2号墳・鳥越古墳など、養老川流域に東間部多古墳群の1群、村田川流域では草刈99号墳があり、菊間古墳群中の新皇塚古墳もそれと推定されている。内陸部では印旛沼周辺の飯合作1号墳・2号墳、利根川流域の弁天古墳、下流域の阿玉台北A－2号墳などが知られている。それらには、調査時に封土を消失していたものもあるが、盛土をもって墳丘としていたものと推定される。しかし、概して低墳丘であったものと推測され、新皇塚古墳が前方後方墳であれば、それは高い墳丘を有していて例外的存在となる。一般的に墳丘規模も小さく、北関東のように大型となるものはほとんどないと推察される。

晩期前方後方墳の造営

また、前方後円墳の造営が停止された後に、築造されたと考えられる前方後方墳も房総には存在する。日立精機2号墳・六孫王原古墳・諏訪台K－15号墳（昭和58年度調査）などがそれであり、前2者は横穴式石室を埋葬施設とし、後1者は木棺直葬の埋葬施設であったとされる。いま、それらの築造時期を確定するになお明確な根拠は乏しいが、出土遺物に7世紀後半に属するものを含むことによって、7世紀に入ってからの築造であったものと推測しておきたい。全国的にも、前方部を付す墳丘が造営されなくなっているにもかかわらず、房総の地にこのような前期前方後方墳と似た平面形をもつ墳丘が存在するのは特異な現象といえよう。それらを前期以来継続して造営されたものの残影であるとする理解は、その途中の中期から後期の前方後方墳が存在しないことによって否定される。それらが、本来ならば前方後円墳を造営したであろう首長級の墳墓であると認め得るならば、主丘を円形から方形に変えたに過ぎなかったと推測される。つまり、畿内の大首長墓が前方後円墳から方墳へ転換したことに合わせようとしたが、まだ、前方部を付す慣習を維持せねばならなかったため、前方後円墳の後円部を方形に転換したにすぎなかったと考えられるのである。

3. 方墳

晩期大型方墳の造営

しかし、同じ7世紀代に房総でも首長墓を方墳とする地域がある。印旛沼周辺の竜角寺古墳群中の竜角寺岩屋古墳や、山武郡の板附古墳群中の駄ノ塚古墳などは、当時の日本の大王陵に匹敵するかそれ以上の規模の方墳を造営している。また、小糸川下流域の内裏塚古墳群中の割見塚古墳なども方墳としては平均的規模よりも大きいものである。さきの前方後方墳と同じく前方後円墳後の時期に属すものであるが、墳形は中央における新しい形態の首長墓と同じ墳形を採用することから、房総の他地域より先進的であるといえよう。しかし、前方後円墳と同じ程度に規模が大きい点は、地方における首長の権威の記念物としての墳墓を造営し、その大きさで勢威を誇示するという意識がまだ残っていたと考えてよく、方墳造営の時期に至っても古墳を政治的記念物と見ることから脱却する意識革新がなされなかったことを物語っていよう。この考えで言えば、内裏塚古墳群中の割見塚古墳などは畿内の大王陵より小さい規模を有し、かつ、新しい形態の石室を構築している点で、同じ方墳の岩屋古墳や駄ノ塚古墳より先進的であったということになる。前方後円墳後の首長墓として存在する前方後方墳と方墳がその地域を重複してみることは現在のところない。

ところで、房総において前方後円墳造営停止後の首長墓として見られる方墳あるいは前方後方墳の造営期間は、1

代限りではなく2代あるいは3代にわたるかのように長いものを推測される。いま、首長の権威を示す記念物が古墳であり、その造営期間をもって古墳時代と呼ぶのならば、房総に限るとしても、前方後円墳の後にまだ首長墓としての方墳などが造営されていることになり、それに替わる墓以外の記念物も顕著に認めないのでその期間を古墳時代のうちに含めることが可能である。房総においては、前方後円墳後に方墳などが顕著に認められ始める時点をもって、それ以後を古墳時代後期から区別し、7世紀後半に新しく巨大な記念物である寺院が各地に建立されるまでの期間を房総の古墳時代晩期と呼ぶことが可能である。

晩期小型方墳の分布

房総の古墳時代晩期には、方墳が多い。しかし、後期の小型円墳が群集するほど多くはない。そこに家父長層の確立を見るとしてよいのかは今後の課題となろう。それは、現在円墳とされている小型墳墓が今後の調査によってどれだけ方墳に変更されるかが関係してくるからである。その中にあって、養老川下流域の市原台地上にある諏訪台古墳群では多数の方墳群が確認され、7世紀後半代かと推測されるものには木棺を直葬していることが多く、その密集度と埋葬施設構造に特異性を示している。そこでは、階層差を明瞭に示すような墳丘規模が超越するものもなく、もはや墳墓造営とその規模をもって被葬者の権威を示そうとする意識は薄れてしまったと理解される。この時期、房総各地で見られる横穴群の様相と相通ずるところがあって興味深い。

4．埋葬施設

房総において、早期や前期に属する古墳の埋葬施設は木棺を直葬しているものが多い。しかし、その詳細な構造を把握できる例はない。前期古墳の中に、その木棺を粘土で覆い粘土槨とするものがある。手古塚古墳・北作1号墳・新皇塚古墳などであるが、後期に属す山王山古墳にそれが認められたとされるのは興味深い。粘土を木炭に置き替えた例も認められるが、それは床にのみ敷いただけのものか木棺を覆ったものか不明の例が多い。能満寺古墳・大日山古墳などがある。

中期に入って新しく登場するのが長持形石棺である。銚子塚古墳は全容が知られず、三之分目大塚山古墳のそれは片岩を用いて形態も変化したものである。両者とも中期における地域の首長墓と考え得るものであるが、中期の首長墓がすべて長持形石棺を埋葬施設としているわけではない。姉崎二子塚古墳は木棺直葬と推定され、内裏塚古墳は竪穴式石室である。房総において前期の典型的竪穴式石室は認められず、内裏塚古墳のそれは朝鮮半島南部の埋葬施設の影響を受けたものかと推測される。同じ小糸川流域に近い弁天山古墳では天井石に縄掛突起をもつ竪穴式石室がある。

後期に入って、横穴式石室が埋葬施設として採用される。多くは6世紀中葉以降に導入され、その初例は首長墓である大型前方後円墳に認められると考えてよい。横穴式石室の構造も一様でなく、系統の異なるものがある。横穴式石室の構築に用いられる用材は、近隣に産出する石材であることが多い。同じ頃から、箱式石棺も採用され始める。それは房総北部に多く、片岩を用いる石棺が古くて地元産出の凝灰質泥岩を用いる石棺は新しいという傾向がある。片岩は利根川をこえた茨城県の筑波山麓から水運を利用して供給されたものを用いている。なお、房総北部の古墳の埋葬施設となる箱式石棺は墳丘裾部に設置されることの多いのが特徴であり、小さな石棺に多人数を埋葬していたことも認められている。東京湾岸の古墳に構築された横穴式石室には、内部に箱式石棺を設置するものがある。金鈴塚古墳の箱式石棺である片岩は、遠く秩父から運ばれたものと推定されているが、内裏塚古墳群中の横穴式石室には石室用材の砂岩と異なる凝灰質泥岩を箱式石棺材として用いていることがある。安房の鴨川市と、木更津市には刳抜式石棺がある。

晩期に近くなると、横穴式石室の構造が複室構造となる例が認められ、その後、再び単室化にむかう。晩期の後半

には、一部の地域で、木棺を直葬しただけの埋葬施設とする例が見受けられる。

5．埴輪

墳丘の外表を飾る葺石は、内裏塚古墳に存在するとされる以外は、顕著でない。

埴輪も、前期の古墳には円筒埴輪や形象埴輪も認められない。房総において埴輪が採用されるのは、中期に入ってからである。三之分目大塚山古墳では野焼き焼成とされる黒斑のある埴輪が見られ、房総北部の初例として注目される。一方、東京湾岸では内裏塚古墳に、窖窯焼成とされる埴輪が見られ、埴輪の採用は一歩遅れたかのように見えるが、両墳の年代は余り差がなく、東京湾岸では新しい技法により生産された埴輪が導入されたと考えたほうがよい。この内裏塚古墳の外縁で人物埴輪が発見され、房総のみならず関東でも初期の人物埴輪である可能性が高いことは注目される。

後期に入って、人物埴輪の樹立が多く見られるのも房総の特色である。著名な古墳には、城山1号墳・殿塚古墳・姫塚古墳などがあり、大型前方後円墳に限らず小型古墳にも樹立される。現在のところ、房総北部に数多く認められるが、その地に埴輪生産窯が集中して存在した可能性は少なく、むしろ、埴輪製作工人が各地を渡り歩いて散発的な供給を行っていたと考えられるのも特色の1つである。その意味で、東京湾岸の山倉1号墳の人物埴輪が埼玉県における製作品と似ているのも興味深い。

第2節　房総における横穴墓について

椙　山　林　継

1．横穴墓の呼称と範囲

横穴墓（おうけつぼ）は、山腹あるいは丘陵の傾斜面に横穴を穿ち墓室とした墓の一形式である。「よこあな」と呼んでも差しつかえないが、横穴式石室と呼称する墳丘に構築された石室古墳と区別するために便宜上音読みすることにしている。

後に横穴墓の墳丘、また所在する丘陵（山）の持つ意味等についてふれることになるが、基本的には墳丘を構築していない。

また自然の洞窟を利用した墓は洞窟葬として一般には扱っているが、房総の沿岸部には海蝕洞窟に多少手を加えて、利用した横穴墓がある。

一方横穴墓は一般的に遺体を火葬することなく納置するものであるが、時代の新しくなるに従い、火葬骨を納めたものが現われる。さらに中世、鎌倉を中心に「やぐら」と呼ばれる墓が流行する。これは横穴墓の流れを汲むものであるが、仏教の影響が著しく、塔婆（五輪塔、宝篋印塔、板石塔婆他）あるいは仏像等を設けて、窟内寺院（納骨堂）状を呈するものとなり、明らかに前代の横穴墓と区別できる。しかし、これも既存の横穴墓に手を加え利用しているものもあり、その接点では判別のむづかしい例が見られる。さらにこれらの流れかと思われるが、火葬でない地下式壙が中世後半にみられる。地下式壙あるいは地下式横穴墓は、既に宮崎県西都原古墳群中などで、五世紀代のものがあり、本県でも横穴墓に混在して数個所で報告されている。これも形状類似、系譜上のつながりはあろうが、一応区別して考えられると思う。

このように横穴墓の範囲を限定して以下房総半島における概要を記してみよう。

2．研究略史

本県の横穴墓の調査研究あるいは紹介は、その存在が目立っていたためか、比較的早く明治19年「上総地方洞穴及私考」『人類学会報告』第9号誌上に黒木安雄が発表して以降、翌年にも市原郡下のものが紹介されるなど、継続して盛土墳丘の古墳と共に個々の遺構、遺物が明らかにされて来た。もっとも明治の末年から大正にかけては、ほとんど報告例がない。大正15年大網町宮谷横穴が『史蹟名勝天然紀念物調査』第2輯に報告され、以後「一宮町ノ横穴」同第5輯、昭和3年。「鳥滝村外部田横穴」「鶴舞町大和田横穴」「同町池和田横穴」「豊房村南条横穴群及ビ東長田横穴群」同6輯（昭和4年）など、史蹟として報告保存されるようになって来る。

ここでも明らかなように、東上総を中心とするもの、これに隣接した養老川上流部と、西上総の当時君津郡下のもの、それに安房地方の例と、三大集中地区があらわれている。

小熊吉蔵が現在の君津市小山野地区を中心とした横穴墓群を調査し、謄写印刷して紹介したのも、この頃と思われ、壁画、地下式横穴の紹介、棺台による分類などの試みがされはじめている。三木文雄「上総国長生郡二宮本郷村押日横穴群の研究」『人類学雑誌』261－2も東上総の詳細な研究例としてあげられる。

昭和20年以降、調査も報文も数を増しはじめるが、君塚文雄「安房郡における横穴群の分布とその類型学的研究」『房総地理』5、昭和29年では、安房一郡の分布を確認するとともに、岩層の問題、壁画あるいは後の「ヤグラ」への移行などにふれ、さらに群の構成も、併列式、階段式と分け、個々の形状も平面形を中心に据台式、据棺式、龕式

と分類している。

ここで多少気になるのは「横穴古墳」という呼称であるが「浪花の横穴古墳について」『房総史学』1巻1号、昭和30年等この時期には比較的多用されたように思われる。

その後多くの報告書があるが、東上総では上智大学史学会研究報告として『東上総の社会と文化』昭和43年。『長柄町史』研究編など総合的に検討されたものである。この後者は、昭和52年の同じ年に、斎藤忠により別に『長柄横穴群』として単行本とされ、より詳しい内容が刊行されている。

下総地区では昭和47年渋谷興平『横穴の研究―利根川流域の調査』等があり、西上総では、昭和48年『大満横穴群調査報告』に佐藤克巳が分類しており、昭和52年『西山横穴群調査報告書』には、牛房茂行が模式図をあげて形態分類を行い、平面形のみでなく、総合的に分類を試みている。またこの報告書では、湊川流域全域の分布を概観し、吉村光敏は横穴墓の立地と地形、地質の関係を地理学の立場より解明している。さらに文献史料にみえるこの地域社会の状況を椙山が紹介するなど、横穴墓群の成立を自然条件、社会的背景等総合的に追求しようと、グループ研究されるようになって来た。

なお今回の全県下所在調査事業で、これまでの各地区の分布が総合化される。その前段階のものとしては、『千葉県文化財センター研究紀要』4「考古学から見た房総文化―古墳時代―墓制の基礎資料」昭和54年3月があり、文献目録、古墳概要（横穴墓を含む）を地区別にまとめられている。

3．個別の構造と群構成

形状の分類

横穴墓の形状、構造については、東上総の長柄町所在横穴墓等を中心とした斎藤忠、西上総湊川流域中心の佐藤克巳、戸倉（牛房）茂行、利根川流域の渋谷興平等々で模式化され、形式の検討がされている。

『長柄横穴群』では、この地方に特に顕著な玄室部分の高さに注目し、「玄室内における高壇のとりつけによる分類」を行い。天井部の形式は、ドーム型、蒲鉾型、家型、宝形型の四つに分類し、さらに「玄室床面の型式と棺座の数とによる分類」等細分されている。『西山横穴群調査報告書』で牛房茂行は玄室平面形態、棺台形態、棺床形態、天井形態を平、断面図の模式図で示し分類している。玄室平面形態は六っに分け、正方形、横長、縦長、奥壁間口の広い台形、玄門部側間口の広い台形、それに円形あるいは楕円形としている。現状把握の結果このように分けることは必要であろうが、構築の意図を考えると、円形などは如何であろうか、八角形あるいは円形プランは、本来それなりの意味を持つであろうから、退化したものでのみ一形式を独立させる必要はないと思われる。台形についても今少し意義づけがほしい。牛房は「玄室では遺体を何かの形で安置する機能を有し、羨道あるいはその延長部分としての玄室床面と区別され、これから一段高くなる部分がある場合、これを棺台として」「この棺台上において、何かの形で保護された遺体や遺体そのものが直接に触れる部分を棺床とした」としている。玄室内の高壇部分のあり方を分けた斎藤忠の分類と類似したもので、これに縁どりの状況を四段階に分け、特例として「壁内棺床」（壁面への堀り込み、君塚文雄の龕式）を加え五種にしている。天井形態として家型寄棟平入、家型切妻平入、家型切妻妻入、家型宝形、横アーチ型、アーチ型、ドーム型、平型と分けられている。

横穴墓全体の形態分類としては、この平面形と天井形式の組み合せた分類が、最も把握しやすいように思う。また基本的な構築意図から横穴が家形以外を考えているか否か、多少疑問も残るが、現在では、家型宝形、及び家型寄棟の退化形としてドーム天井、家型切妻の退化形としてアーチ天井を考えてよいと思われる。これに平入、妻入を組み、別に偏平天井を加えることができる。

尚千葉県内の横穴墓では複室構造は殆んどないが、宮城県、福島県等の装飾横穴墓では複室構造が見られる。また安房地区などで、奥壁に棺台部を設けたのか、棺室部として複室構造を意識したのか、詳細な検討を加えなければ判明しないものがある。また前庭部構造が判明していない横穴墓が多いので——多くは埋没している——形態分類は暫定的な部分を含んでいる。

棺部分の状況

既に棺台、棺床にふれたが、横穴内の遺体納置方法には数種類あったと思われる。木棺あるいは布帛、編物等によって包んだ遺体を床面上に置くもの、あるいは木製等の棺台上に置くもの、その棺が移動しないように縁を造り出したもの、木棺はほとんど使用せず、衣類、編物等で包んで、造り出した棺部に納めたもの、こうなると棺部分は深く堀り込まれるようになる。東上総の場合は前者が多く、西上総では後者が多い。埼玉県の吉見百穴など北武蔵でも前者であり、南武蔵になると棺部分の造り出しが非常に少なくなる。西上総の深い棺部分には、その上部に蓋があったと見られ、木製のものは残存しないが、西山横穴で板状切石の蓋をした例が検出されている。

棺部分を造り出した場合、その位置と数により多種多様に分類されている。一棺から四棺であるが、最も多いのは二～三棺である。一棺の場合、静岡県宇藤ヶ谷横穴中央一棺造り出しの例があるが、千葉県内でも奥壁に添って主軸直交型の例が数例みられる。主軸並行型では左右いずれかに片寄ることが多く、中央の例はないと言ってよかろう。

閉塞の状況

玄室部分の閉塞は、門状の木材を使用して板材等による閉塞が多かったと思われ、この門を挿したと思われる孔が羨道部壁面左右に残されていることが多い。これも羨道入口部分と、羨道奥部分、玄室玄門部分等に分けれらる。玄室側玄門部分には板材を横架して、落し蓋状に閉塞したと見られる溝の堀られた例もある。特に東上総の玄室部が高い壇状となる場合は、この封鎖方法で板石を使用すると、外部から玄室の存在を隠すことができる。また観音開き、一方開きのドア状の戸を設けたと見られる「ほぞ穴」が上下に残された例もあり、板石が殆んど残されていないことからすると、これも木材を使用していたのかもしれない。

南武蔵などに多く見られる羨門部を立柱石等用いて閉塞する方法は、県内では例がないようであるが、大満三群3号横穴のように、羨道を長く造り、羨門部分に縁取りをした例もあるから、この部分へ板状閉塞のあったことも考えられる。また乱石積みによる閉塞、横穴式石室によく見られるような方法も西上総では所々にみられる。

群の構成については、群在、散在（少数あるいは単基）、と分けられると共に、地形上の主として自然条件からと思われる構成に、多段状（階段状）と単列（君塚文雄の併列式）状がある。もっとも多段状と称しても、墓道の失なわれた群では、整然と上段、下段あるいは中段などど別れる場合と単に接触しなければよいと言わんばかりに、高低差の異なる場合がある。

また一群の大きさについて、現在の地形によって支群を分けるなどしているが、これまでのものでは最大で5～60基であるが、今度の所在調査を検討すると、より詳細なものが判明しよう。

横穴墓の立地と方向

横穴墓は、基本的には丘陵、山腹の傾斜地にあって、堀り易く、崩壊しにくい軟質岩が露頭している場所であり、入口は地形の開けた方向が多い。もっとも一方で南を中心とする方角が選ばれていることから北に開折された谷の場合は複雑になる。

横穴墓と集落立地との関係は適確な例が未だない。なお前にもふれたが、この立地と方向について、吉村光敏の興味深い考察がある。

4．調査された横穴と出土品

昭和31年横浜市市ケ尾の横穴群が和島誠一等により調査されて依頼、前庭部の調査例が増加することになるが、それと同時に、一基の横穴に対する調査仕事量は倍化してきた。また墓道の存在等、群全体を調査するためには覆っている土砂を全てとり払うことになる。このような形で調査された例は保存されているものは極く少ない。多くは調査後破壊されている。

東上総では、一宮町柚ノ木、長南町地引、同町又富中ノ郷等の横穴群が昭和40年前後上智大学により調査されているが、前庭部未調査である。刀、鏃等武器、須恵器、土師器、玉類の他、貝輪が出土している。

北総では、単基のものが多いが、昭和47年渋谷輿平等の調査した銚子市小舟木横穴からは、直刀、刀子、鏃の他、弓の握り部分の鹿角製品が出七している。

西上総の市原市岩横穴群は、昭和49年ゴルフ場建設にともない野中徹により10基が調査され、直刀、刀子、鏃等武器類、勾玉、管玉、棗玉、丸玉、臼玉、ガラス小玉等玉類、須恵器、土師器等土器類もかなり豊富に出土し、緑釉陶器なども出土している。同市愛岩山の西国吉横穴墓8基が昭和46年杉山晋作他により調査されているが、出土品は前者と類似している。

富津市湊川流域では更和地先の西山横穴群約30基が土砂取り工事のため昭和51年野中徹他により調査され、直刀、刀子、鏃、鋸、比較的多くの玉類、須恵器、土師器が発見された。同じ流域の岩坂大満横穴は昭和27年学習院高等科史学部により調査された。一群1号墓から直刀、鏃の他、鉄製釣針、須恵器、土師器等が出土している。尚、昭和47年三群の一部が調査されたが土師器等遺物は少なかった。

小久保川下流域では、昭和28年武田宗久により岩瀬横穴群3基が発堀され、直刀、刀子、鉾、鏃、金銅製倒卵形透鍔、金銅製心葉形杏葉、銜、金銅製雲珠等の馬具類、須恵器、土師器が出土している。

染川上流の宝竜寺神宿横穴は昭和52年野中徹により調査され、鋸、鉄斧、鉋、鏃、勾玉、切子玉、丸玉等が出土している。

まとめると須恵器（坏、蓋、長頸瓶、平瓶、短頸壷、椀、広口大形壷、高坏、台付長頸壷、𤭯、甕、大甕、横瓶、）土師器（坏、椀、高坏、壷、甕）の他、直刀、刀子、鏃、鉾、弓等武器、鋸、鉄斧、鉋等工具、雲珠、杏葉等馬具、漁具として釣針、勾玉、管玉、切子玉、丸玉、小玉等玉類、金銅耳環、貝輪、銅鋺（印旛郡酒々井町新堀一号出上）等出土し、後期古墳の遺物とほぼ変ることがない。

5．地域と分布

分布域は大きく西上総、安房、東上総、下総の四地区に分けて考えられる。

西上総は矢那川流域以南、小糸川、湊川を中心とした地区、安房は平群川、丸山川流域を中心とし、東上総では夷隅川、一宮川流域を中心に各々群集している。下総地区のみは小集団はみられるものの、大きな群集はなく、利根川南岸、印旛沼沿岸などに点在する。

これらの地区では横穴形態が、互に関係し合いながらも、各々の特徴がみられる。西上総では、平面形が方形を基本とし、縦長（奥行が幅に対し大）傾向にあり、天井形も宝形屋根形を基本とするドームが比較的多い、また羨道床面に対し、玄室床面は極端に落差を持たない。また棺の掘り込みは深いものが多い。これに対し東上総では、南北でその差があるが、基本的には家型平入（寄棟、切妻）を中心にする。つまり、平面は奥行より間口が広い。これの崩れた横アーチ、あるいはこれの更に崩れた天井部が多い。もっとも柱、棟木等を浮彫り表現し、家屋を明示した例は東上総にかなり多い。玄室羨道の床面差、棺部が棺座、棺床という言葉で表現されるにふさわしい状態である。

下総の例は左右二棺、天井部は崩れたドーム形が多い。安房は東上総に近いようにもみられるが、北部に行くに従い、床面、天井部ともに平坦にし、入口部分も整備されない形のものが多くみられるようになる。

6．年　代

横穴墓の個々の穴が、何時掘穿されたか、群をなすに至る経緯、その群内の掘穿順、個々の横穴の利用継続期間等々。遺物量が少ない横穴墓の場合、確実に編年を試みることは甚だ困難である。追葬による遺物のとりかたづけ、逆に持ち込みは、当然行なわれている。

出土須恵器の状況は、君津市花里山二号横穴等で、蓋付坏の身部をみると、蓋受け立上りは、まだしっかりしており、身底部の凹凸が多少あるとは言え陶邑Ⅲ（ＴＫ10～43の頃）とみられる。湊川流域の西山15号でも蓋付坏蓋部があり他の横穴にこの期の碗、甕等もみられる。しかし、この期の土器のみを出土している横穴はなく、次の段階の底部の凹凸がはげしくなるもの、あるいは蓋頂部、身底部ともに偏平になるもの、蓋受けが立たなく退化したものなどが同時に出土している。その後やや小形化した蓋付坏さらには受けの逆転し、蓋につく時期になると（中村治Ⅱ６～Ⅲ１）、遺構数は確実に増加している。フラスコ型の長頸壺も現れ、県下の横穴利用も最盛期を迎える。引き続き、八世紀初頭から前半の宝珠鈕付蓋付坏、これに伴うか、やや先行して高台付の長頸壺等、東海地方あるいは県内焼成の須恵器が検出されて、須恵器利用の最盛期は終るようである。勿論その後、八世紀後半、九世紀以降の土器もあるが造墓はなくなったのではなかろうか、少なくも西上総では、火葬墓に転換して行くようである。富津市神明山横穴群中に、玄室の幅も１ｍ程、天井は１ｍ弱のドーム状で、中央に土師器の長甕が伏せて置かれていた例があり、河原石の丁寧な閉塞をみせていたが、周囲の横穴群中最後のものと見られた。また湊川流域、加藤入山横穴群中に、かつて火葬骨の納められたものがあり、二次的利用ともみられるが、この尾根の裏、岩坂地区の大台、山田には、これまでに二十例近くの火葬墓が群集して発見されており、影響あるものと推測される。

土器以外では時期を示す遺物は少ないが、西山横穴群出土の磐玉製勾玉などには古いタイプのものがある一方、茂原市山崎18号横穴、西山横穴群の切子玉等時代特有の玉類もみられる。また、富津市岩瀬横穴出土の馬具は、飾馬具としては新しいものであるが、六世紀後半代の資料として考えられる。

この他銅鋺が、酒々井町新堀横穴群第一号横穴から出土している。須恵器平瓶、直刀、鏃、勾玉なども検出されている。

また茨城県北部から福島県浜通り地方の横穴には、しばしば飾り大刀が出土しているが房総では例が少ない。木更津市太田横穴群から昭和20年代に発見された透彫の金銅装金具などが知られるのみである。

7．他の埋葬法との関係

１）横穴式石室

横穴式石室は基本的に先行する形態であるが、一部地域で併行して存在している。

一二例をあげると、木更津市請西諏訪谷横穴群は、八基で一群となり、刀子、鏃、玉類の他、六世紀後半から七世紀前半の須恵器を出土している。これに対し、この横穴の上部台地上に請西大山台古墳群が存在し、この南方200ｍほど、古墳群の最南部に山伏作の支群があり、この五号墳は一辺約22ｍの二重周溝を持つ方墳で、墳丘は一辺約13～14ｍ、中央に切石切組積みの横穴式石室があり、追葬はしていない。須恵器は、東海産を含む、蓋付坏、長頸壺等で、七世紀終末から八世紀初頭のものとみられる。この墳丘より北側に、石室は持たないが、土壙を持ち、二重周溝で、

周溝から五号同様、高台付の身、宝珠つまみの蓋坏を出上して、ほとんど同時期と思われる一群がある。これらは横穴墓の存在を承知しながら造られた墳墓であろう。

富津市内裏塚古墳群に属する割見塚、亀塚、森山塚、野々間塚、稲荷口古墳は確認調査された範囲内では、いずれも二重周溝を持つ方墳で、造墓は七世紀中葉から後半と考えられ、凝灰岩切石切組積の石室で、特に、森山塚では、玄室床面が羨道部床面より1.2m高く造られていた。この構造は千葉県内でも他に例のないものであり天井部が失なわれていたものの、横穴墓の形状を模倣したものではないかと思われ注目された。野々間塚からは統一新羅期の壺が出土し、亀塚からは一群のフラスコ形の須恵器長頸壺が出土している。これらの方墳群の南方は、旧河道の低地を越えて、神明山、絹などの横穴群集地の丘陵に対峙している。一方は平地に方墳を築き、一方は山腹に横穴を穿って、双方望見し得た範囲であった。

木更津市請西の例では、造墓の労力に差があるとはみられないが、ここでは方墳の営造に比すると、横穴墓穿鑿の力の方が、かなり小と言えよう。

２）箱式石棺墓

板石を利用した箱式石棺が霞ケ浦沿岸地帯から下総地区に多く分布しているが、この地域にも、数は少ないものの横穴群が散在する。

この内、下総町西大須賀横穴群は、明治期に早く報告され、45基という最大規模の群をなす。他はいづれも十基以内の群で、天井部は、アーチ形、ドーム形、棺台が左右に設けられる形を基本としているが、立地が異なるためか、箱式石棺と重なることなく、また箱式石棺の影響を受けている様子もみられない。しかし、ほぼ同じ頃の墓制が別々に行なわれていることをみれば、集団の異なりか否か、今後の調査が待たれる。尚これまでに横穴墓の内へ、箱式石棺を組み立てていた例はない。西上総でみられた棺部の側石１枚を木材、或いは板石を立てて棺としている例とか、掘り込まれた棺部の蓋に板石を横架している例などは、北部の箱式石棺とは全く別のものと思われる。

３）ヤグラ

中世墳墓の「ヤグラ」との関係で、特に鎌倉に近い、西上総、安房の地域では、一部で混同もみられる。

一方二次的に使用されたり、改変されて利用されたものもある。また、富津市大満横穴群第三群の１号横穴は傘ヤグラと呼ばれ、２号横穴は朱ダルキヤグラと言われていた。この３号横穴の壁面に五輪塔に類する塔が刻みこまれており、納骨孔かと思われる後からの彫り込みもみられる。この横穴の調査中羨道部から青石塔婆の破片が検出されたが、江戸期の名主黒坂氏の日記によれば、いづれかの横穴に板碑がまつられていたことが知られる。

今地元に保管されている元徳三年八月日記年銘の板碑は、この内の一枚かとみられる。この湊川流域では、山崎ヤグラ群中に大形の五輪塔の浮彫があり、佐貫地区の像法寺裏山には元弘三年六月日銘の宝篋印塔はじめ、多くの五輪塔をもつヤグラ群がみられる。さらに相川岩見堂、環の渡辺家墓地などこの付近に集中している。

一方安房では、三芳の池之内、館山市水岡に五輪塔等が散乱し、納骨用の孔を穿った例が、数基あり、今後増加すると思われる。これらは玄門部が簡略化されたり、小規模のものもあるが、概して横穴墓のつくりに類似して区分は困難なものが多い。現在までのところ、このヤグラは鎌倉時代を迎えねば発生しないようであり、横穴の造墓の時期とは離れていると言えよう。

しかし横穴の一部には、火葬骨を納めた例がみられるのであり、埋葬利用時期とは、それほど遠くないとも言える。

４）洞窟葬

房総半島南部の海岸部には海蝕洞窟が多くみられ、これに埋葬した例が知られている。

安房神社洞窟とか、洞口洞窟など数十体という多量の人骨を出したものは、多くは弥生時代以降のものとみられるが、古墳時代の例もあり、鹿角装刀子、鹿角製鳴鏑等を出土している。さらに鋸南地区の洞穴からは、先にふれた岩

井町大黒山横穴群などを含めて、墓地として改造され利用されているようである。ただし一般的には洞穴葬は弥生時代から古墳時代初めのものが多い。

8．他地方の横穴墓との比較

関東周辺では、相模、南武蔵、常陸、福島県の浜通りから宮城県へと群集してある。これらと比すれば、相模、武蔵では、初めのものはアーチ状天井、平面形は長方形のようだが、まもなく変化させられて、妻入り家形で柱を表現した町田市玉田谷戸横穴墓群などでも徐々に奥壁部に高さの最高地点を設け、玄門部に向うにしたがい、幅狭く、背も低くなる傾向となる。棺座は切り込み表現するものは少なく、玄室床面が段々に高くなるものが多い。

房総では一例もないが、福島県を中心とした装飾古墳では複室構造のものがみられ、これは九州の一部地域のものと類似している。

また東上総を中心とした家屋内表現、柱やたるきの浮彫りは、町田市玉田谷戸や福島県その他にもみられるが、東上総ほど集中して数多く見られる地区はないであろう。

西上総の横穴が宝形造り屋根形で、方形プラン、棺の深い彫り込みを基本としているのに対し、東上総では、平入寄棟、平入切妻の天井部を基本としていたようであり、武蔵の妻入切妻、同寄棟を主とするものなど、それぞれの地域で発展するものもあろうが、九州地区などで、詳細な分布調査が行われると、あるいは特徴のある個々の群との結びつきが生じるかもしれない。

なお北陸、東海等でもかなりの横穴墓群があり、調査がされてもいる。また大阪府の高井田横穴、奈良県の岩屋谷横穴など周囲と隔絶した群があって、集団の相違から来る墓葬の特異性かとも思われるが、全国的に形状等を比較するためには、個々の群の特徴をつかむ必要があろう。

9．特殊な横穴墓について

塗彩された横穴

富津市大満横穴第三群2号横穴は、地元で朱ダルキヤグラと呼ばれ、古くから開口していたが、現在でも赤色顔料が全面に残っている。この横穴は群中最も古いと見られ、羨道床面から玄室床面まで0.7m、ほぼ方形の玄室に二棺が掘り込まれ、中心軸線よりやや片よって、片袖式に近い羨道のつき方となっている。天井は中央に方形の浅い掘り込みがあり、ここから四方に下り棟を示す面取りがあり、方形造りとなっている。群中最高所に位置する3基の横穴の内でも、やや南面して、左に隣接する1号により多少切り取られた可能性もある。

現在までのところ室内全面に赤色顔料を塗布した横穴を他に知らない。千葉県内では装飾横穴もなく、横穴式石室でも芝山の殿塚古墳など類例は少ない。県外でもやはり例は少ないが、茨城県カンブリ横穴、同県勝田市の虎塚古墳の横穴式石室など模様とか、物を赤色顔料で描いたものはあるが、全面塗彩はあまりないようである。しかし九州では、横口系石室をはじめ横穴式石室はかなり彩色されたものが多い。

貝を敷いた横穴

横穴式石室や横穴墓で、貝殻を床に敷いてこの上に遺体を安置した例にぶつかる。

光江章が君津市の虫神古墳について紹介した折、古墳7基、横穴墓27基の貝殻敷き例を集め、ハマグリ13例、ツメタ貝9例、ウチムラサキ8例、マガキ8例、サルボウ7例、ベンケイ貝7例、イタヤ貝7例、アカニシ7例等35種の貝名をあげられ集計している。これらの横穴や古墳は、西上総にかなり多く見られ、銚子市赤塚、東庄町今郡等一部を除き、九割程が富津市域内と言える。これは調査者の知見範囲にかなり影響されているかもしれないが、三島格他

『城二号墳』昭和56年の報告によると、熊本県、佐賀県を中心に18例があげられ、この内には「サンゴ」あるいは「サンゴと石灰藻」などがある。この有明海沿岸地域は房総に類似して、横穴式石室から貝製の馬具の比較的多く出土する地域でもある。昭和58年6月、袖ケ浦町郷土博物館の館報2号に「貝殻を敷いた墓室」と題して小文を書いたが、この時、柿本人麻呂の辞世歌群に、妻、依羅娘子の「今日今日と、わが待つ君は、石川の、貝に（一に云ふ、谷に）交りてありと、いはずやも」あるいは丹比真人が人麻呂の心をもって「荒波に寄りくる玉を枕に置き、われここにありと誰か告げけむ」などの歌を引き、梅原猛の『水底の歌』に人麻呂が石見国に流罪となり、水死刑となったとし、「どうして土に埋めた死体が貝と交わるということがあろうか、貝は水底および水底近くにいるものである…」という話しを批判して、持ち運ばれた貝の上に置かれた遺体のあったことをのべ、人麻呂が海に関係する出自であり、海の民にとって貝は、『古事記』の大穴牟遅神は「蛤貝ひめ」が「きさげ」あつめ、「蛤貝ひめ」が水を持って「母の乳汁」と塗ると「麗しき壮夫」に成り出でて遊行いたという話しにでてくる貝であり、母なる貝、復活の貝、常世の使であって、奥津城に海の貝を、あるいはサンゴを敷きつめて、また波に寄せられた玉石を敷きつめて清らかな上に遺体を置いたのではないだろうか、無論、排水などの効果もあったろうが、より強く、清浄、そして海への回帰があったのではなかろうかとした。

舟の線刻画が横穴墓の造墓期のものであるか否か、まだ疑問も多いが、房総の横穴の壁画としては、舟が最も多い、九州の装飾古墳の直弧文が、海の神、龍蛇の紋様であるとすれば（拙稿「直弧文の世界」国学院大学考古学資料館紀要3）これらも含めて考えることができよう。

文字の書かれた横穴

後世のいたづら書きや、ヤグラとして供養文を書いたもの等とは別に、横穴墓として使用された折に書き込まれたのではないかとする文字が、富津市の綱横穴群に、「許世」「大同元年」（1号）、「木」（10号）等とある。これは県指定史跡となって保存されているが、これより南方小久保川の中流、岩井作横穴群中に「倭文」と羨道両側に記入された文字が発見され、これは土砂取り地であったため記録保存となり、文字部分を切り取り保存することとなった。

この「許世」が巨勢氏、「木」は紀氏、「倭文」はしどり部などに結びつけられ、古代における西上総地方に生活していた氏族であり、その奥津城に書き残されたものとされる。

大同元年は西暦806年となり、九世紀初頭この墓は穿堀されたとする。一歩譲って、二次的利用の際に書かれたとするにして、9世紀にも使用されていたとする。

但し、大同二年坂上田村麻呂は奥州蝦夷を平定したとし、この年を創立年代とする神社仏閣が関東地方に多いことも事実である。これらの由緒縁起については正しく伝えているものもあろうが、多くはこれにかけて話しているとしか思えないものもある。つまり大変疑い多い年代でもある。今後さらに検討の必要な件であろう。

舟の線刻

富津市大満横穴群の一群に大形の帆を張った船、網を引く舟、その他が描かれている。これは報告書で紹介されている。これより約180m離れた水神横穴群中にも、いくつか描かれており、安房地方にもある。これらの舟は、漁船のみでなく、大形の帆を使用していたり、漁船でも網を引くなど、かなり発達がうかがわれ、古代のものとは考えられない。しかし、玄室天井上など描きにくい場所にも書れたりしていて、後世の二次的利用時に描かれたとしてもよいのかもしれない。しかし戸倉の調査によっても相当量の例があり、あるいは一部は横穴の時代に線で刻まれた可能も捨てきれない。

10．横穴墓の墓前祭と寺院

富津市大満横穴群第三群1号横穴は、羨道入口部分が、地山から切り出した方形部によって、トンネルの入口のよ

うになり、その方形部の上には山の傾斜面からくる水を排水するように溝を切り、いかにも門を造っているようであった。この前庭部分について調査した結果、一対の堀り込みを検出したが、それが、柱穴であるか否か、明らかではなく、上部構造を推量することは困難であった。しかしこのような構造は、これまで横穴では例を知らない。

宮城県竹の花横穴で、前庭部に石柱が立っていた痕跡があり、外部構造を持つことが知られている他、群馬県の蛇穴山古墳、あるいは奈良県の文珠院西古墳など終末期古墳の入口部分は墳丘外に露出していた可能性を持ち、入口天井石に切り込み加工されているもので、この前に木造の施設があったと考えられる。七世紀以降は、地方寺院も成立する頃であり、終末期大形墳墓と古代寺堂との関連も指摘されるようになる。大満横穴の崖面下の山麓部には、後世寺があったと伝え、御坊井戸と呼ぶ古井戸が二三ある。未調査で明らかではないが、大満寺址と称するのは、横穴群の尾根上平坦地を通常は指していて、井戸とは上下離れているが、この付近に将来寺院址が発見される可能性がある。

いずれにしても、市ケ尾横穴群以来、前庭部の調査が各地でされるようになり、ここに墓前祭の行なわれていることが明らかとなっているが、房総では、まだ発掘例が多いとは言えず、これからさらに好例も増すことと思われる。

11. 横穴の墳丘

横穴墓は、本来山腹に穿つものであるから墳丘を持つことはない。しかし横穴がある直上に墳丘があって、これを発掘調査しても殆んど遺物、遺構を持たない場合がある。富津市向原古墳群を発掘し、その報告書を作成した時、第2号墳は、細尾根上に前方後円形をなし、全長約46ｍの地山を整形しただけのもので、主体部となる土壙一つ発見されなかったが、この後円部分南西直下に、向原1号横穴が開口し、直刀、刀子、槍先、鏃、青銅釧、土師器が出土している。土師器は、須恵Ⅲの蓋付坏の身と蓋を共に模倣したもので、身には赤色の塗彩があり、六世紀末頃かと見られる。昭和56年に報告書では、関係を疑いながら墳丘の方が先行するであろうと書いたが、その後、安房三芳村の明石あるいは市原市大和田などで古墳と下部横穴の関係を知り、さらに福岡県竹並横穴群で、墳丘を持った例が確実となり、注意してみると、やせ尾根の中腹に、群集してないで穿たれた横穴は、その上部の尾根すじに整形の痕跡が窺えそうである。盛土があっても比較的薄く、よほど注意しないと明らかにできないようである。茂原市の山埼横穴群の報告書を見ると、この例にあげてよいようである。今後類例が増えれば、見かけの墳丘を持った横穴が知られるようになろう。

さらに、「見かけ墳丘」について言えば、墓の目標物、標山としての性格をもち、墓山の景観上、その岩盤など自然条件に加えて、山形も選択の条件に入っていた可能性がある。

古墳の埋葬主部が本来の位置であった墳頂から降って、墳丘の麓や、かたわらに埋められるようになるのと相通じる考え方が、この「墓山」に見られると言えよう。

12. 横穴墓群と地域集団

横穴墓の造墓が、房総地区では六世紀後半にはじまり、七世紀に盛期を迎え、その後八世紀にも利用のピークは持続されていたとすると、この造墓、使用は、律令制の成立期と重なり、戸籍などの造られ、定着化していく時期と言えよう。これまでにも房総の横穴に対し、古代氏族構成、人口などについて考察を加えたものがあり、小生も西山横穴群の報告に、天羽地区の例をあげてみたが、現実に当時の集落の調査が伴なわず、はがゆさを禁じえない。今後は横穴墓の個々の調査でなく、広範囲の集落、耕地、景観等々まで含めた調査が行なわれると、横穴墓が、極く上層部の墳墓でないことと合せて、地域史研究に重要な意義を持つであろうことを再認識しておきたい。

第3節　房総における方形周溝墓等について

山　岸　良　二

1. はじめに

今回の分布調査により古墳時代前期（一部、弥生時代終末期を含む）に該当する周溝墓等の墳墓の主なる類例は別表の如くである。

本県における周溝墓研究史については既に1970年代までは『原史墓制研究』に、それ以降については山岸、築比地などの論考にまとめられている。また、1981年春日本考古学協会総会で実施された「シンポジウム　関東における古墳出現期の諸問題」をかわきりにその後、各地で開催された様々なシンポジウム、研究会などで配布された資料にその時点での集成がある。これらの配布資料が単なるデータ集成のみに終始している背景には1977年22遺跡であった本県の全周溝墓類例数がわずか10年後の1987年には104遺跡にも激増しているといった外因などが挙げられよう。

このようなことは、今日周溝墓検出遺跡数を全国的にみた時、大阪府・埼玉県・滋賀県と並んで本県が突出した数値を示していることからも傍証されよう。

さらに、本県では古墳時代終末期～奈良・平安時代にかけて「火葬墓・再葬墓・洗骨墓」などの改葬墓系の方形周溝状遺構（名称については諸税提起されている）などが多数検出されており、方形を基調とする墓制の流れを弥生時代を上限に継続的に追うことの出来る特異な様相をも示している。

以上のような現状の中で本稿では、弥生時代終末期～古墳時代前期頃までの「周溝墓等の墳墓」につき〈県内地域別概要〉〈遺構別概観〉などをまとめていこうとするものである。尚集成した資料についてはあくまでも主要な遺跡に限り、原則として本報告未刊行・調査中の例などは省いてある。

2. 地域別概要

〔a〕　東葛地区

学史的にかなり古い時期に調査された柏市戸張山田台遺跡をはじめ2～3基程度の小規模な発見例がほとんどである。立地は谷奥部か河川に臨んだ台地端部に造墓されている例が多く、遺物面でも総体的に貧弱である。

そんな中、1989年度調査の柏市駒込遺跡では1辺の溝内に3基もの「溝内埋葬施設」を持つ例が検出された。同遺跡では溝外にも土壙を持っており、主体埋葬部との差異を考える上で注目される。また、同じ89年調査の野田市上三ケ尾宮前遺跡では7基のバラエティに富んだ周溝墓が検出されている。同時期の集落とも併存しており、その配列関係・占地関係など良好な資料を提供している。

〔b〕　印旛地区

弥生時代の当初からこの地区にはかなりの遺跡が発見されている。さらに、同代後半に入るとこの地区は房総半島における一大拠点となってくることは大崎台、江原台、飯合作各遺跡などの状況をみれば顕らかである。立地は半島状台地の先端部、台地平坦部に拡がっており、現在までの知見では印旛沼南岸地区に集中している。

佐倉市飯合作遺跡では2基の前方後方墳と23基の周溝墓が有機的に配列されている姿が示された。出土遺物面では前方後方墳からガラス玉・銅鏃、周溝墓からは管玉・ガラス玉・勾玉などが検出されさほどの差は認められない。しかし、調査時点でも顕著なる墳丘高の差が指摘されており、この差をどのように解釈するか未解決の問題である。ま

た、八千代市ヲサル山・井戸向・根現後遺跡などでは20軒を越える同時期の集落群と2～3基の平面形態の異なる周溝墓がある程度近接して併存したり、ある程度距離をもって隔絶して存在している。

〔c〕 千葉地区

南部の市原地区との隣接地域に集中している。星久喜遺跡出土の「手あぶり土器」は元来東海地方より伝来した外来系土器と思われ県内でも4～5例しかない貴重な資料といえる。この「手あぶり土器」をはじめ、東海・中部山岳地方から伝来したと考えられる「非在地系土器」は佐倉市臼井南、同江原台遺跡、市原市神門古墳群などからも出土している。

〔d〕 市原地区

急激に類例数の増加している地区である。ほとんどが8～10基を単位としており、連接はしないものの狭い地域に集合するケースがほとんどである。房総半島では印旛地区と並んで弥生時代中期にすでに居住が始まっており、今回集成のこの時期にはかなりの大集落が各地に拡がっていたものと思われる。

本報告が未刊であるが諏訪台遺跡では、弥生時代中期から古墳時代後半に至るまで連綿と様々な墳墓が構築されており動向が注目される。また、溝内から数体の人骨を出土した草刈遺跡では1基の前方後方墳と35基以上の周溝墓がいくつかのグループを成し、土器の分析から大きく3時期に分けて考えられている。

この地区のもう1つの特徴は副葬遺物にある。銅釧を5本づつ両手に着想した人骨を検出した辺田遺跡、鉄剣・刀を出した大厩、東間部多遺跡、ガラス玉などもその数量は大幅に増加し長平台遺跡では15個と13個、大厩遺跡では22個もの出土をみている。

〔e〕 君津地区

本地区も急激に類例数の増加している地区である。ここでは15年以上前に調査された木更津市請西遺跡群が注目される。弥生式土器を伴う大形のかなりの墳丘を残す「方形墳」が何基か発見され、当時からどう呼ぶか論議されてきた。その後全国的にも「弥生墳丘墓」が各地で報告されるようになったのを踏まえ、近年同遺跡の再調査が実施されている。

この地区では俵ヶ谷古墳例のように比較的墳丘をよく残す類例が多く、多量のガラス玉と焼成後穿孔の壺形土器を伴うケースが認められる。また、山王辺田、滝ノ口向台遺跡のように前期の明白な前方後方墳と近接立地しているものもある。

〔f〕 その他の地区

現状では東京湾に注ぎ込む河川流域に今回の集成が集中している。この傾向は甚だ人為的な要素（開発・調査頻度等）に左右されていると思われるが、それ以外の地域にも何遺跡か主要な類例が報告されている。

古い発見である小見川町阿玉台北遺跡では低墳丘の前方後方墳がガラス玉などを伴って発見されており、房総半島南端の千倉町健田遺跡群稲子沢遺跡でも勾玉、管玉、ガラス玉などが伴出している。

また、89年調査の茂原市国府関遺跡では市原市神門古墳と極似した「バチ形の前方後円」墳と方形周溝墓が併存して発見されている。この溝中からは多くの「非在地系」土器が検出されている。

3．遺構別概観

A．立地

立地面からみると類例のほとんどが河岸段丘、丘陵上、台地上に存し、その位置も先端部または丘陵端部に近い地点に造墓されている場合が多い。稀に日吉倉遺跡のように丘陵鞍部に3基が並んで発見されている例もある。

関東地方における周溝墓制の立地面での推移は、弥生時代中期～後期代には台地平坦部全面、低地、丘陵斜面部など様々な占地傾向が認められるが、後期中葉からは徐々に台地端部、丘陵端部へと移動してくる点が指摘されている。この傾向は前期古墳の立地に相い通ずるものである。

その一方で、埼玉県などには同時期の類例として低い河岸段丘面や河川の氾濫原上に造墓されている遺跡も報告されており注目される。

B．平面形態

（a）個別形態

既に知られているように、関東地方における周溝墓制の個別形態の変遷は次の通りである。

〔第1期〕四隅が切れるタイプ中心期－－－－須和田式、宮の台式期に該当　規模も大体均等で10メートル内外が多い　4辺の溝深は必ずしも一定では無く地形にも左右されやすい　主体部が検出されやすい

〔第2期〕多様なタイプの混在期－－－弥生時代後期　四周巡るタイプや一～二隅が切れるタイプが主流　前期のタイプで溝による区画の意義が一段ち強められたため陸橋部が減少した　同一時期でも規模に差が出てくるなおこの時期に1～2辺を欠くタイプも出てくるがこれは地形的制約に因る場合が多い

〔第3期〕四周巡るタイプ中心期－－－弥生時代終末～古墳時代初頭期　溝深はコーナー部に近くなると浅くなるたまには検出時一隅が切れているタイプで発見されることも多い　また辺中央部が外側に大きく広がる例も出てくる、これは方台部に盛土するための土量確保のためといわれる　一辺の中央に陸橋部が出てくるのもこの時期の特徴　円形ならば全周しないで1ヶ所陸橋部を設けるタイプもこれと同じ

今回集成した資料の約8割強は四周の巡るタイプであり、上記の変遷を十分裏付けている。また、一辺の中央部に陸橋のある例も上三ヶ尾宮前遺跡、戸張城山遺跡、東1号墳、東深井遺跡などで検出されている。

同一時期内における規模の格差もこの時期の特色であるが、例えば堤台遺跡では第1号墓が17×14メートル、第2号墓が7.8×7.4メートルというように2倍以上の規模差を示している。また、皿郷田茂遺跡では第3号墓が16.7×15.2メートル、第4号墓が6×4.9メートルと約2.5倍もの格差が現れている。この差は墳形の差異（前方後方形と方形）とともに被葬者層の性格などを考える上で重要な点であろう。

（b）集合形態

周溝墓のそもそもの埋葬形態は、血縁家族を母体とする一墓・複数葬・集団墓地が祖源と考えられている。このため、水野、伊藤、山岸らを中心に早い時期から群として把握すべきであるとの意見が提起されてきた。

これらの動向を踏まえて、関東地方における集合形態の変遷を見ると次のようになる。

〔第1期〕

均等化・連接化を基本とし個々の占有面積に大きな差は無い。溝の共有が見られ、集落設定時に既に墓域を居住域とある程度隔絶することが計画されていた。このため、墓域も余裕をもって占地されており、計画的な造墓が行われている。四隅の切れるタイプがこの時期の主流を成しているのは造墓のプランニングと密接に関わっているためと思

われる。

〔第２期〕

均等化が崩れ出すのはこの墓の被葬者が集落内で限定されてくるためと考えられる。つまり前期では１集落内のかなりの人員がこの墓に埋葬される該当者であったため、造墓期間の間隔も頻繁であった。しかし、この期になると共同体内でも首長層のような限られた集団のみが埋葬されるようになるため、どうしても造墓期間が空くようになる。このため、連接もせいぜい２～３連接程度である。これを２～３世代（累世）墓とみるか、夫婦・同子墓（家族）とみるか、親族墓とみるか意見の分かれる点である。

〔第３期〕

均等化・連接化は完全に崩れ、存立期間の比較的長い集落に関して第２期の傾向が若干残存するようである。また、第２期ほど居住域との明確な隔絶が意識されないようになり個々の墓単位で隔絶性を明示する必要性に迫られ、盛土・墳丘などの立面指標を意識的に構築していく傾向がみられる。これは、被葬者に集中する権力があることの指標でもある。なかには造墓段階で前時期の墓を壊すケースも出てくる。

C．立面形態

近年、盛土・墳丘をもつ周溝墓が全国的に注目を集めているが現在まで発見されている類例中顕らかな盛土・墳丘をもつものは１割にもみたない。この点について、調査水準の問題であるとか、後世の削平・攪乱されたとか等の意見も出されているがやや強引な感は否めない。もちろん、平面区画のための溝構築後、その排土を方台部に積んだことは容易に想像出来る点であり、旧地表面よりかなりの高まりがあったことは間違いなかろう。

本県でも、請西遺跡群内の庚申塚例や田川２号墓や飯合作遺跡例に0.7～1.2メートルほどの墳丘を持つ例がある。

D．埋葬施設

（a）主体部埋葬施設

原則として、素堀り土壙と木棺直葬の２つが挙げられる。木棺の場合、粘土かローム土を壁・床に敷き詰め、その中に埋置することがある。また、土壙では外弯する形状を示すものもかなりあり土質に対する堀削道具の備用に関連すると思われる。

周溝墓制全体でみると主体部埋葬が発見される比率は古い時期ほど高いようである。これは前稿でも触れたように、第１期は原則として「地山掘り込み」型で第２期以降盛土・墳丘部内に「堀り込む」型が順次出現してくるためと思われる。

その一方で同じような状況で発掘調査が実施されているにもかかわらず、主体部埋葬が検出されている例と検出されない例とが同居する場合もある。例えば、神々廻遺跡では全部で５基検出されたが、この内同一地点の４基中１基のみ主体部埋葬施設が２ヶ所検出されている。このような類例は全国的にみるとかなりある。このため先に挙げた埋葬方法以外にも、地山上・盛土上・墳丘上に棺を「据え置く」型の方法も採用されていた可能性も指摘されている。

主体部周辺のいわゆる方台部内に埋葬施設をもつ例もある。畿内では弥生時代全期を通じて方台部に「壺棺」「甕棺」などの土器棺墓を伴う例が数多くみられる。今回の集成では戸張城山遺跡で長方形の土壙内に「合口甕棺」が、また草刈遺跡でも壺棺・甕棺が発見されている。

（b）溝内埋葬施設

関東地方に出現してくる早い時期から溝内に意味不明の「落ち込み」「段差」などがあることは一部で注意はされていたが、積極的にこの遺構を埋葬施設として解釈していく端緒は飯合作遺跡の調査以降である。同遺跡ではD08号、

D09号の２基の溝内に明確な小口板をたてるための溝跡や小孔が検出され、さらにガラス玉、管玉、水晶玉などの遺物も付近より発見されている。

この他、馬ノ口遺跡第２号墓では北溝内の隅丸長方形の土壙内から玉類５点が検出されている。また、草刈遺跡Ｂ－１（旧称　Ｂ－192）号墓の周溝からは成人女性（身長160㎝）１体と成人の大腿骨、若者の歯、８歳児の歯、などが発見されており、この内成人女性は溝底に約15㎝のローム ブロックを敷き詰め、両手首に計３個の管玉を装着していた。

このような「溝内埋葬土壙」と思われる例は他に提台、ヲサル山、長平台、田川、日吉倉遺跡などで発見されている。

E．遺物

（a）　土器

周溝墓で出土する遺物の８割以上は土器である。それら土器の内、底部・胴部などに穿孔するいわゆる「穿孔土器」と、朱などを塗布する「朱塗土器」が古くより注目されてきた。南関東地方におけるこれらの土器群の変遷は概ね次のように推移する。

〔第１期〕

穿孔・破砕土器両者の数量的差異はない。穿孔は焼成後で、外側からが主。器形は壺形土器が多いが他の器形もある。溝内出土の場合、溝底密着か直上が多い。１基につき１～２個体にすぎない。１遺跡でこの種の土器を伴う周溝墓の比率は低い。

〔第２期〕

穿孔土器が主となり、破砕土器の比率は下がる。穿孔は焼成後と焼成前とが混在する。穿孔は内側より底部に集中。器形は壺形土器が大多数。溝内出土の場合、溝底より浮いている。溝のコーナー付近または端部に多い。個体数は少ない、１基１個体位。外来系の穿孔土器も出てくる。

〔第３期〕

穿孔土器がほとんど。同一個体が離れて出土。穿孔は焼成前で底部が主となる。器形は壺形土器で朱塗土器。１遺跡内で特殊な周溝墓からまとまって出土。溝底からかなり浮いて出土。

今回の該当時期は上記の第２～３期にあたる。例えば、田川１号墓では溝内より42点もの土器が出土しているが、それらの内訳は壺形10（内、朱塗７・穿孔５）点、坏形４（朱塗３・穿孔１）点、坩形２（朱塗１）点、甕形22（朱塗１・穿孔１）点、高坏形２（朱塗１）点、器台形（朱塗１）点、椀形１点で、穿孔は全て焼成後の内より外への穿孔である。また、飯合作遺跡では土器の本来的な「供献」状態を知る上で良好な資料が提供されている。前方後方である２号墳の前方部をはさんで、南と北両方の溝から同一個体破片が、D06・D19号墓からも北溝と南溝から同一個体破片が発見されている。この事実はこれらの土器が当初は方台部に「供献」されていたものの、その後崩落したことを示唆している。

（b）土器以外の遺物

南関東地方への周溝墓制の波及を考える上で金属器の伴出し始める時期は重要なポイントである。今回の集成でも「鉄剣」「銅釧」「鉄鏃」などが埋葬施設に伴って検出されている。これら金属器と溝の１部が切れるタイプの周溝墓との関連についてはすでに田中らの論考で指摘されており、本県での現状でも十分追認出来る事象である。

銅釧については、市原市辺田１号墳下（根田遺跡）の２基からは人骨に着装された状態で５本の銅釧がそれぞれ１組づつ発見されており、同市長平台例や袖ヶ浦町荒久例とともに小規模な周溝墓からの出土が注目される。

一方、玉類ではガラス玉の出土類例が増加している。市原市長平台遺跡では第２号墓の中央主体部から銅釧１、ガラス玉15、溝内埋葬部からガラス玉13、第１号墳の中央主体部（木棺直葬）から鉄剣１、ガラス玉15を検出している。

また、木更津市請西遺跡群庚申塚遺跡第1号墓からはコバルトブルーのガラス玉14、スカイブルーのガラス玉128という大量の検出をみている。

中部山岳地方では弥生時代後期初頭より玉類と金属器の伴出が指摘されており、本地域にはもう1時期遅れてこの傾向が現れるようである。

最後に周溝墓の溝から時折「すり石」「石錘」「石皿」などが出る。今回の集成にも1～2例ある。

F．集落との関係

同時期の集落と併存する類例は必ずしも多くはない。

千葉市馬ノ口遺跡では3基に墓に対して10軒内外の住居址が対応すると考えられ、土器群の観察から第1・2号墓⟶17・22号住居址、第3号墓⟶61号住居址との関連を説いている。

また、市原市蛇谷遺跡では住居址の規模・方位・出土土器群などから149平方メートルの大きさをもつ方形周溝墓と全長26.5mの前方後方墳の造営に関わったであろう住居を特定している。

一方、八千代市井戸向遺跡ではタイプの異なる3基の周溝墓に対して、30軒を越える住居群の中に偶然3軒の「ベット状遺構」を伴う住居址があり両者の関係がある程度類推されている。

一般にこの時期は3～4軒に対し1基の造墓で、弥生時代中期～後期初頭と異なり必ずしも居住域と墓域との明確なる隔絶は認められなくなる。今回の集成でも白井町神々廻遺跡で11軒－5基、木更津市田川遺跡で23軒－2基、野田市提台遺跡11軒－3基といった数値が示されている。

4．おわりに

弥生時代～古墳時代にかけての墓制をめぐる議論は近年富に活発である。それらの諸説を簡単にまとめてみると次の3説となろう。

〔第1説〕

農耕社会開始期から首長権確立期のいわゆる前方後円墳築造期までを全て一括して「墳丘墓」とし、従来の「方形周溝墓」などを「低墳丘墓」、「土壙墓」などを「無墳丘墓」と呼称する。

〔第2説〕

土器編年に依拠し畿内における庄内式～布留式への移行を1つのメルクマールと考え、それ以前を「周溝墓」「区画墓」、それ以降を「方墳」「方丘墓」「方形墳」などと呼称する。

〔第3説〕

弥生時代終末期～古墳時代前期の限られた時期でその地域に確実なる前方後円墳が現れるまでの期間、明らかなる墳丘・盛土などをもつ墳墓に「発生期～～」「前期型～～」「初現期～～」と前に時期名を付す呼称をとる。

これらの諸説はそれぞれ複合している部分もある。このような現状を生み出す背景には考古学自体の時代区分論や「古墳」という名称に代表される専門用語の不確実性、さらには地域ごとの発掘調査頻度・練度・精度などのさまざまな諸要素があるためと思われる。

今回の集成は本書自体の編集方針に基づき、あくまでも弥生時代終末期～古墳時代前期の墳墓に限り各報告書の呼称（「方墳」「方形墓」「周溝墓」など）には拘泥せず摘出した。最後に上記の諸説を今後整理していくにあたり、今回の分析から注意すべき要点を挙げて結語としたい。

●墳墓自体の形状、規模、配列　●墳丘、盛土の有無　●埋葬施設の数と位置　●穿孔破砕土器の量と焼成前後の違い　●朱塗土器の量と比率　●金属器などとのセット関係　●同時期住居の数量的比率と配置関係

番号	遺跡名	所在市町名	基数	備考
1	東深井	流山市	1	
2	堤台	野田市	3	溝内埋葬部、焼成後底部穿孔土器5
3	上三ヶ尾宮前	野田市	7	主体部3
4	山田台	柏市	2	
5	戸張城山	柏市	3	主体部1、方台部合口甕棺1
6	稔台富山	松戸市	1	主体部1、骨粉、溝内焼土
7	溜脇	松戸市	2	
8	追花	沼南町	1	
9	復山谷	白井町	6	3基重複·溝外埋葬部1
10	神々廻B	白井町	5	1号→主体部1基、5号→主体部2基
11	酒直	栄町	4	
12	夏見大塚	船橋市	2	
13	ヲサル山	八千代市	3	溝内埋葬部、ガラス玉44、鉄釧1、硬玉勾玉1、主体部3
14	東山遺跡群久保	八千代市	2	
15	下高野新山	八千代市	1	
16	井戸向	八千代市	3	M065号主体部1
17	権現後	八千代市	2	
18	高岡遺跡群大山	佐倉市	4	ガラス玉、鉄器
19	大崎台	佐倉市	6	10号→鉄剣1、鉄鉇1、主体部2
20	臼井南	佐倉市	2	焼成後穿孔土器2
21	棒作	佐倉市	1	焼成前穿孔土器1
22	江原台	佐倉市	2	焼成後穿孔土器1
23	飯合作	佐倉市	23	1号墳37m（前方後方）·ガラス玉3·銅鏃2·焼成後穿孔土器1、2号墳36.5m（前方後方）、4号墳·焼成後穿孔土器、D03·焼成後穿孔土器2、D06·焼成後穿孔土器、D07·焼成後穿孔土器2、D08·溝内埋葬部·管玉5·ガラス玉1·水晶玉1、焼成後穿孔土器1、D09·溝内埋葬部、石製勾玉1·ガラス玉1·焼成後穿孔土器2、D11·焼成後穿孔土器2、D13·焼成後穿孔土器2、D19·焼成後穿孔土器1、D21·焼成後穿孔土器1

番号	遺跡名	所在市町名	基数	備考
24	兼坂	千葉市	1	
25	和田前	千葉市	6	
26	馬ノ口	千葉市	3	2号→溝内埋葬部、硬玉勾玉1、碧玉製管玉5、土玉 3号→土玉、土製勾玉
27	星久喜	千葉市	2	手あぶり土器
28	南二重堀	千葉市	4	
61	米ノ内	千葉市	1	
29	長平台(加茂C1号)	市原市	15	主体部→銅釧1、ガラス玉15、手あぶり土器、溝内 埋葬部4→ガラス玉13、加茂C→鉄剣1
30	天神台	市原市	13以上	
31	草刈	市原市	36	A1(前方後方)、焼成後穿孔、B1溝内埋葬部、人骨9 体、壷棺、合口甕棺
32	辺田	市原市	11	銅釧10、ガラス玉、人骨
33	東1号墳	市原市	1	
34	蛇谷	市原市	2	16号(前方後方)26.5m
35	番後台	市原市	2	
36	大厩	市原市	3	3号→滑石製有孔円板1·5号→鉄剣1·ガラス玉22 9号→ガラス小玉4
37	東間部多	市原市	1	2号墳(前方後方)35.5m、鉄剣·刀·穿孔土器7
38	武土	市原市	3	
39	雪解沢	市原市	8	
40	菊間1号	市原市	1	
41	諏訪台	市原市	20以上	33号墳(前方後方)21m、他2基以上が前方後方
42	皿郷田茂	市原市	8	円形1→石錘1
43	金井崎	袖ケ浦町	5	
44	西ノ窪	袖ケ浦町	1	磨石1、焼成後穿孔土器2
45	大竹遺跡群二又堀	袖ケ浦町	8以上	
46	山王辺田	袖ケ浦町	2	Ⅱ号墳(前方後方)
47	文脇	袖ケ浦町	3	
48	滝ノ口向台	袖ケ浦町	6	

番号	遺跡名	所在市町名	基数	備考
49	尾畑台	袖ケ浦町	1	
50	荒久	袖ケ浦町	8	主体部4、銅釧、ガラス小玉
51	俵ケ谷	木更津市	6	4号墳→主体部2、管玉3、ガラス小玉49、鏡片1、水 晶勾玉1、管玉11、ガラス小玉19、捩文鏡1(墳丘下)、 5号墳→ヒスイ勾玉1、管玉2
52	蓮華寺	木更津市	1	
53	田川	木更津市	2	溝内埋葬部1、焼成後穿孔土器
54	宮脇	木更津市	4	主体部4、3号→鉄鏃1·ガラス小玉40、4号→ガラス 小玉4·焼成後穿孔土器(胴部·底部)
55	請西遺跡群庚申塚	木更津市	3	1号→主体木棺、2号→主体部1　1号→碧玉製あるい は凝灰岩製玉11·鉄石英製管玉8·ガラス玉45·2号→ 蛇紋岩製勾玉3·ガラス小玉128·底部穿孔土器
56	同野焼B	木更津市	4	
57	同東山	木更津市	3	
58	同大山台	木更津市	14	7号→底部穿孔土器、主体部1　8号→主体部1、蛇紋 岩製管玉1、水晶玉1、ガラス玉18、底部穿孔土器 57号→主体部1、鉄釘·刀子
59	同山伏作	木更津市	3	
60	駒込	柏市	3	溝内埋葬部3、溝外埋葬部2、底部穿孔土器
62	横山	大多喜町	7	円形2
63	国府関	茂原市	2	
64	国吉倉	富里町	3	
65	阿玉台北	小見川町	10	A－7号(前方後方)25.5m、円3
66	稲子沢	千倉町	2	勾玉1、管玉1、ガラス小玉3

番号	遺跡名	所在市町名	基数	備考
参	神門古墳群	市原市		

	神門5号墳	神門4号墳	神門3号墳
全長	38.5	48～49	47.5＋
径（下底間）	(上段)(27～28) 32～33	30～34	34
盛土高さ	3.2	3.35	3.10
みかけの高さ（周溝底から）	5.9	6.9	5.14
突出部(前方部)（長さ･幅）	(上段)5×5 6～7×12	14×9～14	16＋8.5～12
主軸	N82°～84°W	N66W	N63°W
墓坑規模（長さ･幅･深）	3.0＋1.2×1.3	4.05×1.2×1.2(N26°E)	4.13×1.2～1.3×0.72 3.82×0.94～1.0×0.72
出土遺物	剣1･鉄鏃2･ガラス玉6･土器13＋	剣1･槍1･ヤリガンナ1･鉄鏃41･勾玉3･管玉73＋ガラス玉420＋･土器150＋	剣1･槍1･管玉11･ヤリガンナ1･ガラス玉103･

	辺田1号墳	市原市	1	円(径33ｍ)、主体部2、小型素文鏡1、管玉1、素環頭大刀1、大刀1、槍1、剣2、鉇1、底部穿孔、焼成前壺4

第4節 房総の古墳の特質について

大塚初重

房総は南を太平洋にのぞむ長い汀線と東方は北関東から流れ出る利根川とによって区画されている。一方、西方は東京湾によって神奈川県と相対し、各地域は中小の河川によって独特の地形を現出し、河川流域やその下流域の河口附近には沖積低地が形成されている。古代における政治権力者である豪族などの首長層は、主としてこれら農業生産の発展と展開の過程で、地域の政治統轄者として成長してきたものであり、従って彼等の墳墓である古墳の分布や、その内容は地域社会の政治・経済・文化のさまざまな要素を示しているものと思われる。

このような観点から房総の古墳を大観すると、まず分布上で大きく三地域に集中していることが指摘できる。第一の地域は房総東岸地域すなわち東京湾に面した千葉市・市原市・袖ヶ浦町・木更津市・君津市・富津市にかけての沿岸地域である。中でも墳丘規模の大きい主要な前方後円墳が集中して分布するのは市原市から富津市にかけての地域である。千葉市・市原市と君津市における古墳分布数は約1,600基で、中でも富津市内裏塚古墳のように墳丘全長約145ｍで周濠をもつ大型前方後円墳を含み、東京湾に面したこの地域が、地政学上からも重要な軍事的、経済的な拠点であったと思われる。

房総の古墳分布で第二の主要な地域は印旛沼・手賀沼を中心とした東葛飾地区から印旛村・成田市周辺である。我孫子古墳群をはじめ栄町から成田市にかけの龍角寺古墳群などは総数約1,500基の大小の古墳がみとめられている。東京湾沿岸地域の古墳群が、中核として大型前方後円墳を主軸に形成されている傾向があるのに反して、古墳数は多いものの最大の前方後円墳は、龍角寺古墳群の浅間山古墳の72ｍであって後期の小古墳が多いという特色を示している。しかしこの龍角寺古墳群の中には一辺約80ｍという大型方墳の岩屋古墳があり、用明・推古両天皇陵を凌ぐ大方墳の存在が注目されている。岩屋古墳の築造を7世紀中頃と考えると、白鳳時代の仏像を有する龍角寺との関連性が浮び上ってくる。おそらく印旛国造の支配地域にあたり、岩屋古墳の被葬者も国造級の人物であった蓋然性は高い。印旛沼をのぞむ台地上の古墳群こそ北総地帯の政治権力を手中におさめた支配者層の歴史的発展の証しであろう。

房総の第三の古墳分布の集中地帯は山武郡の多古町・芝山町・横芝町・松尾町・成東町などの山武地区である。

山武・海匝地区で約1,000基の古墳分布があり、松尾町の蕪木古墳群のように、金銅製刀子や巾着形金銅製品を出土した前方後円墳が存在するが大型古墳はむしろ少い。芝山町の山田・宝馬古墳群、高田古墳群、殿部田古墳群など房総地方の中では、人物・動物埴輪がとくに盛行する点に特色がある。とりわけ人物埴輪などの表現にも山武地域的な個性がみとめられる。近年、成東町の駄ノ塚古墳の調査が行なわれ、一辺60ｍの大型方墳に横穴式石室がみとめられ、前方後円墳から大型方墳への転換がおこなわれたことが確実である。この地域の最大の前方後円墳は松尾町大堤にある大堤1号墳（権現塚）で墳丘長117ｍを測る。

房総で第四の古墳分布地域は佐原市・小見川町を中心とした香取地区の一帯である。利根川という経済・軍事両面でもきわめて重要な機能をもっていた河川とその流域地帯の掌握は支配を貫徹するためにもきわめて必要な条件であったと思われる。いわゆる水郷地帯をひかえて、東側には茨城県潮来・鹿島地方の古墳群が分布しており、香取地区の有力な古墳の登場も経済と軍事水域としての河川の航行のコントロールを掌握しえた首長の出現と関係があるように思われる。小見川町三ノ分目にある大塚山古墳は、墳丘長118ｍ、円筒埴輪列をめぐらし周濠をそなえた大型古墳である。墳頂部には発掘された長持型石棺の棺材がみとめられ、房総の五世紀古墳の中でも畿内的な特色を濃く反映した例として注目されている。またこの小見川町には京都府椿井大塚山古墳出土鏡と同笵の一号墳が存在し、飾大刀

や馬具に優品が多く、畿内の大和政権とのかなり強力なかかわり合があったと推測される。佐原市にも大戸川中宿にある60ｍの前方後円墳・禅昌寺山古墳のように、木棺直葬ながら石枕とともに画文帯鏡、鉄刀などのほか衝角付冑と挂甲、馬具一括が出土していて、近年、佐原市関の峯崎の３号横穴からは碧玉製の勾玉、鉄製品とともに金銅製押出仏が出土しており、この地域が４世紀代から７世紀末まで、利根川下流域における有力な首長層の一本拠地であったことを証している。おそらく水郷地帯という地勢上の条件から水利権を手中にして、この地域を統治したものであったと思われる。

以上、房総の古墳分布について四地域の特質を指摘したが、各地域の古墳が示す内容には、さまざまな歴史上の問題が含まれている。それらの問題点のすべてに言及する紙数の余裕はないが、とくに重要と思われる二、三の点を指摘しておきたい。

東京湾沿岸地域とくに市原市の神門３・４・５号墳の出現は、それが墳丘墓とするか古墳として把握するかの問題はのこるとしても、定形化した前方後円墳の登場に先がけて出現した墳墓であることは間違いない。神門古墳群の築造年代を３世紀後半に求めるとすれば、出土土器や出土遺物から畿内および東海地方との密接な関係のもとに登場した首長の墳墓であったと思われる。南関東における前方後円墳出現前夜の社会状況の表明でもある。東日本における最古の「古墳」という見方もされているが、少なくとも神門古墳群の成立には中央の政治権力と在地首長層との政治連合的な関係が存在したのではないかと推測される。房総地域の中にあっても、この東京湾沿岸の地域が４世紀以後７世紀まで、きわめて畿内的な色彩の濃い古墳副葬品を持ち続けているという傾向が見られ、中央の大和政権の政治的な影響力をとくに強力に受けた地域ではなかったかと思われる。こうした事実は大和政権が４世紀以来、東国への支配力を浸透させるための東国経営の拠点として、この東京湾沿岸地域をとくに重視していた結果によるものではないかと考える。これまで日本の考古学では海上交通の手段としての船舶には、舟形埴輪などから構造船の存在をみとめながらも大量の輸送方法としての効果的な船団の運用について問題にされることが少なかった。大和政権の東国支配の橋頭堡として房総の、とりわけ市原市から富津市の地域が、もっとも重要視されていたことは、今や明らかである。

房総の山間部に水源を有し養老川となって東京湾に注ぐこの河川流域には、市原市稲荷台一号墳のように「王賜」銘鉄剣の出土があり、同時に被葬者が武人であることを思わせる鉄製短甲の発見があって、有力豪族に仕える中小豪族との重層的な社会関係を示しているように思われる。５世紀から６世紀段階のこの地域では市原市江子田の金環塚古墳、姉崎二子塚古墳、山王山古墳など被葬者の新時代的な姿相、たとえば飾大刀や飾馬具の盛行、金・銀装の装身具や金銅冠の存在など、中央の新しい文化つまり新技法にもとづく甲冑や馬具や装身具の受容は房総の古墳、とりわけ東京湾沿岸に分布する古墳の特質ではないかと思われる。

市原市の山王山古墳は全長約70ｍの前方後円墳で、粘土槨からは金銅冠と金銀装単龍環頭大刀・鏡などが出土しており、冠や優品の飾大刀の所有は、山王山古墳の被葬者の地位・身分にかかわることと思われる。

市原市に続く君津市・木更津市・富津市の有力古墳は６世紀以降にますます力を充実させていったと考えられその背後には当然、大和政権の東国経営の戦略が働いていたに違いないと考えられる。木更津市の手古塚古墳が物語るように、この地域ではすでに４世紀後半から畿内の前期古墳と同等の副葬品が含まれており、中央と地方との政治勢力の結びつきの強さを証明している。木更津市の小櫃川下流南岸の祇園大塚山古墳のように、怪奇な動物文様の線刻のある金銅製眉庇付冑や800枚の金銅小札・銀製耳飾と画文帯四佛四獣鏡を含む６枚の鏡の出土など、在地首長の埋葬だとしても、金銅製挂甲や冑の所有は、第一級の地位にある人物のいわば盟主墳だと考えねばならない。祇園大塚山古墳は５世紀後半と思われるが、６～７世紀の有力古墳もこの地域には多い。木更津市の松面古墳からは金銅製双魚佩や環頭大刀・馬具が出土し、金鈴塚古墳からは1,000点を超える豊富な副葬品が発見された。とくにここでは環頭

・圭頭・円頭・方頭・頭椎・鳥首大刀など合計17口の飾大刀と、金銅製葆、金銅鈴と承盤付銅鋺なども出土していて、この地域への当代の第一級の優品の集中度が注目される。

木更津市の南の富津市の内裏塚古墳群は100ｍを超える大型古墳の分布で有名であるが、すでに明治年間の発掘で内裏塚古墳の内容は知られているし、主軸長103ｍの九条塚古墳、102ｍの稲荷山古墳も古く発掘され若干の遺品が判明している。

以上のように木更津・富津市域における５世紀後半から７世紀におよぶ古墳群の内容は、房総の古墳の中でもきわめて先進的で畿内の古墳副葬品にくらべてもほとんど差異はない。この東京湾沿岸地域の古墳にみとめられる質の高さは、この地域が海上交通の要衝であり拠点となっており、五世紀以来の大和政権の東国経営の橋頭堡であり、一大拠点であったためであると思う。またこのルートが古東海道でもあり房総のみでなく東国の古墳文化の中での、この東京湾沿岸地域の古墳の特質は、大和政権と東国豪族との政治的な関係の濃厚なあらわれであったと見るべきであろう。

第二の問題点としては佐原市・小見川町を中心とした香取地区の古墳に見られる石枕の濃厚な分布である。佐原市・下総町をはじめ、香取・印旛地区に多く出土例がある。中には市原市二子塚古墳出土例のような優品もあり、茨城県下の出土例をも含めて石枕分布圏を形成した地域性を示す氏族集団が想定できるであろう。

第三の問題としては山武地区の古墳にみられる形象埴輪の盛行である。近年、龍角寺古墳群101号墳の良好な例が加わったが、房総地方全体では利根川流域から山武地区の埴輪のあり方は、毛野や常陸の埴輪のあり方にも匹敵するものであり、埴輪生産体制の問題とともに詳細な地域的研究が期待される。おそらく房総の埴輪については「下総型埴輪」論を基礎として、埴輪工人グループの差によって県内５乃至６群の埴輪分布圏が設定できるであろう。この場合、製作技法上から利根川を軸とし、水郷地帯をも媒介として古墳時代の広域経済技術圏と首長政治支配圏との多面的な比較検討が推進されねばならない。

房総の古墳にみとめられる全般的な特質として指摘できることは、関東およびひろく東国全域の中でも、もっとも早く畿内古墳文化の洗礼を受けていることであり、４世紀以後、継続的に第一級の副葬品がみとめられることは、大和政権にとって房総の地域が重要な拠点でもあったことの証明であろう。そしてとりわけ古東海道ルートの海上からの最初の上陸地域としては養老川から小櫃川にいたる東京湾沿岸地域であったのである。

第4章　千葉県内古墳一覧

古　墳　一　覧　表

分　布　地　図

■関　宿　町

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	1A	八幡神社裏古墳	新田戸785他	円	17					○	
2	1A	親野井古墳	親野井106	円	15.5					◎	
3	1A	飯塚古墳	木間ヶ瀬字飯塚1158	不　明	不明					×	
4	1A	志部前塚	木間ヶ瀬字志部前3991他、	不　明	不明					×	

■野　田　市

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	1A	香取原古墳群	中里3477						円墳、3基		
1-1	1A	香取原1号墳	〃	円							
1-2	1A	〃　2号墳	〃	円							
1-3	1A	〃　3号墳	〃	円							
2	1B	庚申塚古墳	谷吉								
4	1B	岩名古墳	岩名				円筒				
3	2	吉春第3遺跡古墳	吉春								
5	2	堤台松山遺跡	堤台松山	方形周溝墓							
9	2	大塚山古墳群	目吹大塚山								1基残存か
6	2	角倉古墳					人物?				
7	2	桜台古墳（高崎家裏古墳）	桜台35								
8	2	桜台高崎家前遺跡	桜台35	方形周溝墓							
10	2	大畑古墳	大野埼大畑	円							
13	2	千葉カントリー古墳	二ツ塚	円	18						
12	2	上灰毛古墳	瀬戸	円							
13	2	二ツ塚古墳群	二ツ塚						8基		
13-1	2	二ツ塚1号墳	〃	円	約10			横穴式石室	須恵器(長頸壷)	×	
13-2	2	〃　2号墳	〃		約13			〃	鉄片、須恵器	×	
13-3	2	〃　3号墳	〃					〃	須恵器(壷)	×	
13-4	2	二ツ塚4号墳	二ツ塚							×	
13-5	2	〃　5号墳	〃	円	約12			横穴式石室	土師器、須恵器	×	
13-6	2	〃　6号墳	〃								
13-7	2	〃　7号墳	〃								
13-8	2	〃　8号墳	〃								
11	2	三ツ堀遺跡、52古墳	三ツ堀鴻ノ巣								
15	2	鞍の橋台古墳群	西三ケ尾倉橋台						3基		
15-1	2	鞍の橋台1号墳	〃	円	約12						
15-2	2	〃　2号墳	〃								
15-3	2	〃　3号墳	〃								
16	2	瀬戸古墳群	瀬戸土塔						円墳3基		
16-1	2	瀬戸1号墳	〃	円						×	
16-2	2	〃　2号墳	〃	円						×	
16-3	2	〃　3号墳	〃	円						×	
18		下三ケ尾古墳群	下三ケ尾						円墳3基		
18-1	2	下三ケ尾1号墳	〃								
18-2	2	〃　2号墳	〃								
18-3	2	〃　3号墳	〃								
17	2	下三ケ尾(国道西側)古墳	下三ケ尾	方							

■流　山　市

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
I-1	3	東深井第I遺跡	東深井中ノ坪	円	21m		円筒			×	
I-2	3	〃	〃	方形周溝墓							
2	3	東深井古墳群I	東深井中ノ坪						前方後円墳1基、円墳12基		

■流　山　市

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
2-1	3	東深井1号墳	〃	円							
2-2	3	〃　2号墳	〃	円							
2-3	3	東深井3号墳	東深井中ノ坪	円							
2-4	3	〃　4号墳	〃	円							
2-5	3	〃　5号墳	〃	円							
2-6	3	〃　6号墳	〃	円							
2-7	3	〃　7号墳	〃	円							
2-8	3	〃　8号墳	〃	円							
2-9	3	〃　9号墳	〃	円	21m		人物、馬、円筒				
2-10	3	〃　10号墳	〃	円							
2-11	3	〃　11号墳	〃	円							
2-12	3	〃　12号墳	〃	円							
2-13	3	〃　13号墳	〃	円							
3	3	東深井古墳群II	東深井外鴻ノ巣	円							
4	3	東深井古墳群III	〃	円							
5	3	一ノ台古墳	東深井一ノ台	円			円筒				
10	3	中野久木第II遺跡	中野久木	円形周溝墓							
11	3	中野久木古墳		円	16m		円筒	木棺直葬		△	
13	3	三輪野山向原古墳		方	20m			〃	鉄剣2、ガラス	×	
14	3	北谷津古墳	加台北谷津	方	10m			横穴式石室		×	
21	3	三本松古墳	鰭ケ崎、塚腰	前方後円							
22	3	鰭ケ崎古墳群	〃						円墳2基		
22-1	3	鰭ケ崎1号墳	3	円							
22-2	3	〃　2号墳	〃	円							
16-1	3	芝崎第1号古墳	芝崎大囲	円	15m						
16-2	3	芝崎第2号古墳	芝崎大囲	円	20m						

■柏　　市

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	3	八幡山古墳群	大青田字大橋466-1						円墳4基		別称小川古墳群
1-1	3	八幡山1号墳	〃	円	6.5	不明				◎	
1-2	3	〃　2号墳	〃	円	21	可能性有				◎	
1-3	3	〃　3号墳	〃	円	10.5					◎	
1-4	3	〃　4号墳	〃	円	不明					×	
2	3	小川向塚	大青田字小川向543-3	(円)	6.5						塚か?
3	2	大山古墳群	船戸山高野字大山						円墳2基(5基?)		
3-1	2	大山1号墳	〃	円	4.5					◎	
3-2	2	〃　2号墳	〃	円	5					◎	
4	3	きつね山古墳	大室字八反目台1845	円(前方後円)	20		円筒			○?	
5	3	前留古墳群	〃						円墳?3基		
5-1	3	前留1号墳	〃	(円)	6.5					×	塚か?1982年調査
5-2	3	〃　2号墳	〃	(円)	5(現存)					△	塚か?1982年調査
5-3	3	〃　3号墳	〃	(円)	不明					×	
6	3	西高野古墳	花野井字西高野363	円						×	
7	3	塚原古墳群	花野井字塩1395						前方後円墳1基、円墳5基(円1基は方墳の可能性あり)		
7-1	3	大塚古墳－1	〃	円	20	(有?)	円筒、形象	粘土槨	短甲、直刀、胡簶、鉄鏃、臼玉	×	1957年調査
7-2	3	大塚古墳－2	〃	円	10			不明	不明	×	1957年調査
7-3	3	やまもと古墳	花野井字塩辛1414	不明(円)	不明			横穴式石室		×	1965年調査
7-4	3	庄左衛門稲荷古墳	〃	円(方?)	25	有		割竹形木棺	直刀、鉄鏃、管玉、人骨(頭骨片、歯)	○	1966年調査
7-5	3	ますだ古墳	花野井字塩辛1093	前方後円	16(現存)				勾玉、管玉	△	
7-6	3			円							

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
8	3	前原塚群	布施字宿後149-1						円墳(塚?)3基		
8-1	3	大膳の墓1号塚	〃	(円?)						×	塚か
8-2	3	〃 2号塚	布施字殿台158	(円)	6.5					◎	塚か
8-3	3	大膳の墓3号塚	布施字殿台158	(円)	4					◎	塚か
9	3	筑後の墓塚群	布施字新田837						円墳(塚?)2基		
9-1	3	筑後の墓1号塚	〃	(円)	8.5					○	塚か
9-2	3	〃 2号塚	〃	(円)	9.5					◎	塚か
10	3	布施新田古墳	布施新田893	(円)	7					○	
11	3	一ツ木古墳	布施字一ツ木台	円?	不明					×	盗堀にあっている
12	3	弁天古墳	布施字弁財天1738	前方後円	65				土器(埴輪?)	◎	
15	3	かたぎ山古墳	松ヶ崎字西原94	円	7					◎	
14	3	上馬場古墳	根戸字上馬場831	方(長方形)	20×10					×	
13	3	花戸原古墳	根戸字花戸原299	円						×	
16	3	腰巻古墳群	松ヶ崎字腰巻						円墳3基		
16-1	3	腰巻1号墳	〃	円	15.5					◎	
16-2	3	〃 2号墳	〃	円	6					◎	塚か 1952年調査
16-3	3	〃 3号墳	〃	円	21					◎	
17	3	町田台古墳群	松ヶ崎字町田台						2基(少なくとも1基は円墳)		
17-1	3	町田台1号墳	〃	円	不明					×	1962年調査(測量調査のみ) 別称:松ヶ作古墳
17-2	3	〃 2号墳	〃							×	
18	3	天神台古墳群	柏字宮前						方墳1基、円墳4基		
18-1	3	天神台1号墳	〃	方(円)	18	有				×	周溝墓か 1982年調査
18-2	3	〃 2号墳	〃	円	15 17	有	円筒			○	1982年調査
18-3	3	〃 3号墳	〃	円	10 12	有	円筒	〃		○	1982年調査
18-4	3	〃 4号墳	〃	円	10					◎	
18-5	3	〃 5号墳	〃	円	20		円筒		直刀	×	1950年調査
19	3	南割古墳	名戸ヶ谷字南割91他	円							他に1基あった
20	3	中山越古墳群	名戸ヶ谷字中山越						円墳3基		
20-1	3	中山越1号墳	〃	(円)	7					×	塚か 1978年調査
20-2	3	〃 2号墳	〃		不明					×	
21	3	稲荷下古墳群	増尾字稲荷下						円墳3基		増尾城址公園内
21-1	3	稲荷下1号墳	〃	円	5					◎	
21-2	3	〃 2号墳	〃	円	5					◎	
21-3	3	〃 3号墳	〃	円	5					◎	
22	3	天王下塚	増尾字天王下451							(△)	塚か
23	3	鷲ノ山古墳群	増尾字鷲ノ山						円墳3基		
23-1	3	鷲ノ山1号墳	〃	円						×	
23-2	3	〃 2号墳	〃	円						×	
23-3	3	〃 3号墳	〃	円	5					◎	
24	3	五反割古墳	中原字五反割1843	円						×	
25	3	止井田古墳	藤心字止井田	方						×	
26	3	上人塚古墳群	逆井字上人塚						円墳(塚)6基		
26-1	3	上人塚1号墳	〃	円	6(現存)					○	別称:藤心古墳
26-2	3	〃 2号墳	〃	(円)	8					×	塚、1984年調査
26-3	3	〃 3号墳	〃	(円)	10					×	塚、1984年調査
26-4	3	〃 4号墳	〃	(円)	8					×	塚 1984年調査
26-5	3	〃 5号墳	〃	円?						×	
26-6	3	〃 6号墳	〃	円	24	(有?)				◎	
27	3	三ノ台古墳群	逆井字三ノ台						円墳3基		
27-1	3	三ノ台1号墳	〃	円					2基消滅		別称:逆井古墳

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
27-2	3	三ノ台2号墳	逆井字三ノ台	円						×	
27-3	3	〃 3号墳	〃	円						×	
28	3	浅間神社古墳	逆井字浅間前						円墳(塚?)3基		
28-1	3	浅間神社1号塚	〃	(円?)						(×)	塚か
28-2	3	浅間神社2号墳	〃	(円)	5					◎	塚か
28-3	3	〃 3号塚	〃	(円?)						(×)	塚か
29	3	庚申前古墳群	逆井字庚申前						円墳3基		
29-1	3	庚申前1号墳	〃	円	8					◎	別称:逆井古墳
29-2	3	〃 2号墳	〃	円	14					◎	
29-3	3	〃 3号墳	〃	円	12					◎	
30	3	根木内台塚	中新宿字根木内台280							(△)	塚か
31	3	庚申前塚	中新宿字庚申前291								塚か
34	3	東山塚	光ヶ丘字東山1716	円	4					◎	塚か
32	3	光ヶ丘塚群	光ヶ丘						円墳(塚?)3基		
32-1	3	光ヶ丘1号塚	〃	円	11					◎	塚か 別称:5町歩1号墳
32-2	3	〃 2号塚	〃	円	10						◎塚か 別称:5町歩2号墳 下松古墳
32-3	3	〃 3号塚	〃	詳細不明							
33	3	天王前塚群	酒井根字天王塚						7基(塚?)		
33-1	3	天王前1号塚	〃							×	
33-2	3	〃 2号塚	〃							×	
33-3	3	〃 3号塚	〃							×	
33-4	3	〃 4号塚	〃							×	塚か 別称:天王前古墳
33-5	3	〃 5号塚	〃							×	
33-6	3	〃 6号塚	〃							×	
33-7	3	〃 7号塚	〃							×	
35	3	城ノ越古墳		不明				円筒			×(△)
36	3	香取神社境内	花野井				形象				
37	3	戸張一番割遺跡		前方後方形周溝墓(?)							

■我孫子市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	3	金塚古墳	根戸荒追1341	円	20		円筒、朝顔、水鳥	木棺直葬	小型仿製鏡、鉄鉾、鉄鏃、横矢引板鉄留式短甲石枕、立花	◎	調査歴あり
2	4	日立精機1号墳	根戸堀尻1046-6他	前方後方	4.5 (48)			横穴式石室(単室)	土師器(坏)、須恵器(坏蓋、坏身)…〈前庭部〉、須恵器(大甕)…〈外部〉	×	調査歴あり
3	4	日立精機古墳群	根戸南塚1他						前方後円墳2基、円1基		
3-1		日立精機2号墳	〃	前方後円	30			横穴式石室(単室)	土師器(坏)、須恵器(提瓶・大甕など)…〈外部〉	◎	ただし石室のいたみ激しい、調査歴あり
3-2	4	第4小学校古墳	白山2567-2	前方後円	26	有		横穴式石室(複室)	金環(2点)、鉄片、須恵器(坏、壺)…〈外部出土〉	×	調査歴あり
3-1	4	南飯塚古墳	本町1丁目6他	円	3(現存)				(勾玉)…未確認	(△)	
4	4	根戸船戸古墳群	白山3丁目						前方後円墳4基、円墳2基		
4-1	4	根戸船戸1号墳	〃	前方後円	33					○	
4-2	4	〃 2号墳	〃	前方後円	22			横穴式石室	須恵器…〈外部出土〉	◎	
4-3	4	〃 3号墳	〃	〃						×	周溝遺存の可能性あり
4-4	4	〃 4号墳	〃	円?						×	
4-5	4	〃 5号墳	〃	円?						×	
4-6	4	〃 6号墳	〃	円?						×	
5	4	白山古墳群	白山1丁目						円墳13基		
5-1	4	白山1号墳	〃	円	25			横穴式石室(複室)		×	調査歴あり
5-2	4	白山2号墳	白山1丁目	円						×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(山)墳丘(方)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
5-3	4	〃 3号墳	〃	円						×	
5-4	4	〃 4号墳	〃	円						×	
5-5	4	〃 5号墳	〃	円						×	
5-6	4	〃 6号墳	〃	円						×	
5-7	4	〃 7号墳	〃	円						×	
5 8	4	〃 8号墳	〃	円						×	
5 9	4	〃 9号墳	〃	円						×	
5-10	4	〃 10号墳	〃	円						×	
5-11	4	〃 11号墳	〃	円						×(△)	
5-12	4	〃 12号墳	〃	円	5(現存)					△	宅地の築山 調査歴はない
5-13	4	〃 14号墳	〃	前方後円						×	
6	4	南作古墳	緑1丁目9-3他	円	10～12(現存)					○	
7	4	手賀公園古坊									調査歴あり?
8	4	明田古墳	緑2丁目	円	16～17(現存)					○	
9	4	子の神古墳群							前方後円墳1基、円墳14基		
9-1	4	子の神1号墳	〃	円			円筒			×	調査歴あり
9-2	4	〃 2号墳	〃	円						×	調査歴あり
9-3	4	〃 3号墳	〃	円?			?			×?(△)	
9-4	4	〃 4号墳	〃	円	15					◎	
9-5	4	〃 5号墳	〃	円						◎	
9-6	4	〃 6号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
9-7	4	〃 7号墳	〃	円	15					○	
9-8	4	〃 8号墳	〃	円	8×5					△	
9-9	4	〃 9号墳	〃	円	14					◎	
9-10	4	〃 10号墳	〃	円	19 26	有		木棺直葬2基	第1主体:直刀(2振)、鉄鏃(25本) 第2主体:ベンガラ(散量)	×	周溝遺品の可能性あり 調査歴あり
9-11	4	子の神11号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
9-12	4	〃 12号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
9 13	4	〃 13号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
9 14	4	〃 14号墳	〃	前方後円	30					○	
9-15	4	〃 15号墳	〃	円						×	調査歴あり
10	4	並塚古墳群	寿2丁目						円墳5基		
10-1	4	並塚1号墳	〃	円?						×	周溝遺存の可能性あり
10-2	4	〃 3号墳	〃	円?						×	周溝遺存の可能性あり 若干の高まり?
10-3	4	〃 3号墳	〃	円?						×	周囲遺存の可能性あり 若干の高まり?
10-4	4	〃 4号墳	〃	円?						×	
10-5	4	〃 5号墳	〃	円?						×	
11	4	高野山古墳群	我孫子						前方後円墳1基、円墳8基		
11-1	4	高野山1号墳	〃	前方後円	36		円筒 人物・器財動物	主体部4基	土師器…〈外部出土〉	○～△	調査歴あり
11-2	4	〃 2号墳	〃	円(帆立?)	18×15		円筒形象	箱式石室棺(墳裾)		×	調査歴あり
11-3	4	高野山3号墳	我孫子	円	15		円筒	横穴式石室		×	調査歴あり
11-4	4	〃 4号墳	〃	円(卵形)	27×18		円筒 人物	箱式石棺	直刀(3振)	×	調査歴あり
11-5	4	〃 5号墳	〃	円	20					×	周溝遺存の可能性あり 調査歴はない
11-6	4	〃 6号墳	〃	円	24					×	周溝遺存の可能性あり 調査歴はない
11-7	4	〃 7号墳	〃	円	18					×	周溝遺存の可能性あり 調査歴はない
11-8	4	〃 8号墳	〃	円	24					×	周溝遺存の可能性あり 調査歴はない

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(山)墳丘(方)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
11-9	4	〃 9号墳	〃	円	22					×	調査歴はない
12	4	香取神社古墳群	高野山宮脇						方墳1基、円墳2基		
12-1	4	香取神社1号墳	〃	方	26					○	
12-2	4	〃 2号墳	〃	円	16					◎	
12 3	4	〃 3号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
13	4	水神山古墳	高野山舟戸台440他	前方後円	63			粘土槨(1基) 墓拡(1基)	刀子、針、ガラス管玉、滑石製管玉、ガラス小玉、土師器…〈外部出土〉	◎	調査歴あり
14	4	前原古墳	高野山前原454他	不明						×	
15	4	西大久保古墳群	高野山大久保						円墳2基		
15-1	4	西大久保1号墳	〃	円	19					◎	
15-2	4	〃 2号墳	〃	円?						(×)	正確には確認できず
16	4	東大久保古墳	東我孫子2丁目17	不明						×	
17	4	水神山北古墳	不明					横穴式石室		×	
19	4	我孫子中学校校庭古墳	高野山	円	9			箱式石棺?		○	
18	4	前原塚	高野山根郷295-1他	円?	8(現存)					△	塚か?
20	4	向原一里塚	東我孫子1丁目5他	円	13					◎	一里塚
21	4	西原古墳群	下ヶ戸						円墳2基		
21-1	4	西原1号墳	〃	円	8.5(現存)					○	
21-2	4	〃 2号墳	〃	不明(円)	4(現存)					(△)	
22	4	岡発戸古墳群	下ヶ戸東						円墳9基(1基は帆立貝式の可能性あり)		
22-1	4	岡発戸1号墳	〃	円	20					◎	
22-2	4	〃 2号墳	〃	円(帆立?)	18					○	
22-3	4	〃 3号墳	〃	円?	7(現存)					△	
22-4	4	〃 4号墳	〃	円?						×	
22-5	4	〃 5号墳	〃	円?			円筒			×	根跡状の高まりが校舎、庭に残る
22-6	4	〃 6号墳	〃	円?						×	
22-7	4	〃 7号墳	〃	円	6(現存)					△	
22-8	4	〃 8号墳	〃	円	7(現存)					○	
22-9	4	〃 9号墳	〃	円?						×	周溝遺存の可能性あり
23	4	向山古墳	都部向山							×	
24	4	赤坂古墳	都部赤坂460他							×	周溝遺存の可能性あり
25	4	二本榎古墳	湖北台8-16他	不明	7～8(現存:地ブクレ状)					△	
26	4	塚之越古墳	中峠塚之越1199他							×?	中近世の塚 調査歴あり
27	4	鹿島前1号墳	中峠塚之越1207他							×	調査歴あり
28	4	中峠南古墳群	中峠						円墳11基		
28-1	4	中峠南1号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
28-2	4	〃 2号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
28-3	4	〃 3号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
28-4	4	〃 4号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
28-5	4	〃 5号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
28-6	4	〃 6号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
28-7	4	中峠南7号墳	中峠	円	3×4(現存)					△	
28 8	4	〃 8号墳	〃	円						×	周溝遺存の可能性あり
28-9	4	〃 9号墳	〃	円	4.5×5(現存)					△	
28-10	4	中峠南10号墳	〃	円						×	
28-11	4	〃 11号墳	〃	円						×	調査歴あり
29	4	中峠北古墳群	中峠北1号墳						円墓9基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
29-1	4	〃	中峠宿通中北	円	20		円筒(表採)			◎	
29-2	4	〃 2号墳	〃	円?	15(現存)					△	
29-3	4	〃 3号墳	〃	円	16～18					◎	
29-4	4	〃 4号墳	〃	(円)?						×	
29-5	4	〃 5号墳	〃	(円)?						×	
29-6	4	〃 6号墳	〃	(円)?						×	
29-7	4	〃 7号墳	〃	(円)?						×	
29-8	4	〃 8号墳	〃	円?	15×12					○	
29-9	4	〃 9号墳	〃	円?	12					△	
30	4	中峠上古墳群	中峠海老宿						円墳10基		
30-1	4	中峠上1号墳	〃	円?	7					○	
30-2	4	〃 2号墳	〃	(円)?						×	
30-3	4	〃 3号墳	〃	(円)?						×	
30-4	4	〃 4号墳	〃	(円)?						×	
30-5	4	〃 5号墳	〃	(円)?						×	
30-6	4	〃 6号墳	〃	円	約11					◎	
30-7	〃	〃 7号墳	〃								
30-8	4	〃 8号墳	〃								
30-9	4	〃 9号墳	〃								
30-10	4	〃 10号墳	〃	(円)						×	
31	〃	下根古屋古墳	中峠下根古屋3743-1他	円	16					○	
32	4	中峠下古墳群	中峠中山畑49他						円墳3基		
32-1	4	中峠下1号墳	〃	(円)?						×	
32-2	4	〃 2号墳	〃	(円)?						×	
32-3	4	〃 3号墳	〃	(円)?						×	
33	4	下中宅地裏古墳群	中峠下中宅地裏						円墳3基		
33-1	4	下中宅地裏1号墳	〃	円	7					○	
33-2	4	〃 2号墳	〃	円?	6×8					○	
33-3	4	〃 3号墳	〃	円	7						○
34	4	高根古墳	中峠高根2178他	円	15		円筒			◎	
35	4	片町古墳	古戸片町177他	円?	19(推定)			土師器、須恵器…〈周辺に散布〉		△	
36	4	日秀宮前古墳	日秀宮前131	円?						△	
37	4	堀込古墳	日秀堀込237他								
38	4	羽黒前古墳	新木羽黒前2460他	円?	26			横穴式石室		○	
39	4	兎尻古墳群	新木兎尻						円墳2基		
39-1	4	兎尻1号墳	〃	円	5					◎	
39-2	4	兎尻2号墳	〃	円	9					○	
40	4	花輪前古墳	布佐花輪前1373	帆立(円)	16(現存)					○	
41	4	道祖神前古墳	布佐台宿704	円						×	
42	4	青山東台塚	青山東台165他	円?(方)	8.5					△	塚か?
43	4	久寺家古墳群	久寺家根耕地台						円墳2基		
43-1	4	久寺家1号墳	〃	円			円筒朝顔			×	
43-2	4	〃 2号墳	〃	円			円筒朝顔			×	

■沼南町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
2	大井	追花古墳群	4						円墳3基		
2-1	4	追花1号墳	大井字大木戸出口756	円	8					○	呼称:若狭塚、(「五郎兵衛塚」の俤)
2-2	4	〃 2号墳	大井字梁山向787-2	円	4					×	
2-3	4	〃 3号墳	大井字中井824-1	円	不明					×	
3	4	(小)大塩内古墳	(小)大井大塩内1816	円	5					○(△)	
1	4	浅間古墳	大井字浅間山533-534	前方後円	26.5(残存後円部径)					○	前方部削平
4	4	根神塚古墳	大井字宅地附99-3	不明						×	
5	4	観見古墳	大津ヶ丘2-32	円	21					◎	
6	4	西台古墳群	大島田						円墳3基		
6-1	4	西台1号墳	〃	円	6					○	
6-2	4	〃 2号墳	〃	円	4					○	庚申塚?
6-3	4	〃 3号墳	大島田	円	2.9					○	庚申塚?
7	4	大島田古墳	大島田字尼田589	円	14					×	
8	9	塚崎古墳群	塚崎字中畠						方墳2基、円墳2基		
8-1	9	塚崎1号墳	〃	円	3					◎	
8-2	9	〃 2号墳	〃	方	4					◎	
8-3	9	〃 3号墳	〃	方	4.2					◎	
8-4	9	〃 4号墳	〃	円	4					◎	
9	9	塚崎谷津古墳	塚崎字谷津852-3	円	2.5					×	
10	9	塚崎宮後古墳	塚崎字宮後1447	円						○	
11	9	神明社裏山古墳群	塚崎字清水台						2基(少なくとも1基は円墳)		
11-1	9	神明社裏山1号墳	〃	円	5					(×)	
11-2	9	〃 2号墳	〃	?						×	
12	9	関根古墳群	高柳字関根						円墳5基		
12-1	9	関根1号墳	〃	円	6					◎	
12-2	9	〃 2号墳	〃	円	2.5					○	
12-3	9	〃 3号墳	〃	円	6					◎	
12-4	9	〃 4号墳	〃	円(方?)	20					◎	
12-5	9	〃 5号墳	〃	円	4					◎	
13	9	中島古墳群	高柳字干場1412						円墳9基		塚(?)
13-1	9	中島1号墳	〃	円	7						
13-2	9	〃 2号墳	〃	円	3						
13-3	9	〃 3号墳	〃	円	4						
13-4	9	〃 4号墳	〃	円	5.6						
13-5		〃 5号墳	〃	円	5.6						
13-6	9	〃 6号墳	〃	円	4						
13-7	9	〃 7号墳	〃	円	5						
13-8	9	〃 8号墳	〃	円	7						
13-9	9	〃 9号墳	〃	円	4						
14	9	小山古墳群	高柳字小山						円墳5基		
14-1	9	小山1号墳	〃	円	6						
14-2	9	〃 2号墳	〃	円	2						
14-3	9	〃 3号墳	〃	円	2						
14-4	9	〃 4号墳	〃	円	5						
14-5	9	〃 5号墳	〃	円	7						
15	9	宮田原古墳群	高柳字新堀						前方後円墳2基、円墳13基		
15-1	9	宮田原1号墳	〃	円	4						
15-2	9	〃 2号墳	〃	円	5					○	
15-3	9	〃 3号墳	〃	円	7						
15-4	9	〃 4号墳	〃	円	4					○	
15-5	9	〃 5号墳	〃	円	4					×	
15-6	9	〃 6号墳	〃	円	6					○	
15-7	9	〃 7号墳	〃	円	7						

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
15-8	9	宮田原8号墳	高柳字新堀	円	5					×	
15-9	9	〃 9号墳	〃	前方後円	8						
15-10	9	〃 10号墳	〃	前方後円	6						
15-11	9	〃 11号墳	〃	円	3						
15-12	9	〃 12号墳	〃	円	2						
15-13	9	〃 13号墳	〃	円	10						
15-14	9	〃 14号墳	〃	円	10						
15-15	9	〃 15号墳	〃	円	4						
17	9	西向原古墳(2)	高柳字西向原1634-3	前方後円	(20) 31					◎	
18	9	西向原古墳(1)	高柳字西向原1647-7	方						×	
16	9	馬渡古墳	高柳字西向原1665-3	?						×	
19	9	向原古墳	高柳字向原1482-1	?	8					×	
20	9	蟹打古墳	高柳字蟹打1139-1 ～1140	不明						×	
21	9	品川根古墳	高柳字品川根411 1他	円						○	
22	4	船戸古墳群	大井字下組屋～新堀込						前方後円6基、円墳22基		
22 1	4	船戸1号墳	〃	円	10					○	
22-2	4	〃 2号墳	大井字新堀込	円	9					○	
22-3	4	〃 3号墳	〃	円	5					◎	4号墳陪塚か
22-4	4	〃 4号墳	大井字下組屋～新堀込	前方後円	19					○	
22-5	4	〃 5号墳	〃	円	12			箱式石棺		△	石棺の石材露出 調査歴あり
22-6	4	〃 6号墳	〃	円	15			箱式石棺?		△	調査歴あり
22-7	4	〃 7号墳	〃	円	12.4					○	
22-8	4	〃 8号墳	〃	前方後円	21.5					◎	
22-9	4	〃 9号墳	〃	円	5					◎	
22-10	4	〃 10号墳	〃	円	9.5					◎	
22-11	4	〃 11号墳	〃	円	4					◎	
22-12	4	〃 12号墳	〃	円	(9.5) 復元値					○	
22-13	4	〃 13号墳	〃	前方後円	23					◎	
22-14	4	〃 14号墳	〃	円	15.6					◎	
22-15	4	〃 15号墳	〃	円	15					○	
22-16	4	〃 16号墳	〃	円	20.2					○	
22-17	4	〃 17号墳	〃	円	9.1					◎	
22-18	4	〃 18号墳	〃	前方後円	26.8					○	土取りによる破壊の可能性あり
22-19	4	〃 19号墳	〃	円	11					△	土取りによりほとんど消滅寸前
22-20	4	〃 20号墳	〃	円	15					○	
22 21	4	〃 21号墳	〃	前方後円	16					◎	
22-22	4	〃 22号墳	〃	前方後円	23.5					◎	
22-23	4	〃 23号墳	〃	円	5.5					(×)	
22-24	4	〃 24号墳	〃	円						×	
22-25	4	〃 25号墳	〃	円						×	調査歴あり
22-26	4	〃 26号墳	〃	円						×	調査歴あり
22-27	4	〃 27号墳	大井字船戸山2291 ～2292	円?	12～14.8					○	
22-28	4	〃 28号墳	大井字下納屋～新堀込	円	20					× (△)	
23	4	箕輪古墳群	大井中台428						前方後円墳1基、円墳3基		
23-1	4	箕輪1号墳	〃	前方後円	38					◎	
23-2	4	〃 2号墳	大井字中台428	円	10					◎	
23-3	4	〃 3号墳	大井字中台原下 2695、2696	円						×	
23-4	4	〃 4号墳	大井字中台原下2689	円	13					○	
24	4	大久保古墳	箕輪字物見塚361	円	8.5					△ (×)	
25	4	坊ノ口古墳	箕輪字坊ノ口409	円	9					△	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
26	4	前田塚古墳	箕輪字前田90、91～3	円	5					◎ (△)	
27	4	道堀古墳群	箕輪字前田101-1						方墳1基、円墳1基		
27-1	4	道堀1号墳	〃	円	8					× (△)	
27-2	4	〃 2号墳	箕輪字道堀259-3	方(円)	22	有				◎	
28	4	酉内古墳	箕輪字酉内137-2	円						不明	
29	4	天神山古墳群	岩井字天神486						前方後円墳1基、円墳5基		
29-1	4	天神山1号墳	〃	円	17.8					◎	
29-2	4	〃 2号墳	〃 491	前方後円	30					◎	
29-3	4	〃 3号墳	〃 503	円	10.1					○	(現状楕円形)
29-4	4	〃 4号墳	〃 514	円	15					○	
29-5	4	〃 5号墳	岩井字早稲田517	円	13					◎	
29-6	4	〃 6号墳	〃 519	円						×	
30	4	須賀古墳	鷲野谷字須賀430-2	円	10～14					○	
31	4	北ノ内古墳群	鷲野谷字北ノ内307						2基(少なくとも1基は円墳)		
31-1	4	北ノ内1号墳		円	9.5					◎	
31-2	4	〃 2号墳	〃 325		10		円筒形象	箱式石棺?	直刀	◎	明治35年、坪井正五郎調査
34	4	元屋敷古墳	鷲野谷字元屋敷609-6	方	15.4					◎	
35	4	染井古墳	鷲野谷字葉山623	円	5～5.5					○	
32	4	松之木台古墳	鷲野谷字松之木台361	円						×	
33	4	鎌田古墳	鷲野谷字鎌田171	不明						×	
36	4	後原古墳	若白毛字後原1159	円						◎	
37	9	大仏古墳	藤ケ谷新田字四ツ久保34-2	円	7					×	
39	9	藤ケ谷古墳群	藤ケ谷						3基		
39-1	9	藤ケ谷1号墳	〃	不明						×	
39 2	9	〃 2号墳	〃	〃						×	
39-3	9	〃 3号墳	〃	〃						×	
38	9	城之堀古墳群	藤ヶ谷字城ケ堀						円墳3基		
38-1	9	城之堀1号墳	〃	円	8					◎	
38-2	9	〃 2号墳	〃	円	7					◎	
38-3	9	〃 3号墳	〃	円	7					×	
40	9	庚塚古墳	金山字庚塚465～466	円	8					◎	
41	4	ぶちが峠古墳	泉字ぶちが峠2259-2	不明						×	
42	4	庚申前古墳	泉字庚申前2145	不明						×	
43	4	向寺古墳群	泉字向寺76-1						円墳4基		
43-1	4	向寺1号墳	〃	円	5						
43-2	4	〃 2号墳	〃	円	4						
42-3	4	〃 3号墳	〃	円	5						
43-4		〃 4号墳	〃	円	4						
44	4	切返シ古墳	(桐返し) 泉字切返し1365	円	5					○	
45	4	オッコシ古墳群	泉字滝治						円墳4基		
45-1	4	オッコシ1号墳	〃	円	7					○	
45-2	4	〃 2号墳	〃	円	3					◎	
45-3	4	〃 3号墳	〃	円	8					◎	
45-4	4	〃 4号墳	〃	円	10					○	
48	4	片山古墳群	片山						前方後円墳1基、上円下方墳?1基、方墳4基、円墳79基		
48-1	4	片山1号墳	〃	円	4					◎	
48-2	4	〃 2号墳	〃	円	5.7					◎	
48-3	4	〃 3号墳	〃	円	5.5					◎	
48-4	4	〃 4号墳	〃	円	5.1					◎	
48-5	4	〃 5号墳	〃	円	6					◎	
48-6	4	〃 6号墳	〃	円	3.3					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
48-7	4	片山7号墳	片山	円	4					◎	
48-8	4	〃 8号墳	〃	円	3.6					◎	
48-9	4	〃 9号墳	〃	円	3.4					◎	
48-10	4	〃 10号墳	〃	円	4.2					◎	
48-11	4	〃 11号墳	〃	円	5					◎	
48-12	4	〃 12号墳	〃	円	3.1					◎	
48-13	4	〃 13号墳	〃	円	3.5					◎	
48-14	4	〃 14号墳	〃	円	4.2					◎	
48-15	4	〃 15号墳	〃	円	5.3					◎	
48-16	4	〃 16号墳	〃	円	7.5					◎	
48-17	4	〃 17号墳	〃	円	5.1					◎	
48-18	4	〃 18号墳	〃	円	3					◎	
48-19	4	〃 19号墳	〃	円	3					◎	
48-20	4	〃 20号墳	〃	円	4.9					◎	
48-21	4	〃 21号墳	〃	円	11					◎	
48-22	4	〃 22号墳	〃	円	4.4					◎	
48-23	4	〃 23号墳	〃	円	4.3					◎	
48-24	4	〃 24号墳	〃	円	2.4					◎	
48-25	4	〃 25号墳	〃	円	4.5					◎	
48-26	4	〃 26号墳	〃	円	3.2					◎	
48-27	4	〃 27号墳	〃	円	4.2					◎	
48-28	4	〃 28号墳	〃	円	5.7					◎	
48-29	4	〃 29号墳	〃	円	3.6					◎	
48-30	4	〃 30号墳	〃	円	3.8					◎	
48-31	4	〃 31号墳	〃	円	9.5					◎	
48-32	4	〃 32号墳	〃	円	7					◎	
48-33	4	〃 33号墳	〃	円	6.9					◎	
48-34	4	〃 34号墳	〃	円	7.9					◎	
48-35	4	〃 35号墳	〃	円	4					◎	
48-36	4	〃 36号墳	〃	円	7.4					◎	
48-37	4	〃 37号墳	〃	円	6.4					◎	
48-38	4	〃 38号墳	〃	円	4.7					◎	
48-39	4	〃 39号墳	〃	円	4.9					◎	
48-40	4	〃 40号墳	〃	円	4.9					◎	
48-41	4	〃 41号墳	〃	円	7.4					◎	
48-42	4	〃 42号墳	〃	円	5					◎	
48-43	4	〃 43号墳	〃	円	5.7					◎	
48-44	4	〃 44号墳	〃	円	5.6					◎	
48-45	4	〃 45号墳	〃	円	5.1					◎	
48-46	4	〃 46号墳	〃	円	6					◎	
48-47	4	〃 47号墳	〃	円	5.8					◎	
48-48	4	〃 48号墳	〃	円	10.1					◎	
48-49	4	〃 49号墳	〃	円	4					◎	
48-50	4	〃 50号墳	〃	円	5.8					◎	
48-51	4	〃 51号墳	〃	円	5.8					◎	
48-52	4	〃 52号墳	〃	円	11.4					◎	
48-53	4	〃 53号墳	〃	円	6.4					◎	
48-54	4	〃 54号墳	〃	円	7.9					◎	
48-55	4	〃 55号墳	〃	円	4.6					◎	
48-56	4	〃 56号墳	〃	円	8					◎	
48-57	4	〃 57号墳	〃	円	7.6					◎	
48-58	4	〃 58号墳	〃	円	4					◎	
48-59	4	〃 59号墳	〃	円	5					◎	
48-60	4	〃 60号墳	〃	方?	5.5					◎	
48-61	4	〃 61号墳	〃	円	5.3					◎	
48-62	4	〃 62号墳	〃	円	8.4					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
48-63	4	片山63号墳	片山	円	4.7					◎	
48-64	4	〃 64号墳	〃	円	4.9					◎	
48-65	4	〃 65号墳	〃	円	5.4					◎	
48-66	4	〃 65号墳	〃	円	6.2					◎	
48-67	4	〃 67号墳	〃	円	5.6					◎	
48-68	4	〃 68号墳	〃	円	4.6					◎	
48-69	4	〃 69号墳	〃	円	7					◎	
48-70	4	〃 70号墳	〃	円	4.2					◎	
48-71	4	〃 71号墳	〃	円	6.2					◎	
48-72	4	〃 72号墳	〃	円	6.2					◎	
48-73	4	〃 73号墳	〃	円	7					◎	
48-74	4	〃 74号墳	〃	上円下方?	上円4.2 下方6.8					◎	
48-75	4	〃 75号墳	〃	円	6.3					◎	
48-76	4	〃 76号墳	〃	(円)	9.4				(骨蔵器)	◎	調査歴あり、塚
48-77	4	〃 77号墳	〃	円	5.8					◎	
48-78	4	〃 78号墳	〃	円	6					◎	
48-79	4	〃 79号墳	〃	円	5					◎	
48-80	4	〃 80号墳	〃	方?	5.85					◎	
48-81	4	〃 81号墳	〃	前方後円	15.3					◎	調査歴あり
48-82	4	〃 82号墳	〃	方(円)	16 18.4	有				◎	
48-83	4	〃 83号墳	〃	方	14					◎	
48-84	4	〃 84号墳	〃	円	7.5					◎	
48-85	4	〃 85号墳	〃	円	7					◎	
47	4	北ノ作古墳群	片山字北ノ作						前方後円墳1基、円墳1基		
47-1	4	北ノ作1号墳	〃	円	17			粘土槨	鉄刀、刀子、鉄斧、鈕、銅鏃、鉄鏃、勾玉、耳環、土師器		1969年調査
47-2	4	〃 2号墳	〃	前方後円	30			粘土槨2	管玉、土師器		
49	4	六本松古墳	柳戸字六本松531、532	前方後円	25.1					○ △	
50	4	西原古墳群	柳戸字西原						円墳2基		
50-1	4	西原1号墳	〃	円	5					◎	
50-2	4	〃 2号墳	〃	円	4					◎	
51	9	下柳戸古墳群	柳戸字西台						円墳4基		
51-1	9	下柳戸1号墳	〃	円							
51-2	9	〃 2号墳	〃	円							
51-3	9	〃 3号墳	〃	円							
51-4	9	〃 4号墳	〃	円							
52	4	中郷古墳群	柳戸字中郷407-1						円墳2基		
52-1	4	中郷1号墳	〃	円	4					◎	下柳戸5号墳
52-2	4	〃 2号墳	〃	円	4					◎	下柳戸6号墳
53	9	南郷古墳群	柳戸字南郷						方墳1基、円墳2基		
53-1	9	南郷1号墳		円	8					◎	下柳戸7号墳
53-2	9	〃 2号墳		円	4					◎	下柳戸8号墳
53-3	9	〃 3号墳		方?	6×8					◎	盗掘坑あり
46	4	小松山古墳群	片山字松戸						円墳3基		
46-1	4	小松山1号墳	〃	円	15					×	別称:コマンド古墳群
46-2	4	〃 2号墳	〃	円	11					×	
46-3	4	〃 3号墳	〃	円	7					×	
54	9	柏作第1古墳群	手賀字柏作						方墳1基、円墳3基		
54-1	9	柏作第1、1号墳	〃	円	7					◎	
54-2	9	〃 2号墳	〃	円	6					◎	
54-3	9	柏作第3古墳群	〃	円	6					◎	
54-4	9	〃 4号墳	〃	方	7					◎	
56	9	柏作第2古墳群	手賀字南郷						円墳6基(不正円1基を含む)		
56-1	9	柏作第2、1号墳	〃	円	8					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
56-2	9	柏作第2、2号墳	手賀字南郷	不明(楕円形)	12～13 5～6					◎	
56-3	9	〃 3号墳	〃	円	15					○	
56-4	9	〃 4号墳	〃	円	13					◎	
56-5	9	〃 5号墳	〃	(円)	2					◎	
56-6	9	〃 6号墳	〃	前方後円	2					◎	
58	9	鑓作古墳	手賀字鑓作	円	13.6 24.1				直刀、刀子、鉄鏃、留金具、臼玉、耳環他、須恵器(提瓶)…破砕	×	1978年発掘調査
55	4.9	原出口古墳群	手賀字原出口						円墳10基		
55-1	4.9	原出口1号墳	手賀字原出口	円	9.6					◎	
55-2	4.9	〃 2号墳	〃	円	9.8					◎	
55-3	4.9	〃 3号墳	〃	円	10					◎	
55-4	4.9	〃 4号墳	〃	円	7.4					◎	
55-5	4.9	〃 5号墳	〃	円	4					◎	
55-6	4.9	〃 6号墳	〃	円	6.6					◎	
55-7	4.9	〃 7号墳	〃	円	9.2					◎	
55-8	4.9	〃 8号墳	〃	円	2.6					◎	
55-9	4.9	〃 9号墳	〃	円	5.8					◎	
55-10	4.9	〃 10号墳	〃	円	12					◎	
57	9	原古墳群	手賀字原1626他						円墳10基		
57-1	9	原1号墳	〃	円							
57-2	9	〃 2号墳	〃	円							
57-3	9	〃 3号墳	〃	円							
57-4	9	〃 4号墳	〃	円							
57-5	9	〃 5号墳	〃	円							
57-6	9	〃 6号墳	〃	円							
57-7	9	〃 7号墳	〃	円							
57-8	9	〃 8号墳	〃	円							
57-9	9	〃 9号墳	〃	円							
57-10	9	〃 10号墳									
59	9	池田古墳群	布瀬						円墳10基		
59-1	9	池田1号墳	〃	円	6					◎	
59-2	9	〃 2号墳	〃	円	5					◎	
59-3	9	〃 3号墳	〃	円	7					◎	
59-4	9	〃 4号墳	〃	円	4					◎	塚か
59-5	9	〃 5号墳	〃	円	4					◎	
59-6	9	〃 6号墳	〃	円	6					◎	
59-7	9	〃 7号墳	〃	円	5					◎	
59-8	9	〃 8号墳	〃	円	(3)					◎	
59-9	9	〃 9号墳	〃								
59-10	9	〃 10号墳	〃								
60	9	木崎古墳	布瀬字高野604-1	円	4.2						
61	9	新堀古墳群	布瀬字新堀						円墳2基		
61-1	9	新堀1号墳	〃	円	8					◎	
61-2	9	〃 2号墳	〃	円	15					◎	
62	9	布瀬東原古墳群	布瀬字東原						円墳3基		
62-1	9	布瀬東原1号墳	〃	円	10					不明	
62-2	9	〃 2号墳	〃	円	7					△	馬頭塚?
62-3	9	〃 3号墳	〃	円	6					◎	
63	4	城戸古墳群	布瀬字西口						円墳5基		
63-1	4	城戸1号墳	布瀬字西口	円	7.4					◎	
63-2	4	〃 2号墳	〃	円	9.1					◎	
63-3	4	〃 3号墳	〃	円	4.3					◎	
63-4	4	〃 4号墳	〃	円	5.3					◎	
63-5	4	〃 5号墳	〃	円	5.4					不明	
64	4	宮前古墳群	布瀬						円墳4基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
64-1	4	宮前1号墳	布瀬	円						×	
64-2	4	〃 2号墳	〃	円						△	
64-3	4	〃 3号墳	〃	円	3					○(△)	
64-4	4	〃 4号墳	〃	円						△	
65	4	桝方庚申塚	箕輪字桝方167-1							○	塚
66	4	道堀庚申塚群	岩井字鳥村620他								塚(総基数不明)、一部消滅
67	4	岩井向山観音塚	岩井字向山312地先								塚
68	4	幸田原庚申塚	岩井字幸田原786-2							○	塚
69	9	布瀬向山観音塚	布瀬字向山2400-1							○	塚
70	9	藤ケ谷十三塚	藤ケ谷字十三仏塚						塚13基		県指定史跡
70-1	9	(十三仏塚古墳群)藤ケ谷十三塚①	〃	方	6.3						
70-2	9	〃 ②	〃	円	3.5						
70-3	9	〃 ③	〃	円	3.5						
70-4	9	〃 ④	〃	円	4.2						
70-5	9	〃 ⑤	〃	円	3.5						
70-6	9	〃 ⑥	〃	円	4.2						
70-7	9	〃 ⑦	〃	方	5.6						
70-8	9	〃 ⑧	〃	円	3.5						
70-9	9	〃 ⑨	〃	円	3.5						
70-10	9	〃 ⑩	〃	円	4.2						
70-11	9	〃 ⑪	〃	円	2.8						
70-12	9	〃 ⑫	〃	円	3.5						
70-13	9	〃 ⑬	〃	円	3.5						

■松戸市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	8	小金古墳群	小金西骏平向山 大谷口中郷						円墳6基		
1-1	8	小金1号墳	小金西骏平賀向山	円	30					◎	
1-2	8	〃 2号墳	〃							×	
1-3	8	〃 3号墳	小金西大谷口中郷							×	
1-4	8	〃 4号墳	〃							×	
1-5	8	〃 5号墳	〃							×	
1-6	8	〃 6号墳	〃							×	
2	8	久保平賀古墳	小金きよしケ丘3丁目	円	16.5					○	
3	8	新井古墳	八ケ崎新井							×	
4	8	外清水塚	千駄堀清水台							×	
5	8	辛ノ作塚	〃寒風	円	15					○	
6	8	鉄砲塚	上本郷3丁目							×	
7	8	お立場	五香六実五香新町							×	塚か
8	8	日暮古墳	日暮小山台							×	塚か
9	8	天神山古墳	松戸新田天神山	円	21	○				◎	
10	8	竹ケ花古墳	小根本久保	円					直刀・貨金具	×	
11	8	けいせい塚	岩瀬向山							△	
12	8	富山、遺跡	稔台富山	方形周溝墓						×	
13	8	河原塚古墳群	河原塚狐塚 紙敷台金桶台								
13-1	8	河原塚1号墳	紙敷西屋桶台						鉄剣・直刀・刀子・鉄鏃・鹿角装刀装具・農工具(鍬)・石製模造品・肋錘車・ガラス小玉・須恵器・人骨	◎	
13-2	8	〃 2号墳	〃						鉄剣	◎	
13-3	8	〃 3号墳	〃							◎	
13-4	8	〃 4号墳	〃							×	
13-5	8	〃 5号墳	河原塚狐台							×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
14	8	坂之台古墳群	紙敷坂之台							×	
15	8	新橋台塚	〃新橋台		12×21					◎	
16	8	坂花遺跡	〃坂花・関台	方形周溝墓						×	
17	8	内野古墳群	高橋新開内野	円							
17-1	8	内野1号墳	〃								
17-2	8	〃 2号墳	〃							×	
17-3	8	〃 3号墳	〃							×	
18	8	栗山古墳群	栗山立出し・佐原・寺上							○	
18-1	8	栗山1号墳	〃	円	13		○		大刀(伝)	◎	
18 2	8	〃 2号墳	〃	円	9						
19	8	相模台古墳群	岩瀬・相模台				○				

■市川市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	16	丸山古墳	国府台4丁目3559-2	円			円筒		土師器	×	湮滅宅地
2	16	明戸古墳	国府台3丁目67-6	前方後円	40(推定)		円筒	箱式石棺	土師器	△	公園内、土塁利用
3	16	法皇塚古墳	国府台2丁目1-31	前方後円	65(推定)		人物家形	横穴式石室	大刀、甲冑、鉄鏃、馬具、金銅製金具、管玉、丸玉、銅釧、土師器、人骨	◎	大学内
4	16	弘法寺古墳	真間4丁目360	前方後円	43					◎	寺院内
5	16	真間山古墳	真間4丁目360	円	20					○	墓地
6	16	太鼓塚古墳	須和田2丁目418	方	20				鉄刀	×	湮滅公園

■船橋市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	9	鐙作台古墳	豊富町鐙作台	円?	不明					×	湮滅、道路
2	9	豊富堀込塚古墳	豊富町堀込							×	湮滅、畑地
3	9	権ヶ山古墳	権ヶ山町	方?	16					◎	荒地
4	16	飯山満古墳	高根町芝山	円?						×	塚か、湮滅、畑地
5	16	大日塚古墳	飯山満1丁目	円?						×	
6	16	前原塚古墳	前原4丁目	円	12					△	ほぼ湮滅、宅地
7	16	笹塚古墳	夏見2丁目北原地	円	6.5					○	神社内
8	16	夏見古墳	夏見2丁目西宮脇野	円	12					◎	神社内
9	16	花輪塚古墳	夏見2丁目花輪	円	8				鉄刀、人骨	○	
12	16	海神古墳	海神5丁目	円	50				土師器	◎	宅地、住宅街、土器散布、内央測量
11	16	印内古墳	印内町出戸	円	7					△	駐車場内
13	16	山野古墳	西船1丁目	円?						○	荒地
10	16	峰台古墳	海神3丁目宮本字峰台	円						×	石材、湮滅
14		竹ノ越古墳					人物				船橋市、郷土資料館蔵
		伝竹ノ越					人物(頭部)				酒井竜氏蔵
		伝埴輪出土地					円筒				6c後、船橋市郷土資料館蔵
15		伝海神下組後出土					円筒				6c前、船橋市郷土資料館蔵

■習志野市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
2	17	根神社古墳	鷺沼1丁目8	前方後円	40					○	石碑
1-1	17	鷺沼A号墳	〃 9他	前方後円	30?			竪穴式石室?	土師器	○	くびれ部に砂岩石材
1-2	17	〃 B号墳	〃 9	円				箱式石棺×2	直刀、刀子、鉄鏃、臼玉、人骨	○	
1-3	17	〃 C号墳	〃 9	円							

■八千代市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	9	平戸台古墳群	平戸字西ノ上						円墳6基(10～15m級)、方墳1基、うち円墳2基消滅	△	1971年一部調査
2	9	田原窪古墳	島田台字田原窪	円	15					○	
3	9	真木野古墳	島田台字佐山台	円	15	○		箱式石棺		○	1980年調査
4	9	間見穴古墳群	島田台字間見穴						円墳3基(10～20m級)	○	
5	9	追分古墳	島田台字追分	円	20					○	
6	17	桑納古墳群	桑納字東割						帆立貝式1、円墳1		1972年調査
6-1	17	桑納1号墳	〃	円	25.5	○		木棺直葬	直刀2、剣1、鉄鏃50以上、鉄地金銅張飾金具	×	〃
6-2	17	〃 2号墳	〃	帆立貝	34	○	○		形象埴輪、円筒埴輪	×	〃
7	17	萱地ノ台古墳	萱田字萱地ノ台	円	22	○			甕	○	1987年調査
8	17	七百余所神社古墳	村上字宮内	円	15					○	
9	17	根上神社古墳	村山字臼筋	前方後円	40	○			神社により前方部、後円部を分断される。	○	
10	17	村山古墳群	村上字黒沢台						方形塚1、円形墳12が存在したが、古墳は2基のみ	×	1975年調査
10 2	17	〃 2号墳	〃	円	4	×		木棺直葬	須恵器甕片	×	〃
10 3	17	〃 3号墳	〃	円	11～13.8	×		木棺直葬	直刀1、刀子1、鉄鏃4、ガラス小玉168、勾玉2、小玉1	×	〃
11	17	井戸向遺跡	萱田字井戸向他						方形周溝墓3基	×	1980調査
11-1	17	井戸向遺跡MO65遺構	菅田字井戸向	方形周溝	8.5×8.8	○		木棺直葬		×	1980年調査
11-2	17	〃 MO66遺構	〃	〃	9.3×10.1	○			壷	×	〃
11-3	17	〃 MO67遺構	〃	〃	8.8×11.0	○			土師器鉢	×	
12	17	ヲサル山遺跡	大和田新田字ヲサル山						方形周溝墓3基		1981年調査
12-1	17	〃 MB001号遺構	〃	方形周溝	9.7×10.5	○		木棺直葬	鉄剣、勾玉、丸玉、土師器壷、鉢、高坏	×	〃
12-2	17	〃 MB002号遺構	〃	〃	7.8×8.6	○		木棺直葬(周溝内)	管玉、壷、甕	×	〃
12-3	17	〃 MB003号遺構		〃	4.7×5.8	○		〃	高坏片、甕片	×	
13	17	上ノ山古墳群	萱田町字上ノ山						円墳2基(10～15m級)	○	
14	18	仲山古墳群	勝田台字仲山						円墳2基	○	
15	17	村上第11号古墳	村上字込ノ内台	方	17×22	○		横穴式石室	人骨、銅剣、勾玉(玄室内)、直刀、鉄鏃、勾玉(羨道部)、鉄鏃、勾玉、切子玉、ガラス玉、(前庭部)	×	1973年調査
16	9	神野芝山古墳群	神野字芝山						円墳4基、2基消滅		1972年一部調査
16 1	9	〃 1号墳	〃	円				伝箱式石棺	伝、直刀、人骨(明治期に破壊されたと伝わる)	×	
16-2	9	〃 2号墳	〃	円	30	○		箱式石棺	刀子、鉄鏃、勾玉、琥珀製小玉、管玉	△	1972年主体部調査
16-3	9	〃 3号墳	〃	円	20					△	
16-4	9	〃 4号墳	〃	円	伝40		○	伝粘土槨	石枕、伝、鏡、刀子、形象埴輪	×	1971年土取りの為消滅
17	9	保品栗谷古墳群	保品字栗谷他						円墳2基で構成されていたと云う。47年消滅	×	
17-1	9	〃 古墳	〃	円				箱式石棺	直刀、鍔、刀子、鉄鏃、瑪瑙製勾玉、琥珀製小玉、ガラス玉	×	1955年主体部のみ調査
18	9	おおびた遺跡	保品字須賀	円	25					×	1973年調査
19	9	麦丸遺跡	大和田新田字麦丸台						方墳2基が存在したという。箱式石棺の石材が残る。	×	
20	9	堰台場古墳	大和田字堰台場	円				箱式石棺	鉄剣、鉄鏃、人骨	×	1983年石棺のみ調査
21	9	下高野新山遺跡	下高野字新山	円	18	○			周溝のみ遺存		1986年調査

■白井町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	9	名内古墳	中字大坂	円							
2	9	河原子1号墳	河原子字錠塚	円							
3	9	榎台遺跡	平塚字塚下	円							
4	9	小森遺跡	平塚字小森下	円							
5	9	小森入口遺跡	平塚字小森	円							
6	9	中台入口遺跡	平塚字土引	円							
7	9	平塚本郷2号遺跡	平塚字北口	円							
8	9	平塚遺跡	〃	円							

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
9	9	〃 1号遺跡	平塚字北口	円							
10	9	本郷遺跡	平塚字本郷	円							
11	9	本郷2号遺跡	〃	円							
12	9	〃 1号遺跡	平塚字遠久保地	円							
13	9	真木ノ内遺跡	平塚字真木ノ内						円墳3基		
14	9	沢山遺跡	谷田字沢山	円							
15	9	谷田遺跡	谷田字立野	円							
16	9	谷津遺跡	神々廻字西掘込						円墳3基		
17	9	河原子2号墳	白井字宮田ノ上	円							
18	9	西遺跡	木字西吾妻	円							
19	9	木遺跡	〃	円							
20	9	野口遺跡	木字野口	円							
21	9	白井遺跡	根字上人塚	円							
22	9	法目遺跡	復字西谷津	円							
23	9	白井新田1号遺跡	根字笹塚	円							
24	9	〃 2号遺跡	根字念仏塚	円							
25	9	白井木戸遺跡	根字上	円							

■印西町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	9	大越台古墳	高西新田字大越台	円	20					○	
2	9	宮田古墳	浦部字宮田	円	18			横穴式石室	封土を失う。主体部の一部を残すのみ	△	
3	9	石尊台古墳	高西田新田字長ケ作	円	23	○				○	
4	9	姫塚古墳	白幡字御手洗	円	20					○	
5	9	浦部古墳	浦部字山王下	前方後円	不詳					○	
6	9	宮作古墳	浦部字大宮	円	20					△	
7	9	松山2号墳	浦部字松山下	円	15					○	
8	9	松山1号墳	浦部字中谷原	円	22		○	木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃、玉類	×	
9	9	小倉古墳	小倉字堀込	円	18					○	
10	9	兵隊山古墳	大森字小山崎							×	
11	10	和泉古墳	和泉字東畑	円	24					○	
12	10	泉古墳	鹿黒	円	8					△	
13	10	後鹿山古墳群	大森字後庵						円墳2基	×	1974年調査
13-1	10	〃 1号墳	〃	円	18	○		横穴式石室		×	
13-2	10	〃 2号墳	〃	円	16	○				×	
14	10	森内古墳	大森字森内	円	15	○		横穴式石室?		△	
15	10	上宿古墳	大森字上宿					横穴式石室	人骨片、鉄器片、彫恵器片	△	1972年調査
16	10	大森古墳	大森字前畑	前方後円	35?			〃		△	
17	10	八夜台古墳	大森字八夜台	円	10				周辺に小盛土が存在し、塚の可能性が高い。	△	
18	10	三高台古墳	大森字三高台							×	
19	10	割野古墳	大森字割野	円?						△	
20	10	井之内作古墳	竹袋字井之内作	円	18			横穴式石室?		○	
21	10	木戸脇古墳群	竹袋字木戸脇						円墳2基(10m級)1基消滅	○	
22	10	東古墳	平岡字東	円	10					△	
23	10	西谷津古墳	平岡字西谷津	円	15					○	
24	10	馬込古墳群	別所字南内野						円墳5基(10～15m級)	○	
25	10	弥次右門台古墳	竹袋字弥次右門台	円	不詳	不詳		不詳		×	
26	10	道作古墳群	小林字馬場						前方後円墳5基、円墳9基(10～18m級)、方墳1基(18m)、円墳2基消滅	○	
26-4	10	〃 4号墳	〃	前方後円	17					○	
26-5	10	〃 5号墳	〃	前方後円	18					○	
26-8	10	〃 8号墳	〃	前方後円	30					◎	
26-15	10	〃 15号墳	〃	前方後円	45		○		円筒埴輪片採集	○	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
27	10	馬場古墳	〃	前方後円	20				本来は道作古墳群中に含まれるものと思われる	○	
28	10	駒形古墳	〃	前方後円	20					○	
29	10	浅間山古墳群	小林字稲荷台						円墳2基(15m級)、埴輪片採集	○	
30	10	鶴塚古墳	小林字宿	円	44		○	木棺直葬3、壺棺1	(第1主体)剣、直刀、ガラス玉、(第2主体)鉾、直刀、刀子、鉄鏃、砥石、ガラス玉、滑石製小玉、(第3主体)直刀、鉄鏃、滑石小玉、砥石、(壺棺)滑石製小玉	×	1971年調査
31	10	小林古墳群	小林字城山								1974年調査
31-1	10	〃 1号墳	〃	円	18.5	○	○	木棺直葬	直刀、鉄鏃、管玉、ガラス玉、環玉、不整形玉(硬玉製)	×	1974年調査
31-2	10	〃 2号墳	〃	方	14			木棺直葬	鉄鏃、ガラス玉	×	〃
31-3	10	〃 3号墳	〃	長円	9.6×13.0					×	〃
31-4	10	〃 4号墳	〃	円	10			木棺直葬	鉄鏃	×	〃
32	10	北ノ内古墳	結縁寺字北ノ内	円	12					△	
33	10	東光院脇古墳	船尾字鴻ノ巣	円	15					△	
34	10	三郷古墳	松崎字大久保	不詳	不詳				主体部のみ残存というが、現認できず	×	
35	10	寺脇古墳	竹袋字寺脇	〃	〃				〃	×	

■本埜町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	10	滝3号墳	滝	方	8					△	
2	10	内畑古墳群	滝字内畑						方墳2基(5～7m級)で構成される。塚の可能性が高い。	○	
3	10	滝4号墳	滝字修正免台							×	
4	10	仙元峠古墳	滝字仙峠	方	7				塚の可能性が高い	○	
5	10	滝2号墳	滝字西方台	円	13					○	
6	10	滝1号墳	滝字大門	円	8				塚の可能性が高い	△	
7	10	竜腹寺2号墳	竜腹寺字大塚道						円形墳が3基(3～16m級)が直線に並ぶ、中央部に存在するもの(円形16m)が古墳か?	○	
8	10	〃 1号墳	竜腹寺掛	円	18					△	
9	10	竜腹寺古墳群	中根字大山						円形盛土12基(3～10m級)、方形盛土1(10m)からなる。従平古墳群ととらえられているが、塚群の可能性が高い。	◎	
10	10	天王前方墳	中根字天王前	円	12					○	
11	10	竜腹寺古墳	中根字荒追	円	15億					○	
12	10	天王台古墳	竜腹寺字天王台西	円	10					○	
13	10	酒塚古墳	竜腹寺字前原	方	20					◎	
14	10	角田古墳群	角田字前原						円形盛土6基(5～8m)からなる。	○	
15	10	門屋敷遺跡	中根字門屋敷						横穴ありというが今回確認できず。		
16	10	荒追遺跡	中根字荒追						横穴ありというが現認できず。		
17	10	笠神古墳群	笠神字浅間作						円形小盛土(2～3m)31基からなる。従来古墳群ととらえられているが塚の可能性が高い。	◎	

■印旛村

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	10	西ノ原古墳群	吉田字西ノ原						前方後円墳2基、円墳3基(5.6～15m級)		一部1978年調査
1-2	10	〃 2号墳	〃	前方後円	30	○				○	1978年調査
1-3	10	〃 3号墳	〃	前方後円	30	○				○	〃
1-5	10	〃 5号墳	吉田字向山	円	15					△	向山古墳
2	10	岩戸百保古墳群	岩戸字百保						円墳4基(8m級)、方墳1基(12m)、塚2基からなる。	△	
3	10	岩戸広台古墳	岩戸字広台	円	10					○	
4	10	岩戸当羅田古墳群	岩戸字当羅田						円墳6基(4～7m級)、従来古墳ととらえられているが、塚の可能性が高い。	○	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
5	10	岩戸聖天古墳群	岩戸字聖天						円墳6基(10～14ｍ記)、分布地図上に前方後円墳の記載があるが今回は確認されなかった。	◎	
6	10	岩戸魚屋古墳群	岩戸字魚屋						5基の小盛土(3～8ｍ級)からなる。塚の可能性が高い。	○	
7	10	岩戸石井古墳群	岩戸字石井						5ｍの方形墳1基、塚と思われる。2号墳整地により消滅	○	
8	10	岩戸池ノ下古墳	岩戸字池ノ下	円	9					○	
9	10	岩戸黒靍古墳群	岩戸字黒靍						円墳5基(10.5～16ｍ級)うち1基は周溝が確認される	◎	
10	10	岩戸市場古墳	岩戸字市場							×	
11	10	岩戸船作古墳	岩戸字船作	円	8				墳頂部に陰陽石がまつられる	△	異称、石神様
12	10	岩戸岩戸古墳	岩戸字岩戸	方	25					○	
13	10	岩戸際作塚古墳	岩戸字際作	円	18				一部破壊された部分で版築された状態が観察される。	○	
14	10	鎌苅苅屋古墳群	鎌苅字苅谷						前方後円墳2基、円墳4基と記載されているが、今回は円墳2基(10ｍ級)を確認したのみである。自然地形の誤認か?	○	
15	10	鎌苅卯坪古墳	鎌苅字卯坪	円	12.5					○	
16	10	鎌苅炭焼古墳群	鎌苅字炭焼						円墳1、方墳1からなる。		1985年調査
16-1	10	〃 1号墳	〃	円	12				周辺部分のみ調査、墳丘現状保存	○	〃
16-2	10	〃 2号墳	〃	方	21	○		箱式石棺	石棺未開口で保存	○	〃
17	10	師戸握田古墳群	師戸字握田						円形盛土2基(4ｍ級)塚と判断	△	
18	10	師戸扇田古墳群	師戸字扇田						円墳2基(8～11ｍ級)	○	
19	10	造谷割野古墳群	造谷字割野						円墳1基(10ｍ級)、方墳2基(8.5～10)、3基が直線に並ぶ。塚の可能性もある。	◎	
20	10	萩原辺田谷古墳群	萩原字辺田谷						円墳2基(12～20ｍ級)	○	
21	10	萩原株木古墳群	萩原字株木						円墳2基(12～25ｍ級)	○	
22	10	萩原鴻之巣古墳群	萩原字鴻之巣						円墳3基(7～12ｍ級)	○	
23	10	瀬戸大木台古墳群	瀬戸字大木台						円墳2基(12～16ｍ級)、小盛上2基(円形4ｍ)	○	
24	10	瀬戸和田谷津古墳群	瀬戸字和田谷津他						円形小盛土12基(3～5ｍ級)、塚群の可能性が高い	○	
25	10	吉高浅間古墳	吉高字浅間	円	25					○	
26	10	吉高山王古墳	吉高字山王	前方後方	25.4		円筒形象	箱式石棺	刀子、耳環、鞆尻金具	×	1976年調査
27	10	吉高山王2号古墳	〃	円	10					○	
28	10	吉高舟戸横穴群	吉高字舟戸						横穴7基存在	○	
29	10	吉高向田古墳群	吉高字向田						円墳7基(5.5～11.5ｍ級)	△	
30	10	堀尻古墳	吉高字堀尻				円筒形象			×	
31	10	古木戸3号墳	吉高字古木戸						直刀、人骨	×	
32	10	吉高家老地古墳群	吉高字家老地						円墳2基(23～32ｍ)	○	
33	10	吉高羽黒古墳群	吉高字羽高						円墳2基(12～15ｍ級)うち1基は箱式石棺露呈、確認できず	×	
34	10	吉高三角山古墳群	吉高字三角山他						前方後円墳3基、円墳15基(7～28ｍ級)	○	
34-4	10	〃 4号墳	〃	前方後円	25					○	
34-8	10	〃 8号墳	〃	前方後円	28					○	
34-10	10	〃 10号墳	〃	前方後円	17					○	
35	10	瀬戸エゴ作古墳	瀬戸字エゴ作	円	12					○	
36	10	瀬戸松ノ木作古墳群							円墳12基(5～17ｍ級)、1部は塚の可能性あり	○	
37	10	山田鶴巻古墳	山田字鶴巻	円	17					○	
38	10	山田上鶴巻古墳群	山田字上鶴巻						前方後円墳2基(20～21.5ｍ級)、円墳4基(6～16ｍ級)1基消滅	△	
39	10	山田稲荷前古墳群	山田字稲荷前						旧稲荷前、市井・西古墳群を結合、前方後円墳1基、円墳10基(10～20ｍ級)、方墳2基(16～18ｍ級)からなる。塚4基、消滅4基		モトクロス場内にあり破壊が進む。
39-1	10	〃 1号墳	〃	前方後円	43		○			△	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
40	10	山田諏訪古墳群	山田字諏訪台						方墳3基(6～8ｍ)古墳と記載あるが、塚の可能性が高い	△	
41	10	山田蒸古墳群	山田字蒸						円墳8基(4～8ｍ級)	◎	
42	10	山田谷々津古墳	山田字谷々津	前方後円	35					△	
43	10	山田治郎松古墳	山田字治郎松				○		埴輪が存在したと伝わる	×	
44	10	山田光明寺古墳群	山田字光明寺						円墳5基(3～6ｍ)、方墳1基(2ｍ)、消滅2、塚の可能性が高い	○	
45	10	山田釜田古墳	山田字釜田	円	11					○	道路により半壊
46	11	平賀花島古墳群	平賀字花島						前方後円墳1基、円墳9基(8～19ｍ級)、方墳1(16ｍ)、分布地図上に前方後円墳2基とあるが、確認は1基のみ		
46-9	11	〃 9号墳	〃	前方後円	18					△	
47	11	平賀神津古墳群	平賀字神津						前方後円墳1基、円墳2基(13～24ｍ級)	○	
47-1	11	〃 1号墳	〃	前方後円	35					○	
48	11	平賀神津横穴群	〃						横穴4基が存在すると云われるが、今回確認できず		
49	11	平賀勧堂古墳群	平賀字勧堂						前方後円墳2基、円墳19基(8～19ｍ級)	○	
49-15	11	平賀勧堂15号墳	平賀字勧堂	前方後円	31					○	
49-17	11	〃 17号墳	〃	前方後円	33	○				◎	
50	11	平賀山ノ下塚群	平賀字山ノ下						円形の小盛土(3～48ｍ)、塚群の可能性が高い	○	分布地図(40～48)を塚群として分離
51	11	平賀古井戸前古墳群	平賀字古井戸前他						前方後円墳2基、円墳7基(8～24ｍ級)、方墳1(21ｍ)		分布地図古井戸原古墳群と山ノ下古墳群を統合
51-2	11	平賀古井戸前古墳群	平賀字古井戸前他	前方後円	45	○				◎	1960年調査
51-4	11	〃 4号墳	〃	前方後円	28	○				◎	〃
51-10	11	〃 10号墳	平賀字山ノ下	円	18	○				×	1987年調査
52	11	平賀坂台古墳群	平賀字坂台						円形地影れ状の盛土10基(2～8.4ｍ)、方形1基(8ｍ)、草地敷地内に連続して作られる。塚の可能性が高い。	○	
53	19	平賀駒込古墳	平賀字駒込	前方後円	31					○	
54	19	平賀仲ノ台古墳	平賀字仲ノ台	円	20					△	
55	19	平賀勝負古墳	平賀字勝負	円	18					○	

■栄　　町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	5A	武者塚古墳	安倉字大台	円	24		円筒			○	
2	5A	三峰古墳	安倉三峰	円	18					○	
3	5A	小台1号墳	木塚字小台	前方後円	37、	○		箱式石棺	直刀、刀子、轡、金環、管玉、小玉、鋲、鏃	×	1975年調査
4	5A	小台2号墳	〃	前方後円	26.5	○		箱式石棺?	土師器甕、坏、土錘	×	〃
5	5B	上町古墳	興津字上原	円	12					×	
6	5B	北辺田古墳群	興津字向芝						円墳1基からなっていたという。現存3基(10～15ｍ級)	○	
7	5B	上原古墳群	興津字上原						円墳4基(10～20ｍ級)、1基石棺露呈	○	
8	5B	蔵ノ下古墳	麻生字蔵ノ下			○		箱式石棺	直刀、棗玉、勾玉	×	
9	5B	円城寺横穴群	竜角寺字円城寺						横穴2基開口	○	
10	11	酒直遺跡群	酒直						円墳1、方形周溝墓5基	×	1980年調査
10-1	11	〃 K2号墳	〃	円	21	○		木棺直葬	直刀、刀子、土玉	×	竜角寺古墳群2号墳
10-2	11	酒直遺跡群第1地点方形周溝状遺構-1	〃	方形周溝	19.20	○			七師器壺、坩	×	〃
10-3	11	〃 2	〃	方形周溝	7.6～9.4	○				×	〃
10-4	11	〃 3	〃	方形周溝	12.4×15.3	○		木棺直葬		×	〃
10-5	11	〃 4	〃	方形周溝	6.7	○				×	〃
10-6	11	方形周溝状遺構-5	酒直	方形周溝	2220×2680	○			土師器、甕、坏、土玉、紡錘車、高坏	×	1980年調査
11	11	竜角寺尾上遺跡	竜角寺字尾上	方		○				×	1988年調査
12	11	前方古墳	竜角寺字前原	円						×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
13	11	亀角寺古墳群	亀角寺字大畑						成田市にまたがる総数113のうち、栄町には85基が存在する(前方後円墳28、方墳5、円墳52)		
13-1	11	〃 1号墳	〃	前方後円墳	39	○				○	
13-2	11	〃 2号墳							10-1参照の事	×	1980年調査
13-4	11	〃 4号墳	〃	前方後円	32.5		円筒			○	
13-5	11	〃 5号墳	〃	円	19	○		箱式石棺		×	
13-9	11	〃 9号墳	〃	前方後円	39		円筒			◎	
13-19	11	〃 19号墳	〃	前方後円	38		円筒			○	
31-21	11	〃 21号墳	〃	前方後円	42					○	
13-24	11	〃 24号墳	〃	前方後円	27	○		(第1生体)箱式石棺 (第2主体)粘土槨	円頭柄頭大刀、刀子、鉄鏃、耳環、切子玉(第2主体)	○	1983年調査、㉔-5
13-25	11	〃 25号墳	〃	前方後円	28					○	
13-30	11	〃 30号墳	〃	前方後円	21	○				○	
13-31	11	〃 31号墳	〃	前方後円	18					△	
13-35	11	〃 35号墳	〃	前方後円	26					◎	
13-37	11	〃 37号墳	〃	前方後円	31					◎	
13-42	11	〃 42号墳	〃	円	22		円筒			◎	
13-44	11	〃 44号墳	〃	前方後円	19		円筒			◎	
13-47	11	〃 47号墳	〃	前方後円	26					◎	
13-48	11	〃 48号墳	〃	前方後円	32					◎	
13-50	11	〃 50号墳	〃	前方後円	46					◎	
13-56	11	〃 56号墳	〃	前方後円	28					◎	
13-57	11	〃 57号墳	〃	前方後円	48		円筒	箱式石棺		◎	
13-58	11	〃 58号墳	〃	前方後円	25					◎	
13-65	11	〃 65号墳	〃	円墳	14.4～18.0	○		箱式石棺?	刀子、鉄鏃、土師器塊	◎	1982年調査
13-66	11	〃 66号墳	〃	前方後円	19					○	
13-68	11	〃 68号墳	〃	前方後円	30		円筒			◎	
13-70	11	〃 70号墳	〃	前方後円	43	○	円筒			◎	
13-71	11	〃 71号墳	〃	前方後円	27	○				◎	
13-72	11	〃 72号墳	〃	前方後円	20					○	
13-73	11	〃 73号墳	〃	前方後円	19					○	
13-74	11	〃 74号墳	〃	前方後円	22					△	
13-75	11	〃 75号墳	〃	前方後円	22					△	
13-77	11	〃 77号墳	〃	前方後円	25					○	
13-104	11	〃 104号墳	〃	方	34			横穴式石室		○	
13-105	11	〃 105号墳	〃	方	78	○		横穴式石室2	3段築成	◎	岩屋古墳、国指定史跡、1970年測量調査
13-106	11	〃 106号墳	〃	方	35			横穴式石室		◎	ミソ岩屋古墳
13-108	11	〃 108号墳	〃	方	17			横穴式石室		×	1980年調査
13-110	11	〃 110号墳	〃	円	26			箱式石棺		○	
13-111	11	〃 111号墳	〃	前方後円	66					○	浅間山古墳
13-112	11	〃 112号墳	〃	円	30		円筒			○	

■佐倉市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	18	先崎高塚1号墳	先崎字久保台	円	13				石枕が出土したと伝えられる	△	字高塚、㉖-1
2	18	先崎作花1号墳	先崎字作花	円	9					○	
3	18	先崎宮ノ越1号墳	先崎字宮ノ越	円	10					○	
4	18	小竹古橋原古墳群	小竹字古橋原						円墳3基(8～12m級)	◎	
5	18	井野松山1号墳	井野字松山	円	8					○	
6	18	上志津大塚1号墳	上志津字大塚	円	12					○	
7	18	八幡台古墳群	臼井台字八幡台						円墳3基(10～15m級)、2基調査後消滅、1基現存		1972年調査
7-1	18	八幡台I号墳	〃	円		○				×	〃
7 2	18	〃 2号墳	〃	円		○				×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
8	18	神楽場古墳群	下志津北ノ崎、飯合作						円墳5基(8～12m級)	△	
9	18	飯郷作古墳群	下志津字飯郷作						前方後円墳2基、方墳2基、方形周溝墓23基		1976調査
9-1	18	飯郷作1号墳	下志津字飯郷作	前方後円	25 37	○		木棺直葬	(主体部)ガラス玉、(封土、周溝)銅鏃、底部穿孔壺形土器	◎	県指定史跡
9-2	18	〃 2号墳	〃	前方後円	29.5 36.5	○		未調査	壺、脚付小形坩、器台、甕、高坏、須恵器大甕	◎	〃
9-3	18	〃 3号墳	〃	方	9.5～12	○			壺、小形坩、器台	◎	〃
9-4	18	〃 4号墳	〃	方	9～11	○		〃	壺、小形坩	◎	〃
9-5	18	飯郷作遺跡D-01	下志津字飯郷作	方形周溝	4.8～6.0	○			椀	◎	県指定史跡
9-6	18	〃 D-02	〃	方形周溝	3.8～4.0	○				◎	〃
9-7	18	〃 D-03	〃	方形周溝	6.5～7.0	○			小形坩、椀、甕、高坏	◎	〃
9-8	18	〃 D-04	〃	方形周溝	6.2～6.5	○			壺	◎	〃
9-9	18	〃 D-05	〃	方形周溝	4.7～5.5	○				◎	〃
9-10	18	〃 D-06	〃	方形周溝	16.5	○			壺、器台、小形坩	×	
9-11	18	〃 D-07	〃	方形周溝	18.5～20	○			壺、甕、小形坩	×	
9-12	18	〃 D-08	〃	方形周溝	4.9～5.2	○		周溝内土坑(組合せ式木棺)	(周溝内土坑)、水晶製玉、ガラス玉、管玉、(周溝)壺	×	
9-13	18	〃 D-09	〃	方形周溝	7.0～9.0	○		周溝内土坑	(周溝内土坑)勾玉、(周溝)壺	×	
9 14	18	〃 D-10	〃	方形周溝	7.0～7.9	○			小形坩、椀	×	
9-15	18	〃 D-11	〃	方形周溝	8.0	○			壺、小形坩	×	
9-16	18	〃 D-12	〃	方形周溝	9.7～10.3	○			器台	×	
9-17	18	〃 D-13	〃	方形周溝	12.8～13.0	○			壺、小形坩、甕、器台	×	
9 18	18	〃 D-14	〃	方形周溝	9.3	○			壺	×	
9-19	18	飯郷作遺跡D-15	下志津字飯郷作	方形周溝	7.2～8.7	○			壺	×	
9-20	18	〃 D-16	〃	方形周溝	9.5～9.8	○			椀、器台	×	
9-21	18	〃 D-17	〃	方形周溝	10.2～11.0	○				×	
9-22	18	〃 D-18	〃	方形周溝	15.0～17.1	○			壺	×	
9-23	18	〃 D-19	〃	方形周溝	10.0～10.3	○			壺、甕	×	
9-24	18	〃 D-20	〃	方形周溝	10.1～11.9	○			壺、台付甕	×	
9 25	18	〃 D-21	〃	方形周溝	11.0	○			壺、甕	×	
9 26	18	〃 D-22	〃	方形周溝	7.0	○				×	
9-27	18	〃 D-23	〃	方形周溝	6.5	○				×	
10	18	石袖古墳群	臼井台字石神						前方後円墳1、円墳2、方墳2	×	1973年調査
10-1	18	石神1号墳	〃	円	21.5 31.0	○				×	〃
10-2	18	〃 2号墳	〃	円	12	○		周溝内土坑 木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃	×	〃
10-3	18	〃 3号墳	〃	前方後円?	14.5	?				×	〃
11	18	臼井舟戸横穴群	臼井台字舟戸						2基、伝直刀、人骨	×	〃
12	18	臼井小笹台古墳群	臼井小笹台						前方後円墳1、方墳1、円墳1	×	1989年調査
12-1	18	臼井小笹台1号墳	臼井小笹台	前方後円	29.0 34.0	○	円筒			×	1989年調査
13	18	光勝寺鐘笈塚古墳	臼井字小笹台	前方後円	現存12	○			ガケ崩れに際し石枕出土	△	
14	18	上浮坂花古墳	土浮字坂花	円	11					◎	
15	18	上浮二斗蒔1号墳	土浮字二斗蒔	円	8					△	
16	18	〃 2号墳	〃	円	6					△	
17	18	飯野見通し古墳	飯野字見通し	円	20					◎	
18	18	萩山古墳群	萩山新田字上ノ山						円墳10基(6～25m級)、半数が15mを越す	◎	
19	18	飯野堀ノ内古墳群	飯野字堀ノ内						円墳10基(7～12m級)	◎	
20	18	飯野明神前古墳群	飯野字明神前						円墳2基(8m級)	△	
21	18	萩山小谷津古墳	萩山新田字小谷津	円	24	○		箱式石棺	直刀、鉄鏃	×	1981年調査
22	18	岩名古墳群	岩名字雪済						円墳2基(8～16m級)	○	
23	18	飯田1号墳	飯田字長作	円	9					○	
24	18	飯田下新関古墳群	飯田字下新関						円墳6基(7～20m級)	◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
25	18	山崎ひょうたん塚古墳	下根字上代	前方後円墳	37	○			伝近接して円墳があったと云う	○	市指定文化財
26	18	並木古墳	並木町字高丘	前方後円	現存13					△	
27	18	大崎台B、C地区遺跡	六崎大崎台						方形周溝墓13基(うち弥生末～古墳初頭6基)、宅地造成に先行して調査後消滅		1980年調査
27-8	18	大崎台8号方形周溝墓	六崎字大崎台	方形周溝	7.0～7.70	○				×	
27-9	18	〃 9号方形周溝墓	〃	方形周溝	14.4	○		木棺直葬	壷	×	
27-10	18	〃 10号方形周溝墓	〃	方形周溝	15.8	○		〃	剣、壷、甕	×	
27-11	18	〃 11号方形周溝墓	〃	方形周溝	8.3～9.5	○			台付甕	×	
27-12	18	〃 12号方形周溝墓	〃	方形周溝	14.0～16.0	○			壷、広口壷	×	
27-13	18	〃 13号方形周溝墓	〃	方形周溝	27.2～28.2	○			壷、広口壷、甕、坩、高坏、鉢、器台、装飾器台形土器	×	
28	18	椿作遺跡	六崎字椿作	方形周溝	13.8	○			壷、甕、高坏	×	1984年調査
29	18	鏑木諏訪尾余1号墳	鏑木町字諏訪尾余	円	16					△	
30	18	六崎台1号墳	六崎字平台	円	10					△	
31	18	石川古墳	六崎字石川		20		円筒			△	
32	18	石川1号墳	石川字大家作	円	21～27	○		箱式石棺	直刀、鉄鏃、貝釧	×	1972年調査
33	18	大篠塚西台古墳群	大篠塚字西台						前方後円墳1、円墳1		
33-1	18	大篠塚西台1号墳	〃	前方後円	35					◎	1982年測量調査
33-2	18	〃 2号墳	〃	円	30					◎	〃
34	18	大篠塚古墳	大篠塚字上代	前方後円	30	○		箱式石棺	直刀、刀子、鉄鏃、銀環耳環	×	1979年調査、大篠塚2号墳
35	18	小篠塚八幡原古墳群	小篠塚字八幡原						円墳2、方墳1		
35-3	18	小篠塚八幡原3号墳	〃	方	22					○	別称上人塚、市指定文化財
36	18	馬度浅間脇古墳群	馬渡字浅間脇						前方後円墳1、円墳8基(10～20m級)		
36-6	18	姫宮古墳	馬渡字姫宮	前方後円	23	○	○	箱式石棺?	形象埴輪、人物埴輪	△	1958年調査
37	23	馬度坊山台古墳群	馬渡字坊山台						円墳2(15～23m)	◎	
38	23	坂戸念仏塚1号墳	坂戸字念仏塚	円	18					△	
39	23	坂戸榎戸1号墳	坂戸字榎戸	円	14					○	
40	23	坂戸榎戸2号墳	〃	円	20					○	
41	23	岩宿萩山古墳群	岩富字萩山						円墳6(8～15m級)		
42	23	飯塚古墳群	内田字向山								
42-7	23	〃 7号墳	〃	円	18	○				△	1974調査
42-15	23	〃 15号墳	〃	前方後円	38					◎	
42-16	23	〃 16号墳	〃	円				箱式石棺	石棺内には朱塗りがされていたと伝えられる。直刀	×	
43	23	宮内芋戸古墳群	宮内字芋戸						前方後円墳1、円墳9(8～24m)		
43-1	23	〃 1号墳	〃	前方後円	35	○				◎	
44	23	岩富木村留古墳群	岩富字木村留						前方後円墳1、円墳8(10～15m)		
44-8	23	〃 8号墳	〃	前方後円?	26					△	
45	24	七曲横作1号墳	七曲字横作	円	15					○	
46	24	七曲踊台1号墳	七曲字踊台	円		○				×	
47	24	西御門所谷津古墳群	西御門字所谷津						円墳2(10～12m)		
48	24	西御門新山1号墳	西御門字新山	円	20					△	
49	19	将門1号墳	将門町字宮前	円	24					△	
50	19	神門2号墳	将門町字根古谷	前方後円	16	○	○		鉄剣、勾玉、形象埴輪、円筒埴輪	×	遺物東京国立博物館
51	19	新山古墳群	上代字新山						方墳2基		
51-1	19	新山1号墳	〃	方	20.1	○		木炭敷	灰釉短頸壷、古銭(寛永通宝)塚に転用	×	1984年調査
51-2	19	〃 2号墳	〃	方	20.3		○			×	
52	19	上代権現谷1号墳	上代字権現谷	円	10					△	
53	19	高岡大山遺跡	高岡字大山						方形周溝墓4基		1989調査
53-1	19	〃 1号方形周溝	〃	方形周溝		○				×	
53-2	19	〃 2号方形周溝	〃	方形周溝		○		木棺直葬	(生体部)鉄製品、ガラス玉、(周溝)壷、甕、高坏、器台	×	
53-3	19	高岡大山3号方形周溝群	高岡字大山	方形周溝		○			壷、甕、器台	×	
53-4	19	〃 4号方形周溝群	〃	方形周溝		○			甕	×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
54	19	高崎鈴木内1号墳	高崎字鈴木内	前方後円	15					△	
55	19	寒風後作1号墳	寒風字後作	円	14					○	
56	19	八木字廣1号墳	八木字字廣	円	8					△	
57	19	下勝田台畑1号墳	下勝田字台畑	円	10					○	
58	19	下勝田西横穴群	下勝田字西						3基、1基開口	△	
59	19	直弥寺台古墳群	直弥字寺台						円墳3基(8～10m級)	○	
60	19	天辺内山古墳群	天辺字内山						前方後円墳1、円墳1(13m)、方墳2(7m級)	△	
60-1	19	天辺内山1号墳	〃	前方後円	35					○	
60-2	19	〃 2号墳	〃	円	13				伝勾玉、直刀出土	△	
61	19	上勝田鎌田1号墳	上勝田字鎌田	円	8					○	
62	18	江原台遺跡	白井田字江原台	方形周溝					方形周溝墓2基		1973年調査
62-1	18	〃 1号方形周溝	〃	方形周溝	8.6～9.2	○			大型甕、坩型壷	×	〃
62-2	18	〃 2号方形周溝	〃	方形周溝	11	○			大型壷	×	〃
63	18	向山谷津1号墳	神門字向山谷津	円	12.5	○			土師、須恵器細片	×	1983年調査
64	18	明代台遺跡B地点	神門字木戸場						円墳1		1982年調査
64-1	18	〃 1号墳	〃	円	11.9～12.2	○			須恵長頸壷	×	〃
65	19	立山遺跡	直弥字立山						円墳5基、方形周溝18基、円形周溝9基		1979年調査
65-1	19	〃 1号墳	〃	円	25.3	○		土坑	鉄鏃、土製臼玉	×	〃
65-2		〃 2号墳	〃	円	23.5	○		(第1主体部)木棺直葬(第2主体部)周溝内土坑(第3主体部)周溝内土坑	(第1主体部)刀子、鉄鏃、(第3主体部)銅輪、勾玉、管玉、臼台	×	〃
65-3	19	立山3号墳	直弥字立山	円	25.5	○		(第1主体部)木棺直葬(第2主体部)木棺直葬	(第1主体部)刀子、鉄鏃	×	1979年調査
65-4	19	〃 4号墳	〃	円	22.7～23.2	○		切石箱式石棺	刀子、鉄鏃	×	〃
65-5	19	〃 5号墳	〃	円	22～26	○		周溝内に土坑5	土師器坏	×	〃
65-6	19	〃 5号円形周溝	〃	円形周溝	16.8～17.8	○		周溝内に土坑		×	〃
66	19	向原遺跡	直弥字向原						円墳14基(内9基は円形周溝か?)		
66-1	19	〃 1号墳	〃	円	26.2	○			管玉2、臼玉1、土師器	×	
66-2	19	〃 2号墳	〃	円	25.5	○			土師器坏、須恵器壷	×	
66-3	19	〃 3号墳	〃	円	15.1	○				×	
66-4	19	〃 4号墳	〃	円	26.8	○			鉄鏃、釘、土師器	×	
66-5	19	〃 5号墳	岩富字向原	円	22.2	○			鉄鏃、釘、土師器坏、小型壷	×	
67	19	池向遺跡	岩富字池向								
68	19	星谷津1号墳	岩富字星谷津	円	16	○		木棺直葬?	碧玉製管玉	×	1975年調査

■酒々井町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	11	下岩橋仁階古墳	下岩橋字仁階	円	20					△	
2	11	宗吾飯仲古墳群	下岩橋字溜台他						成田市とまたがる。酒々井町には前方後円墳1、円墳2(20m級)	○	
2-1	11	〃 13号墳	〃	前方後円	30					△	
3	19	伊篠石堂古墳群	伊篠字石堂						円墳1(20m級)、方墳ととらえられていたものは塚と判断された。周辺に小盛土が多数存在する。	○	
4	19	上岩橋和田原古墳群	上岩橋字和田ノ原						円墳数基が存在したといわれ、石棺、直刀が出土したと伝わる。	×	
5	19	上岩橋大鷲神社古墳	上岩橋	円	30	○	○		伝、石枕出土(石枕は町教育委員保管)	○	
6	19	伊篠白幡古墳群	伊篠字白幡						円墳2基(10～15m級)うち1基は今回現認できなかった。	△	
7	19	カンカンムロ横穴群	酒々井字巌島山						7基で構成されるというが、現状では4基のみ確認。	○	1941年調査、新掘横穴群
7-1	19	〃 1号横穴	〃	玄室長3.5m					直刀、鉄鏃、銅鋺、勾玉、平瓶	○	〃
8	19	鬼塚古墳	土本佐倉字向台	前方後円		○	○		将門古墳と同様の古墳ととらえられる	○	
9	19	狐塚古墳	酒々井字酒々井	前方後円	49	○		横穴式石室	鉄鏃、勾玉(瑪瑙、ガラス、滑石製)丸玉、臼玉	×	1975年調査
10	19	本佐倉西屋ヒり古墳	本佐倉字西屋上り	前方後円	30	○				○	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
11	19	尾上平台1号墳	尾上字平台	円	30	○		伝石棺出土	伝直刀出土	△	
12	19	尾上平台2号墳	〃	前方後円	25					△	
13	19	墨小盛田古墳	尾上字小盛田	方(長方)	23～30	○		箱式石棺	長頸壺(周溝内)	◎	1986年調査、主体部で保存
14	19	墨八石古墳	墨字八石	円	20	○				△	
15	19	馬橋鷲尾余1号墳	馬橋字鷲尾余	円	10.5	○		木棺直葬	刀子	×	1978年調査
16	19	墨六所神社古墳	墨字広畑	円	18					○	
17	19	墨広畑古墳	〃	上円下方	20					○	一部盛土が観察され、塚の可能性を残す
18	19	墨古沢古墳	墨字古沢	円	20					△	
19	19	伊篠篠山古墳	伊篠篠山新田	円	15					△	

■富里町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	11	日吉倉遺跡群	日吉台1、2丁目								1973年調査
1-1	11	松ノ木台2号墳	〃	円	16×17	○		横穴式石室	海獣葡萄鏡1、刀子3	×	〃
1-2	11	鳥山1号墳	〃	円	19～21	○				×	〃
1-3	11	鳥山2号墳	〃	円	27	○		木棺直葬	横引板鈑留短甲1、鉄剣1、鉄鏃3、須恵器有蓋高坏	×	〃
1-4	11	Ⅱ区1号円形周溝墓	〃	円形周溝	9.4	○				×	〃
1-5	11	〃 2号円形周溝墓	〃	円形周溝	9.6～13.5	○				×	〃
1-6	11	日吉倉遺跡1号墳	日吉倉	方形周溝	8×10	○			底部穿孔壺、壺、甕	×	1970年調査
1-7	11	〃 2号方形周溝墓	〃	方形周溝	6.5×8	○				×	〃
1-8	11	〃 2号昭形周溝墓	〃	方形周溝	6×6	○				×	〃
1-9	11	日吉倉Ⅳ区1号円形周溝墓	日吉台	円墳周溝	12	○			壁(周溝内)	×	1973年調査

■成田市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	5B	竜台古墳群	竜台						円墳5基(10～15ｍ級)	○	
2	11	南羽鳥古墳群	南羽鳥						前方後円墳2基(20～30ｍ級)、円墳32基(10～20ｍ級)	○	
3	11	竜角寺古墳群	大竹字申内他						栄町と成田市にまたがる。(前方後円墳36基、円墳71基、方墳6基)成田市域(前方後円墳8基、円墳19基、方墳1基)		
3-51	11	〃 51号墳	〃	前方後円	26	○				◎	
3-53	11	〃 53号墳	〃	前方後円	27			箱式石棺		◎	
3-54	11	〃 54号墳	〃	前方後円	32					◎	
3-84	11	〃 84号墳	〃	前方後円	22					◎	
3-98	11	〃 94号墳	〃	前方後円	29					◎	
3-100	11	〃 100号墳	〃	方	22					◎	
3-101	11	〃 101号墳	〃	前方後円(帆立貝式)	36.8	○	○	第1主体、木棺直葬 第2主体、箱式石棺 第3主体、箱式石棺 第4主体、箱式石棺	円墳を後に改変し、前方部を造り出している。	◎	1958年調査
3-103	11	〃 103号墳	〃	前方後円	21					◎	
4	11	上福田古墳群	上福田						前方後円墳2、方墳3、円墳8(10～15ｍ級)		
4-2	11	〃 2号墳	〃	前方後円	45					◎	
4-3	11	〃 3号墳	〃	前方後円	32					◎	
4-7	11	〃 7号墳	〃	方	32			横穴式石室	凝灰質砂岩切石積	◎	上福田古墳
4-13	11	〃 13号墳	〃	方	18・40(二重周溝)	○		横穴式石室	凝灰質砂岩切石積	×	1987年調査
5	11	大竹古墳群	大竹						円墳13基(10～20ｍ級)	○	
6	11	宝田桜谷津古墳群	宝田字桜谷津						円墳2基(10～15ｍ級)	○	
7	11	宝田親作古墳群	鳥田字親作						前方後円墳1基(20ｍ級)、円墳5基(10ｍ級)	○	
8	11	宝田横穴群	宝田字親作						横穴4基、一部消滅	△	
9	11	押畑古墳	押畑	円	13					○	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
10	11	押畑古墳群	押畑						円墳3基(10～15ｍ級)	○	
11	11	八代台古墳群	玉造2丁目						前方後円墳2基、円墳18基、方墳7基(うち4基は塚か?)		1部調査後消滅
11-7	11	〃 7号墳	〃	円	37.05	○			三段構築、北側の一部に石材が少量発見された。	×	〃
11-8	11	〃 8A号墳	〃	方	10	○				×	〃
11-8	11	〃 8B号墳	〃	方		○				×	〃
11-12	11	〃 12号墳	〃	前方後円	25	○				○	
11-15	11	〃 15号墳	〃	前方後円	15					○	
11-20	11	〃 20号墳	松崎	方(長方)	12.5×17.5	○		箱式石棺	人骨	×	
11-21	11	〃 21号墳	〃	円	14	○			高坏脚部片	×	
11-22	11	〃 22号墳	〃	円	13	○				×	
12	11	天王、船塚古墳群	吾妻1、2丁目他						前方後円墳1、前方後円墳2、円墳27、方墳9、一部消滅		
12-1	11	天王殿塚1号墳	赤坂1丁目	前方後円	75	○				◎	船塚
12-4	11	〃 4号墳	〃	円	内側周溝39×12外側周溝51-55	二重周溝○		横穴式石室	直刀3、鉄鏃12、刀子1、壷鐙2、轡2、鉸具1	×	
12-5	11	〃 5号墳	〃	円	26	○		木棺直葬	鉄剣5、直刀1、鉾1、鉄鏃20	×	
12-8	11	〃 8号墳	〃	前方後円(帆立貝)	29	○		箱式石棺状石室	刀子5、鉄鏃31、金銅製鈴2、勾玉2、管玉2(石室内)、刀子1、鉄片4(天上石上)	×	
12-10	11	〃 10号墳	吾妻1丁目	方	17.5	○		横穴式石室	(玄室内)カガミ貝、(封土中)長頸壺片、直刀片	×	
12-31	11	〃 31号墳	吾妻三丁目	前方後円墳	50					◎	天王塚
12-32	11	〃 32号墳	橋賀台二丁目	方(不整方形)	23	○		木棺直葬	刀子1、臼玉21	×	
12-33	11	〃 33号墳	〃	〃	15.9～17.8	○		〃	臼玉21	×	
12-34	11	〃 34号墳	赤坂1丁目	円	18	○		横穴式石室	刀子片1、人骨片(石室)、刀子片1、須恵器片(羨道)、直刀1、刀子1、鉄鏃16、長頸瓶、フラスコ型提瓶、平瓶(前庭部)	×	
12-35	11	〃 35号墳		円	7	○		横穴式石室?	人骨片、歯	×	
12-36	11	〃 36号墳	〃	円	10	○		第1主体木棺直葬 第2主体木棺直葬	直刀(第1主体)、直刀片(第2主体)、刀子片、鉄斧、剣形模造品、有孔円板、臼玉(主体部付近)	×	
12-37	11	〃 37号墳	〃	円	20	○		箱式石棺	直刀1、刀子1、鉄鏃12、人骨片	×	
12-40	11	〃 40号墳	橋賀台2丁目	円	15	○		横穴式石室	鉄鏃2、水晶製切子玉1	×	
12-44	11	〃 44号墳	中台1丁目	方	16	○		横穴式石室		×	
12-45	11	〃 45号墳	〃	円	11	○				×	
12-46	11	〃 46号墳	吾妻1丁目	円	24	○		木棺直葬	刀子1、鉄鏃5、鉄片1	×	
12-48	11	〃 48号墳	中台1丁目	方	17	○		箱式石棺	鉄鏃50、尾錠1	×	1965年調査、大山古墳
12-49	11	〃 49号墳	台方	方	23	○		箱式石棺	土師器甕、須恵器甕片	×	
12-50	11	〃 50号墳	中台1丁目	方	19.5	○		横穴式石室	須恵器平瓶(石室内)、馬具の一部(前庭部)勾玉1、管玉1	×	
13	11	甕塚古墳群	赤坂2丁目 加良部6丁目						前方後円墳1、円墳23、方墳19、一部調査後消滅、(現存前方後円墳1、方墳4、円墳1)		
13-5	11	甕塚5号墳	加良部6丁目	前方後円	50	○				◎	甕塚
13-9	11	〃 9号墳	〃	方	17.40～18.20	○			周溝底より土師器壷2	×	
13-12	11	〃 12号墳	赤坂2丁目	方	15			木棺直葬か?	刀子1	×	
13-15	11	〃 15号墳	〃	円	18～22	○		〃	刀子1	×	
13-16	11	〃 16号墳	〃	方	11.5～13.5	○		〃	仿製変形四神鏡1	×	
13-17	11	〃 17号墳	〃	円	25	○		〃	乳文鏡(墳頂部やや南寄り地表下)、鉄斧(裾部)	×	
13-18	11	〃 18号墳	〃	円	9	○		〃	鉄片1	×	
13-19	11	〃 19号墳	〃	円	10	○		〃	鎧付直刀1、ガラス小玉1	×	
13 20	11	〃 20号墳	〃	円	19	馬蹄形○				×	帆立貝型もしくは前方後円墳の可能性あり

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
13-21	11	〃 21号墳	〃	円	15	半円状○			須恵器坏片(周溝内)	×	
13-22	11	〃 22号墳	〃	円	17～18.5	○		木棺直葬	短剣1、刀子1	×	
13-23	11	〃 23号墳	〃	円	10	○		〃	刀子1、鉄鏃1	×	
13-27	11	〃 27号墳	〃	円	22～25	○		横穴式石室	鉄片1、金銅片1(石室内)、鉄鏃20、須恵器長頸瓶(石室上)	×	
13-29	11	〃 29号墳	〃	円	14	○		木棺直葬	剣1、刀子1、鉄鏃20	×	
13-30A	11	〃 30A号墳	〃	円	14	○				×	
13-30B	11	〃 30B号墳	〃	円	14.5	○				×	
13-31	11	〃 31号墳	〃	円	15					×	
13-32	11	〃 32号墳	〃	円	26	○	○	(第1主体)木棺直葬 (第2主体)木棺直葬	石枕1、立花片1、刀子2、鉄鏃4、鎌1、滑石片1(第1主体)、直刀1、滑石片(第2主体)、人物埴輪、鳥形埴輪、円筒埴輪	×	
13-33	11	〃 33号墳	〃	円	16～18	○		木棺直葬	刀子1、銅剣1、鉄鏃14	×	
13-34	11	〃 34号墳	〃	円	11	○			鉄鏃1	×	
13-35A	11	〃 35A号墳	〃	円	8	○		木棺直葬	鉄鏃4	×	
13-35B	11	〃 35B号墳	〃	円	9.3	○		〃	鉄鏃3、鉄片1	×	
13-36	11	〃 36号墳	〃	方	11	○		横穴式石室	人骨(石室内)、須恵器長頸壷1、平瓶1	×	
13-38	11	〃 38号墳	加良部5丁目	方	22～29	○		横穴式石室	金環1(石室内)、須恵器長頸瓶1(周溝)	×	
13-39	11	〃 39号墳	〃	方	20	○		〃	刀子1、鉄製壷鐙2、円環状鏡板付轡1、鉸具2	×	
13-40	11	〃 40号墳	赤坂2丁目	方	10×14	○		箱式石棺	方頭大刀1(石棺上)、木芯金銅張把頭1、鋲付銅板1、金糸48(石棺内)、鈴3、鉸具2、彰忠器大甕1(周溝)	×	
13-41	11	〃 41号墳	加良部1丁目	方	12×16	○		横穴式石室	直刀1、鉄鏃10、轡片1、須恵器平瓶2、短歌瓶1(石室内)、金銅製鞘尻1、せめ金具、鉄鏃98、鉸具1、引手壷2、轡片1	×	
13-42	11	瓢塚42号墳	加良部6丁目	方	13	○		〃	須恵器平瓶1(石室上)	×	
13-43	11	〃 43号墳	円	1 8	○				×		
13-44	11	〃 44号墳	中台6丁目	方	11.2×12	○		横穴式石室	須恵器長頸瓶1(羨道部)	×	
13-45	11	〃 45号墳	加良部6丁目	方	13	○			土師器甕(周溝)	×	
13-46	11	〃 46号墳	橘貿台1丁目	方	18	○		木棺直葬	臼玉141	×	
13-47	11	〃 47号墳	〃	方	16	○		〃	剣1、刀子1、白玉186	×	
13-48	11	〃 48号墳	〃	方	18	○			鉄鏃(封土中)	×	
13-13	11	〃 13号墳	赤坂2丁目	方	18	○		木棺直葬		×	
14	11	橘貿台横穴群	橘貿台	横穴					4基	○	
15	11	山口古墳群	山口字天神台他						円墳5基(10～20ｍ級)	○	
16	11	殿台遺跡	土屋字殿台	円	21	○				×	
17	11	干場古墳群	台方字干場						方墳2基	◎	
17-1	11	干場1号墳	〃	方	36	○		(第1主体)横穴式石室 (第2主体)箱式石棺		◎	
18	11	勝福寺古墳群	北須賀						前方後円墳3基、円墳2基、方墳1基	◎	
18-2	11	勝福寺2号墳	〃	前方後円	54				墳丘脇に主体部のものと思われる雲母片岩あり。	○	
18-3	11	〃 3号墳	〃	前方後円	38					◎	
18-5	11	〃 5号墳	〃	前方後円	48					○	
19	11	五郎台古墳群	台方字江川他						円墳1(25ｍ級)、方墳1(32ｍ)	○	
20	11	台方古墳群	台方字井戸花他						円墳12基(10～15ｍ級)	○	
20-1	11	台方1号墳	〃	円					15年程前に消滅、剣、石枕が出土し、成田霊宝館に所蔵されたという	×	
20-4	11	〃 4号墳	〃	円	10.5		○		円筒埴輪片採集、極めて大型であったと伝えられる。	△	
21	11	大塚古墳	大方字根古谷	円	20				鏡、玉類	△	
22	11	道場台遺跡	下方字鷲田						円墳2基(10ｍ級)	×	
23	11	宗吾、飯仲方遺群	宗吾、飯仲						酒々井町とまたがる。前方後円墳4基、円墳14基(10～25ｍ級)	○	
23-1	11	宗吾、飯仲方1号墳	宗吾二丁目	前方後円	70					△	
23-2	11	〃 2号墳	〃	前方後円	30			箱式石棺	直刀1、鉄鏃7点(東京国立博物館蔵)	△	
23-12	11	〃 12号墳	飯仲	前方後円	35	○			墳丘下に雲母片岩あり、石棺材か	○	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
24	5B	磯部古墳群	磯部						円墳12基(10～20ｍ級)	○	
25	11	土室古墳群	土室						円墳8基(10～15ｍ級)	○	
26	11	八幡台古墳群	芦田						円墳14基(10～20ｍ級)	◎	
27	11	新妻古墳群	新妻						円墳5基(10～15ｍ級)	○	
28	11	野毛平古墳群	野毛平、十余三						前方後円墳1基、円墳22基(内4基調査後消滅)		
28-1	11	〃 001号墳	十余三字瓜生池	円	11.7	○			土師器坩(周溝内)	×	
28-2	11	〃 002号墳	〃	円	14.6	○				×	
28-3	11	〃 003号墳	〃	円	19	○			土師器、甕、埦、石製紡錘車(周溝内)	×	
28-4	11	〃 推出L1号墳	〃	前方後円	21.7	○		箱式石棺	直刀片6、鉄鏃14	×	
29	11	堀ノ内古墳群	堀之内						円墳4基(15ｍ級)	◎	
30	11	長田古墳群	長田						円墳3基(12～21ｍ)1基消滅	○	
31	11	浅間台古墳群	野毛平字浅間						円墳7基(10～15ｍ級)…部消滅		
31-1	11	〃 1号墳	〃	円	10	○		粘土棺(砂岩切石石棺か)	頭椎大刀1、直刀1、鉄鏃10	×	
31-2	11	〃 001号跡	〃 684	円	10	○		木棺直葬	管玉、石製模造品(紡錘車、双孔円板、剣形)	×	
32	11	東金田古墳群	野毛台東金田						円墳3基(10～15ｍ級)	△	
33	11	関戸古墳群	関戸						円墳8基、方墳1基		1980年調査
33-1	11	〃 201号跡	〃	円	18.5	○			坩、椀、台付坩(周溝内)	×	〃
33-2	11	〃 202号跡	〃	円	21.0	○				×	〃
33-3	11	〃 203号跡	〃	円	12.2	○				×	〃
33-4	11	〃 204号跡	〃	円	11.5	○				×	〃
33-5	11	〃 205号跡	〃	円	13.5	○				×	〃
33-6	11	〃 206号跡	〃	円	10.5	○				×	〃
33-7	11	〃 207号跡	〃	円	12.5	○				×	〃
33-8	11	関戸208号跡	関戸	円	12	○			土師器甕、埦、	×	1980年調査
33-9	11	〃 209号跡	〃	方	14	○			土師器坩	×	〃
34	11	荒海古墳群	荒海						現存円墳2基		
34-15	11	〃 15号墳	〃	前方後円	27	○	○		形象埴輪、円筒埴輪	×	
35	11	川栗台古墳群	川栗						円墳3基現存、一部消滅	△	
36	11	久米野古墳群	久米野、古倉、山之作						円墳6基現存(10～15ｍ級)	○	
37	11	松原古墳	寒町	円						×	
38	11	日吉倉古墳群	日吉倉						富里町にまたがる(富里1を参照)、現存1基のみ、他は消滅	○	

■四街道市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	18	殿台古墳群	亀崎字殿台他						小規模な4基からなり、2基を円墳と認定する。	△	
2	18	御山遺跡	物井字御山						湧水遺跡、新久遺跡、出口遺跡とともに物井古墳群を形成する。帆立貝形1、円墳11、方墳15、墳形不明1、(うち円墳6、方墳13基は調査後消滅)		1684、85年調査
2-2	18	〃 OY-002	〃	方	11	○				×	〃
2-8	18	〃 OY-008	〃	円	23	○				×	〃
2-9	18	〃 OY-009	〃	方	5.0×5.1	○				×	〃
2-15	18	〃 OY-015	〃	円	23	○		箱式石棺	金銅装大刀、直刀、刀子、鉄鏃、勾玉、琥珀玉、管玉、ガラス台、臼玉、瓢玉	×	〃
2-19	18	〃 OY-019	〃	円	12	○				×	〃
2-20	18	〃 OY-020	〃	円	15	○				×	一部にブリッジをもつ〃
2-21	18	〃 OY-021	〃	前方後円(帆立貝)	20	○		箱式石棺	直刀、鉄鏃、ガラス玉、管玉	×	〃
2-26	18	〃 OY-026	〃	方	3.5	○				×	〃
2-28	18	〃 OY-028	〃	方	3.5	○				×	〃
2 31	18	〃 OY-031	〃	方	5.6	○				×	〃
2-36	18	〃 OY-036	〃	円	15	○		木棺直葬	直刀、鉄鏃	×	〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
2-37	18	〃 OY-037	〃	方	3.8×4.3	○				×	〃
2-42	18	〃 OY-042	〃	方	14.5	○				×	〃
2-43	18	御山遺跡OY-043	物井字御山	方	4.4×4.8	○				×	
2-47	18	〃 OY-047	〃	方	9.5	○		横穴式箱形木棺?		×	
2-50	18	〃 OY 050	〃	方	3	○				×	
2-51	18	〃 OY 051	〃	方	4.5	○				×	
2-52	18	〃 OY-052	〃	方	6.5	○				×	
2-54	18	〃 OY-054	〃	方円	18	○		箱式石棺	刀子、鉄鏃、勾玉、管玉、貝釧、ガラス玉	×	
2-55	18	〃 OY-055	〃	方	7.0×8.0	○				×	
2-58	18	〃 OY-058	〃					箱式石棺	(主体部のみ検出)、金銅装金具黒漆塗大刀	×	
3	18	清水遺跡	物井字清水						新久遺跡、出口遺跡を含めて、物井古墳群を形成するものと考えられる。帆立貝式4、円墳1	×	1985、86年調査
3-1	18	〃 001号墳	〃	前方後円(帆立貝)	22	○		(第1主体)木棺直葬 (第2主体)周溝内土壙	小刀、刀子、鉄鏃(第1主体より)	×	〃
3-2	18	〃 002号墳	〃	前方後円(帆立貝)	28.2	○		(第1主体)箱式石棺 (第2主体)周溝内土壙	鉄鏃、琥珀玉、ガラス玉(第1主体)、直刀、鉄鏃、ガラス玉(第2主体)	×	〃
3-3		〃 003号墳	〃	前方後円(帆立貝)	22.7	○		箱式石棺	琥珀玉、ガラス玉(主体部)、鉄斧(周溝内)	×	〃
3-4	18	〃 004号墳	〃	前方後円	24.2	○		(第1主体)箱式石棺 (第2主体)周溝内土壙	鉄鏃、ガラス玉(第1主体)、小刀(第2主体)	×	1970年調査
4	18	新久遺跡	物井字新久						帆立貝式1、円墳2、方墳1、調査区外に周溝(円墳)1、調査後4基消滅	×	1985年調査
4-1	18	〃 001号墳	〃	円	20	○		周溝内土壙	横瓶	×	〃
4-2	18	新久遺跡002	物井字新久	円	15	○		木棺直葬	小刀、鉄鏃、耳環、ガラス玉	×	1985調査
4-3	18	〃 003	〃	前方後円(帆立貝)	26.5	○		箱式石棺 周溝内土壙3	鉄鏃、琥珀玉、ガラス玉、周溝内壙のうち1基は石棺材抜き取り痕あり	×	〃
4-4	18	〃 014	〃	方	5.1×5.2	○				×	
5	18	出口(2)遺跡	物井字出口						帆立貝式2基		
5-1	18	〃 001	〃	前方後円(帆立貝)		○		箱式石棺		×	1981年調査、旧物井9号墳
5-2	18	〃 002	〃	前方後円(帆立貝)		○		〃		×	旧物井7号墳
6	18	出口鐘塚遺跡	物井字出口	円	17	○				×	1986年調査
7	18	物井古墳群	物井字出口他						現存6基、本来は御山、清水、新久、出口遺跡を含めての総称であるが、ここにおいては、未調査であり、現存するものを総括する(一部消滅)		
7-1	18	物井1号墳	物井字清水	円	20	○		箱式石棺	円頭大刀、直刀、鉄鏃、琥珀玉	×	1981年調査
7-10	18	〃 10号墳	〃	円	33	○	円筒形象		封土を失い、畑地中に周溝のみ残存。	×	
8	18	池花南遺跡	内黒田字池花						帆立貝式1、円墳12、方形周溝5基	×	1986年調査
8-1	18	〃 SX-01	〃	円	12.7	○			土師器塊(周溝内)	×	〃
8-2	18	〃 SX-02	〃	円	18.4	○		横穴式石室	鉄鏃、勾玉、管玉、切子玉、臼玉、ガラス玉	×	〃
8-3	18	〃 SX-03	〃	円	18.2	○		(第1主体)木棺直葬 (第2主体)木棺直葬	直刀、錫環(第2主体)	×	〃
8-4	18	〃 SX-04	〃	円	11.8	○			土師器塊(周溝)	×	〃
8-5	18	池花南SX-05	内黒田字池花	円	12.8	○				×	1986年調査
8-6	18	〃 SX-06	〃	円	8.9	○				×	〃
8-7	18	〃 SX-07	〃	円	12.7	○				×	〃
8-8	18	〃 SX-08	〃	前方後円?(帆立貝)	8.4	○		木棺直葬		×	〃
8-9	18	〃 SX-09	〃	円	6.5	○		〃		×	〃
8-10	18	〃 SX-10	〃	円	6.9	○				×	〃
8-11	18	〃 SX-11	〃	円	8.8	○		木棺直葬	鍔環	×	〃
8-12	18	〃 SX-12	〃	円	7.5	○				×	〃
8-18	18	〃 SX-18	〃	円	8.6	○				×	〃
9	18	千代田遺跡	千代田1、2丁目						広範囲な台地上に30基を超す古墳が存在したという、1971年宅地造成に先行して調査が行われたが実態は不明。現存10基、12基調査		1971年調査

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
9-1	18	〃 A-1	〃	円	18.4	○		木棺直葬	直刀	×	〃
9-2	18	〃 A-2	〃	円	22.8	○		〃	直刀、鉄鏃	×	〃
9-3	18	〃 A-3	〃	円	14.4	○		〃		×	〃
9-4	18	〃 A-4	〃	円	18.8	○		〃	直刀、刀子	×	〃
8-5	18	〃 A-5	〃	円	21.8	○		〃		×	〃
9-6	18	千代田遺跡B-1	千代田1、2丁目	円	19.0	○		箱式石棺	勾玉	×	
9-7	18	〃 B-2	〃	円						×	
9-8	18	〃 B-3	〃	円	17.5	○		箱式石棺	勾玉、管玉	×	
9-12	18	千代田12号墳	千代田1丁目					〃	直刀、鍔、刀子、鉄環	×	1988年調査
8-14	18	〃 14号墳	物井字茶屋ヶ作	円	15				現存する古墳10基については便宜上13～22号番号を付した。伝、直刀出上	○	
9-17	18	〃 17号墳	〃	円	18	○				◎	
10	18	小屋ノ内遺跡	物井字小屋ノ内	円	23	○				×	1989年確認調査
11	18	入ノ台遺跡	長岡字入ノ台						円墳1基、塚7基(方形2、円形5)土採取の為、消滅	×	
11-1	18	〃 1号墳	〃	円	17	○				×	1983年調査
12	18	太郎山下古墳群	栗山字太郎山下						円墳4基(12～15m級)うち2基は消滅	○	
13	18	西畑古墳群	鹿渡字西畑						円墳3基(13～17m級)	○	
14	18	和田古墳群	鹿渡字和田						西畑古墳群と近接し本来は同一古墳群ととらえられる。円墳3基(10～18m級)	○	
15	18	川戸古墳群	山梨字川戸						円墳4基(8～15m級)	○	
15-4	18	〃 4号墳	〃	円	15	○				○	
16	18	相ノ谷古墳群	川戸字川戸下						前方後円墳1、円墳4基(7～17m級)	○	
16-1	18	相ノ谷1号墳	川戸字殿台	前方後円	22	○				○	
17	18	西向井古墳群	向井字西向井						円墳3基(10～15m級、うち1基は周溝のみ残る。)	△	
18	23	西ノ内古墳群	小名木字西ノ門						円墳1基(13m級)、他に塚6基(2～8m級)あり	○	
19	23	鷹ノ家古墳群	吉岡字鷹ノ家						円墳3基(10m級)近接して谷津塚(20基)が存在する。	○	
20	23	外野古墳	吉岡字外野	円	18				鷹ノ家古墳群に近接し、包括される可能性あり。	○	

■八街町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	24	内ノ台古墳群	内田字内ノ台						円墳2基(15m級)、1基消滅	○	
2	24	内ノ台Ⅱ古墳群	〃						円墳3基(8～12m級)	○	
3	24	新地台古墳群	岡田字新地台						円墳2基(10～12m級)	○	
4	24	広畑古墳	東吉田字広畑	円	14				伝、直刀出上	○	
5	24	菜飯塚	古倉菜飯	円	12					△	
6	24	宮前塚1号墳	用草字宮前	前方後円(帆立貝)	29.5	○		箱式石棺	直刀、鉄鏃、人骨	×	1989年調査
7	24	摩拝塚1号墳	用草字摩拝塚	前方後円(帆立貝)	20m以上	○		横穴式石室	直刀、鉄鏃、轡、勾玉、管玉、臼玉	×	〃

■下総町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	6	木挽崎古墳群	名木木挽崎						前方後円墳1、円墳4		
2	6	大坂古墳群	名木大阪						円墳4		
3	6	長稚葉古墳群	名木長稚葉						前方後円墳2、円墳3		
4	6	媛宮古墳群	名木媛宮						前方後円墳1、円墳3		
5	6	不光寺古墳群	名木不光寺						前方後円墳1、円墳2		
6	6	前原古墳群	名木前原						円墳7		
7	6	大日山古墳群	高岩床司						前方後円墳1、円墳2		
7-2	6	大日山2号墳		前方後円	54			木炭槨	人骨、鉄剣1、短冊形鉄斧1、刀子2、碧玉、管玉2、ガラス小玉8	×	
8	6	高台古墳群	高高台						前方後円墳1、円墳6		
9	6	浅間古墳群	高浅間						前方後円墳1、円墳7		高台古墳群、位置不明

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
10	6	宮作古墳群	高栗台						前方後円墳2、円墳2		高台占墳群
11	6	栗台1号墳	高栗台985	前方後円	28					○	高台14号墳
12	6	那智山古墳群	高那智山						円墳2		
13	6	天王山古墳群	小野批把ヶ作						円墳9		
14	6	小野焼山古墳	小野焼山956	円							
15	5B	小山台古墳	大和田小山台776	円						○	
16	5B	小仲内古墳群	大和田小仲内						前方後円墳1、円墳2		
17	5B	小野権見原古墳	小野権見原914	円							
18	5B	羽黒台古墳群	小野羽黒台						円墳5		
19	5B	中道古墳群	小野中道						前方後円墳1、円墳2		
20	5B	原台古墳群	大和田原						円墳3		
21	5B	大和田内宿古墳群	大和田内宿						円墳2		塚の可能性大
22	5B	大日台古墳	大和田	円						×	
23	5B	広内古墳	大和田広内589					箱形石棺			
24	5B	房台古墳群	小野房台						円墳2		
25	5B	治部台古墳群	大和田治部台						円墳4		
26	5B	大和田坂ノ上古墳群	大和田坂ノ上						前方後円墳2		
27	5B	稲荷峰古墳群	大和田前田						円墳2		
28	5B	高岡根本1号墳	高岡根本1444	円							
29	5B	薬師裏古墳群	猿山薬師裏						前方後円墳1、円墳2		真城古墳群
30	5B	猿山天神塚古墳	猿山菅谷270		15					△	
31	5B	殿山古墳群	猿山殿山						前方後円墳1、円墳4		猿山古墳群
32	5B	猿山オカネ塚古墳	猿山稲荷内1226								
33	5B	菊水山古墳群	滑川城台						前方後円墳2、円墳1		
33-2	5B	菊水山2号墳	滑川城台1486-2	前方後円	43					◎	
34	5B	観音台古墳群	滑川内沼						円墳2		
35	5B	大菅上人塚古墳群	大菅上人塚						円墳2		
36	5B	谷津古墳群	西大須賀谷津						前方後円墳2、円墳3		
37	5B	西大須賀低地古墳	西大須賀谷津	円	13		円筒朝顔	不明		×	
38	5B	滑川坂ノ上古墳群	滑川中台西大須賀谷津						前方後円墳2、円墳5		
38-4	5B	滑川坂ノ上4号墳	西大須巻谷津48	前方後円	70			横穴式石室?		○	
39	5B	離山古墳	西大須賀四谷曽根1485	円	30					◎	
40	5B	栗山古墳群	滑川栗山						前方後円墳2、円墳28		
41	5B	大菅西ノ台古墳	大菅西ノ台25	円	10					○	
42	5B	大菅向台裏古墳	大菅裏396	円	6					○	塚の可能性大
43	5B	大菅天神古墳	大菅天神226	円	5					○	塚の可能性大
44	5B	七沢口古墳	猿山与左エ門屋敷						円墳1、方墳1		2号墳(方墳)は塚の可能性大
45	5B	植松古墳群	七沢植松						円墳2		
46	5B	名古屋小山台古墳群	名古屋小山台						円墳2		
47	5B	大菅松原古墳	大菅松原45-3	円	7			不明		○	塚の可能性大
48	5B	十二代古墳群	名古屋十二代						円墳4		塚の可能性大
49	5B	名古屋薄立古墳	名古屋薄立1008	円							
50	5B	峯之内古墳	高倉峯の内							×	
51	5B	名古屋浅間台古墳	名古屋浅間台143							×	
52	6	岩作台古墳群	倉水岩作台						円墳2		
53	6	鎌部1号古墳	名木鎌部								
54	6	中峰古墳群	青山新田中峰						円墳4		
55	6	成井華塚古墳群	成井華塚						円墳2、方墳2		1、2号墳(方墳)は塚の可能性大
56	6	成井居山古墳群	成井居山						方墳2		
57	6	成井新林1号墳	成井新林813								
58	6	成井東山古墳	成井原山308								
59	6	成井原山1号墳	成井原山289	円							
60	6	成井原山向1号墳	成井原山向43	円							

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
61	5B	高倉	高倉38	不明					石枕、三葉環頭大刀、鉄鏃、鉄斧、有孔円板、滑石製紡平勾玉、石製模造品(紡、砥石		
62	5B	西大須賀横穴群	西大須賀宇朝間作						円頭大刀、刀子、鉄鏃、環状鏡板付轡、壺鐙、鉸具、須恵器蓋坏、47基		

■神崎町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1		東の城古墳	並木東ノ城509	円						○	
2	6	中の城古墳	並木中の城650-1	前方後円			円筒			○	神宮寺寺山古墳
3	6	夏母古墳	並木夏母658	円						◎	
4	6	西ノ城古墳群	並木西ノ城						前方後円墳1、円墳1		
5	6	寺前古墳	小松寺前826	円							
6	6	天神山古墳	小松天神山840-1	円						◎	
7	6	馬場古墳	小松馬場374	円					石枕	◎	
8	6	上ノ坪古墳	小松上ケ坪386-1	円					直刀	△	
9	6	向田古墳群	小松向田						前方後円墳2、円墳2		
10	6	浅間古墳群	植房浅間						円墳2		
11	6	峰崎古墳	植房峰崎329-1							○	
12	6	田向台古墳群	並木田向台						前方後円墳1、円墳3		
13	6	佐藤古墳	郡佐藤1412-1	円					石枕	×	
14	6	北の内古墳	小松寮北ノ内379	円						△	
15	6	己ノ口古墳	大貫己ノ口994	円						○	大貫小塚
16	6	羽黒占墳	大貫羽黒1165	円						○	
17	6	作ノ内古墳	大貫作ノ内1005-2	円						○	
18	6	案内古墳群	大群案内						前方後円墳1、円墳3		
19	6	立野西1号墳	立野西531	円							
20	6	榎台古墳	立野榎台519-1	円						○	
21	6	立野西2号墳	立野西596	円						×	
22	6	堀込古墳群	立野堀込						前方後円墳1、円墳1		綾宮古墳
23	6	沢田古墳	植房沢田868-2	円				不明		◎	
24	6	仏塚古墳	植房仏塚784	円						◎	
25	6	ムクヌキ古墳	植房ムクヌキ780-2	円						◎	
26	6	落合古墳	植房落合1089	円						△	
27	6	鳥内古墳群	武田鳥内						円墳1、方墳1		
28	6	鳥打古墳群	武田鳥打						円墳2		
29	6	舟塚原古墳群	新舟塚原						前方後円墳3、円墳8		佐原市西和田古墳群につづく
29-4	6	舟塚原4号墳		前方後円	45	長方形	円筒人物	箱形石棺?		◎	舟塚原古墳
30	6	辺原古墳群	武田新辺原						円墳4		
31	6	稲荷山古墳群	武田稲荷山						円墳2		
32	6	武田八幡古墳	武田八幡平20-8	前方後円						×	
33	6	村向古墳	毛成村向748	円				箱形石棺		×	
34	6	南代古墳	毛成南代204-2	円							
35	6	長作古墳	毛成長作1220	円						◎	
36	6	小山古墳	古原小山甲719	円						△	
37	6	古原下塚古墳群	古原甲下塚甲						円墳1、方墳1		2号墳(方墳)は塚の可能性大
38	6	鹿島前古墳	古原甲鹿島前甲142	円						×	
39	6	浅間古墳	古原甲浅間甲168	前方後円			円筒			◎	古山古墳
40	6	六本松古墳	古原甲六本松甲854	円						○	塚の可能性あり
41	6	上宿古墳	古原乙上宿乙297 1	円						◎	塚の可能性あり
42	6	スキャウ台古墳	古原乙スキャウ台乙327	円						△	
43	6	愛宕台横穴群	本宿愛宕台13						基数不明		
44	6	鳥内横穴群	新鳥内239 1						基数不明		

■大　栄　町

番号	図版番号	名　称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	6	地蔵原古墳群	稲荷山地蔵堂前						円墳7		
2	6	仙土台古墳群	中野仙土台						円墳2		
3	6	内野塚占墳群	稲荷山内野						円墳5、不明1		
4	6	サナガ入1号墳	奈土サナガ入	円	15					○	
5	6	馬番塚古墳群	奈土馬番塚						円墳7		
6	6	稲荷前古墳群	奈土稲荷前						円墳4		
7	6	堀籠浅山古墳群	堀籠浅間						方墳2		
7-1	6	〃　1号墳	〃	方	15×8			土坑2	壺3 小形壺(第二主体部)	×	
7-2	6	〃　2号墳	〃	方	10			土坑	器台、有段口縁壺2	×	
8	6	堀の畑古墳群	堀籠堀の畑						円墳4		
9	6	かのへ塚振墳群	村田新畑塚						前方後円墳1、円墳6、方墳1		
10	6	向台古墳群	村田向台						円墳3		
11	6	天之宮古墳群	村田天之宮						円墳9		
12	6	所古墳群	所野口						前方後円墳7、円墳6		
13	6	神楽場古墳群	桜田神楽場						円墳4		
14	6	古屋敷古墳群	津富浦古屋敷						墳形不明古墳5		
15	12	大崎古墳群	松子大崎台						円墳2		
16	12	伊能原古墳群	伊能渡内台						円墳1、不明5		
17	12	毛地下古墳群	伊能毛地下						円墳2		
18	12	海道1号墳	横山海道	円	8					△	
19	12	十余三1号墳	十余三393-18	円	25					◎	
20	12	一夜山古墳	一坪田一夜山680	方	23					◎	塚の可能性大
21	12	来光台古墳群	吉岡来光台						円墳7		

■多　古　町

番号	図版番号	名　称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	12	平山古墳群	出沼平山						円墳3		
2	12	五十塚古墳群	本三倉・谷三倉						円墳68、方墳2		
3	12	一本松古墳群	次浦一本松						円墳3		
4	12	山王古墳群	次浦山王						前方後円墳4、円墳7		
5	13	小三倉古墳群	谷三倉宮台						円墳2		
6	13	柏熊古墳群	南玉造 台、尼ヶ谷						前方後円墳1、円墳5		
6-2	13	〃　2号墳	南玉造・台3761	前方後円	71.5		円筒壺		土師器有段口縁壺(墳丘出土)	◎	柏熊古墳 杓(子)塚古墳
6-6	13	〃　6号墳	〃3718	円	40					○	お汁塚古墳 前方後円墳の可能性
7	13	金鐙塚古墳群	東松崎金鐙塚						円墳2		
8	13	北条塚古墳群	東松崎 今宮・町・稲荷山						前方後円墳1、円墳1、不明1		
8-3	13	〃　3号墳	東松崎 稲荷山1747-1	前方後円	74		円筒形埴	不明		◎	北条塚古墳
9	13	韮切古墳群	東松崎韮切						円墳4		
10	13	坂古墳群	坂 新林・天神後						円墳10、不明1		
11	13	土仏古墳群	坂 土仏・馬処・竹ノ花						円墳12		
12	13	花立古墳群	南玉造花立						円墳3		
13	13	内野古墳群	南玉造 内野・杢平						円墳12、方墳4		
14	13	馬場ノ台古墳群	南玉造 里・組打						円墳4		
15	13	石橋台古墳群	次浦石橋台						円墳2		
16	13	西古内古墳群	西古内石橋台						円墳3		
17	13	上人塚古墳群	西古内・大門入会地 上人塚						円墳2		
18	13	坂並白貝古墳群	南玉造・北中						前方後円墳10、円墳41、方墳2		

番号	図版番号	名　称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
18-29	13	〃　29号墳	北中大鯉1309-90	前方後円	50					◎	
18-51	13	〃　51号墳	北中大鯉1309-143	円	35					◎	
19	12	御所台古墳群	寺作山ノ下 御所台八王子						円墳3		
20	12・20	淀台古墳群	北中 淀台・山王・山王前・重作・鉛ノ宮台・山王原・谷ツ台						前方後円墳2、円墳30、方墳1		
20-2	12・20	〃　2号墳	北中淀台2487	前方後円	48					○	
21	12	辻尾台古墳	飯笹 辻屋台575-2		14					○	
22	12	間倉古墳群	間倉宮台						円墳2		
23	12	加茂古墳	間倉加茂台103-8	方	14					○	
24	12	大蔵古墳	飯笹大蔵1373-4	方	20					○	
25	12	大塚古墳群	喜多井野 上ノ作・大塚・条山・小塚						円墳10、方墳3		
26	12	三明寺古墳群	飯笹三明寺台・千田台、染井、並塚						前方後円墳4、円墳11、方墳1、不明1		
27	20	桜宮古墳群	染井 カウガキ作・西ノ内・鍛治塚						前方後円墳1、円墳1、方墳1、不明1		
28	20	新田台古墳群	井戸山新田台						円墳2		
29	20	白山古墳群	北中 谷ツ台・大木戸・白山						前方後円墳2、円墳4、方墳1、不明2		
30	20	飯土井台古墳群	北中飯七井台 南中飯七井台						前方後円墳1、円墳11、方墳4		
30-9	20	〃　9号墳	北中飯土井台3312	方	35					○	
31	20	並木古墳	南中二又谷1579-2	前方後円						△	
32	20	谷上古墳群	多古谷上・高野前						前方後円墳1、円墳3		
33	20	多古台古墳	多古台	円	19.5			木棺直葬	剣・直刀・刀子・鉄鏃、鉄斧、針、釣針、石製模造品(鏡・曲刃鎌・刀子・剣・斧・多孔円板)白玉、須恵器坩	×	
34	20	五領古墳群	喜多五領						方墳2		
35	20	五反田古墳群	五反田追分						現存円墳1		
36	20	下巣越古墳群	船越下巣越						円墳4		

■栗　源　町

番号	図版番号	名　称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	13	三本松古墳	助沢三本松531	不明						×	
2	13	西野古墳群	岩部西野2158						円墳3		
3	13	津堀古墳群	岩部津堀						円墳2		
4	13	外部台古墳群	岩部向						円墳5		
5	13	宿原古墳群	沢宿原						円墳2		
6	13	向古墳	岩部向2053-2	前方後円						×	
7	13	大塚古墳	岩部大塚1084-1	円						◎	自然地形の可能性大
8	13	ヨジヤ古墳	岩部ヨジヤ876-6	円						×	
9	13	台の内古墳	岩部 台の内5018～5023他	円				箱形石棺 土坑	直刀、刀子、刀装具、鉄鏃		
10	13	長谷古墳	岩部長谷933	円							
11	13	前野古墳	岩部前野869-32	円						×	
12	13	御塚古墳	岩部御塚944-1	円						×	
13	13	野馬木戸占墳	岩部野馬木254	前方後円						×	
14	13	長谷古墳	岩部長谷608	前方後円							
15	13	前野古墳群	岩部竹の台						前方後円墳1、円墳1		
16	13	矢沢古墳群	岩部矢沢						前方後円墳1、円墳9		
17	13	浅間台古墳	西田辺浅間1165	円				箱形石棺			
18	13	長山台古墳	西田辺長山1304-95	方				箱形石棺	鉄鏃、貝輪、人骨		
19	13	南古墳群	刈毛南						前方後円墳1、円墳4		
20	13	瀬谷台古墳群	沢瀬谷台						前方後円墳1、円墳4		
21	13	平山古墳	沢平山426	方				不明			

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
22	13	五十塚古墳群	沢平山						円墳3		多古町五十塚古墳群につづく
23	13	堤台古墳群	西田辺堤台						円墳6		
24	13	田鳩占墳	西田辺田鳩265	前方後円							
25	13	大山占墳	西田辺大山272	円							
26	13	馬林占墳群	西田辺馬林						円墳4		
27	13	新庵台古墳群	西田辺馬林						円墳5		
28	13	子ノ神横穴群	沢子ノ神776-7						基数不明		
29	13	小瀬谷横穴群	沢小瀬谷311-3						基数不明		
30	13	馬場横穴群	岩部要害727						基数不明		

■佐原市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	6	谷原田古墳	堀之内谷原田	円							
2	6	西部田古墳群	堀之内平台						円墳8		
2-1	6	〃 1号墳	〃	円	18	○		木棺直葬	石枕、立花、刀子2、鉄鏃	×	
3	6	塚越古墳	谷中野良道	円					馬鐸	×	
4	6	禅昌寺山古墳	大戸川中宿	前方後円	60?		円筒	木棺直葬?	石枕、画文帯縁、直刀、矛、鉄鏃、衝角付冑、挂甲、f字形鏡板付轡、馬鐸、剣菱形杏葉、格子状鉄製品	△	
5	6	蛇塚古墳	大戸川	円							
6	6	森戸古墳群	森戸						前方後円墳2		
6-1	6	大法寺古墳		前方後円	60?		円筒			○	
7	6	天神台古墳群	大戸 天神台・宮作						前方後円墳2、円墳5、長方墳1、方墳1		
7-1	6	天神台古墳		前方後円	60					◎	
7-2	6	宮作1号墳		方(長方)	19×16			木棺直葬	石枕、立花8、鉄剣1、刀子1、石製模造品(刀子)8、滑石製臼玉1145、碧玉管玉1、琥珀玉2、ガラス玉20		
8	6	山之辺手ひろがり古墳群	山之辺へたの前						円墳3、長方墳4、方墳2		
8-1	6	〃 3号墳	〃		20×14			木棺直葬4	石枕、立花状石製品、硬玉製勾玉、三環鈴、滑石製臼玉	×	
9	6	玉造古墳群	玉造玉作						前方後円墳3、円墳13		
10	6	花ケ台古墳群	玉造花ケ台						円墳4		
11	6	玉造三王辺田古墳群							円墳3		
12	6	浅間神社古墳	佐原イ	前方後円	70		円筒			○	
13	7A	変電所裏古墳	仁井宿	前方後円			円筒				
14	7A	佐原宗勝寺古墳		前方後円							
15	7A	仁井宿古墳群	仁井宿						円墳4以上		
15-1	7A	仁井宿十三塚古墳	〃						石枕		
16	7A	神道山古墳群	香取神道						前方後円墳1、円墳11		
16-1	7A	神道山古墳	〃	前方後円							
17	7A	津宮古墳群	津宮						前方後円墳2、円墳1		
18	7A	大倉丁子古墳群	丁子字山田						円墳9		
19	7A	大倉側高古墳	大倉字側高	方					フラスコ形長頸瓶		
20	7A	又見古墳	香取又見					横穴式石室			
21	7A	大倉薬師堂古墳群	大倉薬師堂								
22	7A	新部向古墳	新部向	円							塚の可能性あり
23	7A	新部コシテ塚古墳	新部コシテ								塚の可能性大
24	7A	新部笠塚古墳	新部笠塚	円							
25	7A	釜塚古墳	釜塚	円							
26	6	山之辺五反田古墳	山之辺								

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
27	6	山之辺山王古墳	山之辺								
28	6	山之辺原古墳群	〃						円墳4		
29	7A	大戸白幡古墳群	大戸白幡						前方後円墳4、円墳21		
30	6	与倉桜山古墳	与倉	円							
31	7A	大戸道満古墳	大戸	円							
32	6	与倉新林古墳	与倉	円							
33	7A	大戸大塚古墳	大戸	前方後円							
34	6	鳥羽中くるわ古墳	鳥羽								
35	6	片野茶臼塚古墳群	上小川						前方後円墳1、円墳6		
36	6	片野新林古墳群	片野						前方後円墳3、円墳8		
37	6	片野前野辺田古墳群	片野						前方後円墳11、円墳19		
37-11	6	〃 11号墳	〃	前方後円	32		円筒、朝顔、形象(人物馬)	木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃17	×	
37-23	6	片野23号墳 前野辺田古墳	〃	前方後円	33.7		円筒形象(人物、家)	木棺直葬	直刀、鉄鏃	×	
38	6	関天神台古墳	鴇崎	円							
39	6	鴇崎古墳群	鴇崎						円墳6		
39-1	6	天神台古墳	鴇崎	円	29			粘土槨3	第1粘土槨、鉄剣、石製模造品	×	
40	6	西和田梅林寺古墳	西坂持山	前方後円							
41	6	西和田占墳群	西和田内野						前方後円墳1、円墳11		
42	7A	多田綱原古墳群	多田						円墳10数基		
43	7A	下小野古墳群	下小野						円墳10		
44	7A	返田毛内古墳群	返田						円墳2		
45	6	初割古墳	大崎初割	円							馬坐先古墳
46	6	南割古墳	観音南割	円							塚の可能性あり
47	6	本矢先古墳群	本矢作						円墳4		
48	6	福田古墳群	福田馬塚						円墳2		
49	6	向ノ内古墳	福田向ノ内	円							
50	6	西の内古墳群	福田西の内						円墳2		
51	12	福田塚越古墳	福田塚越								
52	12	伊地山金杉古墳群	伊地山						円墳3		
53	12	伊地山石塔前古墳	伊地山	円							
54	12	伊地山作助古墳	伊地山	円							
55	7A	野中横穴群	岩ケ崎野中台						9基		
56	7A	石比地横穴	香取坊山								
57	6	関横穴群	関峯崎						100基以上か		
57-1	6	〃 3号横穴	〃						金銅製押出仏1、鉄製品2、碧玉勾玉1		

■小見川町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	7A	霊浦古墳群	三之分目・富田						前方後円墳5、円墳2		
1-1	7A	三之分目1号墳		前方後円	60~70?					×	
1-2	7A	三之分目大塚山古墳	三之分目大塚	前方後円	118	楯形				○	
1-3	7A	富田1号墳	富田原1010	前方後円	40		人物		直刀、鉄鏃	○	
2	7A	籠塚古墳群	一之分目籠塚						前方後円墳2		
2-1	7A	〃 1号墳		前方後円	30					◎	
3	7A	古室台古墳	一之分目 古室台523-3	円	8					◎	
4	7A	庚申塚前古墳	増田 庚申塚前545-1	円	5					◎	
5	7A	台占墳	増田 台991	円	4					◎	
6	7A	城山古墳群	小見川・富田・下小堀						前方後円墳7、円墳6、不明1		
6-1	7A	〃 1号墳	小見川	前方後円	68		形象	左片袖 横穴式石室	三角縁神獣鏡、単龍、単鳳環頭大刀5、円頭大刀1、頭椎大刀1、直刀12、鉄鏃、刀子10、衝角付冑、挂甲2、騎当車文鏡板付轡、斜格子文杏葉、雲珠、辻金具、鞍金具、金銅鈴、金環、銀空玉、ガラス玉、針、土師器、須恵器	×	
6-5	7A	〃 5号墳	小見川 城山4853-2	前方後円	51		形象	木棺直葬	銅釧、石製模造品(勾玉、多孔円板)、須恵器(杯身、杯蓋)	◎	
6-6	7A	〃 6号墳		前方後円				ドーム形 横穴式石室		×	
7	7A	皆畑古墳群	虫幡皆畑						円墳2		
8	7A	亥ノ内古墳	木内亥ノ内	円						◎	
9	7A	城ノ台地古墳群	木内城ノ台地						方墳?1、円墳1		
10	7A	神里古墳群	虫幡						前方後円墳4、円墳8		
10-1	7A	十老山古墳	虫幡十老山1376	前方後円	23.4			①木棺直葬 ②箱形石棺	①鉄剣、刀子2 ②直刀2、鉄鏃、人骨	×	
11	7A	山川古墳	山川寄合山	円	17			木棺直葬	直刀2、須恵器		
12	7A	白井古墳群	白井						前方後円墳2、不明3		
13	7A	仏間更生古墳	下飯田 仏間更生1144-21	円						◎	
14	14	下飯田古墳群	下飯田						円墳2、方墳1		
15	14	岡飯田古墳群	岡飯田						前方後円墳1、円墳2		
16	14	布野台占墳群	布野台						前方後円墳1、円墳3		
16-3	14	〃 3号墳	〃	前方後円					直刀、剣、矛、鉄鏃、小札鋲留衝角付冑、横矢引板鋲留短甲、頸甲、肩甲	◎	
17	14	天神古墳	五郷内天神	前方後円	36.5			木棺直葬	直刀	×	
18	14	五郷内古墳群	五郷内						前方後円墳1、円墳3		
19	14	小房作古墳群	和泉小房作						円墳3		
20	14	大方古墳	五郷内大方2015					箱形石棺	直刀、鉄鏃、人骨	×	
21	14	和泉古墳群	和泉						円墳2		
22	14	阿玉台北古墳群	五郷内								
22-7	14	A007号墳	〃	前方後方	25.5	○					
23	14	長薙古墳	貝塚長薙1679	不明						○	
24	13	久保古墳群	久保						前方後円墳1、円墳2		
25	7A	一之分目	一之分目1-272						石製模造品(刀子、短冊形鉄斧、有肩有袋、鉄斧)		

■山田町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	13	米野井古墳群	米野井						前方後円墳1、円墳3以上		
2	13	神生古墳	神生	円						◎	
3	13	関ノ台古墳	山倉関ノ台	円							
4	13	桑吉古墳	山倉桑吉	円						○	
5	13	はら古墳	大角	円						◎	
6	13	東ノ台古墳	山倉	円?						×	
7	13	新里古墳	新里	円							平塚II古墳
8	13	塚前古墳	新里	円						◎	
9	13	小川古墳群	小川						前方後円墳2、円墳6		

■干潟町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	14	宗林塚古墳群	滝原宗林塚						円墳1、不明1		
2	14	池尻古墳	清和甲池尻548-1	円	13					○	
3	14	篠戸古墳群	滝原篠戸						円墳2		
4	13	南堀之内古墳群	南堀之内小塚、和田、狸塚						円墳5、不明2		
5	13	長津念仏塚古墳	鏑木長津台3735	円	17.3					○	塚に改変
6	13	湯木古墳群	鏑木湯木1467						詳細不明		
7	13	鏑木古墳群	鏑木 原畑、千本、干場、父原、泥内、羽黒、長廻、渕木						前方後円墳7、円墳9		
7-1	13	御前鬼塚古墳	鏑木湯之谷3368	前方後円	105.5	長方形					
7-2	13	滝台古墳	鏑木滝台2627	前方後円	58	○					
7-3	13	鏑木大津古墳	鏑木父原2965-2-2	前方後円	37.2		人物				
8	13	稚児塚古墳	鏑木新宿1224	円	10						
9	13	加々山台古墳	鏑木加々山台1326	円	15						塚の可能性あり
10	13	仲野古墳群	鏑木仲野						墳形不明2		
11	13	桜井横穴群	桜井上						2基確認		
12	13	柳辺ノ上横穴	桜井柳辺ノ上								
13	13	内発句横穴	鏑木内発句2041								

■東庄町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	7B	年能古墳群	笹川い						円墳1、不明1		
2	7B	坊内古墳	笹川い1996	不明			形象			△	
3	7B	笹川原古墳	笹川い5772	円						◎	
4	14	羽計古墳群	羽計						前方後円墳1、円墳6		
5	14	寺台古墳群	平山寺台						前方後円墳1、円墳1		
6	14	宮ノ下古墳群	高部宮ノ下						円墳3		
7	14	石出古墳群	羽計・石出・谷津						11基以上		
8	14	東今泉古墳	東今泉	不明			円筒		馬鐸、瓶	×	
9	14	橘古墳群	谷津・宮本・今郡・羽計						30基以上		
10	14	稲荷後古墳	宮本稲荷	前方後円						○	
11	14	刑部古墳	宮本稲荷	前方後円				箱形石棺	直刀、鉄鏃、人骨	×	
12	14	八木山古墳	窪野谷八木山	円							
13	14	高槻古墳群	窪野谷高槻						円墳2		
14	14	神代古墳群	小貝野						円墳3		
15	14	稲荷入古墳群	東和田稲荷入						前方後円墳1、円墳4		
16	14	四塚古墳群	小南四塚						円墳6		
17	14	粟野台古墳群	粟野福内	円							
18	14	小南原古墳群	小南新開						円墳6		
19	14	谷津横穴群	谷津								
20	14	今郡横穴群	今郡弓山								

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
21	14	青馬横穴群	青馬浅間						2基開口		
22	14	稲荷入横穴群	東和田 稲荷入川墓敷						3群、6基確認		
23	14	粟野台横穴群	粟野 溝ノ上、成井						2群4基確認		

■銚　子　市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	14	後原古墳	宮原町	不明			円筒	不明		×	前方後円墳の可能性あり
2	14	神出古墳	桜井町	円	15		円筒(1片)	不明		△	
3	14	坂戸野古墳群	諸持町						墳形不明古墳2		東庄町橋古墳群につづく
4	14	桜井町古墳群	桜井町						円墳1、墳形不明古墳2		
5	14	二重堀古墳	森戸町2093-3	不明				箱形石棺		×	
6	14	ホテヱ古墳	塚本町	円	7		円筒			○	
7	15A	野尻古墳群	野尻町・高田町						前方後円墳1、円墳7、方墳3、不明1		
8	15A	弁財天古墳群	船木町						円墳2		
9	21B	羽黒古墳	猿田町	円	8					◎	
10	15B	目尻作古墳	新町1188	円	6			不明		◎	塚の可能性あり
11	15B	大橋古墳	赤塚町43-1	円				箱形石棺	直刀、ガラス小玉、滑石臼玉、貝輪、人骨	×	
12	15B	飯出古墳	三宅町1-224	円				不明		?	
13	15B	西台古墳群	柴崎町						円墳1現存		
14	15B	西長割古墳	新町566	円				不明		×	
15	15B	西栗古墳群	長塚町						円墳4、方墳7		
15-1	15B	〃 1号墳	長塚町5 3688	円	38	○				×	
16	15B	台町古墳	台町	円		○		箱形石棺	鉄鏃、滑石臼玉	×	古墳群の可能性あり
17	15B	浅間台古墳	南小川町1902	円				不明		×	
18	15B	南原古墳	高神原町4652	円	10			不明		◎	
19	15B	佐野原古墳	春日町966	方		○		不明		×	
20	15B	上人塚古墳	三崎町	不明				箱形石棺		×	
21	15B	八祖大塚古墳	八木町八祖大塚	円	12			不明		△	
22	15B	辰松古墳群	小浜町						円墳3現存、石棺材多数散乱		
23	15B	赤塚町横穴群	赤塚町110						4基以上		
24	15B	大橋横穴群	赤塚町						2基以上		
25	15B	後谷横穴群	柴崎町4-2024						3基以上		
26	15B	脇田横穴	長塚町5-2746							◎	長塚町1号横穴
27	15B	大八ツ横穴群	西小川町						4基		西小川横穴

■海　上　町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	14	松ヶ谷境目古墳群	松ヶ谷境目						基数不明、石棺材が確認される		東庄町小南原古墳群につづく
2	14	瓢塚古墳	松ヶ谷新山	前方後円	20			木棺直葬?	鉄鏃、刀子、土製小玉3	×	松ヶ谷新山古墳群
3	14	岩井安町古墳群	岩井安町						25基以上(円墳1現存)		
4	21B	平台野古墳群	倉橋平台野						円墳1、不明1		
5	21B	向日台古墳	倉橋向日台	円	10			不明		◎	
6	21B	坂の上古墳群	蛇園坂の上						円墳2		
7	14	幾世横穴群	幾世						基数不明		

■飯　岡　町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	21B	三川字賀神古墳	三川倉橋前	不明				不明		×	
2	21B	塙貝ヶ場古墳	塙	円				不明		×	
3	21B	塙向地東古墳	塙	不明				不明		×	
4	21B	龍塚古墳群	塙龍塚						前方後円墳1、円墳1		
5	21B	八木古墳群	八木坂台						10基		
6	21B	海津見神社古墳	大堀	不明				不明		×	
7	21B	宮内古墳群	上永井宮内						円墳2		
8	21B	上永井古墳群	上永井						消滅し、基数不明、石棺材散乱		
9	21B	四分野横穴	四分野2100代							△	
10	21B	平松岡横穴	平松根生896						人骨	×	
11	21B	伊達の城横穴群	塙伊達の城						基数不明		
12	21B	上永井横穴群	上永井						3群23基		
13	15B	帯ときわ坂横穴群	帯台1460-70代						基数不明		

■旭　　市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	21A	大塚原古墳	大塚原1177	円	21			不明		△	
2	21B	足川古墳群	足川						石棺材を数ヶ所で確認		

■八日市場市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	21A	大越古墳群	金原大越						円墳2		
2	13	大崎古墳	安久山大崎	円	10			不明		○	
3	21A	開山塚古墳	小斎向原156	不明	26			不明		△	
4	21A	中野古墳群	大寺中野						円墳2、不明1		
5	21A	関ノ台古墳群	大寺関ノ台						基数不明		
6	21A	金原大廻古墳群	金原・大廻						前方後円墳1、円墳17、不明8		
7	21A	金原台古墳群	安久山金原台						円墳2		
8	21A	台古墳	片子台	円	14			不明		○	
9	21A	長者塚古墳	飯高長者塚	円	15			不明		○	塚の可能性あり
10	21A	黄門桜古墳群	飯高城下						円墳2		
11	21A	高塚古墳群	内山高塚						円墳3		
12	21A	宿古墳	内山宿1333	不明				不明		×	
13	21A	内山古墳	内山観音	不明				不明		×	
14	21A	八幡古墳群	内山八幡						前方後円墳1、円墳5		
15	21A	小谷古墳群	大寺小谷						基数不明、円墳1現存		
16	21A	美女古墳群	大寺美女塚						墳形不明古墳2		
17	21A	松峯古墳群	大寺松峯						円墳3		
18	21A	間向古墳	飯塚間向	不明				横穴式石室	双龍環頭大刀、頭椎大刀、圭頭大刀	×	
19	21A	七坊古墳群	飯塚七坊						円墳2		
20	21A	馬場古墳	飯塚馬場	円	8			不明		○	
21	21A	天神古墳	飯塚馬場	円	15			不明		○	
22	21A	広之台古墳群	飯塚広之台						円墳4		
23	21A	千又古墳群	飯塚千又						円墳3		
24	21A	雉子ノ台古墳群	飯塚雉子ノ台						円墳2、方墳9		
24-1	21A	〃 号墳		方						×	
25	21A	真々塚古墳	飯塚真々塚	円	60	×		礫郭?	直刀3、鉄剣、鉄鏃8、鉄斧、砥石	×	
26	21A	榎谷古墳群	飯塚榎谷						円墳2		
27	21A	小山古墳群	飯塚小山						円墳2、方墳2		
28	21A	御手洗古墳	飯塚御手洗	円	18			不明		○	
29	21A	天神古墳群	椿天神						円墳2		
30	21A	椿古墳群	椿谷						基数不明		
31	21A	北ノ前古墳	大浦北ノ前	円	21					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
32	21A	塚原古墳群	吉田塚原						前方後円墳1、円墳20		
32-1	21A	〃 1号墳		前方後円	35			不明	刀子、石製模造品(勾玉)、手捏土器	○	
33	21A	蒲野古墳群	吉田蒲野						円墳4		
34	21A	江川古墳群	吉田江川						円墳2		
35	21A	熊野神社古墳	吉田	円	17			不明		○	
36	21A	小下田原古墳群	吉田 小下田原・新田						前方後円墳6、円墳11、不明5		
36-1	21A	〃 1号墳		前方後円	25			不明		○	
37	21A	神崎古墳群	南神崎町畑						前方後円墳1、円墳2、不明1		
37-1	21A	〃 1号墳		前方後円	30			不明		◎	
38	21A	猿山古墳群	木積猿山						前方後円墳1、円墳3		
38-2	21A	〃 2号墳		前方後円	23			不明		○	
39	21A	永谷古墳	木積永谷	円	5			不明		◎	
40	21A	山王台古墳	木積山王台	円	6			不明		◎	
41	21A	椎木台古墳群	久方椎木台						円墳3		
42	21A	青葉谷古墳	木積青葉谷	円	10			不明		◎	
43	21A	中宿古墳	松山中宿	不明				箱形石棺	直刀1	×	
44	21A	生尾古墳群	生尾						墳形不明古墳2		
45	21A	西ノ内古墳群	宮本西ノ内						墳形不明古墳2		
46	21A	加知内古墳群	生尾加知内						円墳2、不明1		
47	21A	石取台古墳	米倉石取台	円	15			不明		◎	
48	21A	米倉古墳群	米倉白幡						円墳2、不明1		
49	21A	安崎台古墳	米倉安崎台	円	15			不明		○	
50	21A	広野台古墳	米倉広野台	円	7			不明		◎	
51	21A	原ノ台古墳群	貝塚原ノ台						円墳2		
52	21A	大浦横穴群	大浦						2基確認		
53	21A	内山城横穴	内山明星穴300北先								
54	21A	丸山横穴群	大寺丸山						若数不明		
55	21A	美女塚横穴群	大寺寺山						基数不明		
56	21A	鶏地上横穴群	飯塚鶏地土						若数不明		
57	21A	貝乱坊横穴群	飯塚下井戸						基数不明		
58	21A	馬洗横穴群	飯塚馬洗						基数不明		
59	21A	八重崎横穴群	椿八重崎						基数不明		
60	21A	鷲ノ山横穴群	篭部田鷲ノ山						基数不明		
60-1	21A	〃 1号横穴	〃						鉄鏃3、フラスコ形長頸瓶2	◎	
61	21A	城ノ内横穴群	イ城ノ内						6基以上		
62	21A	石取台横穴群	イ石取台						基数不明		
63	21A	江川横穴群	吉田江川						基数不明		
64	21A	浅間台横穴群	吉田栄						基数不明		
65	21A	小下田原横穴群	吉田小下田原						約30基		

■野栄町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	25B	内裏塚古墳群	野手						円墳1、不明1		

■光町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	21B	城ノ台古墳群	篠本城台						円墳3		
2	20	宝米古墳群	宝米						円墳2現存		
3	20	小川台古墳群	小川台						前方後円墳5、円墳13、方墳1		
3-1	20	〃 1号墳	〃	円	28	○		木棺直葬2	①剣、矛、鉄鏃、刀子、有孔円板、臼玉、②剣、鉄鏃、①と②の中間-剣、鉄斧、鉄鏃、臼玉	×	5C後半
3-5	20	〃 5号墳	〃	前方後円	33.4	○	形象円筒	木棺直葬	直刀5、刀子1、鉄鏃1、鎧、勾玉、丸玉、小玉	×	6C後半
4	20	寅間台古墳	傍示戸寅間台	円	16			不明		◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
5	20	虫生古墳群	虫生						前方後円墳1、円墳2		
6	20	芝崎古墳群	芝崎・虫生						前方後円墳1、円墳14		

■横芝町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	20	中台古墳群	中台字外記						前方後円墳2基、円墳16基(11～35.5m、4基消滅)		
1-5	20	〃 5号墳	〃	前方後円	58	○	円筒形象	横穴式石室	直刀13、方頭大刀1、金銅装大刀1、鉄鏃多数、刀子2、金銅製雲珠5、鉄地金銅張杏葉1、轡2、雲珠1、金銅製鮨玉4、銀環6、瑪瑙勾玉3、水晶切子玉1、ガラス小玉78、碧玉1、須恵器2	○	1956年調査 姫塚
1-6	20	〃 6号墳	〃	前方後円	88	○	円筒形象	横穴式石室	頭椎1、直刀5、鉄鏃数10、刀子1、鉄具2、金銅鈴8、金環6、勾玉1、ガラス玉数10、琥珀玉5、銅椀3	○	1956年調査 駿塚
1-8	20	〃 8号墳	〃	円	10.5	不明	×	横穴式石室	直刀、勾玉2	○	1956年調査芝山7号墳
1-16	20	〃 16号墳	〃	円	28	○	×	不明	土師器片	×	1979年調査 鯉ヶ窪1号墳
1-17	20	〃 17号墳	〃	円	35.5	○	×	横穴式石室	直刀1、鉄鏃12、刀子6、金銅製耳環1、須恵器片、土師器	×	1979年調査 鯉ヶ窪3号墳
1-18	20	〃 17号墳	〃	円	18	○	×	不明	土師器	×	1979年調査 鯉ヶ窪2号墳
2	20	木戸台・町原古墳群	木戸台・町原						前方後円墳1基(消滅)方墳3基(15.4～19m) 円墳7基(6.6～27m)		
3	20	絡山古墳群	長倉字山際						円墳5基(6～12m)方墳3基(7.8～20m)		
4	20	取立古墳群	寺方・取立						前方後円墳1基、円墳7基(6.2～16m)		
4-4	20	〃 4号墳		前方後円			○			◎	
5	25B	長倉古墳	長倉字麦生	円墳	13.8				円墳1基	△	

■芝山町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	20	菱田古墳群	菱田字宮ノ台						円墳7基(26m1基10m級6基内1基消滅)		
2	20	大里田辺台古墳群	大里字田辺台						円墳11基(10m級10基)		
2-7	20	〃 7号墳	大里字田辺台	円	45					◎	
3	20	大殿台古墳群	加茂						前方後円墳1基(35m)、円墳1基(16m)		
4	20	五十石古墳群	岩山字五十石						前方後円墳1基(20m)、円墳3基		
5	20	山田・宝馬古墳群	山田・大台						前方後円墳13基(30m級)、円墳180基(4～30m)消滅131基		
5-9	20	〃 9号墳	山田字小金	円	19			木棺直葬	直刀1、鉄鏃27、刀子5、火葬骨	×	1987年調査
5-14	20	〃 14号墳	〃	前方後円	31					○	
5-22	20	〃 22号墳	山田字一本松	円	13			箱式石棺	直刀3、銀象嵌鉄製円筒大刀柄頭2、鉄鏃45以上、銀張り耳環2	○	1962年調査 金鈴4号墳
5-28	20	〃 28号墳	〃	円	24			箱式石棺	直刀1、鉄鏃10以上、刀子2、耳環2、ガラス製小玉、小製小玉、目釘破片、人骨	○	1962年調査 金鈴2号墳
5-35	20	山田宝塚35号墳	山田字宝馬	前方後円	27～30	○	円筒形象	箱式石棺?	鉄鏃片8		
5-57	20	〃 57号墳	山田字小金	円	30			箱式石棺	直刀5、鉄鏃7、鞘尻金具1、帯金具1、耳環2、ガラス小玉、須恵器	○	1962年調査 金鈴1号墳
5-59	20	〃 59号墳	山田字一本松	円	17			不明			1962年調査 金鈴1号墳
5-65	20	〃 65号墳	山田字宝馬	前方後円	35			横穴式石室	直刀、鉄鏃、耳環、ガラス玉、琥玉、銅鋺		1957年調査 瓢塚
5-84	20	〃 84号墳	山田字平三畑	円	40	○	×	箱式石棺	直刀、鉄鏃、ガラス小玉、土師器	×	1989年調査
5-93	20	〃 93号墳	山田字出口	円	11.8	○	×	不明	鉄鏃1、土師器7	×	1981年調査 山田出口3号墳
5-94	20	〃 94号墳	〃	円	10.5	○	×	不明	土師器6	×	1981年調査 山田出口2号墳

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
5-95	20	〃 95号墳	〃	円	12.4	○	×	不明	土師器	×	1981年調査 山田出口1号墳 金鈴42号墳
5-103	20	〃 103号墳	〃	円	22.2	○	×	箱式石棺	鉄鏃19、耳環1、ガラス小玉36、土製小玉42、須恵器、土師器、人骨	×	1981年調査 山田出口4号墳 金鈴46号墳
5-104	20	〃 104号墳	〃	円	9.4	○	×	不明	土師器片	×	1981年調査 山田出口5号墳 金鈴47号墳
5-106	20	〃 106号墳	〃	円	11.0	○	×	不明	土師器	×	1981年調査 山田出口6号墳
5-107	20	〃 107号墳	〃		8	○	×	不明	土師器	×	1981年調査 山田出口7号墳 金鈴48号墳
5-116	20	〃 116号墳	〃	円	15	○	×	木棺直葬	土製小玉6	×	1981年調査 山田出口8号墳 金鈴53号墳
5-118	20	〃 118号墳	〃	円	20	○	円筒形象	不明	土師器	×	1981年調査 山田出口11号墳 金鈴71号墳
5-119	20	〃 119号墳	〃	円	24.3	○	×	不明	土師器片	×	1981年調査 山田出口10号墳 金鈴65号墳
5-120	20	〃 120号墳	〃	円	27.3	○	×	箱式石棺	直刀2、鉄鏃21、水晶切子玉10、琥珀製臺玉16、ガラス小玉349、土製小玉57、須恵器、人骨	×	1981年調査 山田出口9号墳 金鈴57号墳
5-126	20	〃 126号墳	〃	円	12	○	×	不明	土師器	×	1981年調査
5-127	20	〃 127号墳	〃	前方後円	34	○	円筒形象	不明	土師器	×	1967年·1981年調査 山田出口79号墳
5-140	20	〃 140号墳	山田	前方後円	27.8					○	
5-164	20	〃 164号墳	山田字浅間台	前方後円	40	○	円筒形象	箱式石棺	直刀、鉄鏃、刀子、櫛、雲珠1、耳環4、ビーズ玉89、人骨	○	1957·1987年調査 宝馬にわとり塚
5-183	20	〃 183号墳	山田字小楢台	円	10	○	×	木棺直葬		×	1987年調査
5-184	20	〃 184号墳	〃	円	15	○	×	土壙	直刀1、鉄鏃1	×	〃
5-185	20	〃 185号墳	〃	円	10.4	○	×	不明	土師器	×	〃
5-186	20	〃 186号墳	〃	円	25.3	○	×	不明	直刀1、勾玉8	×	〃
5-187	20	〃 187号墳	〃	円	20.2	○	×	不明		×	〃
5-188	20	〃 188号墳	〃	円	26	○	×	木棺直葬2	直刀2、鉄鏃22、ガラス小玉52、管玉11、銅製品9、須恵器、砥石	×	〃
5-190	20	〃 190号古墳	〃	円	25	○	円筒形象	木棺直葬2 土壙1	直刀4、玉纏大刀1、鉄鏃50、刀子6	×	〃
5-192	20	〃 192号墳	山田字浅間台	円	27	○	×	箱式石棺	人骨	×	〃
5-193	20	〃 193号墳	〃	円	24	○	×	箱式石棺	直刀1、刀子1、耳環3、メノウ製勾玉1、銅地環状製品1	×	〃
6	20	高田古墳群	高田字木戸前						前方後円墳2、円墳2以上(円墳はかなりあったと思われる)		
6-2	20	高田2号墳	〃	前方後円	48	○				◎	
6-3	20	〃 3号墳	〃	前方後円	40	○	円筒形象	箱式石棺	直刀2、鉄鏃、刀子1、耳環、ガラス小玉	×	1965年調査
6-4	20	高田古墳	〃	円				箱式石棺	直刀2、鉄鏃20数本、管玉、ビーズ玉	×	1965年調査 位置不明
7	20	上吹入、林古墳群	上吹入						前方後円墳1基、円墳8基(6.8～15m)		
8	20	小池上人塚古墳群	小池字上人塚						円墳4基(10m級)3基消滅		
9	20	谷津古墳群	小池						前方後円墳1基、方墳2基、円墳2基		
9-3	20	〃 3号墳	〃	前方後円	30					○	
10	20	殿部田古墳群	殿部田						前方後円墳4基、円墳15基		
10-5	20	〃 5号墳	〃	前方後円	33.3	○	円筒形象	不明		○	1974年調査
10-12	20	〃 12号墳	〃	〃	28.6					○	
10-15	20	〃 15号墳	〃	〃	37					◎	
10-17	20	〃 17号墳	〃	〃	30					◎	
11	20	下ノ内古墳群	小池						円墳5(8～25m)		
12	20	小池古墳群	小池字井戸作						前方後円墳2基(消滅)、円墳3基以上(1基消滅)		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
12-1	20	〃 1号墳	〃					横穴式石室	鉄鏃、ガラス玉6、須恵器、人骨	○	1956年調査 小池大塚
13	20	三田古墳群							円墳(10～16.2m)		
14	20	東風山横穴群	山中字東風山						横穴4(3基消滅)		
15	20	向野古墳群	向野						円墳3基(3基消滅)		
16	20	舟塚古墳群							前方後円墳1基、円墳3基		
16-2	20	〃 2号墳	小池	前方後円	76		×	横穴式石室	直刀、鉄鏃、小玉、釘、須恵器、土師器	○	1966年調査 小池大塚

■松尾町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	25A	大塚古墳群	引越字姫塚						円墳12基(11～85m)		
1-1	25A	〃 1号墳	〃	円						◎	姫塚
2	25A	蕪木台古墳群	八田字御山前						古墳1基(12m)、円墳6基(10～21m)		
3	25A	金尾古墳群	金尾字大和田						前方後円墳1基(25m)、円墳14基(6.5～19.5m1基消滅)、方墳(10m)		
4	25A	御城内古墳群	小川字御城内						円墳6基(7～8m)、方墳(9～18m)		
5	25A	上大蔵古墳群	上大蔵字宮台						円墳16基(6.5～29.5m)、方墳1基(19.5m)		
6	25A	下大蔵古墳群	下大蔵字東下						円墳2基(7～8m)		
7	25A	蕪木古墳群	蕪木字旭ノ岡						前方後円墳4基、円墳14基(10～23m、2基消滅)		
7-1	25A	蕪木1号墳	〃	前方後円	76	○	円筒形象	横穴式石室	管玉1、土師器片、須恵器片	○	1952年調査 朝日の岡古墳
7-2	25A	〃 2号墳		前方後円墳	46			横穴式石室	直刀12、刀子片、鉄製鋲片、鉄製雲珠1、辻金具1、金銅墳耳飾4、金銅製刀子鞘1、金銅製巾着形器具	○	1953年調査 蕪木5号墳 名城5号墳
7-4	25A	〃 4号墳		円					寛永通宝、人骨	○	蕪木3号墳
7-7	25A	〃 7号墳		前方後円	26					○	
7-10	25A	〃 10号墳		前方後円	27					○	
7-17	25A	〃 17号墳		円	10	○		木棺直葬2	鉄鏃28、刀子3	×	1984年調査 松野台1号墳
7-18	25A	〃 18号墳		円	17～20	○		不明		×	1984年調査 松野台2号墳
8	25A	大堤古墳群	大堤字宮前						前方後円墳2基、円墳5基(12～22m)		
8-1	25A	〃 1号墳		前方後円	117	○		横穴式石室	頭椎大刀1、圭頭大刀1、大刀1、鉄鏃1、刀子片、翡翠勾玉5、管玉1、水晶切子玉6、玻璃小玉多数、金環7、金銅製刀子鞘片、金箔(30cm四方)、大臼歯	○	1956年調査 大塚権現塚
8-4	25A	〃 4号墳		前方後円	34					◎	
9	25A	猿尾古墳群	猿尾						円墳2基(14m、20m)	◎	

■山武町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	25A	中津田古墳	中津田	円	22		×	箱式石棺	直刀3、鉄鏃22、人骨	×	1977年調査
2	25A	埴谷古墳群	麻生新田字椚ヶ枝						前方後円墳4基(2基消滅)、円墳12基(12m、10基消滅)		
2-10	25A	埴谷10号墳	麻生新田字猪穴	円	12					△	1956年調査 埴谷3号墳
2-11	25A	埴谷11号墳	麻生新田字猪穴	円	24	○		横穴式石室	直刀1、鉄鏃20、刀子1、須恵器1、土師器1、人骨、臼歯	×	1956年調査 埴谷2号墳
2-12	25A	〃 12号墳	〃	前方後円	36	○	円筒形象	横穴式石室	鉄鏃3、刀子片、金環3、須恵器3	△	1956年調査 埴谷1号墳
2-13	25A	〃 13号墳	横田字南横谷	前方後円	31					○	
3	25A	諸木内古墳群	麻生新田字荒耕						前方後円墳2基、円墳39基(3～18.5m、2基消滅)、方墳37基(4.4～17.4m、2基消滅)		
3-74	25A	〃 74号墳	麻生新田字神明台	前方後円	27					◎	
3-75	25A	〃 75号墳	〃	前方後円	30					○	
4	25A	胡摩手台古墳群	麻生新田字出口						前方後円墳6基(2基消滅)、円墳48基(5～23m、18基消滅)、方墳1基(16m)、不明(4基)		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
4-10	25A	〃 10号墳	麻生新田字川戸崎	前方後円	23					○	
4-37	25A	〃 37号墳	麻生新田字横ノ坂	前方後円	31					◎	
4-54	25A	〃 54号墳	麻生新田字出口	前方後円	30					◎	
4-55	25A	〃 55号墳	〃	前方後円	(29)					○	
5	25A	根崎古墳群	戸田字駒形						前方後円墳9基(4基消滅)、円墳(11～24m、1基消滅)		
5-1	25A	〃 1号墳	〃	前方後円	(26)					○	
5-2	25A	〃 2号墳	〃	前方後円	36					◎	
5-5	25A	〃 5号墳	戸田字大日台	前方後円	(23)					○	
5-6	25A	〃 6号墳	戸田字久保谷	前方後円	(35)					○	
5-7	25A	〃 7号墳	戸田字大日台	前方後円	30					◎	
5-12	25A	〃 12号墳	戸田字久保谷	前方後円	(29)					○	
6	25A	萩ヶ谷古墳群	椎崎字茄谷						円墳4基(8～14m)、方墳1基(19.5m)		
7	25A	椎崎古墳群	椎崎字西椎崎台						円墳12基(4m、11基消滅)		
8	25A	南桜台古墳	椎崎字南桜台	円	17					○	
9	25A	鍛冶畑古墳	椎崎字鍛冶畑	円	7					○	
10	25A	武勝古墳群	武勝字大谷						円墳10基(7m、9基消滅)、方墳1基(30mの塚、消滅)		
11	25A	麻生新田古墳群	麻生新田						円墳17基(6～43m5基消滅)、方墳2基(8.5m、31m)、不明3基(2基消滅)		
11-2	25A	〃 2号墳	麻生新田字井戸尻	方墳	31					◎	二段築成
11-3	25A	〃 3号墳	麻生新田字カブト塚	円墳	43	○		横穴式石室	直刀柄刀子片、鍔片、鉄鏃、鑓、杏葉、雲珠、鉸具、飾金具、金環、釘、鉄片	○	1966年調査 カブト塚
12	24	森台古墳群I群							前方後円墳1基(消滅)、円墳22基(9.5～23.6m、II基消滅)、方墳1基(11m)		
12-1	24	森台古墳群I群1号墳	森字下内野	円	18	○		石棺	直刀、鉄鏃、刀子、青銅製年爆	×	1978年調査 19号墳
12-2	24	〃 I群2号墳	〃	円	19.6	○		七坂3	鉄鏃、刀子、耳環、須恵器、土師器	×	1978年調査 1号墳
12-3	24	〃 I群3号墳	〃	円	23.6	○		土坂3	鉄鏃、刀子2、須恵器	×	1978年調査 2号墳
12-4	24	〃 I群4号墳	森字上内野	円	16.9	○		土坂	鉄鏃、飾り金具	×	1978年調査 4号墳
12-5	24	〃 I群5号墳	〃	円	22.8	○				×	1978年調査 26号墳
12-6	24	〃 I群6号墳	〃	円	16	○		土坂	鉄鏃、刀子、須恵器、土師器	×	1978年調査 6号墳
12-7	24	〃 I群7号墳	〃	円	12.63	○				×	1978年調査 5号墳
12-8	24	〃 I群8号墳	〃	円	14.9	○		土坂	土師器	×	1978年調査 18号墳
12-9	24	〃 I群9号墳	森字長畑台	前方後円	26	○	円筒形象		直刀片、鉄鏃、刀子	×	1978年調査 7号墳
12-10	24	〃 I群10号墳	〃	円	15.5	○			土師器	×	1978年調査 22号墳
12-11	24	〃 I群11号墳	〃	円	17.1	○			小鉄片	×	1978年調査 23号墳
13	24	森台古墳群II群	森字大ケ谷						円墳5基(～20m)		
14	24	〃 III群	森字大谷山						円墳8基(～24m)		
15	24	〃 IV群	森字上人塚						円墳7基(7～26m)		

■成東町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	25A	親田北横穴群	親田	横穴							川崎横穴群
2	25A	真行寺古墳群	真行寺						前方後円墳2基、円墳13基(9～20m、1基消滅)、方墳4基(10～23.5m)		
2-13	25A	〃 13号墳	〃	前方後円	30					◎	
2-14	25A	〃 14号墳	〃	前方後円	28					○	
2-10	25A	〃 19号墳	野堀字経僧塚	円	45	○	円筒形象	横穴式石室 箱式石棺	銀装圭頭大刀、直刀8、鉄鏃5、刀子3、馬具金具、円形座金付金銅製大鈴10、鉄地銀張耳環2、小玉、雲母、布(絹、麻)		1968～70年調査 経僧塚
3	25A	板附古墳群	板附						前方後円墳3基、方墳2基、円墳23基(8～21m、消滅3基)		
3-3	25A	〃 3号墳	〃	方墳	30			横穴式石室		○	1979年調査 板附30号墳
3-4	25A	〃 4号墳	〃	方墳	60	○	×	横穴式石室	金銅製歩揺付雲珠、須恵器、土師器	○	1985年調査 駄ノ塚
3-13	25A	〃 13号墳	〃	円	15	○	×	木棺直葬	鉄剣1、刀子1、鉄斧1、土師器、埴輪片	○	1954年調査 2号墳
3-14	25A	〃 14号墳	〃	前方後円	90	○	円筒形象	横穴式石室	土師器片	○	1954年調査 西ノ台
3-15	25A	〃 15号墳	〃	前方後円	63	○	×	横穴式石室	鉄鏃片、鉄鋌片、青色玻璃小玉11	○	1951年調査 不動塚
3-17	25A	〃 17号墳	〃	円	15				銅剣、刀子、勾	×	1970年調査 板附4号墳
3-21	25A	〃 21号墳	〃	円	20				鉄剣、刀子、鉄斧、土師器	×	1970年調査 板附2号墳
3-26	25A	〃 26号墳	〃	円	20	○		木棺直葬		×	1970年調査 板附1号墳
4	25A	和田古墳群	和田						前方後円墳2基(22.5m、22m)、円墳22基(6.2～31m)		
5	25A	市場古墳群	市場						前方後円墳1基(35m)、円墳4基(12～19.5m)		
6	25A	富田古墳群	富田						前方後円墳1基(38.5m)、円墳10基(6.5～20m)		
7	25A	湯坂古墳群	湯坂						前方後円墳1基(27m)、円墳8基(2.5～17m、1基消滅)		
7-8	25A	〃 8号墳	〃	円	17	○			鉄鏃1、須恵器、土師器、布目瓦	○	1975年調査 湯坂2号墳
7-9	25A	〃 9号墳	〃	円	(5).2	○				×	1975年調査 湯坂1号墳
8	25A	宮前古墳群	宮前						円墳3基(8～19m)		

■東金市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	24	極楽適古墳群	極楽寺字込前						前方後円墳1基(消滅)、円墳20基(5～18m、14基消滅)		
2	24	下布田古墳群	上布田						円墳3基(6m、2基消滅)		
3	24	榎台古墳群	滝沢字榎台						円墳6基(6～15m、2基消滅)		
4	24	滝沢古墳群	滝沢字向原						円墳9基(5.2～18m、1基消滅)、方墳2基(11.18m)		
5	24 25A	家之子古墳群	家之子字子ノ神						前方後円墳6基(1基消滅)、円墳54基(6.5～27m、17基消滅)、方墳4基(9～20m、2基消滅)		
5-1	24	〃 1号墳	〃	方	9					×	1967年調査 77号墳カネ塚
5-2	24	〃 2号墳	〃	円						×	1967年調査 76号墳
5-4	24	〃 4号墳	〃	方	20×13			横穴式石室			1967年調査 75号墳
5-9	24	〃 9号墳	〃	前方後円	39					○	
5-12	24	〃 12号墳	〃	円	26				鉄鏃		1967年調査 66号墳
5-13	24	〃 13号墳	〃	前方後円	29					◎	
5-21	24	〃 21号墳	〃	前方後円	34					◎	
5-23	24	〃 23号墳	〃	前方後円	27						
5-26	24	〃 26号墳	〃	円	18			箱式石棺	直刀		1967年調査 62号墳

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
5-28	24	家之子28号墳	家之子字子ノ神	前方後円	27					○	
5-38	24	〃 38号墳	〃	円	8×10				鉄鏃、須恵器片		1967年調査 59号墳
5-39	24	〃 39号墳	〃	円						×	1967年調査 51号墳
5-42	24	〃 42号墳	〃	円	10.2×12.5						1967年調査 59号墳
5-46	24	〃 46号墳	〃	円	19				鉄鏃		1967年調査 24号墳
5-47	24	〃 47号墳	〃	前方後円					須恵器、土師器片	×	56号墳
6	25A	天野古墳群	家之子梶代台						円墳2基(15m)		
7	25A	馬場古墳群	松之郷字馬場						円墳10基(7～28.5m)		
8	25A	道庭古墳群	道庭字中通南						円墳33基(8～33m、28基消滅)		
8-1	25A	〃 1号墳	〃	円	16					×	1977年調査
8-2	25A	〃 2号墳	〃	円	13.2					×	〃
8-3	25A	〃 3号墳	〃	円	13					×	〃
8-4	25A	〃 4号墳	〃	円	13.7					×	〃
8-5	25A	〃 5号墳	〃	円	10					×	〃
8-7	25A	〃 7号墳	〃	円	10					×	〃
8-8	25A	〃 8号墳	〃	円	10.8					×	〃
8-9	25A	〃 9号墳	〃	円	12.1					×	〃
8-10	25A	〃 10号墳	〃	円	12.5					×	〃
8-11	25A	〃 11号墳	〃	円	10.9					×	〃
8-12	25A	〃 12号墳	〃	円	11.1					×	〃
8-13	25A	〃 13号墳	〃	円	11.8					×	〃
8-14	25A	〃 14号墳	〃	円	10.6					×	〃
8-15	25A	〃 15号墳	〃	円	25.5					×	〃
8-16	25A	〃 16号墳	〃	円	13					×	〃
8-18	25A	〃 18号墳	〃	円	15.3					×	〃
8-20	25A	〃 20号墳	〃	円	22.7					×	〃
8-21	25A	〃 21号墳	〃	円	17					×	〃
8-22	25A	〃 22号墳	〃	円	17.5					×	〃
8-23	25A	〃 23号墳	〃	円	33					×	〃
8-25	25A	〃 25号墳	〃	円	14.5					×	〃
8-26	25A	〃 26号墳	〃	円	19					×	〃
8-27	25A	〃 27号墳	〃	円	9.7					×	〃
8-28	25A	〃 28号墳	〃	円	18.9					×	〃
8-29	25A	〃 29号墳	〃	円	12.2					×	
8-30	25A	〃 30号墳	〃	円	20					×	
8-31	25A	〃 31号墳	〃	円	11					×	
8-32	25A	〃 32号墳	〃	円	11.8					×	
9	28	菅谷古墳群	松之郷字菅谷						円墳4基(11～18m)		
10	28	井戸谷古墳群	松之郷字井戸谷						前方後円墳1基(35m) 円墳7基(13～24m)		
11	28	焼山古墳群	松之郷字焼山						円墳4基(6.5～24m) 方墳1基(22.5m)		
12	28	油井古塚原古墳群	油井						前方後円墳7基(6基消滅) 円墳38基(11.5～42m、20基消滅)		
12-1	28	〃 1号墳	油井	円	26					×	1982年調査
12-8	28	〃 8号墳	〃	円	13					×	1966年調査
19-9	28	〃 9号墳	〃	円	15					×	〃
12-11	28	〃 11号墳	〃	円	42			横穴式石室	環頭大刀、直刀、鉄鏃、金環、琥珀玉、須恵器	×	〃
12-13	28	〃 13号墳	〃	円	12					×	〃
12-14	28	〃 14号墳	〃	円	21			横穴式石室	直刀、小刀、刀子、鉄鏃、銀環	×	〃
12-16	28	〃 16号墳	〃	円	21			不明			〃
12-17	28	〃 17号墳	〃	円	12			横穴式石室	直刀、鉄鏃、須恵器		〃
12-19	28	〃 19号墳	〃	前方後円	45						〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
12-22	28	油井古塚原22号墳	〃	円	23						
12-23	28	〃 23号墳	〃	円	17.5						
12-24	28	〃 24号墳	〃	円	15						
12-30	28	〃 30号墳	〃	前方後円	43.5						
13	28	大豆谷古墳群	大豆谷						円墳11基(8～20m)、方墳1基(19m)		
14	28	峯下横穴群	田間	横穴					29基		
15	28	玉崎神社裏横穴群	〃	横穴					29基		
16	28	上行寺裏横穴群	〃	横穴					7基		
17	28	新宿横穴群	新宿	横穴					19基		
18	28	岩崎横穴群	岩崎	横穴					20基		
19	28	谷横穴群	谷	横穴					13基		
20	28	朱塗りの横穴	谷	横穴					1基		
21	28	養安寺古墳群	小野十石						円墳6基(7～10.5m、3基は大網)		
22	28	道円坊古墳	山田字道円坊	円	22						

■大網白里町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	28	金谷野A遺跡	金谷郷字金谷野						△		
2	28	金谷古墳群	金谷郷字仙間						円墳2基(10m)	○	
3	28	餅木横穴群	小西	横穴					7基	○	
4	28	風谷横穴群	小西	横穴					3基	○	
5	28	小西横穴群	小西	横穴					12基	○	
6	28	養安寺横穴群	養安寺	横穴					2基	○	
7	28	宮谷横穴群	大網字西宮谷	横穴					8基	◎	
8	28	北後谷横穴群	金谷郷字向谷	横穴					1基	×	1987年調査
9	28	本宿横穴群	本宿	横穴					12基	○	
10	28	熊野神社横穴群	山辺	横穴					2基	○	
11	28	小中横穴群	小西	横穴					4基	×	1987年調査
12	28	瑞穂横穴群		横穴					43基	×	1984年調査
13	28	瑞穂小学校裏横穴群	永田	横穴					2基	○	
14	28	永田横穴群	永田字泉谷	横穴					22基	○	

■茂原市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	31A	龍教寺裏横穴	本納字箕沢	横穴	(玄室の長さ×幅)2.5×3.5			寄せ棟型		○	
2	31A	神楽坂横穴群	本納字神楽坂	横穴					1群3基		
3	31A	河向横穴群	下太田字河向	横穴	2号3×3			2号アーチ型	2群3基	2号○	
4	31A	藤谷横穴	本納字藤谷	横穴	2.5×3			寄せ棟型	1基	◎	
5	31A	落ノ下横穴群	渋谷字落ノ下	横穴					3基	○	
6	31A	渋谷横穴	渋谷字西谷	横穴					2基		
7	31A	大笹横穴	下太田字大笹	横穴					1基	×	
8	31A	雪内横穴	渋谷字雪内	横穴					2基		
9	31A	上井際横穴	渋谷字上井際	横穴					1基	×	
10	31A	田取横穴	渋谷字田取	横穴					1基		
11	31A	洞坂堰裏横穴	長局字洞坂	横穴					1基		
12	31A	洞坂横穴群	横穴	横穴					3基		
13	31A	北谷横穴	膳当字北谷	横穴						△	
14	31A	宿谷横穴	真名字宿谷	横穴					1基		
15	31A	内谷横穴	長尾字内谷	横穴					1基		
16	31A	八田横穴群	長尾字羽黒前	横穴					3基		
17	31A	御領横穴	長尾字御領	横穴					1基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
18	31A	宿横穴群	真名字来宇谷	横穴					1～2基		
19	31A	真名横穴群	真名字内谷	横穴					4基		
20	31A	庄吉横穴群	庄吉字台田	横穴					2基		
21	31A	押日横穴群	押日字西ノ谷池谷外	横穴					4群11基		
22	31A	打越横穴群	小林字打越	横穴					3群3基		
23	31A	久下横穴群	国府関字岩出	横穴					3支群12～14基		
24	31A	国府関横穴群	国府関	横穴					6基		
24-1	31A	〃 1号横穴	国府関	横穴	2.5×2			ドーム型		○	
24-2	31A	〃 2号横穴	〃	横穴	2×3			寄せ棟型高壇式		◎	
25	31A	下谷横穴群	押日字下谷	横穴					3基(昭和11年調査で第3群3基)	×	
26	31A	野本横穴	押田字野本	横穴	2.5×2			アーチ型	1基	○	
27	31A	野本横穴群	押田字前原	横穴					3群4基、須恵器	×	1977年調査
28	31A	押日横穴群	押日字狸谷外	横穴					4基(昭和11年調査で第1群11基)、直刀	△	
29	31A	船戸横穴群	押日字船戸	横穴					12基(昭和11年調査で第2群13基)	○	
30	31A	山崎横穴群	山崎字芦網	横穴					4支群38基、小横穴8基		1978～1980年調査
30-1	31A	〃 I群	山崎字大和久	横穴					1～9号横穴、土師器(真間)、須恵器		寺谷横穴群
30-2	31A	〃 II群	山崎字江本坂	横穴					12～21号横穴、土師器(真間、国分)、かわらけ、須恵器、切子玉		一部山崎横穴
30-3	31A	〃 III群	山崎字高久・芦網	横穴					11、23～38号横穴、土師器(真間、国分)、須恵器、鉄製品(釘、把手状製品)、直刀、刀子、玉類(勾玉、ガラス玉)		一部芦網横穴群
30 4	31A	〃 N群	山崎字大竹	横穴					22、46号横穴、土師器(国分)、須恵器、鉄鏃		
31	31A	長谷横穴群	長谷字中谷・榎谷外	横穴					9群26～29基		
31-1	31A	〃 仮1号横穴	長谷字中谷	横穴	(玄室の幅)(2.5)					△	
31-2	31A	〃 仮2号横穴	〃	横穴	5×2			ドーム型		○	
32	31A	笠輪字三郭房	31A 〃						4群7基		
33	35	早野横穴群	早野字藤木	横穴					3基		
34	35	上浄法寺横穴群1号横穴	網島	横穴					3基	○	
35	35	西谷横穴群	上永吉	横穴					1～2基	○	
36	35	大作横穴群	〃	横穴					1基	○	
37	35	穴蔵前横穴	上永吉字穴蔵前	横穴					1基		
38	35	鏡谷横穴群	上永吉字鏡谷	横穴					3基(1基消滅)、土師器(真間)、須恵器		1983年調査
39	35	福作谷横穴群	上永吉字福作谷	横穴					3基	○	
40	35	一ノ関遺跡	上永吉	横穴					1基(小横穴)	○	
41	35	大坪遺跡	上永吉字福作谷	横穴					1基(五輪塔)	○	
42	35	三ケ谷横穴群	三ケ谷中之坊	横穴					1群3基		
43	35	出口横穴	立木字出口	横穴					1基		
44	35	立木横穴群	立木字紅鶏巣谷	横穴					1群3基		

■長柄町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	30	ヨジ山横穴群	船木字ヨジ山	横穴					8基		
2	30	大仏谷横穴群	船木字大仏谷	横穴					2基		
3	30	柳作古墳	六地蔵字柳作	前方後円	(20×13×2)20						
4	30	山根・喜多谷横穴	山根	横穴							
5	30	針ケ谷長房滝谷横穴群	針ケ谷	横穴					11基		
6	30	桜谷・谷ケ谷横穴群	桜谷字辻谷	横穴					2基		
7	30	桜谷・笠松横穴群	桜谷	横穴					8基		
8	30	大正寺裏横穴群	千代丸	横穴					5基		
9	30	刑部・稲塚横穴群	刑部	横穴					9基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
10	30	刑部・月川横穴群	刑部	横穴					3基		
11	30	刑部・八重垣神社横穴	横穴	〃							
12	30	金谷・小金谷横穴群	金谷	横穴					5基		
13	30	針ケ谷東谷横穴群	針ケ谷	横穴					2基		
14	30	立町古墳	針ケ谷字立町	前方後円							
15	30	立島・斎藤ケ谷横穴群	立島	横穴					20基		
16	30	間ケ谷横穴群	桜谷字間ケ谷	横穴							
17	30	桜谷・辻谷(追越)横穴群	桜谷字辻谷	横穴					2基		
18	30	力丸・関谷横穴群	力丸	横穴					16基		
19	30	力丸横穴群	〃	横穴					2基		
20	30	榎本年切横穴群	榎本	横穴					2基		
21	31A	榎本・大平台泉谷横穴群	〃	横穴					3基		
22	31A	榎本垣ケ谷横穴群	〃	横穴					25基		
23	31A	榎本・和合横穴群	〃	横穴					4基		
24	30	徳増・源六谷I支群横穴群	徳増	横穴					21基		県指定史跡
25	30	徳増・源六谷II支群横穴群	〃	横穴					13基		
26	30	徳増・下谷横穴群	〃	横穴					12基		
27	30	要害古墳群	徳増字要害						前方後円墳1基、円墳1基、管玉	○	
28	30	円覚寺横穴群	〃	横穴							
29	30	大津倉長柳横穴群	大津倉	横穴					3基		
30	30	金谷・畠山横穴群	金谷	横穴					3基		
31	30	立島・汲井谷横穴群	立島字吹原	横穴					64基		
32	30	鴉谷・鴉谷西部I横穴群	鴉谷字瀬戸	横穴					5基		
33	30	鴉谷・鴉谷西部II横穴群	鴉谷字中関	横穴					7基		
34	30	万作横穴群	鴉谷字万作	横穴					2基		
35	30	中関横穴群	鴉谷字中関	横穴					7基		
36	30	谷多部田横穴	鴉谷字谷多部田	横穴							
37	30	宮下横穴群	鴉谷字宮下	横穴					3基		
38	30	下山ノ谷横穴	鴉谷字下山ノ谷	横穴							
39	30	宮ノ台横穴	長宮字宮ノ台	横穴							
40	30	鴉谷・鴉谷東部I横穴群	鴉谷	横穴					33基		
41	30	鴉谷・鴉谷東部II横穴群	〃	横穴					56基		
42	34	日陰横穴	田代字日陰	横穴							
43	34	越田横穴群	田代字越田	横穴					5基		
44	34	向井横穴群	田代字向井	横穴					2基		
45	34	動免横穴	大津谷字動免	横穴							
46	34	高山脇谷横穴	高山	横穴							
47	34	松ノ木横穴	高山字松ノ木	横穴							
48	34	高山横山群	高山	横穴					4基		
49	34	寺前横穴群	高山字寺前	横穴					5基		
50	34	節ケ谷横穴群	高山字節ケ谷	横穴					2基		
51	34	須合横穴	高山字須合	横穴							
52	34	近江谷横穴	高山近江谷	横穴							

■長　南　町

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	35	宮田谷横穴群	米満字宮田谷	横　穴					1群3基		
2	35	米満横穴群	米満	横　穴					1群20基		
3	35	堰向横穴群	米満字堰向	横　穴							
4	34	棚毛横穴群	棚毛	横　穴					15群59基		
4-1	34	〃　和合谷横穴	棚毛字和合谷	横　穴					2基	○	
4-2	34	〃　桜木下横穴	棚毛字桜木下	横　穴					5基	◎	
4-3	34	〃　殿ケ谷横穴	棚毛字殿ケ谷	横　穴					2基		
4-4	34	〃　長照寺裏横穴	棚毛	横　穴					4基	○	
4-5	34	〃　西見田横穴	棚毛字西見田	横　穴					3基		1基完存
4-6	34	〃　ホトイド横穴	棚毛字ホトイド	横　穴					2基	◎	
4-7	34	〃　集会所裏横穴	棚毛	横　穴					3基	○	
4-8	34	〃　垣添横穴	〃	横　穴					8基	○	
4-9	34	〃　馬場谷横穴	棚毛字馬場谷	横　穴					12基		
4-10	34	〃　漆作谷横穴	棚毛字漆作谷	横　穴					2基	○	
4-11	34	〃　七つやぐら	棚毛字七つやぐら	横　穴					7基	○	
4-12	34	〃　木樵谷横穴	棚毛木字樵谷	横　穴					6基	○	1基完存
5	34	今泉横穴群	今泉	横　穴							
5-1	34	〃　小谷A横穴	今泉字小谷	横　穴					2基	○	
5-2	34	〃　小谷B横穴	〃	横　穴					7基	○	
5-3	34	〃　大谷横穴	今泉字大谷	横　穴					2基	○	
6	34	又富横穴群	又富	横　穴					4群38基		
6-1	34	〃　小平田横穴	又富字小平田	横　穴					3基		
6-2	34	〃　三本松横穴	又富字三本松	横　穴					13基		
6-3	34	〃　水ノ口横穴	又富字水ノ口	横　穴					11基		
6-4	34	〃　中ノ郷横穴	又富字中ノ郷	横　穴					11基		
7	34	三ケ谷横穴群	千田字三ケ谷	横　穴					1群4基		
8	34	吹羅横穴群	千田字吹羅	横　穴					1群4基		
9	34	井山横穴群	千田字井山	横　穴					1群20基		
10	34	深沢横穴群	深沢字深沢	横　穴					1群3基		
11	34	大関谷横穴群	歳持字大関谷	横　穴					1群2基		
12	34	三途台A横穴群	歳持字北谷	横　穴					1群1基		
13	34	三途台B横穴群	〃	横　穴					2群3基		
14	35	法華谷東横穴群	坂本字法華谷	横　穴					1群15基		
15	35	法華谷西横穴群	〃	横　穴					2群7基		
16	35	葛田A横穴群	葛田	横　穴					2群10基	○	1基完存
17	35	葛田B横穴群	〃	横　穴					1群5基	○	
18	35	報恩寺横穴群	報恩寺	横　穴					1群9基		
19	35	滝ノ谷横穴群	報恩寺字滝ノ谷	横　穴					2群8基		
20	35	大谷古墳	豊原字大谷	円							
21	35	西湖横穴群	豊原字西湖	横　穴					4基		
22	35	久原横穴群	豊原字久原	横　穴					1群3基		
23	35	永井横穴群	豊原字永井	横　穴					1群12基		
24	35	木ノ村横穴群	豊原字木ノ村	横　穴					1基		
25	35	油殿古墳群	豊原2257						前方後円墳2基、円墳2基		
25-1	35	〃　1号古墳	〃2257	前方後円	93				土師器、大形壺(五領式)	◎	1975年調査 県指定史跡
25-2	35	〃　2号古墳	〃	前方後円	2.3 30					◎	〃
25-3	35	〃　3号古墳	〃	円	10					◎	〃
25-4	35	〃　4号古墳	〃	円	10					◎	〃
26	35	小沢横穴群 A群横穴	小沢	横　穴					9基	○	
27	35	小沢横穴群 B群横穴	〃	横　穴					6基	○	
28	35	地引横穴群	地引字大塚	横　穴					6群35基		1966年調査
28-1	35	(A群横穴)	〃	横　穴	1号3.6×3.4、2号3×3.1			1号隅丸方形 2号アーチ型、棺床3	須恵器、短頸壺、坏、直刀、刀子、鉄鏃、鎌、耳輪、埴 5基	○	〃

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
28-2	35	(B群横穴)	地引字大塚	横　穴	1号3.2×3.25、2号4×4.6			1号隅丸方形 2号逆梯形	須恵器、土師器坏片、鉄鏃、小玉、細頸壺、高坏 4基	○	1966年調査
28-3	35	(C群横穴)	〃	横　穴					3基		
28-4	35	(D群横穴)	〃	横　穴					4基	○	
28-5	35	(E群横穴)	〃	横　穴					2基	○	
29	35	地引古墳群	地引字大塚						円墳2基		
29-1	35	〃　1号古墳	〃	円						◎	
29-2	35	〃　2号古墳	〃	円						◎	
30	35	八坂横穴	八坂	横　穴						○	
31	35	妙詮寺横穴群	上芝原字妙詮寺	横　穴					6基		
32	35	上芝原横穴群	上芝原	横　穴					5基	◎	
33	35	八坂横穴群	〃	横　穴					1基2群		
34	35	うり谷横穴群	〃	横　穴					1基		
35	35	能満寺古墳群	上芝原能満寺						前方後円墳1基、円墳10基、方墳1基、不明6基、縄文土器、弥生土器、土師器		
35-1	35	〃　前方後円墳	芝原3829	前方後円	後円、前方 50、20 73.5			木炭郭 (長さ7.5、幅2.0)	鏡2(一面は獣形鏡)、太刀、剣、ガラス丸玉、ガラス小玉、鎚、鋤鍬、鉄斧、土師器高坏	○	1947年調査 県指定史跡
35-2	35	〃　2号墳	〃	円	(高さ)2 (全長)20					◎	
35-3	35	〃　3号墳	〃	円	1.5 20.0					◎	
36	39・40	市野々横穴	市野々	横　穴					1基		

■睦　沢　町

番号	図版番号	名　称	所在地	墳　形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	35	寺崎玄知ノ下横穴群	寺崎字玄知ノ下1996	横　穴					3基		
2	35	〃　1号墓	〃	横　穴	(全長)1.6 (奥行)1.0			框座、排水溝、隔壁	提瓶、甕	○	1988年調査
2	35	寺崎城ノ内横穴	寺崎字城ノ内2790	横　穴					1基	○	〃
3	35	寺崎風呂屋横穴群	寺崎字風呂屋1947	横　穴					3基		
4	35	北山田北長谷横穴	北山田字長谷543	横　穴					1基		
5	35	北山田白ケ谷横穴群	北山田字白ケ谷679	横　穴					2基	○	
6	35	北山田越地横穴	北山田字富七ノ下393	横　穴					3基		
7	35	北山田御堂谷横穴群	北山田字御堂谷	横　穴					5基		
8	35	北山田富士ノ下横穴群	北山田	横　穴					3基		
9	35	富貴楽古墳群	北山田字田向270他						前方後円墳2基、円墳3基		
9-1	35	〃　前方後円墳	〃	前方後円	(後円)径22.0 (前方)18.0、 高4.5、38.0					○	
9-2	35	〃　円墳	〃	円	(高さ)2.8 18.0					○	
10	35	関戸横穴群	大谷木字焼ケ谷	横　穴					6基		
10-1	35	〃　A群1号横穴	大谷木字焼ケ谷1544-1	横　穴						○	
10-2	35	〃　B群横穴	大谷木字坂口1505	横　穴					2基	○	
10-3	35	〃　C群横穴	大谷木字新地1550	横　穴						○	
11	35	大谷木谷横穴群	大谷木字谷262	横　穴					4基		
12	35	大谷木来光横穴	大谷木字来光	横　穴					1基		
13	35	大谷木山の神横穴	大谷木字山の神108	横　穴					1基		
14	35	大谷木古墳	大谷木字御霊下360	前方後円	(後円)径2.4 (前方)1.8 高1.3、42.0					○	
15	35	大塚古墳	大谷木字川田	円	(高さ)4.2 (径)6.0					◎	塚の可能性が高い

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
16	35	上市場古墳	小滝字一ツ川	横穴	7.0 2.6					○	塚の可能性あり
17	35	上市場分堰前古墳群	上市場分堰前102	横穴					2基		
18	35	池谷田横穴群	下之郷字池田1026	横穴					6基		
19	35	大坊谷横穴群	下之郷字大坊谷925-1	横穴					4基		
20	35	岩井堂谷横穴群	岩井字堂谷201	横穴					3基		
21	35	岩井北東行寺横穴群(A)	岩井字北東行寺250-2	横穴					2基		
22	35	〃 (B)	岩井字北東行寺258-1他	横穴					3基		
23	35	岩井修理田横穴(A)	岩井字修理田886	横穴					1基		
24	35	〃 (B)	岩井字修理田887	横穴					1基		
25	35	岩井谷ノ下横穴群(A)	岩井字谷ノ下352-2	横穴					3基		
26	35	〃 (B)	岩井字谷ノ下358、360-1、361	横穴					5基		
27	35	岩井大谷横穴	岩井字大谷408	横穴					1基		
28	35	岩井堰谷横穴	岩井字堰谷589	横穴					1基		
29	35	下之郷月代台横穴群	下之郷月代台679他	横穴					3基		
30	35	下之郷小谷横穴	下之郷字小谷418	横穴					1基		
31	35	浅間山古墳群	下之郷字根崎369-5他						円墳4基		
31-1	35	〃 1号墳	下之郷字根崎369-7	円	(高さ)3.5 (径)26.0			粘土床	縄文土器(井草Ⅰ、茅山)、弥生式土器(宮の台)、有孔円板、獣形鏡、刀子、刀、剣、鏃、三輪玉、胡籙金具、鉄環、鈴具		1973年調査
32	35	下之郷次郎田谷横穴群	下之郷字次郎中谷211他	横穴					12基		
33	35	清水谷横穴群	下之郷字清水台833-8他	横穴					3基		
34	35	岩井横穴	岩井1304	横穴					1基		
35	35	下之郷東谷横穴群(A)	下之郷字東谷625-29他	横穴					5基		
36	35	〃 (B)	下之郷字東谷620他	横穴					6基		
37	35	下之郷宗祇谷横穴	下之郷字宗祇谷178	横穴					1基		
38	35	上之郷橋戸横穴群(A)	上之郷字橋戸1312-1他	横穴					4基		
39	35	〃 (B)	上之郷字橋戸1305他	横穴					2基		
40	35	上之郷安喰横穴(A)	上之郷字安喰1044	横穴					1基		
41	35	〃 (B)	上之郷安喰1077	横穴					2基		
42	35	鴨谷横穴群(A)	上之郷字五反田1379他	横穴					1基		
43	35	〃 (B)	上之郷字五反田1376他	横穴					6基		
44	35	下之郷入山津横穴群	下之郷字槻町108-4	横穴					3基		
45	35	上之郷石川横穴群(A)	上之郷字石川966	横穴					2基		
46	35	〃 (B)	上之郷字石川941-1他	横穴					4基		
47	35	上之郷井戸谷横穴	上之郷字井戸谷1899	横穴					1基		
48	35	東谷横穴群	上之郷字中東谷505他	横穴					5基、土師器(国分)、須恵器、鉄鏃、刀子、石製品		
48-1	35	〃 1号墳	上之郷字中東谷491	横穴	(奥行×幅×高さ)3.5×3.15×1.8			排水溝	人骨、高坏、坏、鉄鏃、石製品、刀子	◎	1982年調査
49	35	上之郷向天ケ谷横穴群	上之郷字向天ケ谷1097他	横穴					7基	○	
50	35	上之郷上天ケ谷横穴群	上之郷字上天ケ谷1204-2	横穴					2基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
51	35	上之郷神戸横穴	上之郷字神戸869	横穴					1基		
52	35	上之郷釜ケ坪横穴群(A)	上之郷字釜ケ坪877	横穴					4基		
53	35	〃 (B)	上之郷字釜ケ坪918他	横穴					6基		
54	35	日之子台古墳群	大上字竹の台124-1他	円					円墳3		
55	35	房谷横穴群	大上字房谷621-1	横穴	(全長×東×高)2.2×1.8×1.3				2基	○	
56	35	上之郷上山田谷横穴群	上之郷字上山田谷91	横穴					6基		
57	35	上之郷下山田谷横穴	上之郷字下山田谷158	横穴				隔壁(1.6m)排水溝、棺座	1基、人骨	○	
58	35	大上飯沢横穴	大上字大猿田238	横穴	2.6 3.6			隔壁排水溝、棺座		○	
59	35	能満寺古墳群	森字年ノ山地272他						円墳2基、方墳1基		
59-1	35	〃 円墳	森字年ノ山地272	円	(高さ)2.3 (直径)8.0					◎	
60	35	ひな塚古墳	長楽寺字上部田164	前方後円	(後円)21 (前方)18 45		○		埴輪円筒部底部	○	
61	35	鞠ケ谷横穴群(A)	佐貫字打越1758他	横穴					1基		
62	35	〃 (B)	佐貫字境部田1812他	横穴					3基		
63	35	〃 (C)	佐貫字境部田1808他	横穴					1基		
64	35	副円寺裏横穴群	佐貫字副円寺廻り1497	横穴					2基		
64-1	35	〃 1号墓	〃	横穴						○	
64-2	35	〃 2号墓	〃	横穴						○	
65	35	佐貫横穴群	佐貫字養老子西谷1256他	横穴					6基		
66	35	佐貫森ノ谷横穴群(A)	佐貫字日渡2335	横穴					2基		
67	35	〃 (B)	佐貫字大作1932	横穴					2基		
68	35	長楽寺横穴群(A)	長楽寺字南谷631他	横穴					2基		
69	35	〃 (B)	長楽寺字南谷657-1他	横穴				家型	1基	○	
70	35	〃 (C)	長楽寺字南谷658他	横穴					3基		
71	35	森・長谷寺古墳群	森字総緑32						前方後円墳1基、円墳4基		
71-1	35	〃 1号墳	〃	前方後円	(後円)15.3 (前方)13.6 27.7			不明	縄文土器(加曽利E)、土師器	◎	1988年調査
71-2	35	〃 2号墳	〃	円	(高さ)1.6 (直径)南北19.3 東西13.5					◎	
71-3	35	〃 3号墳	〃	円	1.25 10.8					◎	
71-4	35	〃 4号墳	〃	円	1.5 6.7				弥生式土器(久ケ原)、土師器、須恵器	◎	1988年調査
71-5	35	〃 5号墳	〃	円	1.2 13.7					◎	〃
72	35	大上坪六横穴群	大上字川ヤブ3657 壬子3660	横穴					3基		
73	35	次郎ケ谷横穴	佐貫字次郎ケ谷3222	横穴					1基		
74	35	佐貫山部田遺跡	佐貫字山部田647	円							塚の可能性あり
75	35	大上杉山横穴群(A)	大上字川向3342	横穴	1号全長2.3				2基	○	
76	35	〃 (B)	大上字川向3340	横穴					4基		
77	35	〃 (C)	大上字川向3333-2他	横穴					1基		

■一　宮　町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	35	待山古墳群	待山						7基		5基破壊
1-1	35	〃 帆立貝式古墳	〃	方	(高さ)1.4 (一辺)20.0				七師器	○	方部のみ遺存
2	35	西門前台横穴群	西門前台	横穴	(玄室全長) 2.6				2基	○	
3	35	東院横穴群	東院	横穴				棺座	3基	○	
4	35	小池横穴群	小池	横穴					8基		
5	35	細田横穴群A	細田	横穴					12基、棺、人骨、歯牙、鉄鏃		
6	35	〃 B	〃	横穴					8基		
7	35	岡田前横穴群	岡田前	横穴					5基		
8	35	浅間横穴群	浅間	横穴					4基		
9	35	柚ノ木横穴群	北柚ノ木	横穴					17基、耳環、管玉、土師器、須恵器		
10	35	奥谷横穴群	奥谷	横穴					2基		
10-1	35	〃 1号横穴	〃	横穴	4.8 2.9			排水溝 棺座		○	

■千　葉　市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	17	高台南古墳	柏井町	前方後円						○	
2	17	追舘古墳群	柏井町						円墳2基	○	
3	17	大山古墳	柏井町大山	円	4(高さ) 8	○		横穴式石室か		○	
4	17	鉄炮塚古墳群	幕張町					前方後円墳1基、円墳6基＝東鉄炮塚、鉄炮塚＝円墳	○		
5	17	大小塚古墳群	武石町1丁目、大小塚						円墳1基(武石塚)、他円墳2基	◎	
6	17	椎崎古墳	幕張町4丁目	円	1.5(高さ) 5					○	
7	22	米ノ内古墳	畑町117他	方						×	1981年調査
8	22	子安古墳群	畑町宮ノ後						円墳3基	◎	
9	22	陣屋台古墳群	畑町陣屋台						円墳2基	○	
10	22	殿山古墳群	畑町殿山	円						△	
11	22	愛宕山古墳	武石町検見川道	方				横穴式石室	直刀、鉄鏃、耳飾	×	
12	22	房地古墳	宮野木町房地	円	1(高さ) 12					◎	
13	22	草原古墳群	宮野木町草原						円墳2基、土師器	△	
14	22	鳩原古墳群	宮野木町鳩原						円墳4基		
15	22	宮野木原古墳群	宮野木町宮野木原						円墳2基	○	
16	22	牛尾舛古墳	小仲台町牛尾舛	円						◎	
17	22	牛尻古墳	小中台町牛尻	円						◎	
18	22	塚原古墳群	小中台町塚原						円墳2基	×	
19	22	城山古墳	小中台町城山	円						×	
20	22	城山横穴	〃	横穴						○	
21	22	道合古墳	小仲台町道合	円				横穴式石室		○	
22	22	西街道古墳	園生町西街道	前方後円						△	
23	22	高崎古墳群	園生町高崎						円墳3基(内2基消滅)1号32m		
24	22	勝田台古墳群	園生町長者山						円墳5基	○	
25	22	向原古墳	小仲台町向原	円				地下式石室		△	
26	22	根崎古墳	千種台2丁目	円					石製模造品、土師器	△	
27	22	作草部古墳	作草部町	円						○	
28	22	鷲塚古墳	新千葉町鷲塚	前方後円(方)						×	
29	23	白旗古墳	新宿町	円					直刀	△	1944年調査
30	23	紅滋古墳	源町内野	円						△	
31	23	新小橋古墳	谷当町新小橋	円	13m					○	
32	23	御手野古墳群	下泉町御手野						前方後円墳2基、円墳7基	◎	
33	23	浅間ビヲ古墳	大井町浅間ビヲ	円						◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
34	23	外道古墳	更科町外道	円	1.5(高さ) 20					◎	塚
35	23	外百楽古墳	下田町外百楽	円	2.5(高さ) 13					◎	
36	23	満賀田古墳	原町満賀田						円墳2基	◎	
37	23	大塚古墳群	都賀町大塚						円墳5基(内3基消滅)		
38	23	駒形古墳	高品町駒形	円	2(高さ) 13					◎	
39	23	戸張作古墳群	東寺山町戸張作						前方後円墳(2基消滅)、円墳15基(内7基消滅)		
40	23	石神古墳群	東寺山町蓮台場						円墳6基、方墳1基		
40-1	23	石神2号墳	〃	円墳	43			木棺直葬	鎌、石枕、立花、石製模造品、勾玉、土師器、剣、刀子	×	1975年調査
41	23	浜道古墳群	東寺山町浜道						円墳7基	◎	
42	23	高品第2古墳群	高品町キツ長							×	1972、1978年調査
43	23	貝塚後古墳群	貝塚町貝塚後						5基	×	
44	23	西治古墳	高品町西ノ台	円	4(高さ) 18					◎	
45	23	駒込古墳群	上泉町駒込						円墳5基以上	◎	
46	23	花井田古墳群	更科町花井田						円墳5基	○	
47	23	川崎東古墳	更科町川崎	円						○	
48	23	水垂古墳群	富田町水垂						円墳8基	◎	
49	23	谷部多古墳群	更科町谷部多						前方後円墳1基32m、円墳(5号30m)	○	
50	23	天神台古墳	都町天神台	円						×	
51	23	兼坂古墳群	都町山王						円墳2基、方墳3基	×	1972年調査
52	23	聖人塚古墳	加曽利町和田	円				土壙	直刀、鉄鏃、耳環、須恵器	×	〃
53	23	聖人塚	加曽利町聖人塚	円	27						〃 文52
54	23	御所ヶ原都古墳群	都町御所ヶ原						円墳3基、土師器	×	
55	23	立楠古墳群	加曽利町立木						円墳3基以上	○	
56	23	田向南古墳	加曽利町田向	円	20						1980年調査
57	23	和田前古墳群	加曽利町和田前						円墳2基		〃
58	23	新山古墳群	加曽利町新山						前方後円墳1基、円墳1基		
59	23	若郷古墳群	加曽利町若郷						円墳3基	×	1981年調査
60	23	大泉台古墳群	加曽利町大泉台						円墳1基、方形墳2基	◎	
61	23	台畑古墳群	加曽利町台畑						円墳13基	◎	
62	23	作古墳	加曽利町小原作	円(帆立貝?)	3(高さ) 23					◎	
63	23	辺田前古墳群	加曽利町辺田前						円墳3基	◎	
64	23	永作古墳	加曽利字永作	円	4(高さ) 38					◎	
65	23	台古墳群	坂月町さら坊						円墳4基	○	
66	23	松山台古墳群	坂月町松山台						円墳2基	○	
67	23	家の上古墳群	坂月町家の上						〃	◎	
68	23	聖天古墳群	大宮町網田						円墳3基	◎	
69	23	太田向阿弥田古墳	大宮町太田向	円	15					○	
70	23	大久保古墳群	大宮町字大久保						円墳2基	×	
71	23	瀧ノ谷古墳群	大宮町瀧ノ谷他						円墳5基	○	
72	23	光蓮寺台古墳群	北谷津町光蓮寺台						〃	○	
73	23	上ノ台古墳群	北谷津町上ノ台						1号(前方後円墳)35m他円墳3基以上	○	
74	23	台ノ坊古墳群	多部田町台ノ坊						円墳5基1号(前方後方墳)15m	○	
75	23	ワリ山古墳群	高根町ワリ山						円墳4基	○	
76	23	根現堂古墳群	中田町根現堂						円墳7基	◎	
77	23	山宇志路古墳群	富田町山宇志路						円墳3基以上	◎	
78	23	姫塚古墳群	古泉町姫塚						円墳5基	◎	
79	23	上人塚古墳群	和泉町ハガワ						円墳6基	◎	
80	23	六所古墳群	古泉町六所						円墳2基、2号(30m)	○	
81	23	内野古墳群	多部田町内野						前方後円墳1基、円墳11基	○	
82	23	貝殻塚古墳	多部田町貝殻塚	円?	3(高さ) 12					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
83	23	台古墳群	佐和町台						円墳6基	○	
84	23	並木古墳	川井町並木	円	2.5(高さ) 5					◎	
85	23	前畑北古墳	川井町前畑	円						×	
86	23	柏葉一古墳	野呂町柏葉一	方?						○	
87	23	天神台古墳	葛城町天神台	円						×	
88	23	葛城弁天台古墳	葛城町弁天台	円						×	
89	23	荒久古墳	青葉町荒久	円	3(高さ) 16					×	1951年調査
90	23	取林古墳	星久喜町取林	円?	3(高さ) 8			横穴式石室の可能性		◎	
91	23	聖人塚古墳	仁戸名町中尾余	円	2(高さ) 18				直刀	○	
92	23	へたの台古墳群	仁戸名町中台						円墳5基	○	1969～70年調査
93	23	作山古墳群	仁戸名前作山						円墳3基	○	
94	23	郷西古墳	仁戸名町郷	円						○	
95	23	東王郎古墳	大宮町東五郎	円						×	1973年調査
96	23	名木古墳群	大宮町名木						円墳2基	○	
97	23	清水台古墳	大宮町清水台	円墳						○	
98	24	小間子古墳群	小間子町						円墳2基、方墳2基	○	
99	27	ヲフウデン古墳群	五十土町ヲフウデン						円墳2基以上	○	
100	27	上人塚古墳	五十土町白畑	円墳						◎	
101	27	中道古墳群	野呂町中道						円墳4基	◎	
102	27	庚塚占墳群	花輪町庚塚長池						円墳15基	◎	
103	27	吾妻古墳群	平山町吾妻						円墳2基	△	
104	27	谷津町古墳	平山町谷津町	円	1.5(高さ) 12					○	
105	27	庚塚古墳	仁戸名町庚塚	円						△	
106	27	池田古墳群	花輪町池田						円墳5基	×	1981年調査
107	27	中峠古墳	花輪町中峠	円	2(高さ) 12						
108	27	にとな古墳群	花輪町外ノ谷長作他						2号(前方後円墳)1基31.5m、円墳5基	×	1972年調査
109	27	大厳寺古墳群	大厳寺町浅間						円墳39m	◎	
110	27	狐塚古墳	今井町						円墳2基、管玉		1964年調査
111	27	柏崎台古墳群	生実町柏崎台						円墳2基(内1基消滅)		
112	27	愛宕古墳群	大厳寺町愛宕上志井前						円墳2基	○	
113	27	赤井古墳群	赤井町砂押						円墳3基	○	
114	27	権作古墳群	赤井町権作						円墳3基以上	○	
115	27	大作台古墳群	赤井町大作台						円墳2基		
116	27	菱名台古墳群	平山町菱名台						円墳1基、方墳1基	○	
117	27	菱名古墳群	平山町古墳群						円墳4基	○	
118	27	台畑古墳群	平山町台畑						円墳3基以上	○	
119	27	西水砂古墳群	平山町西水砂						円墳2基	○	
120	27	平山古墳	平山町水砂	円	1.8(高さ) 24				土師器、須恵器(台付長頸壺)	×	1977年調査
121	27	志み古墳	平山町志み						円墳2基	○	
122	27	新山古墳群	平山町新山						円墳5基		1977年調査
123	27	立堀古墳	辺田町立堀	円						○	
124	27	清水台古墳	赤井町清水台	円						○	
125	27	辺田向古墳	辺田町辺田向	円	1(高さ) 9					◎	
126	27	大野羅占墳群	辺田町大野羅						円墳1基、方墳1基		
127	27	清水作古墳	辺田町	円						×	1977年調査
128	27	塚原古墳群	平山町字塚原						前方後円墳2基、円墳4基		
129	27	中原古墳群	平山町字中原						前方後円墳3基、円墳6基 3号20m、4号35m、5号25m	×	1959年
130	27	下深見沢古墳	平山町下深見沢	円	4(高さ) 28					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
131	27	鎌取古墳群	鎌取町鎌取吉重荒子						円墳2基	○	
132	27	物見塚古墳	辺田町内野作	円							
133	27	兼塚古墳群	生実町兼塚遠野口						方墳1基、円墳12基	◎	
134	27	高沢古墳群	生実町高沢						円墳4基	×	1982年調査
135	27	生浜古墳群	生浜町生浜						円墳5基	×	1975～76年調査
136	27	南二重堀古墳群	生実町南二重堀						4号34.6m方墳8基	×	1979～80年調査
137	27	大道古墳群	生実町尼田大道						円墳2基	×	1981～82年調査
138	27	赤塚古墳群	南生実町上赤塚						円墳5基	×	1980年調査
139	27	上赤塚古墳群	〃						円墳2基	×	〃
140	27	新田古墳	浜野町前田	円						×	
141	27	前田古墳	〃	円						×	
142	27	服部塚古墳	村田町服部	前方後円						×	
143	27	七廻塚古墳	生実町峠台	円墳	54				直刀、剣、鉄斧、鎌、鉾、小型仿製鏡、滑石製模造品、巨王、変形獣鏡(立花、小刀、鏃、斧)	×	1958年調査
144	27	大覚寺山古墳群	生実町大覚寺脇						前方後円墳1基、円墳3基	◎	
144-1	27	大覚寺山古墳	〃	前方後円	62					◎	県指定史跡
145	27	亀甲北古墳	南生実町亀甲	円	2.5(高さ) 15					◎	
146	27	八人塚古墳群	生実町上新谷芋作						前方後円墳1基30m、円墳4基	○	
147	27	扇田古墳	有吉町扇田	方墳							
148	27	馬ノ口古墳群							円墳6基、方墳3基	×	1980～81年調査
149	27	誉田高田古墳	高田町貝塚							×	1954年調査
150	27	中芝古墳	高田町中芝	円						×	1977年調査
151	27	中堀第1古墳	高田町中堀	円							
152	27	奈木台第5古墳	高田町奈木台	方						×	1975年調査
153	27	椎名崎占墳群	椎名崎町西原						円墳2基	×	1976～77年調査
154	27	狐塚古墳群	椎名崎町木戸作						〃	×	
155	27	人形塚古墳群	椎名崎町道初谷						前方後円墳1基、円墳1基	×	
156	27	椎名崎B古墳群	椎名崎永作						円墳7基、前方後円墳2基	×	
157	27	椎名崎A古墳群	椎名崎町道作						前方後円墳1基、円墳5基	×	1972～1976年調査
158	27	小金沢古墳群	小金沢町堂面						前方後円墳2基、円墳12基以上	×	1976～77年調査
159	27	ムコアラク古墳群	大金沢町六通台						円墳7基、方墳4基以上	×	
160	27	六通神社南古墳群	大金沢町六通辺田						円墳7基	×	
161	27	六通古墳群	大金沢町向田西						円墳6基	×	1976年調査
162	27	御塚台古墳群	小金沢町長作						円墳10基以上	×	1978～1983年調査
163	27	池入古墳群	椎名崎町						前方後円墳1基、円墳12基	×	
164	27	神明社裏古墳群	小金沢町土ノ台						円墳8基	×	1983～1985年調査
165	27	富岡古墳群	富岡町堂山						円墳3基、方墳1基		
166	27	杉ノ台古墳	中西町中西台宮山	円	12					○	
167	27	狐塚古墳群	大木戸町狐塚						円墳2基	◎	
168	27	水羽古墳	板倉町水羽	円	17					○	
169	28	経塚古墳群	中野町出戸						円墳4基	○	
170	28	道の上古墳	中野町道の上	円	3 20					◎	
171	28	観音塚古墳	和泉町塙	円	4 17					○	
172	28	寺井田古墳	和泉町寺井田	円	12					△	
173	28	一本松古墳群	中野町一本松						円墳3基	○	
174	28	ムカエ古墳群	和泉町ムカエ						円墳4基	○	
175	28	塚之越古墳群	下大和田町塚之越						円墳3基		
176	28	鷹垂山古墳	下大和田町鷹垂山	方						◎	
177	28	前沢古墳	下大和田町前沢	円	4 10						
178	28	笹目沢古墳	平川町笹目沢	前方後方?							
179	28	宝善寺山古墳群	平川町向工						円墳12基	◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
180	28	能真坊古墳群	下大和田町能真坊						円墳2基	◎	
181	28	馬見塚古墳群	下大和田町馬見塚						〃	◎	
182	28	二ツ塚古墳群	土気町二ツ塚						〃	◎	
183	28	中台古墳群	土気町中台						円墳3基	◎	
184	28	黒ハギ古墳	土気町黒ハギ	円						×	
185	28	東城楽台古墳群	土気町東城楽台						円墳3基	×	1981～83年調査
186	28	舟塚古墳	土気町舟塚	前方後円	3.9(高さ)44	二重周堀35～4		複室横穴式石室	須恵器(長頸壺、瓶、高杯、小型有蓋壺、手捏ね壺)	×	1964年調査
187	28	長塚古墳群	小食土町長塚						円墳2基、方墳1基		
188	28	荻生道古墳群	小食土町荻生道						円墳3基	○	
189	28	金沢古墳	板倉町金沢	円	4(高さ)20					◎	
190	28	南谷横穴群	小食土町南谷	横穴					7基	◎	
191	28	乙払込横穴群	小食土町乙払込	横穴					4基	◎	
192	28	向山古墳	谷当町向山	円						◎	
193	28	猿田北古墳	下田町猿田	円						◎	
194	28	大塚古墳	みつわ台町西前原		17				方	○	
195	28	大作古墳	桜木町大作						方	○	
196	28	北寺山古墳群	金親町北寺山							◎	
197	28	車坂古墳	貝塚町車坂						方	×	
198	28	かるむみ第3古墳	御殿町かるむみ		25				方	◎	
199	28	新堀古墳群	大草町新堀						1基消滅、1基三山塚に利用(方形)3基		
200	28	下田栄福寺古墳群	大宮町下田						方墳2基	◎	
201	28	西屋敷古墳	大宮町西屋敷							×	1977年調査「大宮第2遺跡」
202	28	清水台古墳	五十土町清水台						円墳		
203	28	大膳野北古墳群	大金沢町バクチ穴他						方墳3基		1980～82年調査
204	28	内アラク古墳群	土気町内アラク御延塚						前方後円墳1基、円墳12基	○	

■市　原　市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	27	ぱあ山1号墳	草刈字大岬	円	19				土師器高杯2、壺片1	×	1978年調査
2	27	中永谷古墳群	草刈字中永谷						円墳2基	×	1978年調査
3	27	草刈古墳群	草刈字上切付 鞘戸他						前方後円墳3基(内1基消滅)前方後方墳1基(消滅)円墳(100基以上) 方墳(33基以上)		
3-1	27	草刈1号墳	草刈字天神台	円	34				鉄剣、鉄鉾、鉄製農二具、玉類	×	1980年調査
3-2	27	草刈32号墳	草刈字池ノ袋	前方後円	38.5				直刀、鉄鏃、玉類、耳環、土師器、須恵器	×	1980年調査
4	27	ナギノ台古墳群	押沼字水堀江	方						×	1980年調査
5	27	柳田横穴群	瀬又字長谷川ウナ	横穴					横穴5基	○	
6	27	大宮神社古墳群	草刈字本郷						前方後円墳1基、円墳4基	◎	
7	27	鶴牧古墳群	草刈字鶴牧						方墳2基	×	1979年調査
8	27	草刈狐塚古墳群	草刈字狐塚						方墳(10m)2基	×	〃
9	27	高田観音台古墳群	高田字向井 狐アラク他						円墳45基以上	◎	
10	27	片岡古墳群	高田字片岡下 片岡上						円墳8基以上(内6基消滅)	△	
11	27	北中野古墳群	中野字北中野他						円墳8基	◎	
12	27	南中野古墳群	中野字寺沢台他						円墳5基	△	
13	27	東鹿源古墳群	中野字鹿ノ原他						円墳13基、方墳2基	○	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
14	27	西鹿ノ原古墳群	永吉字和田東戸他						円墳14基(内3基消滅)	◎	
15	27	東国吉川中古墳群	東国吉字川中						円墳(7基)方墳1基(消滅)	○	
15-1	27	川中1号墳	東国吉字川中	方	17				土師器(五領)	×	1986年調査
16	27	東国吉二塚古墳群	東国吉字二塚他						円墳3基(10m級)	○	
17	27	永吉堂向古墳	永吉字堂向	円	14					◎	
18	27	永吉観現山古墳群	永吉字西野						前方後円墳1基、円墳3基		
18-1	27	永吉根現山1号墳	永吉字西野	前方後円墳	26.6					◎	
19	27	菊間古墳群	菊間字姫宮東永他						前方後円墳3基、前方後方(円)墳1基(消滅)円墳13基、方墳4基		
19-1	27	新皇塚古墳	菊間字姫宮北ノ前	前方後方(円)	後方部1辺38			円筒	粘土槨2基	×	1979年調査 〈南槨〉珠分鏡、直刀、剣、玉類、石釧、管玉5、ガラス玉1、鉄剣1、鉄刀1、刀子1、ヤリガンナ1、鎌1、鉄斧1、他 〈北槨〉仿製内行花文鏡、石釧、勾玉2、管玉94、鉄剣1、刀子5、ヤリガンナ1、鉄鎌1、他
19-2	27	菊間天神山古墳	菊間字手永	円	44	○	○			○	
19-3	27	東間山古墳	菊間字北東開山	前方後円	61					◎	
19-4	27	姫宮古墳	菊間字北野 姫宮	前方後円	51					◎	
20	27	大既二子塚古墳	大既字新田台	前方後円	63.4					◎	
21	27	下郷古墳群	大既字下郷						円墳8基以上	○	
22	27	大既古墳群	大既字川上台 仙尻前						前方後円墳1基(消滅)、円墳20基、方墳5基	○	
22-1	27	大既浅間様古墳	大既字川上台	円	45			木棺直葬3基	①号珠文鏡、石釧、刀子、勾玉、車玉、小玉、管玉、 ②号剣、ガラス玉、③号臼玉、鉄製品	○	
23	27	尾梨古墳群	潤井戸字尾梨						方墳1基、円墳(2基)、消滅	△	
24	27	久々津古墳群	久々津字茅林						円墳6基	○	
25	27	潤井戸高野前古墳	潤井戸字高野前	前方後円	90					△	
26	27	下野寺谷古墳群	下野字寺谷新海道						前方後円墳3基、円墳10基、方墳1基		
26-1	27	下野寺谷1号墳	下野字寺谷	前方後円	44					◎	
27	27	潤井戸小谷古墳群	潤井戸字小谷 道祖神						前方後円墳1基、円墳10基	○	
27-1	27	潤井戸小谷1号墳	潤井戸字小谷	前方後円	2.6 41	○	円筒		直刀片、須恵器(高杯他)土師器	×	1989年調査
28	27	潤井戸三夜塚古墳群	潤井戸字三夜塚						円墳4基(15m級)消滅	×	
29	27	長者塚古墳群	潤井戸字長者塚						円墳1基、方墳1基	○	
30	27	下鈴野古墳群	潤井戸字下鈴野						円墳5基、方墳9基	×	1985年調査
30-1	27	下鈴野1号墳	潤井戸字下鈴野	円	19			木棺直葬	土師器、滑石製勾玉、ガラス玉	×	1985年調査
31	27	潤井戸山王後古墳群	潤井戸字山王後他						前方後円墳(2基、内1基は調査済)円墳8基		
31-1	27	潤井戸山王後1号墳	潤井戸字山王後	前方後円	33			木棺直葬	直刀、鉄鏃	×	1977年調査
32	27	潤井戸杉山古墳群	潤井戸字北大林						前方後円墳1基、円墳2基		
32-1	27	潤井戸杉山1号墳	潤井戸字北大林	前方後円	60					◎	
33	27	宿後古墳	潤井戸字宿後	前方後円	35					○	
34	27	居鞍古墳群	潤井戸字居鞍						円墳2基	△	1988年調査
35	27	潤井戸天王台古墳群	潤井戸字天王台他						円墳26基	○	
36	27	山木古墳群	若宮一丁目						円墳3基	×	1966年調査
37	27	仙台原古墳群	菊間字仙台原						円墳2基	×	
38	27	宝堀込古墳群	能満字宝堀込						円墳1基、方墳1基	×	方墳　1989年調査
39	26A	君塚古墳群	君塚字西崎 北畑他						前方後円墳1基、円墳1基、方墳1基	△	
40	26A	五井古墳群	五井字平田 大六天他						円墳4基		
41	27	平田古墳	平田字京塚	円	8					×	
42	27	千草山1号墳	能満字西千葉山	円	12	○			堆1		
43	30	稲荷台古墳群	山田橋字稲荷台						円墳13基		
43-1	30	稲荷台1号墳	〃	円	27.5			中央施設、北施設	剣3(内王賜銘1本)、鉄鏃、刀子、短甲、須恵器、土師器、大刀、鉄鏃、胡簶、きさげ状工具、砥石	×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
44	21A	御蔭口、浅間神社古墳	五井字座目	前方後円	1.3(高さ) 42	○	円筒、形象			△	
45	26A	三島台古墳群	郡本1丁目						円墳2基	△	
46	26A	郡本向原古墳群	郡本字向原台						円墳15基	○	
47	27	南向原古墳群	門前字向原						円墳8基	×	1972年調査
48	26A	堀込古墳	加茂字堀込	円	15					×	1980年調査
49	26A	西谷古墳群	加茂字西谷						円墳7基、方墳	×	1980年調査
50	30	大明神台古墳	荻作字大明神台	円	20					×	
51	30	荻作古墳群	荻作字峰の内他						前方後円墳1基(消滅)、円墳7基、方墳1基	×	
52	30	小田部古墳群	小田部字向原 崩山						円墳5基	×	
52-1	30	小田部1号墳	小田部字向原	円	23				玉類、土師器(高杯他)	×	
53	30	勝間寒風古墳群	勝間字寒風						円墳4基(25m2基)	○	
54	30	泡ノ州山古墳群	荻作字泡ノ州山						円墳3基(10m級)、方墳1基(10m級)	○	
55	30	十人寄合横穴群	大成字十人寄合	横穴					4基	◎	
56	30	開化野古墳群	荻作字開化野						円墳4基(10m級)	◎	
57	30	喜多古墳	喜多	円	15					◎	
58	30	池田作古墳群	荻作字池田作						円墳2基(15m級)	○	
59	30	葉木舞台古墳群	葉木字舞台 西舞台他						前方後円墳2基(1基消滅)、円墳7基	◎	
60	30	葉木七塚古墳群	葉木字西久保台 勝間字金糞他						方墳(5基)、円墳(4基)	○	
61	30	山倉古墳群	大坪字笠持 山倉字八郎作						前方後円墳2基、円墳12基、方墳2基		
61-1	30	山倉1号墳	大坪字笠持	前方後円墳	45	○	円筒、人物	横穴式石室 片袖構造単室	直刀5、耳環、馬具、鉄鏃、刀子	×	1976年調査
62	30	棒坂古墳	山倉字棒坂	円?	20					◎	
63	30	山倉堂谷古墳群	山倉字堂谷						円墳7基(10m級)	○	
64	30	猿ヶ谷古墳群	山倉字東猿ヶ谷他						前方後円墳1基、円墳7基	◎	
65	30	福増古墳群	福増字六万部他						円墳11基	○	
65-1	30	福増2号墳	福増字六万部	円	20			礫灰砂岩切石積横穴式石室	金銅製耳環2、琥珀製棗玉5、須恵器、平瓶3、刀子3、水晶製切子玉1、広口壺1	△	1976年調査
66	30	鯉鯛古墳	勝間字鯉鯛	円	0.8(高さ) 17				土師器	○	
67	30	武士古墳群	武士字医師間新堀 字栗林他						前方後円墳(2基)円墳10基、方墳1基	○	
68	30	数郷古墳群	福増字数郷 小ノ台						前方後円墳(1基)15m級、円墳2基(1基消滅)		
69	30	新堀馬場古墳群	新堀字馬場						円墳3基(10m級)	×	
70	30	北旭台古墳群	磯ヶ谷字北旭台						円墳8基(内2基消滅)、方墳2基(消滅)		
70-1	30	北旭台(9)号墳	磯ヶ谷字北旭台	方	17			木棺直葬2基	鉄鉾、刀子	△	1989年調査
71	30	滝山古墳群	磯ヶ谷字滝山						円墳4基(15m級)	○	
72	30	滝山台古墳群	磯ヶ谷字滝山台						方墳2基(10m級)	○	
73	30	門脇古墳群	磯ヶ谷字門脇						円墳4基(1基25m級、他15m級)	△	
74	30	円城寺古墳群	松崎字中里						円墳2基	△	
75	30	春日神社古墳群	松崎字宮ノ越						円墳4基(20m級)	○	
76	30	松崎的場古墳群	松崎字的場						円墳3基	○	
77	30	法伝台古墳群	松崎字法伝台						円墳4基	◎	
78	30	丸山塚古墳	松崎字塚越	円	37					◎	
79	30	折戸古墳	松崎字折戸	円	4.5(高さ) 18					○	
80	30	山王塚古墳群	大桶字山王塚 奉田台						円墳5基	○	
81	30	花ノ台古墳	松崎字花ノ台	円	10					△	
82	30	新堂塚古墳群	土字字北頓木						円墳5基	○	
83	30	南障子古墳群	川在字南障子						円墳2基	△	
84	30	新巻若宮古墳	新巻字若宮	円	24					◎	
85	30	新巻鳥越古墳	新巻字鳥越	円	20					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
86	30	大城台古墳群	土字字大城台上ノ山他						円墳16基	○	
87	30	塚ノ台古墳	土字字堀ノ内向 馬立字塚ノ台他						円墳26基、方墳2基(消滅)		
88	30	浅間台横穴群	馬立字浅間台	横穴					横穴3基	○	
89	29	根田古墳群	根田字辺田						前方後円墳1基、方墳6基、円墳1基	×	1979年調査
89-1	29	根田1号墳	〃	前方後円	25.4				直刀、馬具、耳環、埴輪、須恵器	×	〃
90	29	辺田古墳群	惣社字辺田						円墳1基、方墳8基	×	1985年調査
90 1	29	辺田1号墳	〃	円	3(高さ) 31			墓坑内木棺直葬2	鉄剣2、素環頭大刀、小型銅鏡、管玉、土師器、大刀、槍	×	〃
91	29	加茂C1号墳	加茂字中島		20				鉄剣、土師器	×	1975年調査
92	29	長平台古墳群	加茂字中島惣社字 長平台						方墳11基	×	1979年調査
93	29	加茂1号墳	加茂字加茂原	円	18.5					×	1978年調査
94	29	中台古墳群	惣社字中台						円墳2基(内1基消滅)		
95	29	本郷古墳群	惣社字本郷						円墳3基	○	
96	29	神門古墳群	惣社字神門 御屋敷他						前方後円墳(3基)、円墳1基、方墳1基		
96-1	29	神門5号墳	惣社字神門	前方後円	3.2(高さ) 38.5				剣、鉄鏃、ガラス玉、土器		市指定史跡
97	29	諏訪台古墳群	惣社字天神台 村上字諏訪台						前方後円墳7基、前方後方墳8基、円墳20基、方墳130基		
97-1	29	諏訪台4号墳	村上字諏訪台	方	18			木棺直葬	盤龍鏡、ガラス玉	×	1985年調査
98	29	東間部多古墳群	西広字東間部多						前方後方墳3基、方墳11基、円墳2基	×	
98-1	29	東間部多1号墳	西広字東間部多	円	2.9 25			木棺直葬	剣、直刀、鉄鏃、短甲、刀子、土師器	×	1972年調査
99	29	持塚古墳群	西広字持塚						前方後円墳1基、円墳3基、方墳2基		1953年調査
99-1	29	持塚1号墳	〃	円	4.5 3.5		○	墳頂下1～1.6mに2基舟状粘土床上壙	直刀、鉄鏃、神獣鏡、管玉、ガラス玉、瓢玉、埴輪、刀子、碧玉	×	1963年調査
100	29	東古墳群	西広字東						前方後方墳1基、円墳2基、方墳1基	×	1971年調査
101	29	大覚坊塚古墳	小折字小折後	円	16					○	
102	29	白塚台古墳	白塚字白塚台	円	10					○	
103	29	瓶塚古墳	今津朝山字花ノ木	円	7					△	
104	29	姉崎古墳群	姉崎字宮山、青葉台他						前方後円墳10基、前方後方墳1基、円墳20基	○	
104-1	29	姉崎二子塚古墳	姉崎字二夕子	前方後円	110		円筒	前方部墳頂下 後円部墳頂下	直刀、鉾、鉄鏃、短甲、挂甲、馬具、勾玉、耳飾、石枕、立花、大刀、直刀、鉾、金銅製冑、短甲、挂甲、蛇鬼鏡、変形文鏡、勾玉、管玉、棗玉、立花	◎	1952年調査
104-2	29	姉崎天神山古墳	姉崎字天神山	前方後円	125		○		埴輪	◎	県指定史跡
104-3	29	姉崎山王山古墳	姉崎字宮山	前方後円	69		円筒形象	後円部、粘土槨 9×3.5	銀製環頭大刀、木製直刀、刀子、鉄鏃、胡籙、金銅製冠、耳環、櫛、変形回獣鏡	×	1953年調査
104-4	29	釈迦山古墳	姉崎字三王山	前方後円	79～91	○				◎	
104-5	29	鶴窪古墳	姉崎字鶴窪	前方後円	60	○	円筒			◎	市指定史跡
104-6	29	原1号墳	姉崎字原	前方後円	70	○	円筒形象	土壙、粘土床	直刀、鉄鏃、埴輪、須恵器、上師器、刀子	×	1981年調査
104-7	29	六孫王原古墳	姉崎字六孫王原	前方後方	45.4	○		後円部横穴式石室	直刀、刀子、鉄鏃、金銅製馬具、須恵器広口壺、長頸壺	◎	1972年調査
105	29	畑木柳坪古墳	畑木字柳坪	円墳	10					○	
106	29	畑木向古墳群	畑木字向						円墳4基	◎	
107	29	房ノ久保古墳群	畑木字房ノ久保						円墳4基	◎	
108	29	海保供養塚群	海保字大塚						方墳(3基)、1号墳径60m	◎	
109	29	内出古墳	海保字北古谷	前方後円	44				直刀?	○	
110	29	海保吉谷前古墳群	海保字吉谷前						円墳6基	◎	
111	29	小谷作古墳群	海保字小谷作						円墳3基	◎	
112	29	竹谷古墳群	海保字東竹谷						円墳2基	◎	
113	29	海保山王古墳群	海保字山王下						円墳17基	◎	
114	29	公家台古墳群	海保字辺田小路 八幡下						円墳3基	◎	
115	29	海保八幡台古墳群	海保字八幡台						円墳3基	◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
116	29	弥宜台古墳群	海保字弥宜台						円墳5基	◎	
117	29	今富西部古墳群	今富字文蔵新山						円墳5基、方墳1基	◎	
118	29	今富塚山古墳	今富字本郷	前方後円	110					○	
119	29	今富東部古墳群	今富字立野他						円墳4基	◎	
120	29	神代古墳群	神代字一本榎西田						円墳2基	○	
121	29	浅間山古墳群	宮原字安良久						円墳2基、方墳1基	◎	
122	29	引田寺山古墳群	引田字寺山						円墳3基	◎	
123	29	分目古墳群	分目字雲内他						円墳4基	◎	
124	29	新生鰻谷古墳群	新生字鰻谷						円墳2基	◎	
125	29	坊窪古墳	椎津字坊窪	円	23					◎	
126	29	上中台古墳	椎津字上中台	円	15					◎	
127	29	松山古墳	椎津字松山	円	17					◎	
128	29	日の宮古墳群	椎津字日ノ宮						円墳(2基)	◎	
129	29	志々通古墳群	椎津字上志々通						円墳8基	○	
130	29	永藤古墳群	椎津字柳ノ内上ノ台他						円墳10基	◎	
131	29	椎津茶畑古墳	椎津字茶畑	円	10					◎	
132	29	中林古墳	椎津字中林	円	12					◎	
133	29	山谷古墳	椎津字山谷	円	15					◎	
134	29	白谷古墳群	迎田字白谷						方墳1基、円墳2基	◎	
135	29	清右ヱ門塚古墳	海保字尾沢台	円	30					◎	
136	29	不入斗古屋敷古墳	不入斗字古屋敷	円	15					○	
137	29	不入斗古墳	有秋台東3丁目	円	12					×	
138	29	東元居原古墳	〃	円	10					×	
139	29	明光台古墳	版木字明光台	円	15					◎	
140	29	上椎木古墳群	不入斗字上椎木深城字志保知						方墳1基、円墳2基	◎	
141	29	釜神古墳群	浅井小向字釜神						円墳2基	◎	
142	29	安須根田古墳群	安須字根田						円墳2基	◎	
143	29	八幡山古墳	浅井小向字台畑	円	13					◎	
144	29	安須古墳群	安須字金堀別府台他						円墳26基	◎	
145	29	鷹の巣横穴	安須字鷹の巣						1基	○	
146	29	安須要害古墳群	安須字要害						円墳6基	◎	
147	29	高坂古墳群	高坂字谷端内畑						円墳4基(1基消滅)	○	
148	29	山貝塚古墳群	立野字山貝塚						円墳1基、方墳10基	○	
149	29	太田法師古墳群	立野字太田法師						円墳3基、方墳1基(16m)	○	
150	29	中高根古墳群	光門台4丁目中高根字平山他						円墳12基、前方後円墳1基(消滅)		
151	29	外迎山古墳群	中高根字入口の沢門戸字外迎山						方墳13基	×	1985年調査
152	29	上野山古墳群	中高根字上野山久保台						前方後円墳2基、円墳24基		
153	29	宝生地古墳	上高根字宝生地	円	10					○	
154	29	萩ノ原古墳	上高根字萩ノ原	円	16					○	
155	34	妙香古墳群	妙香字直坂代他						前方後円墳2基、前方後方墳1基、円墳16基	◎	
156	34	堂部田山横穴群	妙香字堂部田山	横穴					3基以上	○	
157	34	東代山横穴	妙香字東代山	横穴					1基以上	○	
158	34	奉免古墳群	奉免字上原台白水						前方後円墳3基(1基消滅)、円墳5基、方墳10基		
159	34	金堀台古墳群	米沢字金堀台						円墳4基	◎	
160	34	境部多倍古墳群	安久谷字境部多米沢字境部多倍						方墳1基、円墳5基	◎	
161	34	境部多倍横穴群	米沢字境部多倍	横穴					1基以上	○	
162	34	中倍古墳群	米沢字中倍						方墳2基、円墳1基	○	
163	34	米沢稲荷台古墳群	米沢字稲荷台						前方後円墳2基、円墳7基	◎	
164	34	稲荷台横穴	〃	横穴					1基以上	◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
165	34	真福寺台古墳群	米沢字真福寺前真福寺台						円墳11基、方墳2基	◎	
166	34	真福寺前古墳群	米沢字真福寺前						7基	◎	
167	34	真ヶ谷殿部多横穴群	真ヶ谷字殿部多	横穴					7基	○	
168	34	佐是古墳群	佐是字南山愛宕下他						前方後円墳4基、円墳28基、方墳2基		
169	34	牛久石茶坂古墳群	牛久字石茶坂						円墳10基	○	
170	34	牛久古墳群	牛久字宮ノ後下矢原他						円墳5基(1基消滅)、方墳(3基、内2基消滅)		
170-1	34	牛久1号墳	牛久	円	3 18			不明	槍先、鋤鏃、土師器、高杯	×	1970年調査
171	34	江子田古墳群	江子田鴻巣台他						方墳11基、円墳30基、前方後円墳4基		
171-1	34	金環塚古墳(35号)	江子田字送り神	前方後円	47			土坑	鏡板、面繋、鬘珠、杏葉、小玉、純金製耳環	×	1964年調査
171-2	34	富士台古墳(31号)	下矢田字日ノ宮谷	前方後円	55.5					◎	
172	34	皆吉古墳群	皆吉字白水作荻ノ台						円墳2基(7～8m)	○	
173	34	薮八幡神社古墳群	薮字八幡台						円墳3基	◎	
174	34	池和田古墳群	池和田字西ノ谷諏訪坂						円墳3基	○	
175	34	池和田横穴	池和田字大宮部田	横穴					3基	◎	
176	34	池和田城横穴	池和田城廻	横穴					3基	○	
177	34	薮横穴群	薮字石名沢	横穴					2基	△	
178	34	岩横穴群	岩字染沢	横穴					10基	×	1974年調査
179	34	外部多ヤツ横穴群	外部田字岩井戸他	横穴					40基以上	◎	
180	34	外部多古墳	外部多	円	15					◎	
181	34	大和田新谷古墳群	大和田字新谷						円墳2基	○	
182	34	緑岡古墳群	大和田字緑岡						円墳5基、方墳2基		
183	34	大和田横穴群	〃	横穴					8基	×	1986年調査
184	34	宮原横穴群	高滝字宮原	横穴					1基以上	○	
185	34	古野古墳群	南岩崎字山中赤坂他						前方後円墳4基、方墳4基、円墳54基		
185-1	34	古野1号墳(15号)	西国吉字吉野	前方後円	45			円筒			市指定史跡
186	34	報恩寺古墳群	南岩崎字榎戸作山他						前方後円墳2基、方墳3基、円墳20基		
187	34	日渡古墳群	柏幡字日渡寺谷字安養登台						円墳3基	◎	
188	34	正人塚古墳	柏幡字正人塚	円	20					◎	
189	34	西国吉横穴群	西国吉字亥ノ水作愛宕山他	横穴				11基		×	1972年調査
190	34	皿郷田茂	平野字皿郷田茂						円墳1基、方墳1基	×	1983年調査
191	34	新殿古墳群	海上有木字司馬農						前方後円墳2基、円墳1基	○	
192	34	迎田古墳群	迎田字居回り						円墳17基 17号墳は富士見塚古墳		
193	39	飯給上五駄畑横穴	飯給字上五駄畑	横穴						◎	

■袖ケ浦町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	29	清水川台古墳	代宿字清水川台	円	13					◎	
2	29	根田古墳	久保田字根田	円	10					○	
3	29	八重門田古墳	代宿字八重門田	方	13					◎	
4	29	美生古墳	久保田字美生	前方後円	約40				後円部のみ残存(径19m)、周辺に塚1基あり。1989年美生遺跡群の調査で近くに方墳周溝址検出	○	
5	29	坂下古墳	久保田字坂下	前方後円	35					◎	
6	29	神主谷台古墳	久保田字神主谷台	円						○	
7	29	神田古墳群	蔵波字神田						円墳3基(10～20m級)		
8	29	大谷古墳群	蔵波字大谷						円墳5基(10～15m級3基、10m未満2基)		
9	29	剣山古墳	蔵波字角山	方	50				塚の可能性強い	◎	
10	29	金井崎古墳	蔵波字金井崎	円					剣形品・土師器甕、壺、高杯	×	1982年調査
11	26B	大窪古墳	蔵波字大窪	円	10					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(山)墳丘(円)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
12	26B	上奈良輪古墳	奈良輪字上奈良輪	円	6					◎	
13	26B	坂戸神社古墳	坂戸市場坂戸山	前方後円	63				地山整形。前期古墳と推定。	◎	
14	26B	宰土神社南古墳	神納字岩井前	円	36	○	円筒		二段築成、造出し有り	◎	
15	26B	中辻台古墳	神納字岩井前	円	5					◎	
16	26B	鼻欠占墳群	神納字鼻欠						円墳5基(1号墳現存、2号墳未調査破壊、3～5号墳周溝址を調査)		
16-1	26B	鼻欠1号墳	〃	円	10			横穴式石室		◎	
16-3	26B	〃 3号墳	〃	円	7	○			(周溝内)刀子・鉄鏃・鎌・土師器甕、須恵器広口壺	×	1980年調査
16-4	26B	〃 4号墳	〃	円	13	○			(周溝内)鎌、須恵器壺、高杯、杯、土師器甕、短頸壺、高杯、杯	×	〃
16-5	26B	〃 5号墳	〃	円	20	○			(周溝内)釣針、土師器壺、杯	×	〃
17	26B	五郎衛門古墳	神納字五郎衛門	円	20					◎	
18	26B	お組塚古墳	神納字谷ノ台	円	30	○	円筒形象		円筒埴輪、形象埴輪(鶏、靱、大刀等) 須恵器高杯、瑞、杯、土師器杯	◎	1978年確認
19	26B	相伝谷古墳	神納字相伝谷	円	11					◎	
20	26B	仲頭古墳	神納字仲頭	円	11					◎	
21	26B	辻子古墳	神納字辻子	円	13						
22	26B	谷塚古墳	神納字辻子	円	11						
23	26B	迎坂古墳群	神納字迎坂						円墳4基(10～15ｍ級)		
24	26B	大野台古墳群	神納字清水沢						円墳7基(20～15ｍ級4基、10ｍ未満3基)		
25	26B	新生古墳	神納字新生	円	14					◎	
26	26B	日ノ宮古墳	飯塚字真里場	円	20					◎	
27	26B	真里場古墳群	飯富字真里場浜海道						円墳15基(浜海道塚群を含む。町道関連の調査で円墳周溝址4基と粘土槨を伴う土壙1基を新たに確認)		1988年一部調査(向山野遺跡)
28	26B	鏡ケ峰古墳群	飯富字鏡ケ峰						円墳2基(10ｍ級)		
29	30	堂野古墳群	下新田字堂野						前方後円墳1基、円墳4基(10ｍ級)		
29-5	30	堂野5号墳	〃	前方後円	30					◎	
30	30	境占墳群	下新田字登戸						円墳2基(周溝址のみ検出)	×	1983年調査
30-1	30	〃 1号墳	〃	円	12	○			(周溝)土師器杯	×	〃
30-2	30	〃 2号墳	〃	円	12	○	円筒		円筒埴輪(朝顔形含む)	×	〃
31	33	宮後古墳群	三ツ作字宮後						円墳4基(20～25ｍ級2基)		
32	33	山王辺田古墳群	大曽根字山王辺田						前方後方墳1基、円墳、方墳30基以上	×	1975年調査
32-2	33	山王辺田2号墳	〃	前方後方	40					×	〃
32-12	33	〃 12号墳	〃	帆立貝	15					×	〃
32-22	33	〃 22号墳	〃	方	20				方墳中最大、前方後方墳に隣接	×	〃
33	33	雲塚台古墳群	大曽根字雲塚台						円墳2基(10ｍ級)		
34	33	墓山古墳群	大曽根字墓山						円墳3基(20～30ｍ級)		1976年測量
34-1	33	〃 1号墳	〃	円	20			横穴式石室		◎	
34-2	33	〃 2号墳	〃	円	30				須恵器	◎	
35	33	東台古墳	大曽根字東台	円	10					◎	
36	33	岩井大塚台古墳群	岩井字大塚台						円墳3基(10ｍ級)		
37	33	下泉大塚台古墳群	下泉大塚						前方後円墳1基、円墳12基(25ｍ級1、他は10ｍ級)		
37-1	33	〃 7号墳	〃	前方後円	40					◎	
38	33	定度岱古墳群	上泉字定度岱						円墳3基(10ｍ級)		
39	33	根連岱古墳	上泉字根連岱	円	13					◎	1985年測量
40	33	上泉古墳群	上泉字寺関・大坪・大久保他						円墳15基以上(大形円墳含む)文脇遺跡調査で周溝址の検出された古墳あり。		
41	33	上之山古墳	永地字上之山	円	46					◎	1988年確認(上泉11号)調査
42	33	小谷古墳群	永吉字小谷						円墳4基(10ｍ未満)		
43	33	寺野台古墳	川原井字寺野台	円	5				塚の可能性あり		
44	33	南畑古墳群	川原井字南畑						円墳2基(10ｍ級) 近接して出羽三山塚あり		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(山)墳丘(円)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
45	33	豊前台古墳群	川原井字豊前台						円墳2基(10ｍ未満) 近接して塚2基		
46	33	大谷古墳	川原井字大谷	円	8				近接して塚3基		
47	33	愛宕古墳群	野里字愛宕						円墳2基(10ｍ未満)		
48	33	寒沢古墳群	永吉字寒沢						円墳8基(15ｍ級2、10ｍ級6)、方墳1基(10ｍ級)		1989年確認調査
49	33	藪込古墳	野里字藪込	円	8						
50	33	名幸台古墳	野里字名幸台	方	10						
51	33	平之台古墳群	野里字平之台						円墳2基(15～20ｍ級)		
52	33	下向井古墳群	野里字下向井						円墳2基(10ｍ未満)		
53	33	御炭原古墳	三箇字御炭原	円	10					◎	
54	33	山谷古墳群	三箇字山谷						円墳1基、方墳(15ｍ)		御炭原1・2号墳
55	33	ふじお塚古墳	高谷								
56	33	枇杷ケ崎古墳	高谷字枇杷ケ崎	円	10						
57	33	飯戸井古墳群	高谷字飯戸井						円墳2基(15ｍ級1、5ｍ級1)		
58	33	椿古墳群	滝ノ口字宮台・御越、御門坂・内海台						総数45基(前方後円墳2基)、円墳は10ｍ級27基、20ｍ級15基、30ｍ級1基		一部木更津市椿に所属
58-39	33	〃 39号墳	滝ノ口字内海台	前方後円	39						
58-45	33	〃 45号墳	〃 〃	前方後円	39						
59	33	大作A古墳群	滝ノ口字大作						円墳3基(10ｍ級)		滝ノ口大作第3古墳群
60	33	大作B古墳群	滝ノ口字大作						円墳3基(10ｍ級)		滝ノ口大作第5古墳群
61	33	丸山古墳群	滝ノ口字丸山						円墳4基(10ｍ級)		滝ノ口大作第2古墳群
62	33	上村古墳群	滝ノ口字上村						円墳12基(10ｍ級6基、10ｍ未満6基)		
63	33	鬼塚古墳群	滝ノ口字鬼塚						円墳4基(10ｍ級2基、10ｍ未満2基)3基調査後消滅		1979年調査
63-1	33	〃 1号墳	〃	円	18	○			(周溝)須恵器、坏、甕、土師器杯	×	1979年調査
64	33	向台古墳群	滝ノ口字向台吉野田						前方後方墳2基、円墳、方墳10基(15ｍ級2、5～10ｍ級8)		
64-8	33	〃 8号墳	〃	前方後方	50					◎	
64-9	33	〃 9号墳	〃	前方後方						×	1989年調査
64-10	33	〃 10号墳	〃	方						×	〃
65	33	白根古墳群	大竹字白根						円墳9基(20ｍ級1、10～15ｍ級4、10ｍ未満4)		
66	33	平ケ作古墳群	打越字平ケ作						前方後円墳1基、円墳7基(30ｍ級1、15ｍ級4)、円墳2基削平		
66-1	33	〃 1号墳	〃	前方後円	50						
67	33	北上原古墳群	打越字北上原						前方後円墳2基、円墳6基(10～20ｍ級)、円墳2基削平		
67-3	33	〃 3号墳	〃	前方後円	45					◎	1982年測量
67-6	33	〃 6号墳	〃	前方後円	47					◎	
68	33	谷畑古墳群	阿部字谷畑						前方後円墳1基、円墳2基(10ｍ未満)		
68-1	33	〃 1号墳	〃	前方後円	40						
69	33	堂谷古墳群	堂谷字堂谷山 下根岸字日ノ台						円墳8基(20ｍ級3、10ｍ級5)		
70	33	下根岸古墳群	下根岸字日ノ台 中谷台						前方後円墳1基、円墳23基(15ｍ級8、10ｍ級15)		1977年測量
70-3	33	下根岸3号墳	〃	前方後円	25					◎	
*	33	大竹古墳群									71～75の総称 1986年より通番号を付して発掘調査実施中
71	33	二又堀古墳群	大竹字上又堀						方墳8基		1987年調査◎156
71-33	33	〃 (33)号墳	〃	方	15	○		木棺直葬	土師器		〃
71-65	33	〃 (65)号墳	〃	方	10	○		〃	土師器		〃
71-66	33	〃 (66)号墳	〃	方	13	○		〃	土師器		〃
71-67	33	〃 (67)号墳	〃		14	○		〃	土師器		〃
71-68	33	〃 (68)号墳	〃	方	15	○		〃	土師器、ガラス小玉		〃
71-101	33	〃 (101)号墳	〃	方	11	○			土師器		〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
71-102	33	〃（102）号墳	〃	方	11	○			土師器		〃
71-103	33	〃（103）号墳	〃	方	8	○			土師器		〃
72	33	尾畑台古墳群	下根岸字尾畑台						円墳5基(30m級1、10～15m級4)		
72-30	33	〃（30）号墳	〃	円	31	○	円筒	盗掘	鉄鏃(採集品)、円筒埴輪	○	
72-110	33	〃（110）号墳	〃	円	12	地山、整形			直刀、刀子		1989年調査
72-111	33	〃（111）号墳	〃	円	12						〃
73	33	内出原古墳群	下根岸字内出原						前方後円墳1基、円墳4基(20m級2、15m級2)		
73-72	33	〃（72）号墳	〃	前方後円	49					◎	
74	33	向神納里古墳群	大竹字向神納里 下根岸字鞍ノ台他						円墳23基、方墳23基(方形周溝墓を含む)一部の古墳は未調査のまま盛土保存		
74-27	33	〃（27）号墳	大竹字神納里台	円	30	○	円筒	周溝内に埴輪棺	土師器杯、円筒埴輪		1989年調査
74-73	33	〃（73）号墳	大竹字向神納里	円	18	○					〃
74-106	33	〃（106）号墳	大竹字神納里台	円	16	○			土師器		〃
74-107	33	〃（107）号墳	〃	円	15	○			土師器		〃
74-108	33	〃（108）号墳	〃	方	8	○					〃
74-109	33	〃（109）号墳	〃	円	8	○			須恵器		〃
74-112	33	〃（112）号墳	〃	円	15	○			須恵器杯、蓋、上師器杯、壺		〃
75	33	三ツ田台古墳群	大竹字三ツ田台 中南原 下南原						円墳21基、方墳7基、一部の古墳は未調査のまま盛土保存		
75-4	33	〃（4）号墳	大竹字三ツ田台	円	25	○			須恵器蓋、土師器杯		1988年調査
75-10	33	〃（10）号墳	大竹字中南原	方	16	○					〃
75-12	33	〃（12）号墳	〃	円	20	○		木棺直葬?	鉄剣・刀子・須恵器杯・土師器坩・甕		1975年調査
75-13	33	〃（13）号墳	〃	円	25	○		木棺直葬7(墳頂2、周溝5)	珠文鏡・須恵器蓋・土師器壺		1988・1989年調査
75-40	33	三ツ田台(40)号墳	大竹字中南原	方	15			石槨			1988年調査
75-49	33	〃（49）号墳	〃	円	25				土師器杯		〃
76	33	矢ケ作古墳群	下根岸字矢ケ作						円墳3基(20m級1、10m級1)		
77	33	狐谷古墳群	大竹字狐谷						円墳3基(10m級)		
78	33	下前畑古墳群	大竹字下前畑						円墳2基(10m級)		
79	33	長作古墳群	大竹字長作						円墳2基(20m級)		
80	33	東岩井作古墳群	吉野田字東岩井作						円墳5基(10m未満)		
81	33	嘉登古墳群	上宮田字嘉登						円墳4基(15m級2、10m級1、5m級1)		
82	33	上宮田古墳	七宮田	円	15					◎	

■木更津市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	32	高柳古墳	高柳3丁目	前方後円	20					○	
2	32	銚子塚古墳	高柳字塚ノ越	前方後円	約130	○	円筒	長持形石棺	(伺石製模造品(鏡、斧、刀子、鎌)	△	
3	32	丸山古墳	長須賀字南	前方後円	65	○		横穴式石室	直刀、鉄鏃、銅鋺、銅鈴、金環、勾玉、切子玉、瑠玉、ガラス小玉、須恵器長頸壺、高杯、平瓶、提瓶、杯	△	丸山古墳、1928年調査
4	32	金鈴塚古墳	長須巻字熊野廻	前方後円	95	○		横穴式石室、箱式石棺	三神五獣鏡、変形四獣鏡、環頭、頭椎、円頭、方頭、圭頭、鳥首大刀、衝角付冑、挂甲、鉄鉾、鉄鏃、馬具、銅鋺、耳環、金鈴、金糸、銀製歩揺、玉類、須恵器、土師器		
5	32	酒盛塚古墳	朝日2丁目	前方後円		○		(石槨)	鏡、甲冑、刀剣、土器	×	1912年発掘
6	32	塚の越古墳	朝日2丁目	円		○		不詳	変形四獣鏡、金銅製鞍金具、琥珀玉、ガラス玉、須恵器長頸壺	×	1909年発掘
7	32	松面古墳	朝日2丁目	円	10	○		横穴式石室	環頭、頭椎、方頭大刀、鉄鉾、鉄鏃、銀製弓弭、金銅製馬具類、金銅製双魚佩、須恵器杯、高杯、台付壺、土師器	×	1938年調査
8	32	稲荷森古墳	木更津2丁目	前方後円	約120	○			鏡、直刀、銅鈴、水晶切子玉、土器	△	1881年発掘
9	32	太田山古墳	太田字宮の下	前方後円	40	後円部のみ				◎	1986年確認調査

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
10	32	鳥越古墳	太田字鳥越	前方後方	25	×		木棺直葬3	方格規矩鏡、石臼、石杵、碧玉製管玉、水晶製切玉、ガラス小玉、鉄製品、土師器	×	1979年調査
11	32	小の塚古墳	永井作字小塚	円					(伺)銅鏡	△	
12	32	鶴巻塚古墳	永井1丁目	円		○		石棺	画文帯四仏四獣鏡、神獣鏡、環頭、円頭、圭頭大刀、馬具、馬鐸、直刀、鉄鏃、青片、鉛、琥珀製切玉、須恵器	×	1908年発掘
13	32	大塚山古墳	祇園字沖	前方後円	70～100	○	円筒形象	石棺	画文帯四仏四獣鏡、刀剣類、金銅製眉庇付冑、金銅製挂甲小札、鉄製挂甲小札、銀製刀装具、鉄鏃、銀製耳飾、須恵器線	×	1891年発掘
14	32	図那浅間古墳	牛袋浅間下	前方後円	80					○	
15	32	滑水谷古墳	清川1丁目	円		×				×	1975年調査
16	32	祝崎古墳群	菅生字祝崎								円墳3基(内2基は調査後消滅)
16-1	32	〃 1号墳	〃	円	16	×		木棺直葬	直刀、鉄剣	×	1983年調査
16-2	32	〃 2号墳	〃	円	11	×		木棺直葬	(主体部)鉄剣、有孔円板、扁平勾玉、臼玉(墳頂部)須恵器線、土師器甕	×	〃
17	32	池向古墳	菅生字池向	円	5					○	
18	32	高千穂古墳群	菅生字高千穂峯						前方後円墳2基、円墳12基(内10基は調査後消滅、このうち3基は自然丘と判明)		
18-3		〃 3号墳	〃	円	19	○		木棺直葬2	①直刀、刀子、鉄鏃(墳丘)須恵器甕片	×	1985年調査
18-4	32	〃 4号墳	〃	円	30	○		木棺直葬5	①なし②ガラス小玉③直刀、小刀、鉄鏃、弓飾鋲、馬具、錫製耳環、勾玉、ガラス小玉、④小刀、刀子、鉄鏃⑤須恵器線、鉄鏃(墳丘、周溝)須恵器杯、高杯、線、提瓶、甕、土師器	×	〃
18-6	32	〃 6号墳	〃	円	18	○		木棺直葬3	①なし②小刀、刀子、鉄鏃③直刀、刀子、鉄鏃(墳丘、周溝)須恵器杯、高杯、壺、甕、土師器	×	〃
18-7	32	〃 7号墳	〃	前方後円	20	○			(墳丘、周溝)鉄剣片、直刀片、鉄鏃、須恵器甕、土師器	×	1981年調査
18-9	32	〃 9号墳	〃	前方後円	30	○		木棺直葬2	①直刀、刀子、鉄鏃、朱②直刀、小刀、刀子、鉄鏃(墳丘、周溝)鋤先片、直刀片、須恵器杯、高杯、長頸壺、短頸壺、提瓶、甕、土師器高杯	×	1985年調査
18-11	32	〃 11号墳	〃	円	20	×			(墳丘)須恵器	×	1983年調査
18-14	32	〃 14号墳	〃	円	16	○		木棺直葬2	①直刀、刀子、鉄鏃②なし(墳丘)須恵器線、甕	×	1985年調査
19	32	笹子神社古墳	笹子字日ノ出							◎	
20	32	順礼海道古墳	笹子大成字両村新田	円	15	○		木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃、琥珀製管玉、ガラス丸玉	×	1978年調査
21	32	和田古墳群	大成字和田						円墳2基(20m級1基、10m級1基)		
22	32	下笹子谷古墳	笹子谷下笹子谷	円	10					◎	
23	32	山崎古墳群	笹子字山崎						円墳2基(30m級1基、20m級1基)		
24	32	四留作第1古墳群	笹子字四留作						前方後円墳1基、円墳12基、1基調査後消滅		
24-1	32	〃 1号墳	〃	円	16			木棺直葬3	①臼玉②臼玉(墳丘内)上師器高杯	×	1987年調査
24-9	32	〃 9号墳	〃	前方後円	30						
25	32	四留作第2古墳群	〃						円墳2基(30m級1基、20m級1基)		
*	32	椿古墳群	椿字下谷田字上谷田								袖ケ浦町59参照
26	32	打越古墳群	笹子字打越						円墳2基(20m級1基、10m級1基)		
27	32	馬場作古墳群	笹子字馬場作						前方後円墳(?)1基、円墳7基(20m級主体)		
28	32	東明石谷古墳群	笹子字東明石谷						前方後円墳1基、円墳2基		
28-1	32	〃 1号墳	〃	前方後円	40						
29	32	覚木古墳群	笹子字覚木						円墳2基(20m級1基、10m級1基)		
30	32	谷市古墳群	笹子字谷市						円墳3基(15～20m級)		
31	32	上谷田古墳群	椿字上谷田						円墳2基(10m級)		
32	32	玉野台古墳群	伊豆島字玉野台						円墳6基(10m級)		
33	32	新田古墳群	笹子字新田						円墳8基(10m級)		
34	32	小谷古墳群	大成字野沼伊豆島字小谷						円墳5基(10m級1基、5m級4基)		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
35	32	山王谷古墳群	伊豆島字山王谷						円墳3基(5～10m級)		
36	32	松山古墳群	中尾字松山						円墳4基(20m級1基、5～10m級3基)		
37	32	石神古墳	伊豆島字石神	円	5					◎	
38	32	東谷古墳群	中尾字東谷柊谷						前方後円墳1基、円墳7基(30m級1基、20m級3基)		
38-7	32	〃 7号墳	中尾字柊谷	前方後円	25				後円部損壊	○	
39	32	金屋敷横穴群	中尾字金屋敷	横穴					2基(1基埋没、1基隔壁あり)、2号横穴に線刻画(魚、櫓)あり		
40	32	石神横穴	中尾字石神	横穴							
41	32	西本谷横穴群	中尾字西本谷	横穴					2支群13基(2基調査)		
41-1	32	〃 A1号横穴	〃	両袖逆台形アーチ形天井	全長6 玄室長3 玄室幅2.4			隔壁無棺床	人骨、須恵器坏蓋、土師器坏	◎	1975年調査
41-5	32	〃 A5号横穴	〃	両袖逆台形アーチ形天井	全長8 玄室長3 玄室幅2.6			隔壁無棺床	人骨、刀子	◎	1977年調査
42	32	西入横穴群	中尾字西入	横穴					4支群9基D横穴に線刻画(人物像)あり		
43	32	東本谷横穴	中尾字東本谷	縦長方形アーチ形天井	玄室長5.3 玄室幅2.2				やぐらとして再利用周辺に埋没横穴の存在する可能性あり	○	
44		柊谷横穴群	中尾字柊谷	横穴					2基(1基埋没)		
45	32	高畑横穴群	中尾字高畑	横穴					3基		
46	32	西谷横穴群	東太田1丁目	横穴					12基(調査後消滅)		1978年調査
47	32	清見台古墳群	清見台南1～4丁目						円墳22基以上(9基調査、区画整理事業に伴い、多くの未調査古墳を残したまま消滅)	×	1968年調査
47-3	32	〃 A-3号墳	〃	円	19	○	円筒	木棺直葬	円筒埴輪片、須恵器片	×	〃
47-4	32	〃 A-4号墳	〃	円	15	○	円筒	木棺直葬	直刀、鉄剣、臼玉、円筒埴輪	×	〃
47-5	32	〃 A-5号墳	〃	円	17	○		木棺直葬	直刀	×	〃
47-8	32	〃 A-8号墳	〃	円	24	○	円筒	木棺直葬	刀子、円筒埴輪、猪形土製品、土師器坏、坩、甕	×	〃
47-10	32	〃 B-1号墳	〃	円	16	○		木棺直葬	直刀、鉄鏃	×	〃
47-10	32	〃 B-2号墳	〃	円	20	○		木棺直葬	鉄鏃、管玉、臼玉	×	〃
48	32	文京古墳群	文京5·6丁目						円墳数基、環頭大刀の出土した古墳あり	×	真船古墳群
49	32	瑠璃光塚古墳	桜井字峯	円				横穴式石室	直刀、耳環、勾玉、管玉、棗玉、切子玉、須恵器甕、フラスコ型長頸壺、平瓶、横瓶、短頸壺、提瓶、高坏、坏	○	1939年調査、峯古墳
50	32	峯古墳群	桜井字峯						円墳13基(20m級1基、15m級1基、10m級7基、5m級4基)		
51	32	西谷古墳群	桜井字西谷						円墳3基(25～30m級)		
52	32	九反目古墳群	桜井字九反目						円墳10基(20m級4基、15m級4基、10m級2基)君津中央病院建設に伴い4基消滅		
53	32	鶴ヶ岡古墳群	桜井字鶴ヶ岡						円墳2基(20m級1基、15m級1基)		
54	32	中越古墳群	大久保字中越						円墳5基(20m級1基、15m級2基、10m級1基)		
55	32	大久保古墳	大久保	円	18					◎	
56	32	石澄横穴群	大久保中石澄	横穴					6基(小横穴1基)砂層に構築、国道127号線拡幅工事により発見。調査後消滅		1989年調査
56-1	32	〃 1号横穴	〃	両袖略正方形アーチ形天井	玄室長2.3 玄室幅2.4			隔壁2堆床	刀子、人骨3体	×	〃
56-2	32	〃 2号横穴	〃	両袖略正方形天井不明	玄室長2.2 玄室幅2.5			隔壁2堆床	須恵器台付坏、土師器坏	×	〃
56-3	32	〃 3号横穴	〃	片袖正方形天井不明	玄室長2.0 玄室幅1.9			隔壁無棺床	須恵器広口壺	×	〃
56-4	32	〃 4号横穴	〃	片袖逆台形天井不明	玄室長2.1 玄室幅2.0			隔壁無棺床	刀子、須恵器大甕、土師器坏	×	〃
56-5	32	〃 5号横穴	〃	無袖逆台形アーチ形天井	玄室長2.5 玄室幅2.2			隔壁無棺床	須恵器長頸壺、人骨	×	〃
56-6	32	〃 6号横穴	〃	小横穴	玄室長1.0 玄室幅1.1				土師器坏	×	〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
57	32	勝象谷横穴群	大久保字勝象谷	横穴					24基(埋没多く、確認可能14基)支谷を界して2支群に分かれる		象ケ谷横穴群
57-3	32	〃 3号横穴	〃	両袖横長方形家型切妻天井	玄室長2.0 玄室幅2.7			無棺台無棺床		◎	
57-4	32	〃 4号横穴	〃	両袖正方形家型宝形天井	玄室長2.7 玄室幅2.7			無棺台無棺床		○	
57-10	32	〃 10号横穴	〃	両袖正方形アーチ形天井	玄室長2.5 玄室幅2.3			無棺台無棺床 排水溝全周	貝殻敷、人骨散乱	◎	
57-11	32	〃 11号横穴	〃	両袖正方形アーチ形天井				隔壁?2棺床		◎	
57-12	32	〃 13号横穴	〃	両袖正方形家型切妻天井	玄室幅2.5					◎	
58	32	二十歩横穴群	小浜字二十歩	横穴					6基(埋没多い)		
59	32	二十歩古墳	小浜字二十歩						調査の結果自然丘の可能性強い	×	1988年調査
60	32	関田塚古墳群	小浜字関田						方墳2基、調査後消滅		1988年調査
60-2	32	〃 2号墳	〃	方	8	○		横穴式石室(切石積)	須恵器短頸壺、台付坏	×	〃
60-1	32	〃 1号墳	〃	方	8	○		箱形石棺	塚として再利用	×	〃
61	32	畑沢埴輪窯址	畑沢字大関						円筒、馬形、楯形、蓋形、壺形埴輪	×	1973年調査
62	32	浜ケ谷古墳	畑沢字浜清水	円	13	○		木棺直葬	鉄鏃、鍛製耳環、ガラス小玉、円筒埴輪	×	
63	32	手古塚古墳	小浜字手古塚	前方後円	60	×		粘土槨	倣製三角縁神獣鏡、船載四獣鏡、車輪石、石釧、勒旋車、鉄製籠手、直刀、鉄剣、銅鏃、鉄鏃、鉄斧、刀子、管玉、小玉、土師器甕(布留式)	×	1973年調査
64	32	倭ケ谷古墳群	小浜字坂の上 大久保字倭ケ谷						総数14基(円墳1基、方墳6基調査)未調査円墳7基(20m級3基、10m級3基、5m級1基)		
64-4	32	〃 4号墳	小浜字坂の上	方	12	○		木棺直葬2	①鏡片、管玉、小玉②水晶勾玉、管玉、小玉(墳丘下)捩文鏡	×	1985年調査
64-5	32	〃 5号墳	〃	方	8	○		破壊	ヒスイ勾玉、管玉	×	〃
64-7	32	〃 7号墳	〃	円	22	○		木棺直葬5	①直刀、刀子、鉄鏃②なし③直刀、刀子、鉄鏃④直刀⑤鹿角装刀、刀子、鉄鏃、鍛製耳環(周溝)紡錘車	×	〃
64-11	32	〃 11号墳	〃	方	9	○			(周溝)土師器壺、甕、鉢、坩	×	〃
64-12	32	〃 12号墳	小浜字マミヤク	方	8	○				×	〃
64-13	32	〃 13号墳	小浜字坂の上	方	5	○			(周溝)土師器甕	×	〃
64-14	32	〃 14号墳	小浜字マミヤク	方?	11	○			(周溝)土師器壺、鉢他	×	1986年調査
64-15	32		〃			×		箱形石棺	(周辺)須恵器壺片	×	1986年調査
65	32	高部台古墳群	請西字高部、千束下、千束台						円墳40基(2基調査)		
65-35	32	〃 35号墳	請西字千束台	円	20	○		木棺直葬	直刀、鉄鏃、鍛製耳環、水晶棗玉、碧玉、管玉、ガラス丸玉、ガラス小玉	×	1983年調査
65-36	32	〃 36号墳	〃	円	22	○		破壊		×	〃
66	32	池端古墳	請西字池端	円		○	円筒形象		(周溝)直刀、円筒埴輪、器財埴輪、須恵器線、土師器坏	×	1988年調査
67	32	塚原古墳群	請西字北台、塚原、真船台						前方後円墳2基、円墳52基(一部調査)		望地谷台古墳群
67-1	32	塚原1号墳	請西字塚原	円	18				(周溝)須恵器提瓶	×	1982年調査
67-2	32	〃 2号墳	〃	円	22			木棺直葬	直刀	×	〃
67-3	32	〃 3号墳	〃	円	17			木棺直葬	直刀片、鉄鏃片、ガラス小玉、土錘	×	〃
67-5	32	〃 5号墳	〃	方	12			箱形石棺	人骨	×	〃
67-7	32	〃 7号墳	〃	前方後円	40			木棺直葬2	①直刀、刀子、鍛製耳環、ガラス小玉②直刀、銀製刀装具、刀子、鉄鏃	○	1984年調査
68	32	請西台古墳群	請西字北台						塚原古墳群の一部で1975年調査、古墳番号照合不能のため調査時の呼称に基づいて記載		
68-2	32	〃 2号墳	〃	円	15			木棺直葬	管玉、(墳丘)土師器高坏、坩	×	1975年調査
68-3	32	〃 3号墳	〃	円	10			木棺直葬	刀子、(墳丘)須恵器短頸壺	×	〃
69	32	北崎古墳群	請西字北崎						円墳2基		
70	32	大谷古墳群	請西字大谷						円墳6基(5～10m級)		
*	32	請西古墳群	請西								71～78の総称、1974～1976年第1期大規模調査、1989年～第2期大規模調査

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
71	32	道上谷古墳群	請西字道上谷						円墳4基		
71-1	32	〃 1号墳	〃	円	18	○		木棺直葬	大刀子、(周溝)須恵器坏、土師器	×	1974年調査
71-2	32	〃 2号墳	〃	円	12			木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃、(周溝)双孔円板、須恵器盤付坏、土師器	×	〃
71-3	32	〃 3号墳	〃	円	12	○		木棺直葬	(周溝)土師器	×	〃
72	32	庚申塚古墳群	請西字庚申塚						円墳2基、方墳10基		
72-1	32	庚申塚1号墳	請西字庚申塚	方	12	○		木棺直葬	管玉(碧玉、鉄石英)、ガラス小玉、(周溝)弥生式土器壷、甕	×	1974年調査
72-2	32	〃 2号墳	〃	方	13	○		木棺直葬	蛇紋岩製勾玉、ガラス小玉	×	〃
72-3	32	〃 3号墳	〃	方	10	○			(周溝)弥生式土器片	×	1976年調査
72-6	32	〃 6号墳	〃	円	17	○		木棺直葬	直刀、鉄鏃(周溝)須恵器坏	×	1974年調査
73	32	大山台古墳群	請西字大山台						円墳21基、方墳14基		
73-1	32	〃 1号墳	〃	円	16	○		木棺直葬2	②直刀、鉄鏃	×	1974、75年調査
73-4	32	〃 4号墳	〃	円	9	○		木棺直葬		△	1974年調査
73-5	32	〃 5号墳	〃	円	23	○		木棺直葬5	①大刀子、刀子、鉄鏃②直刀、刀子、鉄鏃、碧玉製管玉③直刀、大刀子、鉄鏃、碧玉製管玉、ガラス勾玉、ガラス小玉⑤臼玉(墳頂)須恵器蓋、(周溝)須恵器蓋付坏	○	1976年調査
73-6	32	〃 6号墳	〃	円	13	○		木棺直葬	鉄鏃、砥石	×	1974年調査
73-7	32	〃 7号墳	〃	方	11	○		木棺直葬	(周溝)穿孔小形壷	×	〃
73-8	32	〃 8号墳	〃	方	10	○		木棺直葬	碧玉製管玉、水晶算玉、蛇紋岩製勾玉、ガラス小玉、(周溝)土師器	×	〃
73-10	32	〃 10号墳	〃	方	10	○				×	〃
73-11	32	〃 11号墳	〃	方	8	○			(墳頂)土師器、(周溝)土師器	×	〃
73-12	32	〃 12号墳	〃	方	10	○				×	〃
73-14	32	〃 14号墳	〃	円	19	○		木棺直葬3	①鏃②直刀③直刀、刀子、鉄鏃、耳環、上玉	×	〃
73-15	32	〃 15号墳	〃	円	20	○		木棺直葬2	②直刀、大刀子、刀子、鉄鏃(墳頂)、須恵器提瓶	×	〃
73-16	32	〃 16号墳	〃	方	8	○				×	〃
73-21	32	〃 21号墳	〃	円	23	○		木棺直葬	直刀、大刀子、鉄鏃、碧玉製管玉、ガラス小玉(墳丘)鋤先、石製模造品、須恵器、土師器	×	〃
73-24	32	〃 24号墳	〃	円	18	○		木棺直葬2	②刀子、青銅製小玉、蛇紋岩製勾玉、水晶切子玉、(墳丘)石製模造品	×	1974、75年調査
73-27	32	〃 27号墳	〃	円	12	○		木棺直葬	直刀、鉄鏃、碧玉製管玉、銅丸玉、ガラス小玉	×	1977年調査
73-28	32	〃 28号墳	〃	円	17	○		木棺直葬2	①直刀、鉄鏃、臼玉②小刀、刀子	×	1987年調査
73-29	32	〃 29号墳	〃	円	20	○		木棺直葬2	①直刀、刀子	×	1989年調査
73-30	32	〃 30号墳	〃	円	20	○		木棺直葬2	①刀子、②直刀、刀子、鉄鏃	×	〃
73-32	32	〃 32号墳	〃	方		○			(周溝)土師器、須恵器高坏	×	1974年調査
74	32	山伏作古墳群	請西字山伏作						前方後円墳1基、円墳7基、方墳6基		
74-1	32	〃 1号墳	〃	前方後円	42	○				×	1974、75年調査
74-4	32	〃 4号墳	〃	方	13	○		木棺直葬	(墳丘)鉄器片、須恵器蓋、坏、石製模造品	×	1975年調査
74-5	32	〃 5号墳	〃	方	13	○		横穴式石室	土師器、須恵器蓋坏、長頸壷、後壷、甕	×	1974、75年調査
74-6	32	〃 6号墳	〃	方	10	○			(周溝)須恵器蓋、坏、(表土内)鉄鏃片	×	1975年調査
74-7	32	〃 7号墳	〃	円	18	○				×	〃
74-9	32	〃 9号墳	請西字山伏作	方	12	○		木棺直葬	(周溝)土師器	×	〃
74-X	32	〃 A-1号墳	〃	方	7	○			(周溝)石製模造品、土師器、須恵器坏	×	1973、74年調査
75	32	鹿島塚古墳群	請西字鹿島塚						前方後円2基、円墳18基、方墳1基		
75-1	32	〃 1号墳	〃	方	21	一部		木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃	×	1989年調査
75-2	32	〃 2号墳	〃	円	21	○		木棺直葬	棺底面に赤色顔料(周溝)土師器甕	×	〃
75-3	32	〃 3号墳	〃	円	15	○		木棺直葬3	小刀、鉄鏃、臼玉	×	〃
75-4	32	〃 4号墳	〃	円	21	○		木棺直葬	刀子(周溝)土師器坏	×	〃
75-5	32	〃 5号墳	〃	円	31	○		木棺直葬5	直刀、鉄剣、鉄鉾、鉄鏃、臼玉、須恵器壺、提瓶、(周溝)土師器坏	×	〃
75-6	32	〃 6号墳	〃	円	27	○		木棺直葬2	直刀、鉄剣、鉄鏃、鋤先、(周溝)須恵器甕、土師器坏、甕	×	〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
75-7	32	鹿島塚7号墳	請西字鹿島塚	円	24	○		木棺直葬3	直刀、刀子、鉄鏃、(周溝)須恵器坏	×	1989年調査
75-8	32	〃 8号墳	〃	前方後円	41	地山整形		木棺直葬4	刀子、鉄鏃、管玉	×	〃
75-14	32	〃 14号墳	〃	前方後円	70～80	地山整形				○	1976年削量調査
75-20	32	〃 20号墳	〃	円	21	○		木棺直葬	鉄剣、刀子	×	1973年調査
76	32	野焼古墳群	請西字野焼						円墳6基(5m級3基、10m級3基)		
76-1	32	〃 1号墳	〃	円		○			刀子、錫製耳環(ガラス小玉)、方形周溝墓と重複	×	1989年調査
76-2	32	〃 2号墳	〃	円		○			短甲片、鉄剣、直刀、刀子、鉄鏃、(周溝)須恵器坏、土師器甕	×	〃
77	32	東山古墳群	請西字東山						円墳11基(5～15m級)		
77-6	32	〃 6号墳	〃	円	15	○		木棺直葬3	①直刀、鉄剣、鉄鏃、臼玉②直刀、ガラス小玉(墳頂)石製管玉、土師器、須恵器甕、(周溝)刀子、木心鉄装杖、石製紡錘車、土師器、須恵器鉢、甕、有蓋短頸壷	×	1986年調査
78	32	諏訪谷横穴群	請西字諏訪谷	横穴					横穴8基		
78-1	32	〃 1号横穴	〃	片袖逆台形尖頭アーチ形天井	長4.0 幅3.8			無棺台無棺床			1976年調査
78-2	32	〃 2号横穴	〃	両袖長方形尖頭アーチ形天井	長4.7 幅3.4			無棺台無棺床			〃
78-3	32	〃 3号横穴	〃	両袖長方形尖頭アーチ形天井	長4.6 幅2.3			無棺台無棺床	刀子、瑪瑙勾玉、蛇紋岩製勾玉、碧玉製管玉、ガラス小玉、土師器坏、人骨		〃
78-4	32	〃 4号横穴	〃	無袖隅長方形尖頭アーチ形天井				有棺台無棺床排水溝	直刀、刀子、鉄鏃、耳環、水晶勾玉、瑪瑙勾玉、ガラス小玉、碧玉管玉、水晶切子玉、蜻蛉玉、ガラス丸玉、ガラス小玉、須恵器、鉢頸壷、フラスコ形提瓶、平瓶、横瓶、大甕、人骨		1989年調査
78-5	32	〃 5号横穴	〃	両袖逆台形アーチ形天井				無棺台無棺床排水溝あり	直刀、水晶切子玉、土師器坏、人骨		〃
78-6	32	〃 6号横穴	〃	両袖長方形アーチ形天井				無棺台3棺床	鉄鏃、耳環、須恵器甕、土師器鉢、人骨		〃
78-7	32	〃 7号横穴	〃	両袖長方形アーチ形天井				無棺台無棺床	直刀、鉄鏃、耳環、須恵器鉢頸壷、小形甕、人骨		〃
78-8	32	〃 8号横穴	〃	両袖逆台形アーチ形天井				有段無棺床	直刀、水晶切子玉、ガラス丸玉、須恵器長頸壷、土師器坏、人骨		〃
79	32	田花咲古墳群	矢那字田花咲						円墳11基(30m級1基、20m級1基、10～15m級2基、他は10m未満)		
80	32	道近畑古墳群	矢那字道近畑						円墳4基(15m級)		
81	32	金二谷台古墳群	矢那字金二谷台						前方後円墳1基、円墳2基(15m級1基、10m未満2基)		
81-4	32	〃 4号墳	〃	前方後円	30				帆立貝式か、円墳の可能性もあり	◎	
82	32	狸塚古墳群	伊豆島字狸塚滝ノ沢						円墳5基(5～10m級)		
83	32	新宮古墳群	矢那字新宮						前方後円墳1基、円墳2基		
83-2	32	〃 2号墳	〃	前方後円	25				円墳の可能性あり	◎	
84	32	熊1穴古墳群	矢那字熊1原						前方後円墳1基、円墳6基(40m級1基、20m級1基)		
84-1	32	〃 1号墳	〃	円	40					◎	
84-4	32	〃 4号墳	〃	前方後円	40				現況円墳状(28m)、前方部削平か		
85	32	受地台古墳群	矢那字受地台						円墳8基(10～15m級)		
86	32	大畑台古墳	請西字大畑台	円	8					◎	
87	32	金二谷台西古墳	矢那字金二谷台	円	12					◎	
88	32	練木前古墳	中島田字練木前	円	20					◎	
89	32	大門口古墳群	矢那字大門口						円墳2基(10m未満)		
90	32	明石口古墳群	矢那字蔵之下明石口						円墳5基(20m級1基、10m級3基、5m級1基)		
91	32	矢畑1号墳	矢那字矢畑	円	15			木棺直葬	直刀、鉄剣、鉄鏃、滑石勾玉、須恵器	×	1977年調査
92	32	天神前古墳	矢那椎天神前	円	5				墳頂に石祠	◎	
93	32	蓮華寺古墳群	矢那字蓮華寺						円墳2基(5m級)		
94	32	大作古墳	矢那字大作	方	10					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
95	32	上中郷古墳群	矢那字上中郷						円墳21基(20m級5基、10m級11基、5m級5基)隣接して塚群あり		
96	32	大原古墳群	矢那字大原						円墳4基(10～20m級)3基消滅		
96-1	32	〃 1号墳	〃	円	20		円筒		直刀、鉄鏃、鉄鏃、鉄斧、馬具、二環鈴	×	1955、1984年調査
97	32	伊豆山台古墳	矢那字伊豆山台	円	8					◎	
98	32	大坪古墳	矢那字大坪	円	10					?	
99	32	後田古墳	矢那字後田	円	10					?	
100	32	久保谷古墳群	伊豆島字久保谷						円墳3基(20m級)		
101	32	中後田古墳群	伊豆島字中後田						円墳4基(15m級1基、10m未満3基)		
102	32	若宮台古墳	矢那字若宮台	円	8				周縁部が耕作により削られる	○	
103	32	奥谷古墳	伊豆中字奥谷	円	8					◎	
104	32	和田古墳群	矢那字和田						円墳2基(15m級1基、10m級1基)		
105	32	向谷古墳	矢那字上中郷	円	25					◎	
106	32	南畑古墳群	矢那字南畑						円墳8基(25m級1基、15m級5基、10m級2基)		
107	32	下三光路古墳群	矢那字下三光路						円墳8基(25m級1基、20m級2基、10～15m級5基)		
108	32	三光路古墳群	矢那字三光路						円墳2基(20m級1基、10m級1基)		
109	32	中三光路古墳群	矢那字中三光路						円墳2基(10m級)		
110	32	花山古墳群	矢那字花山						円墳2基(10m級)		
111	32	駒原台古墳群	矢那字駒原台						円墳3基(低墳丘のみ)		
112	32	台ノ原古墳	矢那字台ノ原	円	17					◎	
113	32	下名主ヶ谷古墳群	矢那字下名主ヶ谷						円墳16基(20m級10基、10m級6基)		
114	32	名主ヶ谷古墳群	矢那字名主ヶ谷						円墳6基(20m級1基、15m級1基、小規模墳丘の一部は塚の可能性あり)		
115	32	上名主ヶ谷古墳群	矢那字上名主ヶ谷						円墳2基(20m級)		
116	32	二重山古墳群	矢那字二重山						円墳3基(5～10m級)		
117	32	橋本古墳群	矢那字橋本						円墳2基(10m級)		
118	32	上猪ノ台古墳群	那字上猪ノ台						円墳3基(低墳丘のみ)		
119	37	下時田古墳群	矢那字下時田						円墳2基(20m級1基、10m級1基)		
120	38	小長作古墳	矢那字小長作	円	10					◎	
121	38	出台古墳群	草敷字出台						円墳3基(10m未満)		
122	38	下草敷谷古墳群	草敷字下草敷谷						円墳2基(10m未満)		
123	32	玄番田古墳群	上烏田字玄番田						円墳2基(20m級1基、5m級1基)		
124	37	上辻古墳	上烏田字上辻	円	20					◎	
125	37	一ノ関古墳群	上烏田字一ノ関								
126	38	宮脇古墳群	田川字屋谷						円墳、方墳8基以上(一部消滅)他に終末期方形区画墓数基を検出		
126-2	38	〃 2号墳	〃	方	19	○		木棺簀弥	銅剣	×	1987年調査㊧152
126-3	38	〃 3号墳	〃	円	18	○		木棺直葬2	①臼玉②刀子片(周溝)土師器甕	×	〃
126-7	38	〃 7号墳		方	22	○		木棺直葬5(周溝内1)	①刀子②直刀、(墳頂)須恵器フラスコ型瓶	×	1988年調査
126-8	38	〃 8号墳		方		○			部分調査(周溝)須恵器長頸壺	×	〃
127	38	西ノ根谷古墳群	田川字西ノ根谷						円墳7基(30m級1基、20m級2基、15m級1基、10m以下3基) 一部調査後消滅		1984年全古墳測量
127-4	38	〃 4号墳	〃	円	7	○		木棺直葬	(周溝)須恵器坏、土師器坏、椀	×	1984年調査
127-5	38	〃 5号墳	〃	円	8	○		礫郭	(墳丘、周溝)須恵器長頸壺、土師器坏、高坏、甕	×	〃
128	33	南谷古墳群	田川字南谷						円墳2基(15～20m級)		
129	33	北谷古墳	田川字北谷	方	8	○		木炭郭		×	1979年調査
130	33	熊野台古墳群	田川字熊野台						円墳3基(10m級2基、1基未調査消滅)		
130-2	33	〃 2号墳	〃	円	20	○		木棺直葬2	①鉄剣、鉄鏃②鉄鏃(墳頂)須恵器壺、(周溝)紡錘車、須恵器把手付椀、坏、上師器坏、高坏	×	1984年調査
130-3	33	〃 3号墳	〃	円	12	○			部分調査(周溝)須恵器坏蓋、土師器坏	◎	〃
131	33	赤坂古墳	下郡字赤坂	円	6					◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
132	33	石神山陵古墳	下郡字石神	前方後円							
133	33	部田谷古墳群	下郡字部田谷						円墳8基(30m級2基、20m級3基、10～15m級3基)方墳1基(10m級)		
134	33	下部多山古墳	下郡字下部多山	円	23				金環、須恵器大甕、臼、杯塚として再利用	×	1973年調査
135	33	滝台古墳群	下郡字滝台						円墳4基(15～20m級2基、5m級2基)		
136	33	下郡古墳	下郡字市場台	前方後円	60			木棺直葬	直刀、鹿角装刀子、刀子、鉄鏃、馬具	×	1950年調査
137	33	石塚古墳群	下郡字石塚						円墳2基(15～20m級)		
138	33	根岸古墳群	根岸求小妻大塚台						円墳16基(30m級6基、20m級5基、10～15m級5基)		
139	33	重三台古墳群	上根岸字重三台						円墳7基(20～25m級2基、10～15m級5基)		
140	33	久野古墳	上根岸字久野	円	20						
141	33	熊ノ面古墳	上根岸字熊ノ面	円	15					×	
142	33	湯名古墳群	下郡字湯名						円墳4基(25m級1基、15m級2基、1基消滅)隣接地に塚群あり		由郎古墳
143	33	御所台古墳群	茅野字御所台						円墳4基(10～15m級2基、5m級1基)		
144	33	天神下古墳	茅野字打越	円	20					◎	
145	33	仲山田古墳	茅野字仲山田	円	15		円筒		出羽三山塚、周辺より円筒埴輪検出	◎	
146	33	西ノ崎古墳群	真里谷字西ノ崎						円墳3基(30m級1基、20m級1基)		
147	33	真里谷古墳群	真里谷字永井山						前方後円墳3基、円墳26基(25～30m級5基)		
147-27	33	〃 13号墳	〃	前方後円	60					◎	
147-28	33	〃 28号墳	〃	前方後円	45					◎	
147-29	33	〃 29号墳	〃	前方後円	70					◎	
148	33	宿古墳	真里谷字宿	円	30					◎	
149	33	町原古墳群	真里谷字町原						円墳16基(20m級1基、15m級2基、他は10m未満)		
150	33	田丸古墳群	真里谷字田丸						円墳4基(20m級2基、15m級2基)		
151	33	代畑古墳	大稲字代畑	円	20					◎	
152	33	稲荷塚古墳	大稲字稲荷前	円	10		円筒				
153	33	郡本天神古墳	下望陀字郡田	円					前方後円墳とも言われる耕地整理の際に土器が出土		

■君津市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	38	三田浅間神社古墳	三田字山王下	円	40					◎	
2	38	萩野台古墳群	末吉字萩野台						円墳12基		
3	38	長谷川古墳群	長谷川						円墳4基		
4	38	館之内古墳群	俵田字館ノ内						前方後円墳1基、円墳16基		館之内古墳群
4-1	38	白山神社古墳	〃	前方後円	76					◎	館之内1号墳、県史跡
4-2	38	館之内4号墳	〃	円	15				海獣葡萄鏡、直刀、短刀、鉄鏃、須恵器壺	◎	1898年発掘
5	38	上新田古墳群	上新田字上原 笕輪字栗曽根						前方後円墳1基、円墳20基以上 同一台地上に塚群あり		
5-1	38	笕輪浅間神社古墳	笕輪字栗曽根	前方後円	110?				地山整形と考えられ、綿郭不明瞭、後円部は神社社殿建立により上部が削られている	◎	上新田1号墳
6	38	脇原古墳群	戸崎字彦田台 西原字緩部						前方後円墳1基、円墳23基		
6-8	38	〃 8号墳	戸崎字彦田台	前方後円	30					◎	
7	38	峯古墳群	戸崎字追場、峯						円墳20基		
8	38	下台古墳	戸崎字下台	円	10					◎	
9	38	鵜舞古墳群	戸崎字鵜舞						円墳4基		
10	38	戸崎古墳群	戸崎字上原、城山他						前方後円墳5基、円墳55基 古墳番号は今回の分布調査番号に基づく		
10-4	38	〃 4号墳	戸崎字上原	円	40					◎	万福寺東古墳(仮称)
10-5	38	〃 5号墳	戸崎字上原	円	30					◎	万福寺北東古墳

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
10-30	38	戸崎30号墳	戸崎字城山	前方後円	43				(周溝)須恵器	×	1982.83年調査、戸塚城山1号墳
10-31	38	〃 31号墳	〃	前方後円	50					◎	
10-32	38	〃 32号墳	〃	前方後円	45					◎	
10-35	38	〃 35号墳	〃	前方後円	40				後円部頂に大きな坑と十字トレンチ状の痕跡あり、柴田常恵調査古墳の一つか	◎	
10-40	38	〃 40号墳	岩出字下川	前方後円							
11	38	森下古墳	戸崎字森下	円	23					○	
12	38	念仏塚古墳	岩出字田尻	円	11				耕作により周縁部削られる	○	
13	38	岩出古墳群	岩出字庇台、飯籠塚、森下						前方後円墳1基、円墳6基		
13-4	38	飯籠塚古墳	岩出字飯籠塚	前方後円	105					◎	1986年測量、岩出4号墳
14	38	出戸古墳群	寺沢字出戸						円墳3基(15m級2基、10m級1基)		
15	38	寺沢古墳群	寺沢字瓜倉原						円墳、方墳約60基		
16	38	国光古墳群	愛宕字国光						円墳7基(寺沢古墳群中の一支群として捉えられる)		
16-1	38	〃 1号墳	〃	円	13	○		木棺直葬	刀子、鉄製耳環、ガラス小玉、(周溝)土師器坏	×	1986年調査
16-2	38	〃 2号墳	〃	円	14	○		木棺直葬	直刀、(周溝)環状鏃板付轡、鉄鏃、須恵器甕、土師器甕	×	〃
17	38	日陰山古墳群	富田字日陰山						前方後円墳1基、円墳4基		
17-5	38	〃 5号墳	〃	前方後円	50				括れ部細い	◎	
18	38	日陰山横穴群	富田字日陰山	横穴					西支群3基、南支群29基		
19	38	向郷横穴	向郷	横穴					1基	◎	
20	38	上野台古墳群	向郷字上野台						円墳、方墳9基		
20-9	38	〃 9号墳	〃	円	25～30				帆立貝式の可能性あり、墳丘上に神社	○	
21	38	御陣屋古墳群	久留里大和田字御陣屋						円墳、方墳23基		
22-1	38	松葉古墳	向郷字松葉	円	15					○	
22-2	38	松葉東古墳	〃	円	13					○	
23	32	戸穴横穴群	広岡字戸穴	横穴					3基		
24		虫神古墳	大和田字中ビヨ	円	15			横穴式石室(乱石積、L字形)	直刀(銀製含む)、鉄鏃、耳環、須恵器長頸壺、平瓶、土師器坏	×	1962年調査
25	32	花里山横穴群	大和田字花里山	横穴					4基		1971年調査
25-1	32	〃 1号横穴	〃	両袖逆台形ドーム形天井	玄室長2.0玄室幅1.6			無棺台無棺床		×	〃
25-2	32	〃 2号横穴	〃	両袖縦長方形ドーム形天井	玄室長4.6玄室幅2.1			溝区画12棺床	直刀片、須恵器平瓶、短頸壺、土師器坏、短頸壺、人骨	×	〃
25-3	32	〃 3号横穴	〃	無袖正方形ドーム形天井	玄室長2.0玄室幅2.4			隔整2棺床	須恵器長頸壺、平瓶、短頸壺、土師器甕、鉢、人骨	×	〃
25-4	32	〃 4号横穴	〃	縦長方形ドーム形天井	玄室長4.6玄室幅1.9			溝区画12棺床	円頭柄頭、直刀、直刀片、刀子片、鉄鏃片、須恵器坏	×	〃
26	32	権現塚古墳	坂田字谷	円				横穴式石室(乱石積T字形)	直刀、刀子、耳環、切子玉、ガラス玉	×	1939年調査
27	32	大作西古墳	坂田字大作	円	20						
28	32	大作東古墳	坂田字大作	円	10						
29	32	明王塚古墳	坂田字明王塚	円							
30	32	木酒加輪古墳	坂田字木酒加輪	円	30						
31	32	東仲田古墳	坂田字東仲田	不明				箱式石棺		×	1973年調査
32	32	仲町古墳群	坂田字仲町						円墳4基(30m級1基、20m級2基、10m級1基)		坂田古墳群
33	37	仲町横穴群	坂田字仲町								坂田横穴群
34	37	納戸山古墳	久保字納戸山	円	16			木棺直葬	刀子、管玉		納戸山1号墳
35	37	水道山古墳	久保字納戸山	前方後円	40			不明		△	1967年調査㊧53
36	37	納戸山横穴群	久保字納戸山	横穴					11基(2群)		
36-6	37	〃 6号横穴	〃	ドーム形天井						×	1970年調査㊧53
36-7	37	〃 7号横穴	〃	ドーム形天井				2棺床	歯	×	〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
36-8	37	〃 8号横穴	〃					奥棺台無棺床排水溝あり		×	〃
36-10	37	〃 10号横穴	〃					1棺床排水溝あり	土師器坏	×	〃
36-11	37	〃 11号横穴	〃					コ字形棺床?	勾玉、丸玉、須恵器短頸壺、坏、土師器坏	×	〃
37	37	寺山横穴群	久保字寺山	横穴							
37-1	37	〃 1号横穴	〃	ドーム形天井				隔壁1棺床		×	1970年調査
37-2	37	〃 2号横穴	〃					隔壁無棺床		×	〃
37-3・4	37	〃 3・4号横穴	〃					玄室共用羨道2本		×	〃
37-5	37	〃 5号横穴	〃					両棺台2棺床排水溝あり	直刀、刀子、土玉、人骨	×	〃
38	37	上西原古墳群	北子安字上西原						円墳、前方後円墳の存在が記録されるが詳細不明	×	
39	37	北子安堀込古墳	北子安字堀込	方	11				須恵器、土師器、塚の可能性あり、また周辺に供養塚存在	×	1973年調査
40	37	天神山古墳	北子安字天神山(北子安2丁目)	円	30					×	
41	37	夏苅作古墳	北子安字夏苅作	円	10					◎	
42	37	谷山古墳	北子安字谷山	円	15					×	
43	37	東山古墳群	北子安字東山						円墳2基		
43-1	37	〃 1号墳	〃	円	15			木棺直葬	刀子	×	1978年調査
43-2	37	〃 2号墳	〃	円	13			木棺直葬	管玉、琥珀玉、臼玉、ガラス小玉、土師器高坏	×	〃
44	37	下打越古墳	北子安字大打越	円	17					◎	
45	37	穴谷古墳群	北子安字穴谷						前方後円墳1基、円墳4基		
45-1	37	〃 1号墳	〃	前方後円	50					◎	
46	37	子安坂古墳	南子安字子安坂	円	25			木棺直葬	直刀、臼玉	△	1973年調査
47	37	上ノ原古墳	南子安字上ノ原	円	30					◎	
48	37	水溜古墳	南子安字水溜	円	15					◎	
49	37	下追古墳	南子安字下追(南子安7丁目)	円				木棺直葬2	①直刀、耳環、管玉、小玉②直刀	×	1973年調査
50	37	下道古墳	南子安字下道(南子安7丁目)	円	19			木棺直葬	直刀、鉄鏃、臼玉	×	1972年調査
51	37	馬門古墳	南子安馬門(南子安6丁目)	円	21		円筒形象	木棺直葬	直刀、鉄剣、刀子、鉄鏃	×	1969年調査
52	37	南子安古墳	南子安(南子安2丁目)	円	20			木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃、耳環、切子玉、小玉	×	1973年調査
53	37	花輪堂古墳	南子安字台畑(南子安5丁目)	前方後円	40				後円部のみ残存	○	
54	37	梨ノ木作古墳	南子安字梨ノ木作	円						◎	
55	37	仲野原A古墳	南子安字仲野原	円						×	
56	37	仲野原B古墳	〃	円						×	
57	37	上ノ台A古墳	南子安字上ノ台	円						×	
58	37	上ノ台B古墳	〃	円						×	
59	37	星谷上古墳	内蕨輪字畑沢	前方後円	46	○		後円部箱式石棺前方部木棺直葬	(後円部)直刀、刀子、鉄鏃(前方部)直刀、刀子、鉄鏃(周溝)刀子、須恵器高坏、甕片	×	1984.1988年調査
60	37	野馬木戸古墳群	内蕨輪字野馬木戸						円墳2基(周溝址のみ調査)		
60-1	37	〃 1号墳	〃	円	15	○			(周溝)石製紡錘車、土師器坏	×	1984年調査
60-2	37	〃 2号墳	〃	円	20	○			(周溝)須恵器甕片	×	〃
61	37	下新田古墳群	三直字下新田						円墳2基	×	
62	37	八重原1号墳	三直字字曽貝	円	37	○		木棺直葬	三角板鋲留短甲、三角板横矢引板併用式鋲留短甲、鉄鉾、直刀、鉄鏃、鉄製模造品(鎌、斧)	×	1967年調査、八重原6号墳、八重原B-1号墳
63	37	〃 2号墳	〃	円	17	○		木棺直葬	刀子、鉄鏃、管玉	×	1967年調査、八重原7号墳、八重原B-2号墳㊧46.159
64	37	字曽貝古墳群	三直字字曽貝						円墳9基(八重原1・2墳を含む、名称は報告書に準拠)一部未調査のまま消滅	×	
64-1	37	〃 1号墳	〃	円	20				直刀、鉄鏃、ガラス小玉	×	1974年調査
64-2	37	〃 2号墳	〃	円	35				直刀、鉄鏃	×	〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(小)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
64-3	37	〃 3ミ墳	〃	円	15					×	〃
65	37	上ノ山古墳	外箕輪字上ノ山	円	15				方墳の可能性あり、低墳丘	◎	
66	37	道祖神裏古墳	外箕輪字上ノ山	前方後円	56				土師器甕	◎	1975年測量、確認調査、県史跡
67	37	法木作1号墳	法木作	方						×	
68	37	〃 2号墳	〃	円	25					◎	
69	37	八幡神社古墳	外箕輪神社	前方後円	86					◎	1987年周溝部調査、県史跡
70	37	杢師古墳	杢師 (杢師4丁目)	円	17				直刀、鉄剣	×	1972年調査
71	37	元秋葉台古墳群	新御堂字元秋葉台						前方後円墳1基、円墳33基(一部消滅)		
71-12	37	〃 12号墳	〃	帆立貝	45					◎	
71-32	37	〃 32号墳	〃	円	16	○			須恵器壺、土師器坏	×	1975、76年調査
72	37	下荘台古墳	新御堂字下荘台	円	21					◎	
73	37	中荘台古墳	〃	円	30					◎	
74	37	上野古墳群	貞元字上野 (一部上湯江)						前方後円墳2基、円墳2基		
74-1	37	〃 1号墳	〃	前方後円	65					◎	上野3号墳
74-2	37	〃 2号墳	〃	前方後円	43					◎	
75	37	法木作古墳	上湯江字法木作	円	13					◎	
76	37	陣所古墳	上湯江字陣所	円	13					◎	
77	37	三船台古墳群	下湯江下三船・上三船(一部上湯江)						円墳11基(一部消滅)		
78	37	水ケ谷北古墳	小香字水ケ谷	円	15					◎	
79	37	水ケ谷南古墳	〃	円	15					◎	
80	37	下桑ケ谷古墳	小香字下桑ケ谷	円	20					◎	
81	37	小香古墳群	〃						円墳4基(25m級1基、20m級1基、15m級2基)		
82	37	上荘台古墳群	新御堂字上荘台						円墳7基(15m級4基、10m級3基)		
83	37	中谷古墳群	浜子字中谷						円墳8基(40m級1基、20m級1基、10～15m級6基)		
84	37	中谷東古墳	〃	円	8					◎	浜子古墳
85	37	中谷横穴群	〃	横穴					A支群3基、B支群5基		
86	37	胡摩伝古墳群	浜子字胡摩伝						円墳2基(20m級1基、10m級1基)		
87	37	胡摩伝横穴群	〃	横穴					5基(内1基に船の線刻壁画あり)		
88	37	九塚古墳	宮下字九塚	円	16					◎	
89	37	堰谷横穴	宮下字堰谷	横穴					1基	◎	宮下横穴
90	37	宮下西谷古墳群	宮下字西谷						円墳5基(40m級1基、30m級1基、20m級1基、15m級2基)隣接地に塚16基(宮下西谷塚群)		
91	37	高塚古墳	宮下字高塚	円	15					◎	
92	37	小山野横穴群	小山野字内田、田畠	横穴					2支群36基以上(北側支群は土砂崩れにより埋没)		田畑谷横穴
93	37	折越谷横穴群	大山野字折越谷	横穴					5基(埋没)		打越台は誤記
94	37	放大泉地横穴群	大山野字放泉地	横穴					26基(確認可能2支群5基)		宝泉寺横穴群㊸40
95	37	万願寺横穴	大山野字万願寺	横穴					1基(未確認)		
96	37	大山野古墳群	大山野						円墳12基(10m級)		
97	37	常代神社古墳	常代字寺町	墳形不明	30					△	
98	37	川代古墳群	六手字川代						円墳6基(30m級1基、15m級2基10m級2基)		八幡神社古墳群
98-4	37	〃 4号墳	〃	円	27		○		円筒埴輪		
99	37	神裏塚古墳	六手字鶴舞	円	10					○	みこし塚
100	37	熊野前古墳	六手字熊野前	円	16					◎	
101	37	奥中谷古墳群	六手字奥中谷						円墳13基(30m級1基、20m級2基、15m級7基、10m級3基)方墳1基		
102	37	六手西谷古墳群	六手字西谷						円墳3基(20m級1基、10m級2基)		西山古墳群(誤記)
103	37	狐山古墳	六手字下沖田	前方後円	57		○		円筒埴輪、形象埴輪(人物、家、器財)、土師器	◎	1988年確認調査
104	37	鹿島台古墳群	六手字根岸						円墳7基(30m級1基、15m級1基、10m級5基)		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(小)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
105	37	谷田横穴群	常代字上谷田、藍谷田	横穴					2群6基		
106	37	奥中谷横穴群	六手字奥中谷	横穴					3基		
107	37	小坪横穴	六手字小坪	横穴					1基(埋没)		
108	37	白山裏古墳	泉	帆立貝	34					◎	
109	37	反田古墳群	泉字反田						円墳1基(20m級)、方墳2基(10m級、10m級)		
110	37	君ケ作北古墳	泉字君ケ作	円	25					◎	
111	37	君ケ作古墳	〃	円	30					◎	
112	37	君ケ作横穴群	〃	横穴					2基		
113	37	君ケ作古墳群	〃						円墳3基(30m級1基、20m級2基)		
114	37	熊野裏古墳群	白駒						円墳2基		
115	37	白駒古墳群	白駒字熊野前						前方後円1基、円墳3基(内1基は試掘調査時に自然丘と断定)		
115-1	37	〃 I号墳	〃	前方後円	45			木棺直葬	直刀、刀子、鉄鏃(盛土内)須恵器坏、土師器坏	×	1980年調査
115-2	37	〃 II号墳	〃	円	22			木棺直葬(盗掘)	鉄鏃	×	〃
115-3	37	〃 III号墳	〃	円	22			〃	刀子、鉄鏃、土師器鉢	×	〃
116	37	丹後塚古墳	尾車字和田	前方後円	40				現状では括れ部が細く、大きく凹んでおり前方部後円部とも扇状に開く形状を呈する	◎	1989年周溝の一部調査
117	37	南丹後塚古墳	尾車字和田	円	15				1989年調査で南西側に円墳1基新発見	◎	
118	37	北天王塚古墳	尾車字羽黒下	円	13					◎	
119	37	天王塚古墳	〃	円	20					◎	
120	37	羽黒下古墳	〃	円	13					◎	
121	37	天皇塚古墳	〃	前方後円	50					◎	
122	37	皿引古墳群	皿引字下前						円墳2基(10m級)	◎	
123	37	六手野古墳	草牛字六手野	円	10					◎	
124	37	山田古墳	草牛字山田	円	20					◎	
125	37	関谷横穴	草牛字関谷						1基(埋没)		
126	37	御陵塚古墳	草牛字当目塚	前方後円				墳形に疑問あり		○	
127	37	竹際古墳群	中島字竹際 泉字星谷						前方後円墳1基、円墳15基(25m級1基、10～15m級14基)		
127-1		竹際15号墳	中島字竹際 泉字星谷	前方後円	50					◎	
128	37	長昭寺古墳群	中島						円墳2基(20m級1基、15m級1基)		
129	37	武勇谷古墳群	中島字武勇谷						円墳7基(15m級5基、10m級2基)		
130	37	上武勇古墳	中島字上武勇						円墳4基(30m級1基、20m級1基、10m級2基)		
131	37	万崎古墳群	中島字広瀬						円墳8基(20～25m級6基、15m級1基、10m級1基)		
132	37	武勇谷横穴	中島字武勇谷	横穴					1基	◎	
133	37	鰭田横穴群	鰭田字西田	横穴					3基		
134	37	首塚古墳	鰭田字堀合	円	15				個人墓地として利用	◎	
135	37	駒久保古墳群	福岡字駒久保						前方後方墳1基、前方後円墳1基、方墳1基、円墳17基		
135-6	37	〃 6号墳	〃	前方後方	42				後方部辺長24、前方部幅11	◎	1989年測量
135-8	37	〃 8号墳	〃	円	28					◎	
135-10	37	〃 10号墳	〃	前方後円	50					◎	
136	37	福岡古墳群	福岡字上ノ原						円墳17基(30m級1基、25m級1基、20m級4基、10～15m級11基)		
137	37	市宿横穴群	市宿字川崎						8基		
138	37	谷畑古墳	西猪原字谷畑	円	14					◎	
139	37	金岡台古墳群	糸川字上ノ台、当坪、金岡台						円墳19基(30m級1基、15～20m級7基、10～15m級8基)		
140	37	大野台古墳群	糸川						円墳12基(20m級3基、15m級9基)		
141	37	金ケ谷古墳群	糸川字金ケ谷						円墳13基(20m級4基、15m級1基、10m級8基)		
142	37	大井戸八木古墳群	大井戸字八木						方墳2基(20級1基、15m級1基)円墳22基(25m級1基、20m級5基、15m級5基、10m級11基)		1988年確認調査

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
143	37	経塚古墳	根本字高塚	円	30				自然丘の可能性あり		
144	37	金越古墳群	根本字金越						円墳2基		
145	37	八坂裏古墳	根本字大城	円						◎	
146	37	高塚古墳群	根本字高塚						円墳7基		
147	37	平田横穴群	根本字平田								
148	37	西郡古墳	大井字西郡	円					自然丘の可能性あり		
149	37	滝ノ谷古墳	大鷲新田字滝ノ谷	円					自然丘の可能性あり		
150	37	いご塚古墳	大鷲新田字田廻台	円					自然丘の可能性あり		
151	37	中台古墳	大鷲新田字中台	円							
152	37	釣山古墳群	大鷲字釣山						前方後円墳1基、円墳4基		
153	37	丸塚古墳	練木字丸塚	円					自然丘の可能性あり		
154	37	台横穴	練木字台	横穴					1基(半埋没)		
155	37	池ノ谷横穴	練木字池ノ谷	横穴					1基(完全埋没)		
156	37	樋田谷横穴	練木字樋田谷	横穴					1基(完全埋没)		
157	37	大山越古墳群	三直字大山越						円墳3基		
158	37	奥谷横穴	三直字奥谷	両袖横長方形平形天井				左側壁突出棺床	1基	◎	
159	37	沖入古墳	三直字沖入	円	15				隣接して塚2基	◎	

■富津市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
*	36	内裏塚古墳群	二間塚、大堀、青木、上飯野、下飯野						前方後円墳11、円墳14、方墳5墳、形不明5、富津古墳群、飯野古墳群とも呼ばれる		1～35の総称
1	36	内裏塚古墳	二間塚字東内裏	前方後円	144	○	円筒形象	竪穴式石室2	㊀人骨、直刀、鉄剣、小刀、鎌、角棒、斧、鉄鏃 ㊁鏡、直刀、鉄剣、鉄鉾、鳴鏑、金銅製胡簶、斧、鉄鏃	◎	1906年調査県史跡
2	36	九条塚古墳	下飯野字九条塚	前方後円	103	○	円筒	竪穴式石室 (または横穴式石室)	人骨、直刀、鉄剣、鉄鉾、鉄鏃、雲珠、轡、帯金具、銀張耳環、銀製玉、切子玉、ガラス玉、ホウズキ玉(前方部頂)須恵器高杯、平瓶、線	◎	1911年、1989年調査市史跡
3	36	三条塚古墳	下飯野字三条塚	前方後円	122	○		横穴式石室	人骨、鏡、耳環、馬具、ガラス小玉、須恵器杯、高杯	◎	1989年調査市史跡
4		稲荷山古墳	青木字稲荷山	前方後円	106	○	円筒形象			◎	市史跡
5	36	姫塚古墳	青木字中八部谷	前方後円	約70	○		横穴式石室 (乱石積、片袖形)	人骨、直刀、鹿角製刀装具、鉄鏃、金銅製雲珠、鉄製轡、貝製雲珠、金環、須恵器	△	1938年調査
6	36	青木亀塚古墳	青木字石原	前方後円	100	○				◎	1989～90年調査
7	36	古塚古墳	二間塚字西内裏塚	前方後円	88	○	円筒			◎	1990年調査
8	36	西原古墳	大堀字西原	前方後円	63	○		横穴式石室 (乱石積、無袖形)	人骨、直刀、鉄鏃、金銅鏡板、雲珠、革紐金具、金環、銀鋲、金銅中空玉、管玉、ガラス玉、鹿角製環状品、鹿角製柱形品、土師器杯、須恵器有蓋杯、有蓋高杯、瑞、平瓶、提瓶	△	1927年調査1989年調査
9	36	上野塚古墳	大堀字上野塚	前方後円	45	○				○	1981年調査1987年調査
10	36	蕨塚古墳	二間塚字割見塚	前方後円	48	○		横穴式石室 (乱石積、無袖形)	鉄鏃、金銅製轡鏡金具、銀製剣形飾金具、貝製雲珠、尾錠、釘、銅釧、耳環、玉、丸玉、ガラス小玉、土師器杯、須恵器高杯、甕、平瓶	○	1966年調査1984年調査
11	36	武平塚古墳	下飯野西之町	前方後円	約70	○				△	
12	36	割見塚古墳	二間塚字割見塚	方	40	○		横穴式石室 (切石積、製室構造)	(1964年出土)直刀、鉄鏃、金銅製弭、帯金具、土師器 (1984年出土)鉄鏃、鉾、鉸鉄、鉄製杏葉、鉄製鏡板、銅製革、帯金具(爪形金具、円形金具、方形金具、六角金具)土師器杯、須恵器	◎	1964年調査、1984年調査
13	36	野々間古墳	上飯野字西野々間	方	20	○		横穴式石室 (切石積、片袖形)	銀象嵌装大刀、刀子、鉄鏃、金銅製弓弭、銅製鋲釘、鉄釘、金環、有蓋緑釉新羅焼台付壺、須恵器	×	1968年調査 1984年調査 1987年調査
14	36	森山塚古墳	下飯野字森山	方	27	○		横穴式石室 (切石積、高壇式)	把手状金具、鉄釘、土師器、須恵器蓋杯、椀、	○	1983年調査

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
15	36	亀塚古墳	上飯野字亀塚	方	32	○		横穴式石室 (切石積)	(1908年出土)須恵器フラスコ型長頸壺、台付長頸壺、短頸壺、平瓶、線(1989年出土)銅鏡、鉄釘、耳環、ガラス玉、土師器、須恵器片、円筒埴輪片	◎	1908年調査 1989年調査
16	36	稲荷塚古墳	下飯野字稲荷口	方	18			横穴式石室		×	
17	36	丸塚古墳	大畑字砂山	円	30	○		横穴式石室 (乱石積、無袖形)	人骨、直刀、刀子、鉄鏃、雲珠、轡、鏡、金環、勾玉、管玉、切子玉、瑪玉、丸玉、小玉、土師器、須恵器	×	1974年調査
18	36	白姫塚古墳	下飯野字大里塚	円	25			横穴式石室 (乱石積?)	環頭大刀、円頭大刀、方頭大刀、挂甲小札、帯金具、鍍金銅鋲、金環、須恵器	◎	1892年発掘
19	36	白姫塚南方古墳	下飯野字高橋前	円	20	○		横穴式石室(?)		×	
20	36	内裏塚南方古墳	二間塚字東内裏塚	円				横穴式石室(?)	(昭和59年出土)土師器甕、須恵器片	×	1984年調査
21	36	内裏塚北方古墳	二間塚字内裏塚	円				横穴式石室1 石棺1	直刀2	△	明治年間発掘、1983年調査
22	36	八丁塚古墳	二間塚字八丁山	円	24	○		横穴式石室 (乱石積)	(後室)刀子、鉄鏃、奄鏡片、鏡、須恵器提瓶、小形壺 (前室)直刀片、刀子、鉄鏃、金環、碧玉管玉、瑪玉、土師器、須恵器、有蓋杯、短頸壺	◎	1964年調査、1984年調査
23	36	西谷古墳	二間塚字西谷	円	22	○		横穴式石室 (乱石積、無袖形)	人骨、鹿角装刀子、鉄鏃、ガラス玉、須恵器鏡	◎	1951年調査、1983年調査
24	36	西谷2号墳	二間塚字西谷	円	22	○		横穴式石室 (乱石積)		×	1984年調査
25	36	向原古墳	二間塚字向原新割	円	24	○		横穴式石室 (乱石積、L字形)	人骨、直刀、刀子、鉄鏃、銀製環、臼玉、須恵器杯蓋、杯身	×	1932年調査、1984年調査
26	36	新割古墳	二間塚字向原新割	円	35	○		横穴式石室 (乱石積、無袖形)	人骨、直刀、刀子、鉄鏃、馬具、金環、玉類、須恵器大甕、短頸壺、高杯、有蓋杯、提瓶	×	1981年調査
27	36	古山古墳	二間塚字向原古山	円	29	○		横穴式石室 (乱石積、無袖形)	円頭大刀、直刀、刀子、鉄鏃、鉄製轡、金環、銅鈴、棗玉、瑪瑙勾玉、ガラス丸玉、ガラス小玉、砥石、土師器、須恵器	×	1968年調査
28	36	笹塚1号墳	二間塚字北笹塚	円	21	○		横穴式石室	(周溝)土師器	◎	1989年調査
29	36	笹塚2号墳	二間塚字北笹塚	円	17	○				◎	〃
30	36	駅前公園古墳	大堀字狐山	不明					自然丘の可能性あり		
31	36	東原古墳	大堀字東原	不明					自然丘の可能性あり	◎	
32	36	大山古墳	二間塚字西谷	不明					自然丘の可能性あり	○	1984年調査
33	36	武平塚南方古墳	下飯野字堰下	不明			円筒			△	
34	36	下谷古墳	下飯野字下谷	円	20	○		横穴式石室 (乱石積、L字形)	刀子、鉄鏃、ガラス小玉、須恵器高杯	×	1989年調査
35	36	琴塚古墳	下飯野字稲花	円				横穴式石室?		×	
36	36	かす塚古墳	下飯野字越ヶ崎	前方後円	推定40		円筒			○	
37	36	神明山古墳群	下飯野字神明山						円墳2基(当初前方後円墳と推定)	×	1988年調査
37-1	36	〃 1号墳	〃	円	20			木棺直葬2		×	〃
37-2	36	〃 2号墳	〃	円?	10					×	〃
38	36	内田横穴群	西大和田字内田～立畑	横穴					7支群73基確認(船、漁の様子を示す線刻画あり) 尾根上に古墳状隆起あり		鹿島横穴群
39	37	網稲荷塚古墳	網字植ノ台	前方後円	推定40			横穴式石室?	後円部のみ残存(墳丘上に海蝕礫をもつ砂岩材が散在)	○	
40	37	下平治横穴群	上飯野字平治	横穴					3基		
41	37	東風谷田横穴群	相野谷字東風谷田	横穴					14基		
42	37	東風谷田古墳群	〃						円墳2基(東風谷田横穴群直上)		
43	37	妻横穴群	相野谷字妻	横穴					10基(船の線刻画あり)		
44	37	池田横穴群	西大和田字池田	横穴					6基		
45	37	池田古墳群	〃						円墳2基(池田横穴群直上)		
46	37	岩崎横穴群	西大和田字岩崎	横穴					6基(尾根上に古墳状隆起あり)		
47	37	障子ヶ谷横穴群	相野谷字障子ヶ谷	横穴					25基(船の線刻画あり)		
48	36	入谷横穴	岩瀬字入谷	横穴					1基		
49	36	寺谷横穴群	岩瀬字寺谷	横穴					8基(線刻画あり)		
50	36	郷中谷横穴群	岩瀬字郷中谷	横穴					5基		
51	36	小久保谷横穴	小久保字谷	横穴					1基		
52	36	西の谷横穴群	岩瀬字西の谷	横穴					3基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
53	36	戸谷横穴群	岩瀬字戸谷	横穴					6基		
54	36	信実横穴	岩瀬字信実	横穴					1基		
55	36	鎌田横穴群	岩瀬字鎌田	横穴					4基	×	
56	36	鬼ヶ谷横穴群	中字鬼ヶ谷	横穴					4基(船の線刻画あり、馬具採集)		
57	36	弁天横穴群	小久保字弁天	横穴					2基		1基消滅
58	36	永町横穴群	小久保字永町	横穴					5基		
59	36	弁天山古墳	小久保字弁天	前方後円	83		円筒	竪穴式石室	(1927年出土)刀剣類一括、刀、鎗、鉄鏃、鹿角装刀子 (1975年出土)甲冑片、剣、直刀、鉄鏃	◎	1927、1975年調査国史跡
60	36	向原横穴群	小久保字向原	横穴					6基		1979年調査
60-1	36	向原1号横穴	小久保字向原	両袖縦長方形 アーチ形天井	長5.0 幅3.5			無棺台無棺床 排水溝あり	直刀、刀子、鉄鏃、鉾、銅鋲、土師器坏	×	1979年調査
60-2	36	〃 2号横穴	〃	複室構造 ドーム形天井	後室長2.5 後室幅2.5			隔壁無棺床		×	〃
60-3	36	〃 3号横穴	〃	形態不明 ドーム天井	幅2.7			無棺床		×	〃
60-4	36	〃 4号横穴	〃	無袖逆台形 アーチ形天井	長3.6 幅2.4			無棺台無棺床 区画石列あり	人骨、貝殻、土師器、須恵器坏	×	〃
60-5	36	〃 5号横穴	〃	不整形 ドーム形天井	幅2.8			無棺台無棺床		×	〃
60-6	36	〃 6号横穴	〃	形態不明 ドーム形天井	幅2.9			奥棺台1棺床	人骨、鉄鏃、貝殻、須恵器	×	〃
61	36	向原古墳群	小久保字永町						前方後円墳2基、円墳1基		
61-1	36	〃 1号墳	〃	円	16	一部		木棺直葬?	内部施設の認定疑問点あり	×	1980年調査㊧104
61-2	36	〃 2号墳	〃	前方後円	50				内部施設、遺物ともに検出されず自然丘の可能性あり	×	〃
61-3	36	〃 3号墳	〃	前方後円?						◎	1980年測量調査㊧104
62	36	山岸横穴群	小久保字山岸	横穴					12基(5、8～12号埋没)		
62-1	36	〃 1号横穴	〃	両袖正方形 ドーム形天井	長2.3 幅2.8			隔壁無棺床	人骨、貝殻	×	1979年調査㊧97
62-2	36	〃 2号横穴	〃	両袖横長方形 ドーム形天井	長2.8 幅3.4			無棺台無棺床		×	〃
62-3	36	〃 3号横穴	〃	両袖不整形 アーチ形天井	長3.2 幅3.0			無棺台無棺床 棚状施設あり		○	1979年略測
62-4	36	〃 4号横穴	〃	両袖長方形 アーチ形天井	長5.8 幅3.8			無棺台無棺床 棚状施設あり		○	〃
63	36	海老田横穴群	小久保字海老田	横穴					11基		
64	37	吾妻作横穴?	綱字吾妻作	横穴					1基		
65	37	綱根方横穴群	綱字根方	横穴					11基		県史跡
65-1	37	〃 1号横穴	〃	両袖正方形 ドーム形天井	長2.1 幅2.2			隔壁無棺床	「大同元年」「許世」の線刻文字あり	◎	1962年調査
65-10	37	〃 10号横穴	〃	両袖正方形 ドーム形天井	長2.1 幅2.3			隔壁無棺床	「木」の線刻文字あり	◎	〃
65-11	37	〃 11号横穴	〃	横穴					線刻画あり	◎	
66	37	堰谷横穴群	中字堰谷	横穴					2基		
67	37	早ブチ横穴群	上字早ブチ	横穴					8基		
68	37	公家町横穴群	上字公家町	横穴					5基(隔壁無棺無棺床タイプ主体)		
69	37	西の崎横穴群	上字西の崎	横穴					3基		
70	37	近藤横穴群	近藤字小上羽	横穴					20基		
71	37	高根横穴群	小久保字高根	横穴					2基(尾根に古墳状隆起あり)		
72	37	京面横穴群	小久保字京面	横穴					2基		
73	37	堀込古墳	小久保字堀込	円?	12				側面が急傾斜で改変著しく自然丘の可能性もあり	△	
74	37	奥庭横穴群	小久保字奥庭	横穴					5基		
75	37	下古ヶ谷横穴群	小久保字下古ヶ谷	横穴					6基		
76	37	板取A横穴群	小久保字板取	横穴					4基		埋没
77	37	板取B横穴群	小久保字板取	横穴					5基		
78	37	古ヶ谷横穴群	小久保字古ヶ谷	横穴					2基		
79	37	小久保寺谷横穴群	小久保寺谷	横穴					6基(埋没)		
80	37	西念ヶ谷横穴群	小久保字西念ヶ谷	横穴					3基(1基消滅)		
81	37	岩井作横穴群	小久保字岩井作	横穴					8基		1985年調査

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
81-1	37	岩井作1号横穴	小久保字岩井作	両袖台形 ドーム形天井	長2.6 幅3.1			コ棺台2棺床	鉄鏃、鉄釘、◆、用途不明鉄製品、貝殻	×	〃
81-2	37	〃 2号横穴	〃	両袖正方形 ドーム形天井	長2.0 幅2.0			無棺台無棺床	刀子、土師器、須恵器甕片	×	〃
81-3	37	〃 3号横穴	〃	両袖逆台形 アーチ形天井	長2.3 幅2.2			無棺台無棺床 敷石あり	直刀片、土師器、須恵器、貝殻、「倭文」の線刻文字あり	×	〃
81-4	37	〃 4号横穴	〃	片袖正方形 ドーム形天井	長2.4 幅2.4			無棺台無棺床 区画溝あり	土師器坏、須恵器坏、坏蓋、貝殻	×	〃
81-5	37	〃 5号横穴	〃	両袖正方形 アーチ形天井	長2.6 幅2.6			無棺台無棺床	土師器坏、須恵器甕片	×	〃
81-6	37	〃 6号横穴	〃	片袖逆台形 アーチ形天井	長2.2 幅2.6			隔壁無棺床 区画溝あり	刀子、鉄鏃	×	〃
82	37	成丈横穴	小久保字成丈	横穴					1基		
83	37	中堰谷横穴群	小久保字中堰谷	横穴					7基		
84	37	下岩入横穴群	小久保細田	横穴					12基		
84-2	37	〃 2号横穴	〃	横穴					「建」の線刻文字あり	◎	
85	37	下岩入大塚山古墳	小久保字大塚	円	20	横穴				◎	
86	37	北上横穴群	亀沢字根上り	横穴					5基		
87	37	谷根横穴群	亀田字谷根	横穴					2基		
88	37	亀田A横穴群	亀田字大作	横穴					6基(線刻画あり)2～6号埋没		
89	37	亀田B横穴群	亀田字大作	横穴					8基	×	
90	37	亀田C横穴群	亀田字日奈坂	横穴					6基	×	
91	37	森下古墳	亀田字森下	円						×	未調査消滅
92	37	比叡神社脇横穴群	東佐貫字御殿山	横穴					4基(後世やぐらに改変)		1977年実測調査
93	37	清水横穴群	佐貫字清水	横穴					5基		
94	37	塚畑古墳群	亀田字塚畑						円墳3基(未調査消滅)、御陵塚古墳、一本松古墳も同一古墳群に括り得る		
95	37	御陵塚古墳	亀田字永嶋	円	17			横穴式石室?	墳丘内に神社が建ち墳丘が抉られている。参道両側に砂岩礫が積まれており、石室構築材の可能性あり	○	
96	37	一本松古墳	亀田字一本松	円	15				直刀	×	1972年調査
97	37	像法寺横穴	鶴岡字古船							×	
98	37	古船横穴群	鶴岡字古船						6基		
99	37	含宮里A横穴群	鶴岡字含富里	横穴					6基		
100	37	含富里B横穴群	鶴岡字含富里	横穴					2基(1基消滅)		
101	37	含富里C横穴群	鶴岡字含富里	横穴					1基	◎	
102	37	神宿横穴群	宝竜寺字神宿	横穴					8基		1977年調査
102-1	37	〃 1号横穴	〃	両袖逆台形 ドーム形天井	長4.8 幅3.1			奥棺台1棺床	刀子片、須恵器蓋、貝殻	×	〃
102-2	37	〃 2号横穴	〃	両袖正方形 平形天井	長3.4 幅3.4			石棺台1棺床	人骨、刀子片、鉄鏃片、土師器、貝殻	×	〃
102-3	37	〃 3号横穴	〃	片袖正方形 平形天井	長2.5 幅2.7			左棺台1棺床	人骨、刀子片、鉄鏃片、土師器、貝殻	×	〃
102-4	37	〃 4号横穴	〃	両袖正方形 ドーム形天井	長2.2 幅2.3			右棺台1棺床	刀片、刀子片、鉄鏃片、須恵器平瓶、貝殻	×	〃
102-5	37	〃 5号横穴	〃	片袖正方形 平形天井	長3.0 幅2.9			左棺台1棺床	人骨、刀片、刀子片、鉄鏃片、馬具片、鉋、斧、手斧、釘、鋼鋲、瑪瑙勾玉、碧玉製管玉、水晶切子玉、ガラス小玉、須恵器壺、坏蓋、長頸壺、瑞	×	〃
102-6	37	〃 6号横穴	〃	両袖横長方形 平形天井	長2.7 幅4.4			両棺台2棺床	人骨、馬具、釘、須恵器蓋、坏、壺、貝殻	×	〃
102-7	37	〃 7号横穴	〃	片袖正方形 アーチ形天井	長2.2 幅2.2			左棺台1棺床	須恵器長頸瓶	×	〃
102-8	37	〃 8号横穴	〃	片袖縦長形 ドーム形天井	長2.7 幅2.0			右L棺台1棺床	刀子片、土師器、須恵器長頸壺	×	〃
103	37	大坊古墳	宝竜寺字大坊	円	12				截頭円錐状の墳形を示し、塚の可能性あり	◎	
104	42A	宮下横穴群	八幡字宮下	横穴					4基		
105	42A	仲の作横穴群	八幡字仲の作	横穴					3基		
106	42A	荒籔横穴	椎毛字北籔	横穴					1基		埋没
107	42B	湊岩崎横穴群	湊字岩崎	横穴					4基		
108	42B	山崎横穴群	湊字山崎	横穴					22基		
109	42B	富士見台古墳群	湊字富士見台						円墳2基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
109-1	42B	〃 1号墳	〃	円	10					○	1962年調査
109-2	42B	〃 2号墳	〃	円	16	○	円筒		(周溝)円筒埴輪、土師器甕、鉢、坏	×	1986年調査
110	42B	岩井古墳群	数馬字岩井						円墳2基		
110-1	42B	〃 1号墳	〃	円		○				△	1960年代調査 1989年一部調査
110-2	42B	〃 2号墳	〃	円	30	○			周溝址のみ検出	×	1989年調査
111	42B	白坂横穴群	岩坂字白坂	横穴					22基		
112	42B	大満古墳群	岩坂字大満						円墳5基(10～20m級、各古墳とも低墳丘)		
113	42B	大満第Ⅰ横穴群	岩坂字白坂	横穴					2基		大満A横穴群
113-1	42B	〃 Ⅰ-1号横穴	〃	両袖不整形 ドーム形天井	長3.6 幅3.5			コの字棺台2棺床	直刀、鉄鏃、鉄製釣針、土師器、須恵器蓋坏 (帆船、船、網の線刻画あり)	◎	1952年調査
113-2	42B	大満Ⅰ-2号横穴	岩坂字白坂	両袖正方形 ドーム形天井	長3.3 幅3.5			隔壁無棺床	鉄鏃、土師器、(船の線刻画あり)	◎	〃
114	42B	大満第Ⅱ横穴群	岩坂字大満	横穴					20基		1972年略測調査 大満B横穴群
115	42B	大満第Ⅲ横穴群	岩坂字大満						34基		県史跡 大満C横穴群
115-1	42B	〃 Ⅲ-1号横穴	〃	両袖正方形 ドーム形天井	長3.4 幅3.9			隔壁(?)無棺床	土師器坏	○	1972年調査
115-2	42B	〃 Ⅲ-2号横穴	〃	両袖正方形 家型宝形天井	長4.0 幅4.0			隔壁2棺床		○	〃
115-3	42B	〃 Ⅲ-3号横穴	〃	両袖横長方形 家型宝形天井	長3.2 幅4.0			無棺台無棺床 区画溝あり	須恵器長頸壺片	○	〃
115-4	42B	〃 Ⅲ-4号横穴	〃	両袖正方形 ドーム形天井	長2.6 幅3.0			コの字棺台無棺床	土師器坏	○	〃
115-7	42B	大満Ⅲ-7号横穴	岩坂字大満	両袖正方形 ドーム形天井	長2.6 幅2.4			隔壁1棺床 排水溝あり	人骨、歯骨、須恵器瓶、貝殻	◎	1952年調査
115-19	42B	〃 Ⅲ-19号横穴	〃	片袖縦長方形 ドーム形天井	長2.2 幅1.7			左棺台1棺床	人骨、金環、土師器、須恵器坏	◎	〃
115-24	42B	大満Ⅲ-24号横穴	岩坂字大満	両袖逆台形 ドーム形天井	長1.8 幅2.2			隔壁無棺床	人骨、宋銭、土師器、貝殻	◎	〃
116	42B	大満第Ⅳ横穴群	岩坂字大満	横穴					10基		1972年略測調査㉛51 大満D横穴群
117	42B	町田古墳	岩坂字町田	円	6			横穴式石室?	水田中にあり側面に砂岩礫が露出石室を被覆する部分のみ残存か。	△	
118	42B	水神A横穴群	岩坂字水神	横穴					2基(線刻画あり)		
119	42B	水神B横穴群	岩坂字水神	横穴					3基		
120	42B	水神C横穴群	岩坂字水神	横穴					3基		
121	42B	水神北古墳	岩坂字水神	円	12					◎	
122	42B	水神中古墳	岩坂字水神	方	10				塚の可能性あり	◎	
123	42B	水神南古墳	岩坂字水神	円	20					○	
124	42B	祖宮原古墳	更和字祖宮原	円	8					◎	
125	42B	上北原古墳	更和字上北原	円?	10				水田中にあり、墳丘低平	○	
126	42B	塚田古墳	更和字塚田	円	13				水田中にあり、墳丘低平	◎	
127	42B	森脇古墳	加藤字森脇	円	10				墳丘上に石祠	△	
128	42B	森脇横穴	加藤字森脇	横穴					1基	○	
129	42B	入山横穴群	加藤字入山	横穴					11基、家形寄棟造の横穴あり		
130	42B	崩下横穴群	加藤字崩下	横穴					12基		
131	42B	本乗寺横穴群	加藤字滝の台	横穴					3基	×	
132	42B	高山古墳群	更和字高山						円墳3基(2基は未調査消滅)消滅古墳の中には埴輪を有するものあり		1981年頃削平
133	42B	高山横穴群	更和字高山	横穴					40基		1976年開口横穴のみ実測調査
134	42B	横峰古墳	更和字横峰	円	12				墳頂に石祠	◎	
135	42B	砂坂第1横穴群	更和字砂坂	横穴					9基	×	1971年調査
135-3	42B	〃 3号横穴	〃	アーチ形天井	長4.5 幅3.0			1棺床	土師器、須恵器高坏	×	〃
135-5	42B	〃 5号横穴	〃	両袖	長3.5 幅2.5				直刀、小玉	×	〃
136	42B	砂坂第2横穴群	〃	横穴					7基	×	〃

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
136-11	42B	〃 11号横穴	加藤字砂坂	両袖正方形 天井不明	長3 幅2.7			奥棺台1棺床	須恵器平瓶、壺	×	〃
136-18	42B	砂坂第2-18号横穴	加藤字砂坂	両袖横長方形 アーチ形天井	長3.0 幅4.0			両棺台2棺床	鉄器、土師器	×	〃
137	42B	西山横穴群	更和字西山						30基(山砂採取に先立ち全面調査)	×	1976年調査
137-1	42B	〃 1号横穴	〃	無袖縦長形 天井不明	幅2.0 (全長5.1)			奥棺台1棺床		×	〃
137-2	42B	〃 2号横穴	〃	両袖横長方形 天井不明	長2.7 幅3.2			隔壁1棺床	勾玉(瑪瑙、碧玉、水晶)、水晶切子玉、管玉(碧玉、ガラス石製)、滑石製臼玉、ガラス小玉、須恵器蓋	×	〃
137-3	42B	〃 3号横穴	〃	無袖縦長方形 アーチ形天井	長1.4 幅0.9			無棺台無棺床		×	〃
137-4	42B	〃 4号横穴	〃	縦長方形 天井不明	長3.9 幅2.2			無棺台無棺床	土師器坏片、須恵器甕片	×	〃
137-5	42B	〃 5号横穴	〃	両袖正方形 平形天井	長3.1 幅3.0			無棺台無棺床	直刀片、鏃片、鉄鏃、轡、鏡板	×	〃
137-6	42B	〃 6号横穴	〃	形態不明				左棺台1棺床		×	〃
137-7	42B	〃 7号横穴	〃	形態不明 ドーム形天井				コの字棺台2棺床	碧玉製勾玉、ガラス小玉	×	〃
137-8	42B	〃 8号横穴	〃	形態不明				右棺台1棺床		×	〃
137-9	42B	〃 9号横穴	〃	両袖不整形 天井不明	長3.6 幅3.8			コの字棺台3棺床	土師器、須恵器、貝殻	×	〃
137-10	42B	〃 10号横穴	〃	片袖縦長方形 ドーム製天井	長2.4 幅2.3			左棺台1棺床	須恵器蓋	×	〃
137-11	42B	〃 11号横穴	〃	両袖横長方形 天井不明	長2.7 幅4.3			左L棺台2棺床	ガラス小玉、須恵器長頸壺、蓋、坏	×	〃
137-12	42B	〃 12号横穴	〃	両袖横長方形 ドーム形天井	長2.4 幅2.8			両棺台2棺床 棚状施設あり	貝殻	×	〃
137-13	42B	〃 13号横穴	〃	両袖縦長方形 ドーム形天井	長5.0 幅3.3			奥棺台1棺床 排水溝あり	人骨、貝殻	×	〃
138	42B	小壇横穴	桜井字小壇	横穴					1基		埋没
139	42B	牛鳴瀬古墳群	桜井字牛鳴瀬						円墳2基(10m級)他に低い高まり1ヶ所		
140	42B	牛鳴瀬横穴群	〃	横穴					14基(有棺床タイプ主体)		
141	42B	児ヶ墓古墳群	桜井字児ヶ墓						円墳4基(30m級1基、10m級3基)		
142	42B	児ヶ墓A横穴群	〃	横穴					6基(有棺床タイプ主体)		
143	42B	児ヶ墓B横穴群	〃	横穴					5基(4基埋没)	◎	
144	42B	飛谷A号横穴群	桜井字飛谷	横穴					6基		
145	42B	飛谷B号横穴	桜井字飛谷	横穴					1基	◎	
146	42A	向山古墳	海良字向山	方	15				墳丘上に庚申塔、古墳を整形した塚の可能性あり	◎	
147	42A	小芝横穴群	海良字藤沢	横穴					3基		
148	42A	大山横穴	海良字大山	横穴					1基(付近に数基埋没の可能性あり)	○	
149	42B	居作横穴	相川字居作	横穴					1基	×	
150	42B	大谷A横穴群	不入斗字大谷	横穴					3基	◎	
151	42B	大谷B横穴群	不入斗字大谷	横穴					6基(4基埋没)	○	
152	42B	鹿原沢横穴	不入斗字鹿原沢	複室構造 平天井				奥壁内棺床	1基	◎	
153	42B	小志駒横穴群	小志駒字木出	横穴					2基		
154	42A	仲宿古墳	竹岡字仲宿	円						×	未調査消滅
155	42A	松原古墳	竹岡字松原	円	15			横穴式石室?	墳丘上に神社が建ち現状は低平、社殿前に海蝕礫をもつ大石があり石室材の可能性がある	△	
156	42A	谷A横穴群	竹岡字森戸	横穴					5基		
157	42A	谷B横穴群	竹岡字森戸	横穴					2基(1基埋没)		
158	42A	森戸横穴群	竹岡字森戸	横穴					2基		
159	42A	出し谷横穴群	竹岡字森戸	横穴					6基		
160	42A	仲村横穴群	竹岡字仲村	横穴					9基(有棺床タイプ主体)		
161	42A	萩ノ作古墳	竹岡字萩ノ作	円						×	未調査消滅
162	42A	朱塚古墳	竹岡字踏板沢	円	25						
163	42A	高磯横穴群	萩生字高磯	横穴					6基		
164	42A	打越横穴群	萩生字打越	横穴					4基		
165	42A	弁天山横穴群	金谷字大日	横穴					3基		
166	42A	小山横穴	金谷字小山	横穴					1基	×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
167	42A	金谷仲谷横穴群	金谷字仲台	横穴					2基	○	
168	42A	稲荷横穴群	金谷字井戸ヶ谷	横穴					6基		

■大多喜町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	39	横山峰之台古墳群	横山字峰之台						円墳2基		
3	39	横山古墳群	横山字市場台他						円墳2基		
3-1	39	〃 1号墳	〃	円	周濠外径28.3m	○				×	
3-2	39	〃 2号墳	〃	円		○				×	
3-3	39	〃 3号墳	〃	円		○			土師器(坏)、石製模造品(双孔円盤)	×	
4	39	愛宕山古墳群	横山字新明						前後円墳1基円墳2基		
6	39	横山内岡台遺跡	横山字内岡台						円墳8基		5基消滅
12	40	台古墳群	下大多喜台						前方後円墳1基円墳1基		
13	40	高谷古墳群	下大多喜字高谷						円墳20基		
2	39	横山峰之台横穴群	横山字峰之台	横穴					4基		
5	39	愛宕山横穴群	横山字鍛冶町	横穴					27基		
7	39	栗山谷横穴群	町字栗山谷	横穴					3基		
8	39	猿下横穴群	紙敷	横穴					5基		
9	39	下内田谷横穴	紙敷字下内田谷	横穴							
10	39	広見横穴	小菌字広見	横穴							
11	39	宮ノ森横穴	小菌字宮ノ葉	横穴							
14	40	高谷横穴群	下大多喜字上西谷他	横穴					3支群、6基		
15		百鉾前遺跡	百鉾字百鉾前	横穴							

■夷隅町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	40	飯盛面横穴	須賀谷字飯盛面1826		1基						
2	40	行元寺下横穴群	荻原字行元寺下2150	横穴					3基 人骨		
3	40	堀切下横穴群	荻原字堀切下1533他	横穴					3基		
4	40	上野横穴群	作田字上野129他	横穴					17基		
4-4	40	〃 4号横穴	〃	両袖・縦方形 アーチ形	長3.1m 幅2.8m			奥棺台棺床(刳り抜き棺床)		◎	
4-B3	40	〃 B3号横穴	〃	右片袖・横方形 横アーチ形	長2.3m 幅3.6m			右L字棺台棺床(刳り抜き棺床)		◎	
4-B4	40	〃 B4号横穴	〃	両袖・横方形 横アーチ形	長1.9m 幅2.3m			両棺台棺床(刳り抜き棺床)		◎	
5	40	根方横穴	深谷字浅間1181他	横穴					須恵器(平瓶・提瓶・長頸壺)		
6	40	谷古墳群	島字1007他						円墳3基	×	
7	40	峯ノ台古墳	島字峯ノ台1016	前方後円墳							
8	40	込立谷横穴	能実字込立谷1204	横穴							
9	40	込立Ⅰ横穴	能実字込立1036	横穴							
10	40	込立Ⅱ横穴群	能実字込立1043	横穴					2基		
11	40	上光寺横穴群	松丸字上光寺2898	横穴					2基		
12	40	京後横穴群	神置字京後50-1	横穴					3基		
13	40	三軒町横穴	神置字三軒町288	横穴							
14	40	宮ノ下横穴	神置字宮ノ下407他	横穴							
15	40	宮ノ下Ⅰ横穴群	神置字宮ノ下445	横穴					2基		
16	40	宮ノ下Ⅱ横穴群	神置字宮ノ下439他	横穴					3基		
17	40	観音岳Ⅰ横穴群	小高字観音岳50-1	横穴					4基		
18	40	観音岳Ⅱ横穴群	小高字観音岳50-1	横穴					2基		やぐら転用
19	40	観音岳Ⅲ横穴群	小高字観音岳50-1	横穴					3基		
20	40	観音岳Ⅳ横穴群	小高字観音岳49-1	横穴					5基		
21	40	谷Ⅰ横穴群	小高字谷278	横穴					4基		
22	40	谷Ⅱ横穴	小高字谷279	横穴							

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
23	40	宮ノ脇横穴群	小高字宮ノ脇246	横穴					4基		
24	40	堰谷横穴群	小高字堰谷1-1	横穴					2基		

■御宿町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	40	岩屋口横穴群	西林寺字岩屋口	横穴					4基		
2	40	法蔵寺横穴	六軒町字六軒町	横穴							

■大原町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	墳輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	40	大門台横穴群	山田四区4045他	横穴	3基	×					
2	40	長滝横穴群	高谷	横穴					5基		4基埋没
2-1	40	〃 1号横穴	〃	正方形 ドーム形	長3.1m 幅3.3m			右棺台棺床(刳り抜き棺床)			
2-2	40	〃 2号横穴	〃	アーチ形	幅3.2m						
3	40	佐室横穴群	佐室58	横穴					3基	△	
3-2	40	〃 2号横穴	〃	両袖・横方形 家型寄棟平入形	長1.9m 幅2.7m (全長)2.5m			隔壁を有する。		△	
3-3	40	〃 3号横穴	〃	左片袖・不整形 ドーム形	長2.1m 幅3.1m (全長)4.4m			〃		△	
4	40	部田前横穴群	沢部364他	横穴					4基		
5	40	沢部横穴群	沢部	横穴					3基		
5-1	40	〃 1号横穴	〃	両袖・正方形 ドーム形	長3.2m 幅2.9m (全長)4.7m			無棺台棺床		◎	
5-9	40	〃 9号横穴	〃	両袖・横方形 ドーム形	長1.9m 幅2.4m (全長)3.4m			3棺床並列(刳り抜き棺床)		◎	
5-10	40	〃 10号横穴	〃	両袖・台形 ドーム形	長2.4m 幅3.0m (全長)3.3m			コの字棺台両棺床(刳り抜き棺床)		◎	
5-12	40	〃 12号横穴	〃	両袖・正方形 ドーム形	長2.8m 幅3.1m (全長)3.5m			両棺床(排水溝区画)		◎	
5-13	40	〃 13号横穴	〃	両袖・不整形 ドーム形	長1.9m 幅2.5m (全長)3.8m			隔壁を有する。		◎	
5-14	40	〃 14号横穴	〃	両袖・不整形 ドーム形	長1.5m 幅2.4m (全長)2.6m			隔壁を有する。		◎	
5-15	40	〃 15号横穴	〃	両袖・横方形 ドーム形	長2.0m 幅2.7m (全長)3.9m			右L字棺床(無縁・刳抜棺床) 隔壁を有する。		◎	
6	41A	宮ノ下横穴	山田六区宮ノ下	横穴						△	
7	41A	下光寺谷横穴群	長志	横穴					4基		
7-1	41A	〃 1号横穴	〃	両袖・横方形 ドーム形	長2.2m 幅2.6m (全長)3.8m					◎	
8	41A	鍛冶屋敷横穴群	下布施48他	横穴					7基		
8-1	41A	〃 1号横穴	〃	両袖・台形 ドーム形	長1.9m 幅2.2m (全長)2.9m			コの字棺台両棺床(刳り抜き棺床)		◎	
8-4	41A	〃 4号横穴	〃	両袖・正方形 家型切妻平入形	長2.3m 幅2.6m (全長)3.8m			奥棺床(無縁) 隔壁を有する。		◎	
9	41A	日渡横穴群	下布施名館3147	横穴					6基		
9-4	41A	〃 4号横穴	〃	両袖・台形 ドーム形	長2.4m 幅3.1m (全長)3.1m					◎	
9-5	41A	〃 5号横穴	〃	両袖・台形 ドーム形	長2.1m 幅2.3m (全長)2.6m					◎	
9-6	41A	〃 6号横穴	〃	両袖・正方形 ドーム形	長2.5m 幅2.7m (全長)3.0m			コの字棺台両棺床(刳り抜き棺床)		◎	
10	41A	竜泉地横穴群	上布施	横穴					11基		

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
10-1	41A	〃 1号横穴	〃	両袖・縦方形ドーム形	長1.9m 幅1.7m (全長)2.4m			隔壁を有する。		◎	
10 4	41A	〃 4号横穴	〃	両袖・正方形ドーム形	長2.1m 幅2.4m (全長)3.8m			奥棺床(無縁棺床) 隔壁を有する。		◎	
10-6	41A	〃 6号横穴	〃	両袖・横方形ドーム形	長2.1m 幅2.6m (全長)2.8m			両棺床 (排水溝区画) 隔壁を有する。		◎	
10-7	41A	〃 7号横穴	〃	両袖・正方形ドーム形	長1.9m 幅1.8m (全長)2.6m			隔壁を有する。		◎	
10 8	41A	〃 8号横穴	〃	両袖・不整形ドーム形	長1.7m 幅1.7m			隔壁を有する。		◎	
10 10	41A	〃 10号横穴	隔壁を有する。	両袖・不整形ドーム形	長1.8m 幅2.0m (全長)3.3m			〃			
11	41B	貝須賀横穴群	大井高間谷	横穴					7基		
12	41B	岩船台下横穴群	岩船字台下381	横穴					13基	○	9基埋没

■岬　町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	40	谷上横穴群	谷上字井野田1716	横穴							
2	40	和田ノ谷横穴群	岩熊字和田ノ谷1276	横穴					3基		2基埋没
3	40	御館谷横穴群	岩熊字御館谷2384他	横穴					2基	△	1基消滅 1基半壊
4	40	金月横穴群	岩熊字金月936他	横穴					5基		5基埋没 文11
4-2	40	〃 2号横穴	〃	両袖・逆台形横アーチ形	長3.4m 幅3.6m 全長4.0m			奥棺台棺床 (刳り抜き棺床)		◎	
5	40	巽谷横穴	谷上字巽谷154他	横穴							
6	40	龍前横穴群	谷上字龍前83他	横穴					4基		4基埋没
7	40	栗木谷横穴群	椎木字栗木谷2457他	横穴					6基		5基埋没
8	40	不入横穴群	桑田字不入664他	横穴					2基		
9	40	矢竹城横穴群	桑田字矢竹880他	横穴					17基	○	8基埋没
10	40	中滝横穴群	中滝字谷1821他	横穴					4基		文11
10-1	40	〃 1号横穴	〃	両袖・台形ドーム形	長2.4m 幅3.0m (全長)3.2m			両棺台棺床		◎	
10-2	40	〃 2号横穴	〃	両袖・横方形ドーム形	長2.1m 幅3.0m (全長)3.0m			両棺台棺床 (刳り抜き棺床?)		◎	
10-4	40	〃 4号横穴	〃	両袖・横方形ドーム形	長3.1m 幅3.7m			両棺台棺床 (刳り抜き棺床)		○	
11	40	鴨根横穴群	鴨根字五反田788他						7基		文11
11-3	40	〃 3号横穴	〃	逆台形アーチ形	長3.6m 幅3.3m			無棺台棺床		◎	
11-7	40	〃 7号横穴	〃	両袖・横方形平形	長1.9m 幅2.4m			両棺台棺床 (有縁・無縁棺床)		◎	
12	41C	臼井城横穴群	井沢字城根1311他	横穴					5基		
13	41C	東内城横穴群	三門字東城136他	横穴					3基		
14	41C	東前横穴群	三門字東前66他	横穴					25基		
14 1	41C	〃 1号横穴	〃	両袖・不整形ドーム形	長2.0m 幅1.7m (全長)6.8m			両棺床 (刳り抜き棺床) 隔壁を有する。	土師器(坏)、須恵器(坏蓋)、人骨	×	
14-2	41C	〃 2号横穴	〃	両袖・横方形ドーム形	長2.1m 幅2.9m (全長)5.6m			3棺並列 (刳り抜き棺床) 隔壁を有する。	須恵器(フラスコ形提瓶)、直刀、貝輪、人骨	×	
14-3	41C	〃 3号横穴群	〃	両袖・逆台形アーチ形	長2.3m 幅3.4m (全長)6.4m			両棺床 (刳り抜き棺床) 隔壁を有する。	土師器(坏)、須恵器(平瓶、フラスコ形提瓶)、人骨	×	
14-4	41C	〃 4号横穴	〃	両袖・逆台形アーチ形	長1.8m 幅3.6m (全長)6.8m			4棺並列 (刳り抜き棺床) 隔壁を有する。	土師器(甕)、須恵器(坏、坏蓋、台付短頸壺、長頸壺)、直刀、玉類(ガラス小玉、琥珀製臼玉)、貝輪、人骨	×	
14-5	41C	〃 5号横穴	〃	両袖・台形ドーム形	長2.0m 幅1.9m (全長)4.1m			両棺床 (刳り抜き棺床) 隔壁を有する。	須恵器(坏、碗、長頸壺)、人骨	×	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
15	41C	三門古墳(豆塚)	三門字豆塚39他					直刀・鏡・埴輪		×	
16	41C	椎木横穴群	椎木字南外越3315他	横穴					2基	○	
17	41C	小屋ノ鼻横穴	中原字小屋ノ鼻	横穴							

■勝　浦　市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	46A	小森横穴	浜行川字小森	横穴						◎	
2	46B	長網横穴群	守谷字長網	横穴					8基		
2-1	46B	〃 1号横穴	〃	逆台形					人骨	△	
2-2	46B	〃 2号横穴	〃	逆台形	幅2.6m				須恵器(長頸壺)、鉄釘、人骨	△	
2-3	46B	〃 3号横穴	〃	逆台形	幅3.0m				土師器(坏)、須恵器(長頸壺)	○	
2-4	46B	〃 4号横穴	〃	逆台形	幅2.6m					○	
2-5	46B	〃 5号横穴	〃	逆台形	幅3.2m				須恵器(坏)	△	
2-6	46B	〃 6号横穴	〃	逆台形	幅2.8m					△	
2-7	46B	〃 7号横穴	〃	逆台形	幅3.9m				土師器(埦)、須恵器(提瓶、高坏)、直刀、鉄剣、鉄鏃	△	
2 8	46B	〃 8号横穴	〃	逆台形	幅2.1m					△	
3	46B	長網B横穴	守谷字長網	横穴						◎	
4	46B	稲荷横穴	吉尾字志村	横穴						◎	
5	46B	物見台横穴群	部原字中鳴	横穴					2基	△	

■天津小湊町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	46A	清澄山麓古墳	清澄字妙見山					石棺	須恵器		
2	46A	西蓮寺裏横穴	小湊字谷	横穴							

■鴨　川　市

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	44A	大山横穴群	古畑字諏訪	横穴					4基		
2	45A	金塚古墳	京田字和田	円墳	25×3m					○	
3	45A	毛無占墳	主基西字横岡東下敷								
4	45A	廻塚古墳	大里字上ノ原	円墳						×	
5	45A	広場北古墳	広場字小松原	円墳						×	
6	45A	広場東古墳	広場字中広場	円墳						×	
7	45A	後広場1号古墳	広場字上広場	円墳				刳抜式舟形石棺	直刀・刀子・鉄鏃	×	
8	45A	後広場2号古墳	広場字上広場	円墳	37×3m				土師器	○	
9	45A	広場塚古墳	広場字臼井戸	円墳	20×1.5m					○	
10	45B	岡波太横穴群	岡波太字大渕	横穴					3基		
11	45B	西風早横穴	浜波太西風早	横穴						×	

■鋸　南　町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	43A	厚ケ谷古墳	大帷子字中法花	円墳	12×3.5m				土師器	○	
2	43A	白磯横穴	竜島字玉ノ井	横穴						×	
3	43A	大黒山横穴群	勝山字大黒山	横穴					11基	△	フェンス被覆のため内部探索困難風化著しい
4	43A	谷横穴	勝山字谷	横穴							お堂内部にあり内部探索不可能
5	43A	観音ボラ横穴群	岩井袋字入り						3基。無袋道。玄室無袖・横長形の袋状小形横穴(1基含む)	△	風化著しい
6	43A	岩井袋横穴群	岩井袋字入り	横穴					12基	△	フェンス被覆のため内部探索不可能
7	43A	板井ケ谷横穴群	竜島字板井ケ谷						15基	△	埋没、風化著しい
8	43A	板井ケ谷南横穴	竜島字板井ケ谷						無袋道。玄室無袖・横長形の袋状小形横穴。	◎	

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
9	43A	板井ヶ谷東横穴	竜島字板井ヶ谷	横穴							ほぼ埋没
10	43A	大乗院横穴群	下佐久間字南田町					1基両棺台棺床(無縁)含む。	18基。玄室平面形が正方形と袋状の小形横穴を含む。	△	風化著しく、数基はやぐら転用
11	43A	堤ヶ谷北横穴	下佐久間字堤ヶ谷	横穴							
12	43A	堤ヶ谷南横穴	下佐久間堤ヶ谷	横穴							
13	43A	森越横穴	下佐久間字森越	横穴						△	後世の攪乱あり

■富山町

番号	図版番号	名称	所在地	墳形	規模(m)(上)墳丘(下)全体	周堀	埴輪	内部施設	概要	遺存度	備考
1	43A	恩田原古墳群	久枝字恩田原				有		前方後円墳1基円墳2基	×	
2	43A	冷水横穴群	高崎字冷水						4基。無羨道。玄室無袖・横長形、天井平型。	◎	
3	43B	大谷横穴群	高崎字大谷						3基。	◎	1基半壊
4	43B	岩婦横穴群	高崎字芝	横穴					3基。	△	風化・崩落著しい。
5	43B	鬼ヶ谷横穴群	高崎字鬼ヶ谷	横穴					2基。		
6	43B	小瀦横穴	小瀦	無羨道。玄室無袖・横長形、天井平型						◎	

■富浦町

番号	図版番号	名称	所在地	形式	規模(m)玄室・長・幅	内部施設	概要	遺存度	備考
1	43B	山崎横穴群	南無谷字山崎				2基。玄室両袖・正方形と無羨道・玄室無袖・正方形の2タイプ天井平型	◎	
2	43B	高田横穴	豊岡字高田	横穴			玄室両袖・正方形・天井平型	◎	
3	43B	高田南横穴群	豊岡字高田	横穴		1基のみ、奥棺床(壁内棺床)有する	12基。無羨道・玄室無袖・横長形と縦方形・天井平型	◎	風化やや著しい
4	43B	高田西横穴群	豊岡字高田	横穴			3基。羨道・玄室無袖・横長形と縦方形・天井平型	◎	1基石塔有り。1基半壊
5	43B	谷東横穴群	豊岡字谷	横穴			4基。無羨道を含む。玄室無袖・両袖の2タイプ。縦長形と逆台形。天井平型土師器。須恵器	△	崩落・風化著しい。
6	43B	谷西横穴群	豊岡字谷	横穴			6基。玄室両袖・逆台形と無袖・縦長形の2タイプ・天井平型	◎	風拡・埋没著しい。1基埋没
7	43B	谷南横穴群	豊岡字谷	横穴			6基。無羨道。玄室無袖・正方形の小形横穴群。	○	
8	43B	和田横穴群	豊岡字和田	横穴			4基。無羨道。玄室無袖・横長形と逆台形の2タイプ。天井平型	○	
9	43B	大谷横穴群	豊岡字四反目	横穴			7基。	○	1基改変著しい、4基捜索不可能
10	43B	磯津畑南横穴群	豊岡字磯津畑	横穴			2基。	△	崩落・風化著しい
11	43B	磯津畑北横穴群	豊岡字磯津畑				5基。玄室逆台形。天井平型	○	
12	43B	野ヶ谷横穴	豊岡字野ヶ谷	横穴					
13	43B	豊岡横穴群	豊岡字大谷				3基。無羨道。玄室無袖・横長形、天井平型	◎	
14	43B	沢又A～D横穴群	豊岡字沢又				A群(3基)B群(3基)C群(12基)D群(5基)。無羨道。玄室無袖・横長形と逆台形の2タイプ。天井平型	◎	
15	43B	丹生原横穴群	丹生字丹生原	横穴			3基		
16	43B	大ノ田横穴	丹生字大ノ田	横穴					
17	43B	柳作横穴	丹生字柳作	横穴					
18	43B	大武佐古墳	多田良字磯の脇	円墳			直刀・刀子・鉄鏃・須恵器	×	消滅

■三芳村

番号	図版番号	名称	所在地	形式	規模(m)玄室・長・幅	内部施設	概要	遺存度	備考
1	44B	正木岡横穴群	上畑字龍田	横穴			21基		
2	44B	宝珠院遺跡	府中字宝珠院				円墳3基		
3	44B	市場横穴群	本郷字市場	横穴			7基		
4	44B	延命寺山古墳	本郷字峰岸	円墳					
5	44B	平池横穴群	中字大月	横穴			2基		
6	44B	明石古墳	明石字入ノ谷	円墳					
7	44B	明石横穴群	明石288				5基。無羨道。玄室無袖・正方形の小形横穴群	◎	
8	44B	池之内横穴群	池之内字西谷	横穴		壁内棺床多数	28基	◎	埋没・全壊9基
9	44B	在戸横穴群	池之内字岩井作	横穴		〃	36基	◎	埋没・全壊17基
9-2	44B	〃 2号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長4.0m・幅3.2m (全長)4.0m	奥2棺床(壁内棺床)		◎	
9-3	44B	〃 3号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長3.6m・幅4.4m (全長)3.6m	奥2棺床(無縁・壁内棺床)		◎	
9-4	44B	〃 4号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長3.6m 間2.7m (全長)3.6m	奥棺床(壁内棺床)		◎	
9-5	44B	〃 5号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長1.3m・幅1.5m (全長)1.3m	奥棺床(壁内棺床)		◎	
9-6	44B	〃 6号横穴	〃	逆台形 ドーム形	長1.6m・幅2.1m (全長)1.6m	〃		◎	
9-7	44B	〃 7号横穴	〃	逆台形 ドーム形	長3.5m・幅3.0m (全長)3.5m	〃		◎	
9-11	44B	〃 11号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長3.0m・幅2.1m (全長)3.0m			◎	
9-12	44B	〃 12号横穴	〃	両袖・縦方形 アーチ形	長4.0m・幅2.9m (全長)5.0m	奥棺床(無縁棺床)		◎	
9-13	44B	〃 13号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長3.5m・幅3.1m (全長)3.5m	奥棺床(壁中棺床)		◎	
9-14	44B	〃 14号横穴	〃	両袖・横方形 家型、切妻妻入形	長2.8m・幅4.4m (全長)5.6m	両棺床(壁内棺床)		◎	
9-15	44B	〃 15号横穴	〃	アーチ形	長2.6m・幅1.9m (全長)2.6m	奥棺床(壁内棺床)		◎	
10	44B	根方横穴群	谷向字根方	横穴			2基		
11	44B	大沼横穴群	大学口字池田	横穴			5基	◎	
11-2	44B	〃 2号横穴	〃	ドーム	2.1m	右棺床(壁内棺床)		◎	
11-3	44B	〃 3号横穴	〃	右片袖・逆台形 ドーム形	長2.1m・幅2.1m (全長)2.7m	右L字棺床(刳抜・壁内棺床)		◎	
11-4	44B	〃 4号横穴	〃	右片袖・不整形 アーチ形	長3.1m・幅3.0m (全長)3.8m	右L字棺床(刳抜棺床)		◎	
11-5	44B	〃 5号横穴	〃	ドーム形	幅2.6m	無棺台棺床		◎	
11-8	44B	〃 8号横穴	〃	不整形 ドーム形	長2.3m (全長)3.3m	無棺台棺床		◎	
12	44B	谷津横穴群	谷向字池ヶ谷	横穴			20基	◎	
12-B1	44B	〃 B－1号横穴	〃	左片袖・不整形 アーチ形	長2.5m・幅2.9m (全長)2.9m	奥棺床(壁内棺床)		◎	
12-B2	44B	〃 B－2号横穴	〃	不整形 ドーム形	長3.6m・幅3.4m (全長)3.6m	右L字棺床(壁内棺床)		◎	
12-B3	44B	〃 B－3号横穴	〃	不整形 家型宝形	長2.7m・幅3.3m (全長)2.7m	奥棺床(壁内棺床)		◎	
12-B5	44B	〃 B－5号横穴	〃	不整形 アーチ形	長3.0m・幅2.6m (全長)3.0m	〃		◎	
12-B7	44B	〃 B－7号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長2.9m・幅3.9m (全長)2.9m	〃 (無縁棺床)		◎	
12-C1	44B	〃 C－1号横穴	〃	両袖・不整形 アーチ形	長4.8m・幅5.4m (全長)5.1m	コの字棺床(壁内棺床)		◎	
12-C2	44B	〃 C－2号横穴	〃	両袖・不整形 アーチ形	長5.3m・幅5.2m (全長)6.0m	〃		◎	
12-C3	44B	〃 C－3号横穴	〃	両袖・正方形 家型宝形	長3.5m・幅3.3m (全長)4.4m	無棺台棺床		◎	
12-C4	44B	〃 C－4号横穴	〃	両袖・不整形 アーチ形	長3.4m・幅3.7m (全長)4.0m	〃		◎	
12-C5	44B	〃 C－5号横穴	〃	不整形 アーチ形	長2.9m・幅2.4m (全長)2.9m	奥棺台棺床(刳抜き棺床)		◎	

番号	図版番号	名称	所在地	形式	規模(m) 玄室・長・幅	内部施設	概要	遺存度	備考
12-C 6	44B	〃 C－6号横穴	〃	両袖・不整形 アーチ形	長3.0m・幅4.0m (全長)3.6m	左L字棺床(壁内棺床)		◎	
12-C 7	44B	〃 C－7号横穴	〃	両袖・不整形 ドーム形	長3.7m・幅5.0m (全長)4.4m	両棺床(壁内棺床)		◎	
12-C 8	44B	〃 C－8号横穴	〃	両袖・不整形 アーチ形	長3.7m・幅3.7m (全長)3.7m	奥棺台棺床・右棺床(無縁棺床・壁内棺床)		◎	
12-C 9	44B	〃 C－9号横穴	〃	両袖・不整形 ドーム形	長3.0m・幅2.3m (全長)3.5m	無棺台棺床		◎	
12-C 10	44B	〃 C 10号横穴	〃	不整形 アーチ形	長2.6m・幅2.3m (全長)2.6m	〃		◎	
12-C 12	44B	〃 C 12号横穴	〃	両袖・縦方形 家型宝形	長3.7m・幅3.6m (全長)4.5m	〃		◎	
12-C 13	44B	〃 C－13号横穴	〃	不整形 アーチ形	長4.4m・幅3.7m (全長)4.4m	〃		◎	
13	44B	清水谷横穴群	海老数字清水谷	横穴		刳り抜き棺床、壁内棺床含む。	3基	◎	
14	44B	六代横穴群	海老数字六代	横穴		〃	21基	◎	2基埋没
15	44B	百入横穴群	御庄字百入	横穴			12基		
16	44B	川辺横穴群	御庄字川辺	横穴			2基		
17	44B	田畑横穴群	御庄字田畑	横穴			2基		
18	44B	和田横穴群	御庄字下森	横穴			2基		
19	44B	長所横穴群	山名字長所	横穴			2基		
20	44B	北戸妻横穴群	山名字北戸妻	横穴			8基	◎	
20-1	44B	〃 1号横穴	〃	逆台形 ドーム形	長3.2m・幅3.2m (全長)3.2m	奥棺台棺床(無縁棺床)		◎	
20-2	44B	〃 2号横穴	〃	不整形 ドーム形	長2.5m・幅3.4m (全長)2.5m	無棺台棺床		◎	
20 3	44B	〃 3号横穴	〃	不整形 アーチ形	長4.3m・幅3.4m (全長)4.3m	奥棺床(壁内棺床)		◎	
20-4	44B	〃 4号横穴	〃	両神・逆台形 ドーム(ヴ)	長4.9m・幅3.5m (全長)6.0m	奥棺台棺床(刳技棺床)		◎	
20-5	44B	〃 5号横穴	〃	右片袖・不整形 アーチ形	長4.0m・幅4.4m (全長)4.0m	左L字棺床(壁内棺床)		◎	
20-6	44B	〃 6号横穴	〃	両袖・不整形 アーチ形	長4.0m・幅5.4m (全長)4.6m	右L字棺台棺床(刳技棺床)		◎	
20-8	44B	〃 8号横穴	〃	左片袖・不整形 ドーム形	長4.2m・幅3.7m (全長)4.9m	無棺台棺床		◎	
21	44B	年ノ宮神社脇横穴群	山名字花見台	横穴			3基	◎	
21-1	44B	〃 1号横穴	〃	両袖・ ドーム形		奥棺台棺床(刳技棺台)		◎	
21-2	44B	〃 2号横穴	〃	両袖・ ドーム形		無棺台棺床		◎	
21-3	44B	〃 3号横穴	〃	両袖・横方形 ドーム形	長4.5m・幅5.3m	両棺台棺床(刳技棺床)		◎	
21-4	44B	〃 4号横穴	〃	両袖・横方形 平形	長3.5m・幅4.2m (全長)4.3m	右棺台棺床(刳技棺床)		◎	
22	44B	観音山横穴群	山名字山間	横穴			3基		
23	44B	観音山横穴群	山名字諸子節	横穴			3基		
24	44B	平沢横穴群	山名字平沢	横穴			6基		
25	44B	大谷横穴群	山名字大谷	横穴			4基		
26	44B	鬼ヶ作横穴群	山名字鬼ヶ作	横穴			15基		
27	44B	舟ヶ作横穴群	山名字舟ヶ作147－2	横穴			16基		
27-1	44B	〃 1号横穴	〃	不整形 アーチ(ド)	長2.2m・幅2.1m (全長)2.2m	左L字棺床(壁内棺床)		◎	
27-2	44B	〃 2号横穴	〃	不整形 ドーム(ヴ)	長3.0m・幅3.0m (全長)3.0m	左L字棺床(壁内棺床)		◎	
27-3	44B	〃 3号横穴	〃	不整形 ドーム形	長3.8m・幅2.8m (全長)3.8m	奥棺床(壁内棺床)		◎	
27-9	44B	〃 9号横穴	〃	不整形 平形	長4.2m・幅3.9m (全長)4.2m	〃 (無縁棺床)		◎	
27-10	44B	〃 10号横穴	〃	不整形 平形	長2.5m・幅1.8m (全長)2.5m	〃		◎	
27-11	44B	〃 11号横穴	〃	不整形 ドーム形	長2.8m・幅3.2m (全長)2.8m	左棺床(壁内棺床)		◎	

番号	図版番号	名称	所在地	形式	規模(m) 玄室・長・幅	内部施設	概要	遺存度	備考
27-12	44B	〃 12号横穴	〃	不整形 ドーム(ヴ)	長2.7m・幅2.5m (全長)2.7m	奥棺台棺床(無縁棺床)		◎	
27-13	44B	〃 13号横穴	〃	不整形 アーチ形	長1.9m・幅2.1m (全長)1.9m	奥棺台棺床(無縁棺床)		◎	
27-14	44B	〃 14号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長1.9m・幅2.2m (全長)1.9m	〃		◎	
27-15	44B	〃 15号横穴	〃	不整形 アーチ形	長4.4m・幅2.7m (全長)4.4m	〃		◎	
27-16	44B	〃 16号横穴	〃	逆台形 アーチ形	長2.6m・幅1.9m (全長)2.6m	〃		×	

■館山市

番号	図版番号	名称	所在地	形式	規模(m) 玄室・長・幅	内部施設	概要	遺存度	備考
1	43B	御霊横穴群	舘形字御霊567他	横穴			5基	◎	
2	43B	大座久保横穴群	川名字大座久保	横穴			3基	◎	
3	43B	鶴作A横穴群	小原字鶴作	横穴			3基	◎	
4	43B	鶴作B横穴群	〃	横穴			5基	◎	
5	43B	鶴作C横穴群	〃	横穴			4基	◎	
6	43B	菅ノ入A横穴群	小原字菅ノ入	横穴			28基	◎	数基埋没
7	43B	菅ノ入B横穴群	〃	横穴			6基	◎	
8	43B	山岸横穴群	正木字山岸	横穴			5基		急崖に位置するため内部捜困難。
9	43B	稲原古墳	小原字引通	円墳	5×1m				
10	44B	上御狩A横穴群	正木字上御狩	横穴			15基	◎	一部埋没
11	44B	上御狩B横穴群	〃	横穴			5基	◎	〃
12	44B	上御狩大塚山古墳	正木字上御狩	前方後円墳	20×2m				
13	44B	宿内古墳	高井字宿内	円墳	10×2m				
14	44B	萱野古墳	国分字萱野	円墳				◎	市指定史跡異名「孝子塚」
15	44B	狐塚古墳	腰越字狐塚						
16	44B	江田横穴群	江田	横穴		壁内棺床多数、刳技棺床2基含む	36基。玄室両袖あり、縦長形・逆台形の2タイプ。天井ドーム・アーチ形含む。	◎	数基埋没
17	44B	岩井作横穴群	滝ノ谷字岩井作	横穴		隔壁有する横穴含む。	40基。家型天井を有する横穴含む。	◎	
18	44B	角田横穴群	大井字角田	横穴			家型天井を有する横穴含む。	◎	
19	47	中行谷横穴群	出野尾字中行谷	横穴			5基	◎	
20	47	翁作古墳	坂井字翁作	円墳			環頭大刀・圭頭刀・須恵器・人骨	×	消滅
21	47	大塚山横穴群	大神宮字内大塚	横穴			4基	△	崩落著しい。
22	47	栗ノ前横穴群	神余字栗ノ前	横穴			5基。隔壁有する横穴含む。	◎	
23	48	相ノ沢三ツ塚古墳	神余相ノ沢	円墳			直刀	×	消滅
24	48	熊野横穴群	東長田字熊野	横穴			37基	◎	
25	48	東山横穴群	南条字東山	横穴			38基	◎	
26	48	大網横穴群	大網字仲台	横穴			5基。家形天井、隔壁を有する横穴含む。	◎	
27	48	峯古墳	山本字峯				大刀・蜻蛉玉		
28	48	林ヶ作横穴	宝貝字林ヶ作	横穴				◎	
29	48	岩井作横穴群	稲字岩井作	横穴			16基。隔壁有する含む。	◎	
30	48	竹尾横穴群	稲字竹尾	横穴			4基	◎	
31	48	西作横穴群	稲字西作	横穴			9基	◎	
32	48	北方横穴群	水岡字北方	横穴			2基	◎	
33	48	下夕田横穴群	水岡字下夕田	横穴			6基	○	
34	48	小網横穴群	安東字小網	横穴			10基	◎	数基崩落
35	48	高田横穴群	安東字高田	横穴			3基	◎	
36	48	内田横穴群	安東字内田	横穴			6基	◎	崩落やや著しい
37	48	大井の畑亀古墳	大井字小山	円墳	15×2m				

■和　田　町

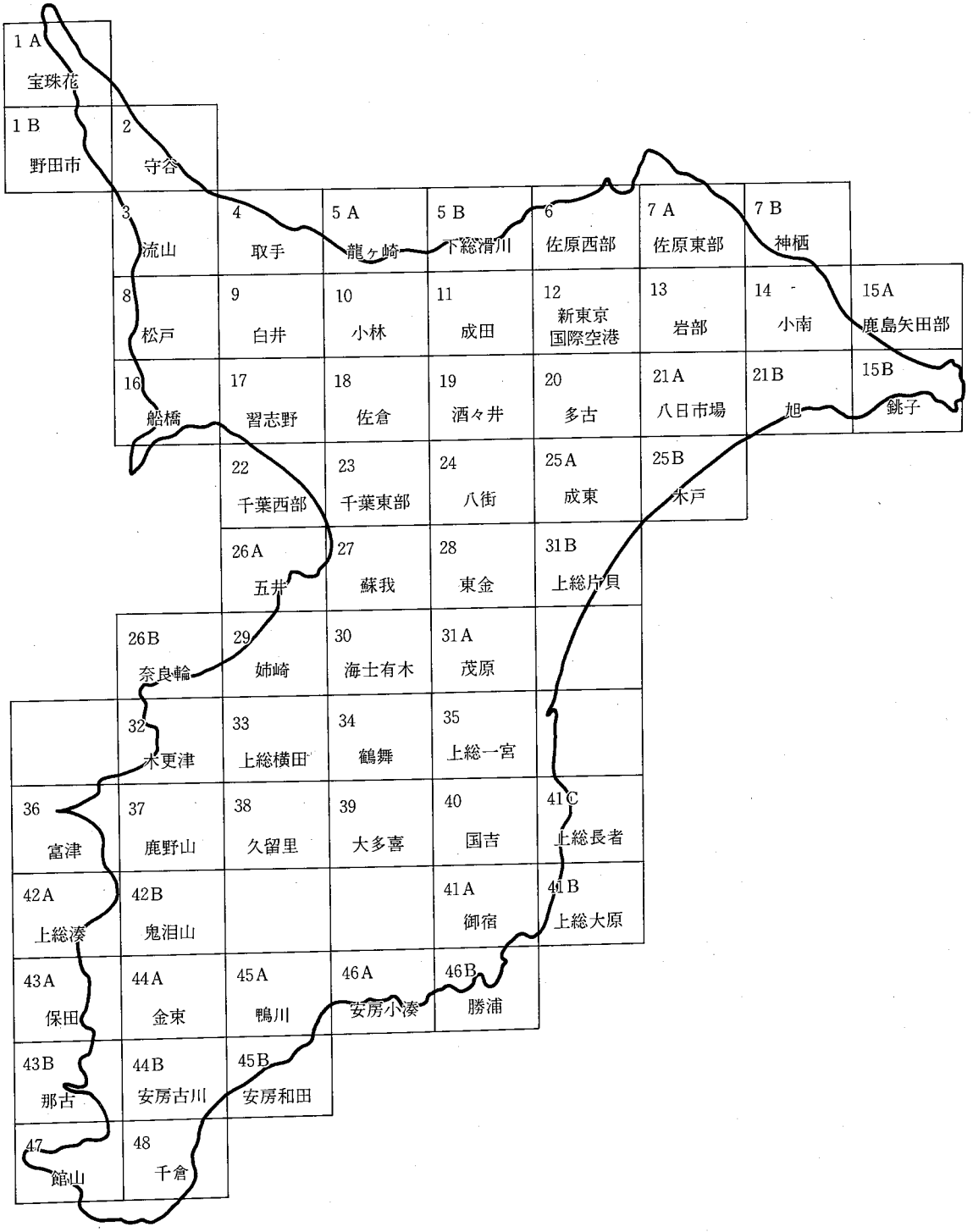
番号	図版番号	名　称	所在地	形　式	規模(m) 玄室・長・幅	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	44B	寺谷横穴群	中三原字寺谷	横穴		無棺台棺床	2基。玄室、両袖・正方形、天井平型1基含む。	◎	
2	45B	筒井横穴群	小川字筒井	横穴		壁内棺床	2基	◎	
3	45B	浅池横穴群	小川字浅地	横穴			6基		
4	45B	向畑横穴群	小川字向畑	横穴		壁内棺床2基含む。	3基。玄室、縦長形、天井平型2基含む。	○	
5	45B	真浦横穴	真浦字大塚	横穴					

■丸　山　町

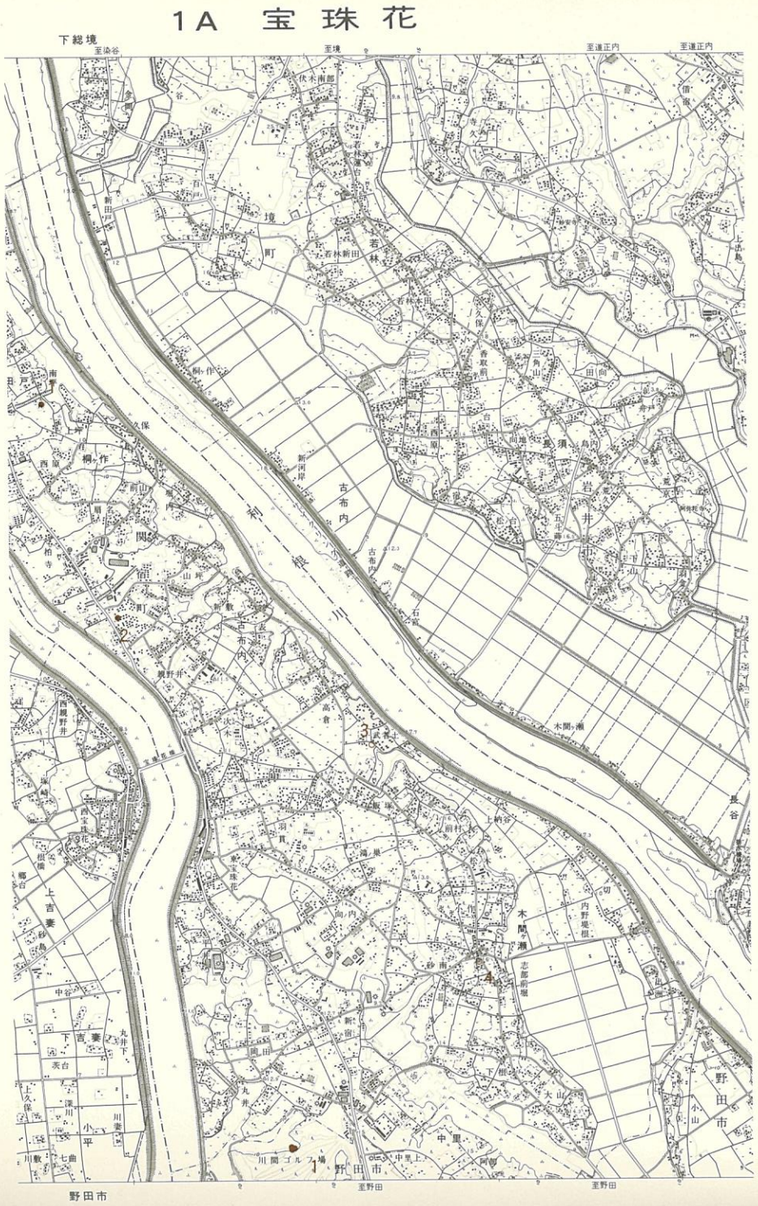
番号	図版番号	名　称	所在地	形　式	規模(m) 玄室・長・幅	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	44B	清水横穴群	丸本郷字沢田1	横穴		壁内棺床含む	6基		3基埋没
2	44B	安楽寺横穴墓	丸本郷字清水	横穴		壁内棺床多い。奥棺台棺床(刳抜棺床)1基含む。	13基	◎	1基埋没
3	44B	峯横穴群	峯	横穴			2基		
4	44B	沓見横穴群	角ヶ谷	横穴		無縁棺台棺床、壁内棺床など多数。	12基	◎	1基埋没
5	44B	塚崎横穴群	堂谷	横穴		刳抜棺床、壁内棺床多数。	17基。縦長形多い。	◎	6基埋没
6	44B	加茂第1横穴	加茂字堀切	横穴					
7	44B	加茂第2横穴	加茂字堀ノ内1	横穴					
8	44B	加茂第3横穴	加茂字堀ノ内2	横穴					
9	44B	神門第1横穴	加茂字神門3	横穴					
10	44B	神門第2横穴	加茂字神門1	横穴					
11	44B	峰山横穴群	峯	横穴			2基		
12	44B	大沼第1横穴群	安馬谷1653他	横穴		壁内棺床1基含む。	6基		4基埋没
13	44B	大沼第2横穴群	安馬谷1730他	横穴			4基		2基埋没
14	44B	大沼第3横穴群	安馬谷	横穴		壁内棺1基含む	3基	◎	
15	44B	岩糸横穴	岩糸字岩井作	横穴					
16	44B	西原横穴群	西原字池田	横穴			2基		
17	44B	二ツ塚古墳	二ツ塚	円墳				○	一部破壊
18	44B	釜滝横穴群	珠師ヶ谷字釜滝181他	横穴			3基		2基埋没
19	44B	犬栗横穴群	小戸字犬栗	横穴			2基		
20	44B	関谷第1横穴群	小戸字関谷1	横穴			8基		
21	44B	関谷第2横穴群	小戸字関谷2	横穴			4基		
23	44B	小谷横穴群	石堂字谷3	横穴			2基		
24	44B	大庭横穴群	珠師ヶ谷字大庭	横穴		無縁棺台棺床、壁内棺床など多数。	22基	◎	やぐら再利用1基含む
25	44B	下栗野第1横穴群	石堂字下栗野3	横穴			25基	◎	
26	44B	下栗野第2横穴群	石堂字下栗野2	横穴		無縁・刳抜棺台棺床含む。	5基	◎	1基全壊
27	44B	下栗野第3横穴群	石堂字下栗野1	横穴		無縁棺台棺床、壁内棺床など多数。	14基。無縁棺台棺床、壁内棺床など多数。	3基全壊	
28	44B	下小谷第1横穴群	石堂字下小谷3	横穴			2基		
29	44B	下小谷第2横穴群	石堂字下小谷1～2	横穴			11基		
30	44B	永野台1号墳	石堂字永野261－1	円墳	有	木棺直葬	須恵器(短頸壺)、玉類(碧玉製管玉、ガラス小玉)埴輪(円筒・形象)	×	墳丘削平
31	44B	永野台2号墳	石堂字永野261－1	前方後円墳	有		玉類、埴輪		
32	44B	永野台第1横穴群	石堂字永野			隔壁を有する横穴1基を含む。	4基	△	
33	44B	永野台第2横穴群	石堂字永野1～2			壁内棺床含む。	5基	△	
34	44B	石堂横穴群	石堂			無縁棺床、刳抜棺床を含む。	7基	◎	
35	44B	谷田横穴群	丸山町				4基		

■千　倉　町

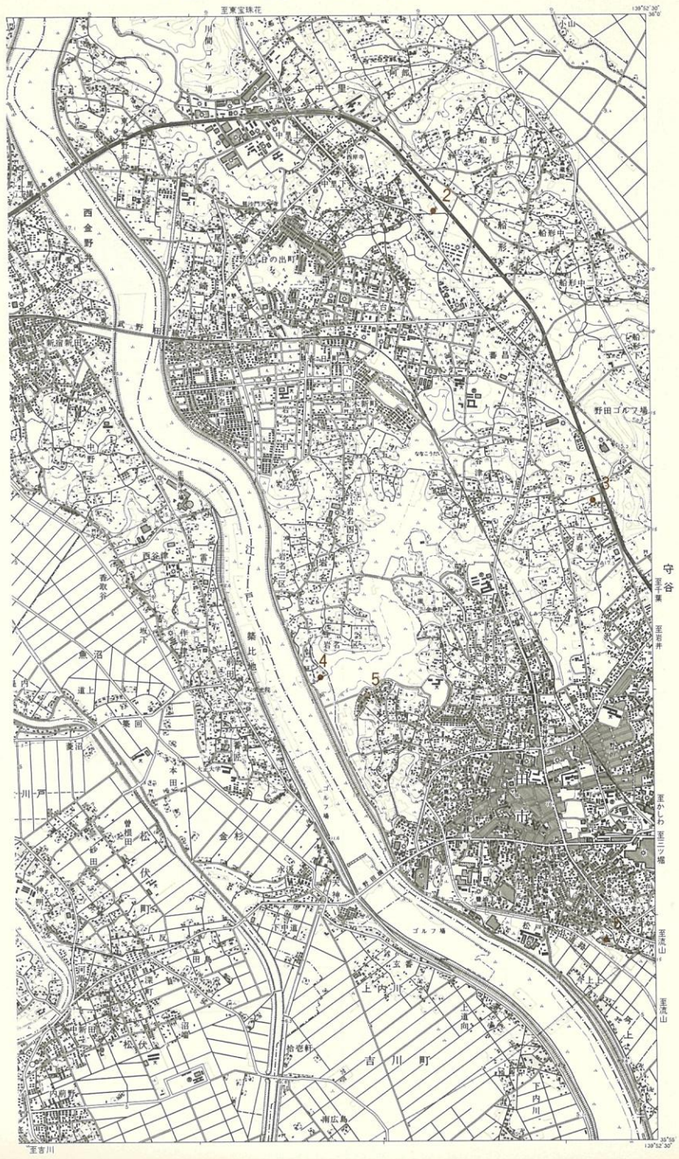
番号	図版番号	名　称	所在地	形　式	規模(m) 玄室・長・幅	内部施設	概　要	遺存度	備　考
1	48	深作横穴群	字田字深作	横穴			11基		
2	48	下り松横穴群	字田字下り松	横穴			2基		
3	48	一反田古墳群	字田字一反田	横穴			2基		
4	48	駒寄横穴群	大貫字駒寄	横穴			7基		
5	48	谷横穴群	北朝夷字上ノ塚				4基		
6	48	大和田古墳	瀬戸字大和田	円墳	18×3cm			◎	
7	48	本郷上ノ岱古墳群	字田字本郷他				前方後円墳1基、円墳3基、方墳1基	◎	
7-3	48	〃　3号墳	〃	円墳	18×3m			◎	
8	48	日向薬師横穴群	瀬戸字薬師前621	横穴			5基	◎	
8-4	48	〃　4号横穴	〃	逆台形平、型	長1.3・幅3.0m(全長)4.9m	奥棺台棺床(無縁棺床)	須恵器(平瓶)、鉄製品	◎	
9	48	雲龍寺古墳	久保字黒ヶ谷	円墳	8×1m				


1A
宝珠花
1B
野田市
2
守谷
3
流山
4
取手
5A
龍ヶ崎
5B
下総滑川
6
佐原西部
7A
佐原東部
7B
神栖
8
松戸
9
白井
10
小林
11
成田
12
新東京
国際空港
13
岩部
14
小南
15A
鹿島矢田部
16
船橋
17
習志野
18
佐倉
19
酒々井
20
多古
21A
八日市場
21B
旭
15B
銚子
22
千葉西部
23
千葉東部
24
八街
25A
成東
25B
木戸
26A
五井
27
蘇我
28
東金
31B
上総片貝
26B
奈良輪
29
姉崎
30
海士有木
31A
茂原
32
木更津
33
上総横田
34
鶴舞
35
上総一宮
36
富津
37
鹿野山
38
久留里
39
大多喜
40
国吉
41C
上総長者
42A
上総湊
42B
鬼泪山
41A
御宿
41B
上総大原
43A
保田
44A
金束
45A
鴨川
46A
安房小湊
46B
勝浦
43B
那古
44B
安房古川
45B
安房和田
47
館山
48
千倉

1A　宝珠花

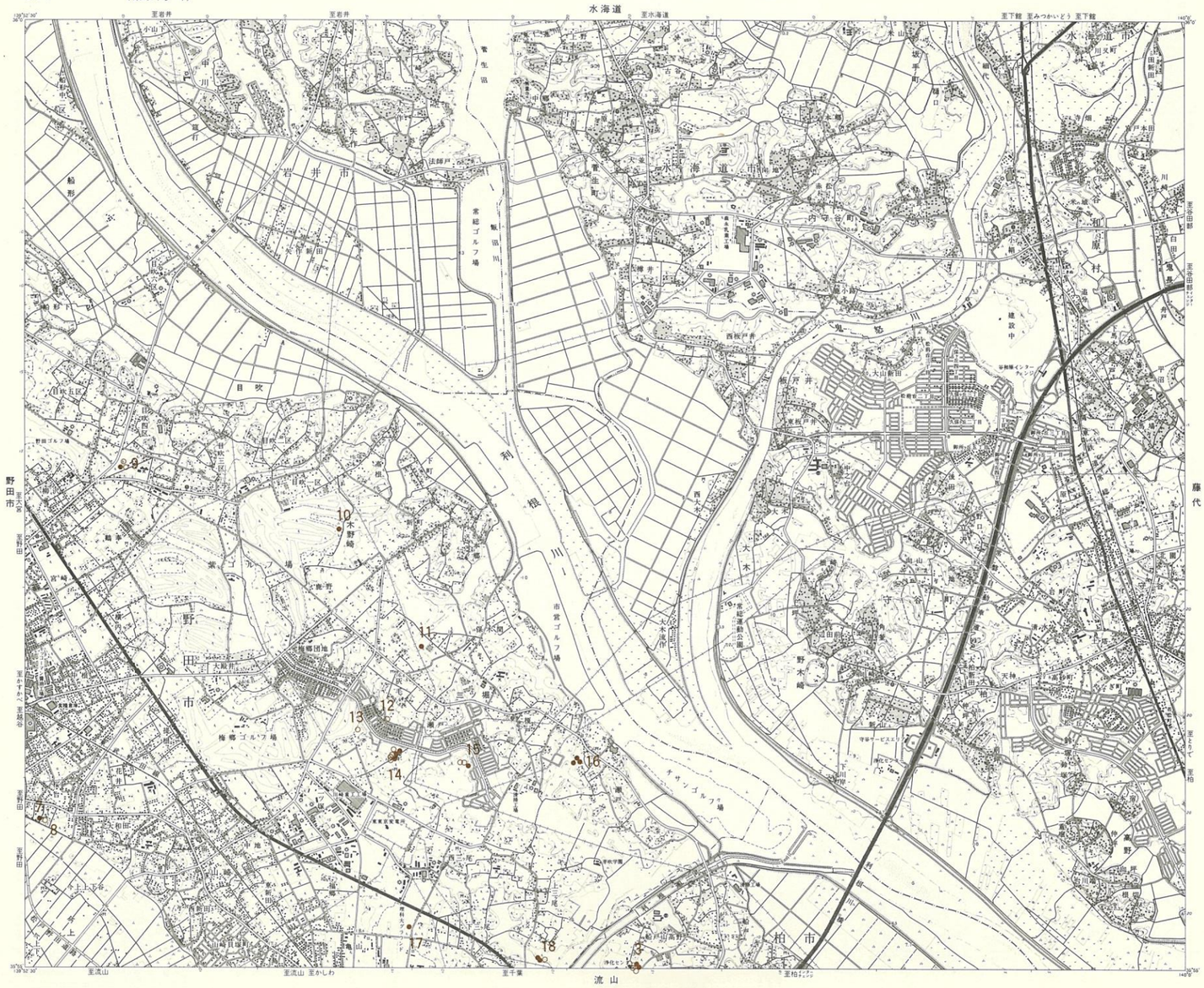


1B　野田市



I:25,000地形図　NI-54-25-I-1
もりや　（東京1号-1）

2　守　谷



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法，座標帯は第54帯，中央子午線は東経141°
2. 図形に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°30'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 野田市
B. 柏市
茨城県
C. 岩井市
D. 水海道市
E. 北相馬郡　守谷町
F. 筑波郡　谷和原村

索引図

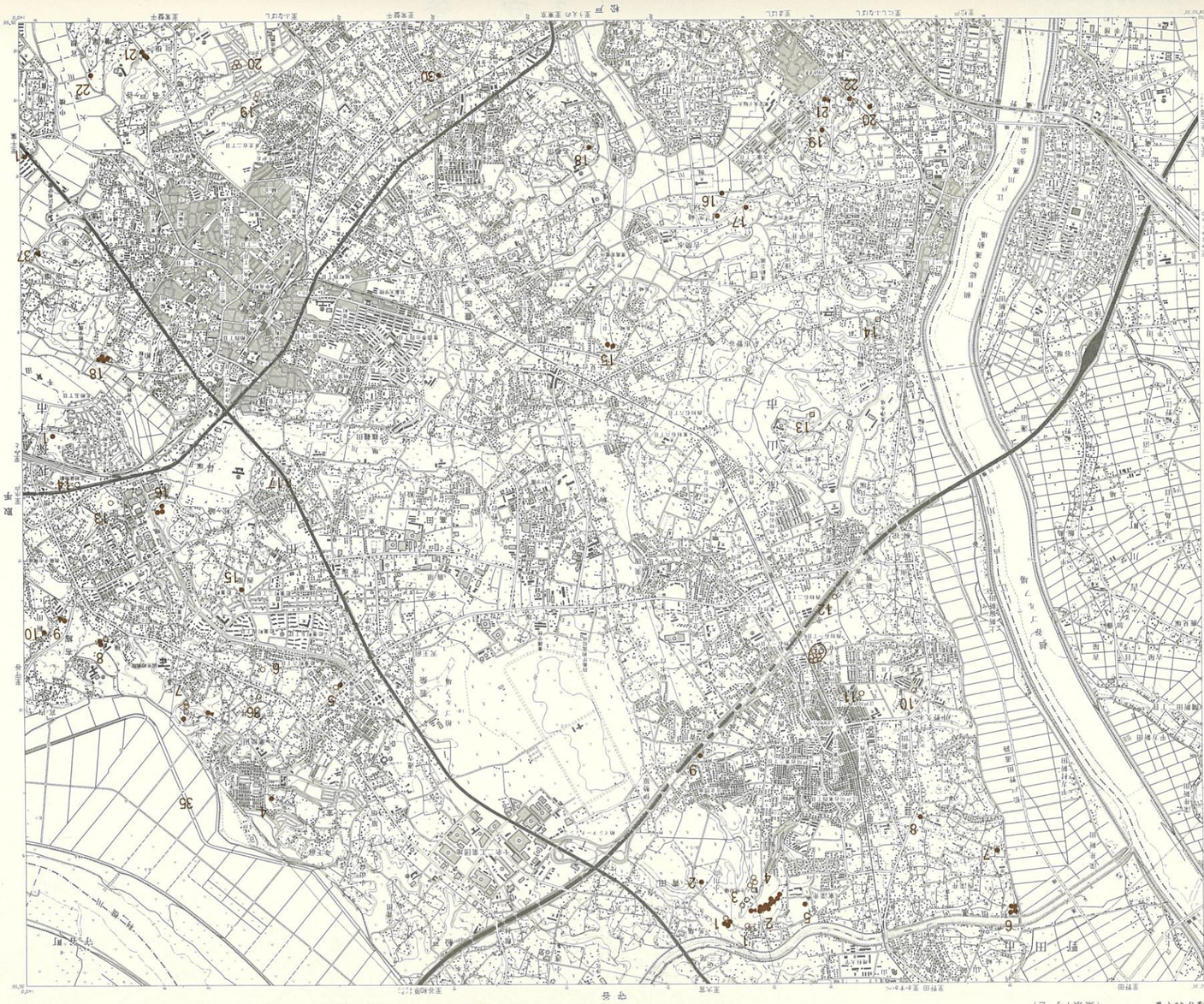
昭和27年測量
昭和51年改測
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和58年11月撮影
2. 現地調査は昭和59年6月実施

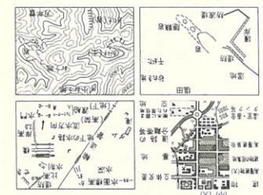
1:25,000　守　谷

昭和61年2月28日発行（3色刷）
著作権所有兼発行者　国土地理院
許可なく複製を禁ずる

3 済　山

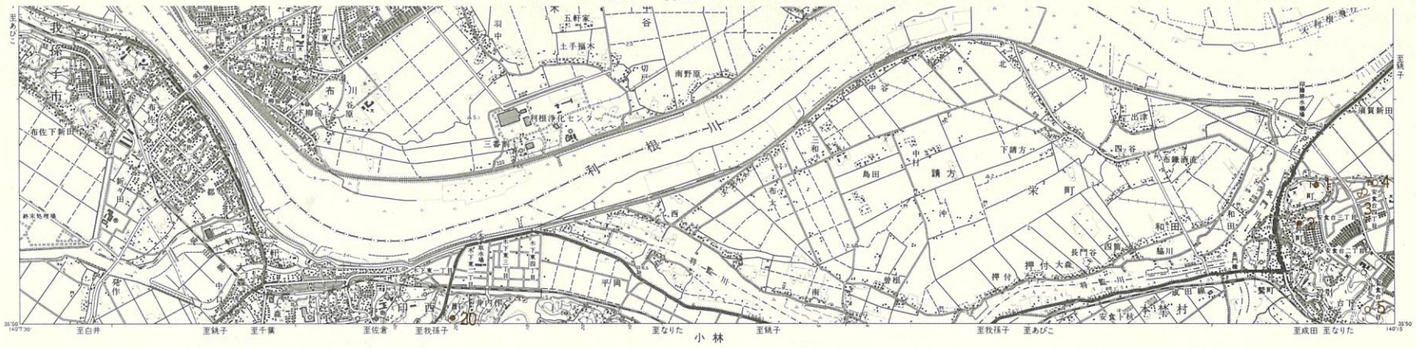
1:25,000 地形図　NI-54-25-1-2
（裏京1号-2）



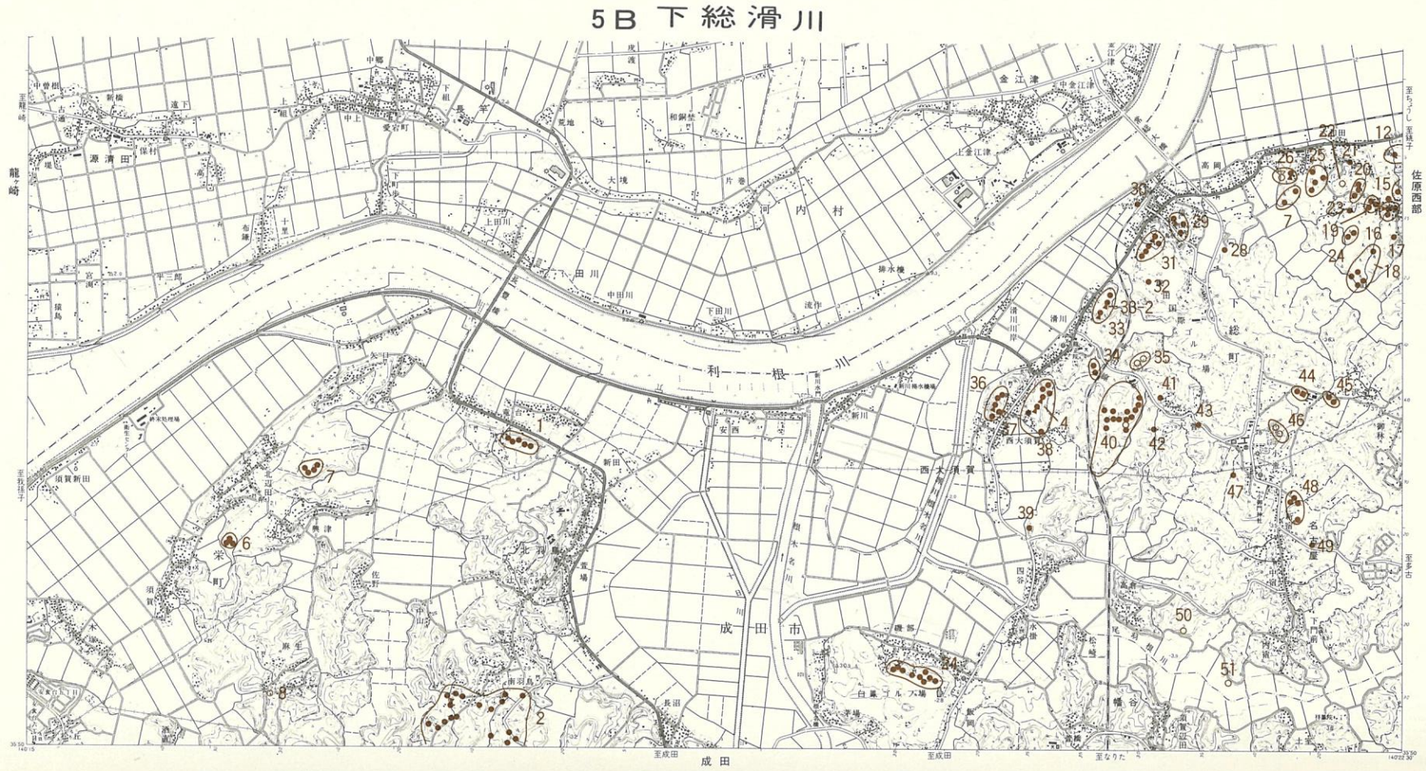




5A 龍ヶ崎



5B 下総滑川



I:25,000 地形図 NI-54-19-9-2
さわらせいぶ （千葉9号-2）

6 佐原西部



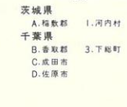
記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標系は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°30'（昭和60年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画



索引図



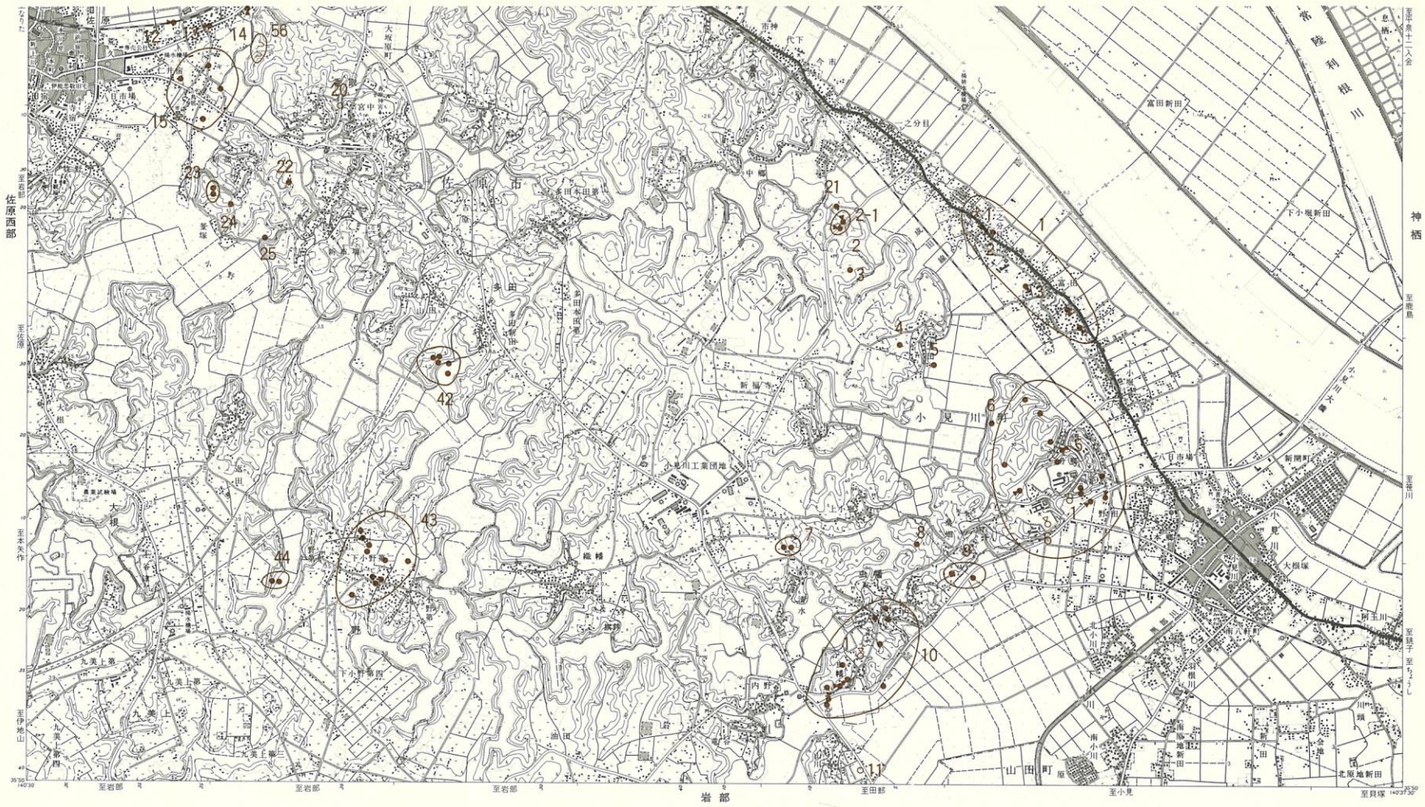
茨城県
A.稲敷郡 1.河内村 2.東村
千葉県
B.香取郡 3.下総町 4.神崎町 5.大栄町
C.成田市
D.佐原市

昭和3年測量
昭和55年第2回改測
昭和60年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和58年5月撮影
2. 現地調査は昭和60年7月実施

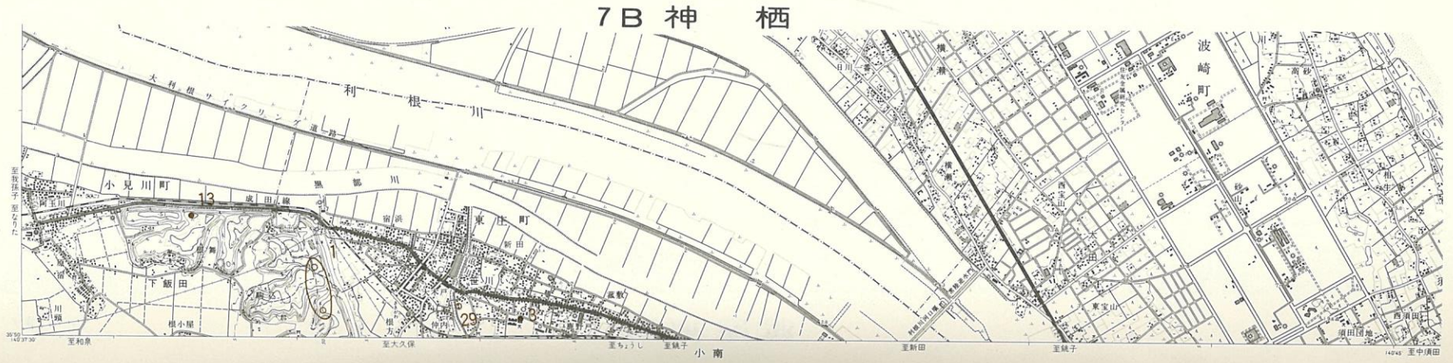
1:25,000 佐原西部

昭和61年7月30日発行（3色刷）
許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者 国土地理院

7A 佐原東部



7B 神　栖

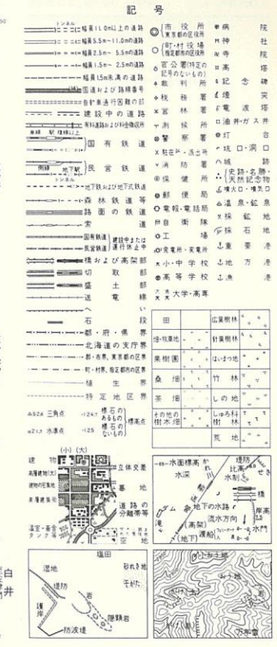


1:25,000 地形図　NI-54-25-2-1
まつど　（東京2号-1）

8 松　戸



記号







1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約 6° 20'（昭和55年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）に25,000地形図図式

行政区画



索引図

越谷	流山	取手
草加		白井
東京都心	船橋	習志野

埼玉県
A. 三郷市
千葉県
B. 流山市
C. 松戸市
D. 柏市
E. 東葛飾郡　沼南町
F. 鎌ヶ谷市
G. 市川市
H. 船橋市
東京都
I. 島飾区

明治36年測量
昭和51年第2回改測
昭和55年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和54年10月撮影
2. 現地調査は昭和55年5月実施
3. 境界は昭和55年6月19日現在

1:25,000　松　戸

昭和56年11月30日発行（3色刷）

許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-14-3
しろい　（千葉14号-3）

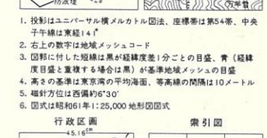
9 白　井

5340-50



記号

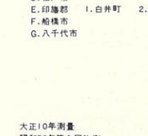






1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 石上の数字は地域メッシュコード
3. 図郭に付した短縮は黒が経緯度差1分ごとの目盛、青（経緯度目盛と重複する場合は黒）が基準地域メッシュの目盛
4. 高さの基準は東京湾の平均海面、等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°30'
6. 図式は昭和61年1:25,000地形図図式

行政区画



索引図

流山	取手	鎌ヶ崎
松戸		小林
船橋	習志野	佐倉

千葉県
A. 東葛飾郡　沼南町
B. 柏市
C. 鎌ヶ谷市
D. 松戸市
E. 印旛郡　1. 白井町　2. 印西町
F. 船橋市
G. 八千代市

大正10年測量
昭和53年第2回改測
昭和62年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和61年6月撮影
2. 現地調査は昭和62年6月実施

1:25,000 白　井

昭和63年5月30日発行（3色刷）

許可なく（複製を禁ずる
著作権所有兼発行者

国土地理院

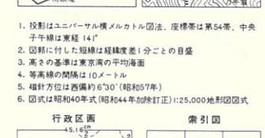
1:25,000 地形図　NI-54-19-14-1
こばやし　（千葉14号-1）

10 小　林



記号







1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短縮は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°30'（昭和57年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画



索引図

取手	鎌ヶ崎	下総浦川
白井		成田
習志野	佐倉	酒々井

千葉県
A. 印旛郡　1. 印西町　2. 栄町　3. 本埜村
　4. 印旛村
B. 八千代市
C. 佐倉市

大正10年測量
昭和53年第2回改測
昭和57年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和56年10月撮影
2. 現地調査は昭和57年8月実施
3. 境界は昭和55年9月19日現在

1:25,000 小　林

昭和58年11月30日発行（3色刷）

許可なく（複製を禁ずる
著作権所有兼発行者

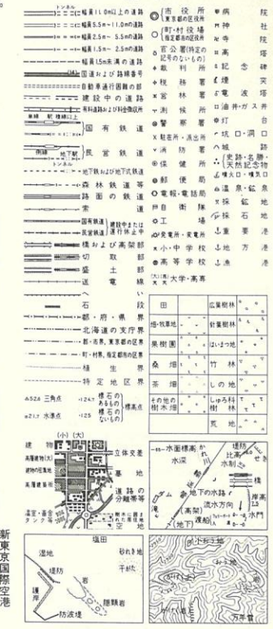
国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-10-3
なりた　（千葉10号-3）

11 成　田



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標等は第54等、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加修訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

索引図

龍ヶ崎	下総滑川	佐原西部
小林		新東京国際空港
佐倉	酒々井	多古

千葉県
A.印旛郡　1.栄町　2.本埜村　3.印旛村
4.酒々井町　5.富里村
B.成田市

大正10年測量
昭和55年第2回改測
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和58年6月撮影
2. 現地調査は昭和59年10月実施

1:25,000　成　田

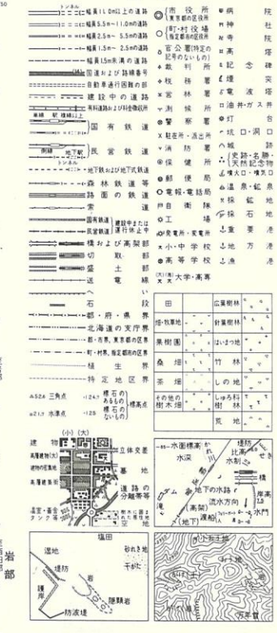
昭和61年5月30日発行（3色刷）
著作権所有兼発行者　国土地理院
許可なく複製を禁ずる

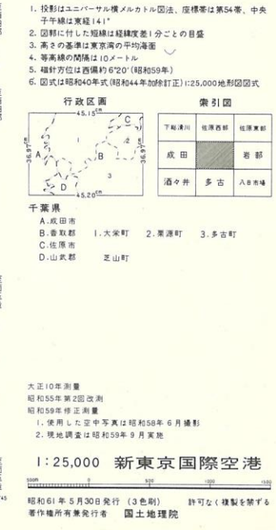
1:25,000 地形図　NI-54-19-10-1
しんとうきょうこくさいくうこう　（千葉10号-1）

12 新東京国際空港



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標等は第54等、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加修訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

索引図

下総滑川	佐原西部	佐原東部
成田		岩部
酒々井	多古	八日市場

千葉県
A.成田市
B.香取郡　1.大栄町　2.栗源町　3.多古町
C.佐原市
D.山武郡　芝山町

大正10年測量
昭和55年第2回改測
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和58年6月撮影
2. 現地調査は昭和59年9月実施

1:25,000　新東京国際空港

昭和61年5月30日発行（3色刷）
著作権所有兼発行者　国土地理院
許可なく複製を禁ずる

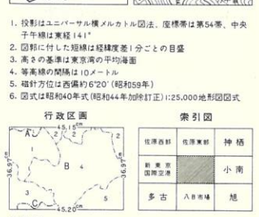
I:25,000 地形図　NI-54-19-6-3
いわべ　（千葉6号-3）

13 岩　部



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短縮は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画



索引図



千葉県
A.佐原市
B.香取郡　1.東庄町　2.小見川町　3.多古町
4.山田町　5.干潟町
C.八日市場市

昭和42年測量
昭和54年改測
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和58年6月撮影
2. 現地調査は昭和59年10月実施

I:25,000　岩　部

昭和61年7月30日発行（3色刷）　許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

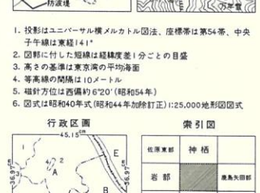
I:25,000 地形図　NI-54-19-6-1
こみなみ　（千葉6号-1）

14 小　南



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短縮は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和54年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画



索引図



千葉県
A.香取郡　1.小見川町　2.東庄町　3.山田町　4.干潟町
B.銚子市
C.海上郡　海上町
D.旭市
茨城県
E.鹿島郡　波崎町

昭和42年測量
昭和54年改測
1. 使用した空中写真は昭和53年8月撮影
2. 現地調査は昭和54年6月実施
3. 境界は昭和54年6月27日現在

I:25,000　小　南

昭和56年5月30日発行（3色刷）　許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

15A 鹿島矢田部



1:25,000 地形図 NI-54-19-2-2・4
ちょうし (千葉2号-2・4)

15B 銚子



1:25,000 地形図 NI-54-25-2-2
ふなばし (東京2号-2)

16 船橋



記号



1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'(昭和55年)
6. 図式は昭和40年式(昭和44年加除訂正)に25,000地形図図式

行政区画

東京都
A. 葛飾区
B. 江戸川区
千葉県
C. 松戸市
D. 市川市
E. 鎌ヶ谷市
F. 船橋市
G. 浦安市

索引図

明治36年測量
昭和51年第2回改測
昭和55年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和54年10月撮影
2. 現地調査は昭和55年7月実施
3. 境界は昭和55年7月11日現在
江戸川区と市川市の境界は一部未定

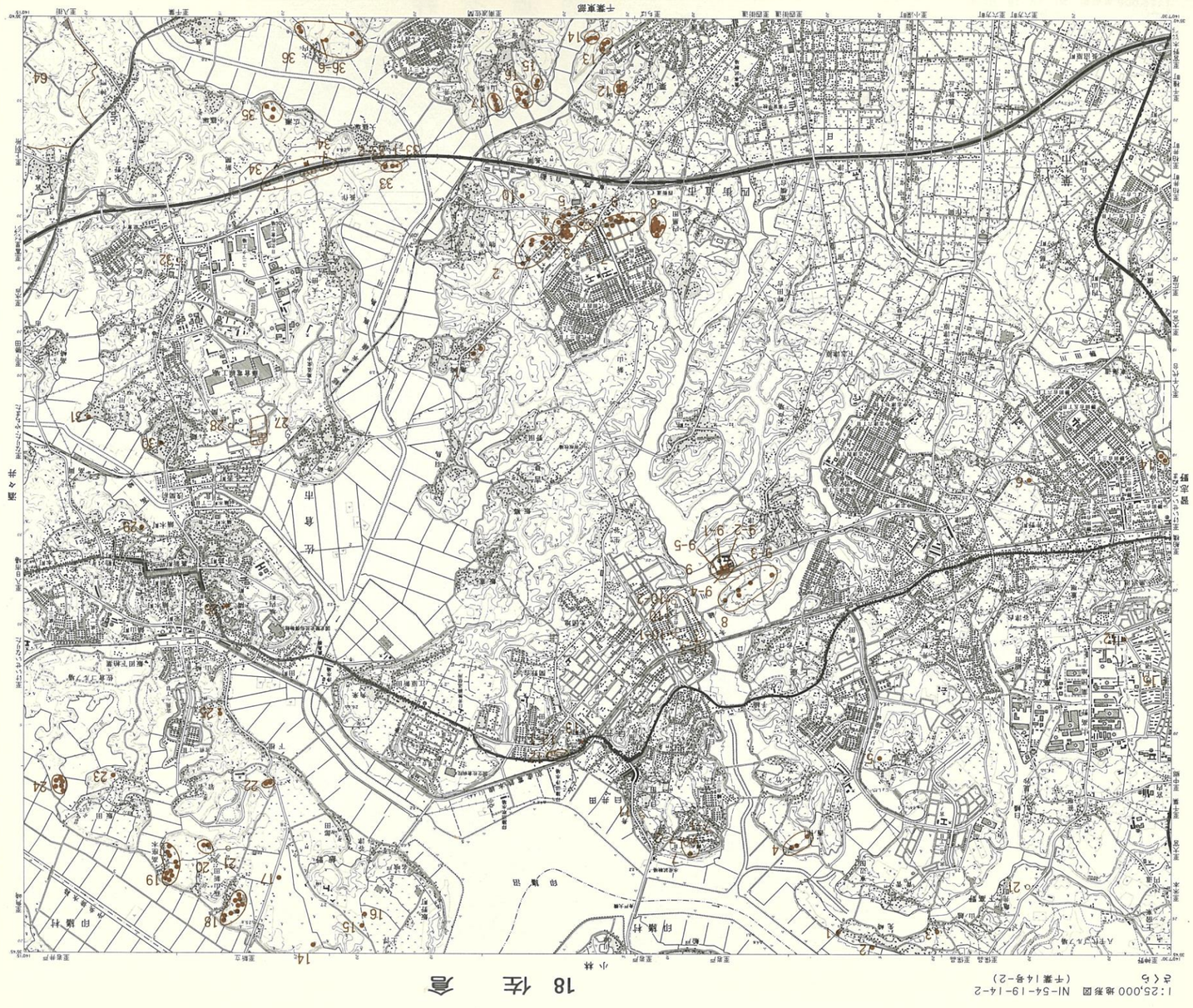
1:25,000 船橋

昭和56年12月28日発行 (3色刷)
許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者 国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-14-2

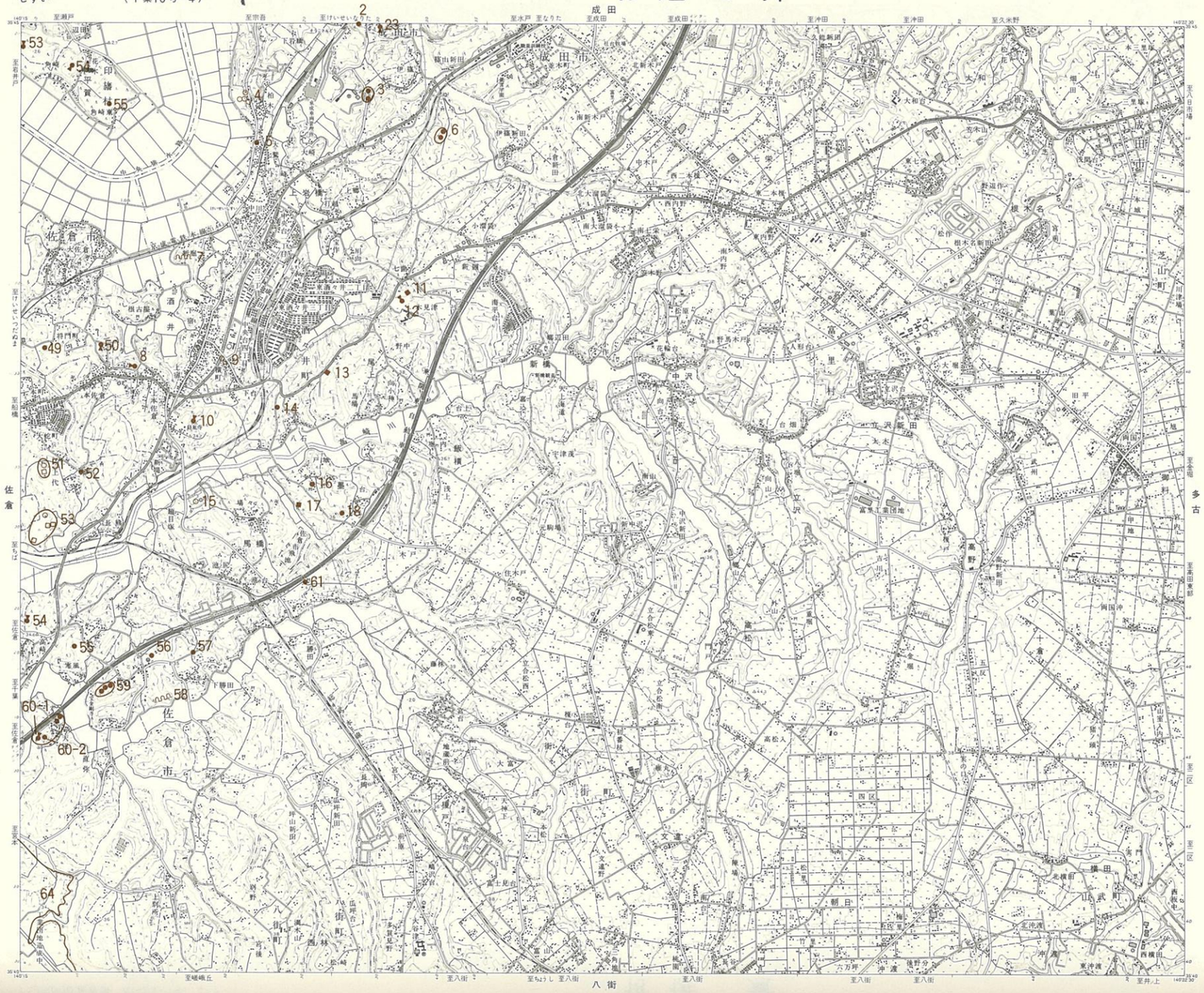
18 佐　倉

さくら　（千葉14号-2）


佐倉市
印旛村
千葉県
千葉東部
千葉北部
千葉南部
千葉西部
小林
臼井
染井
鹿島川
高崎川
新川
JR総武本線
東京
成田
佐倉駅
京成佐倉駅
JR成田線
京成本線
東京電力㈱千葉火力発電所
陸上自衛隊第一空挺団降下訓練場
陸上自衛隊第一空挺団降下訓練場
東京大学農学部附属演習林
千葉県立佐倉高等学校
千葉県立佐倉東高等学校
千葉県立佐倉西高等学校
千葉県立佐倉南高等学校
千葉県立佐倉城址公園
佐倉城址公園
佐倉城跡
佐倉城
佐倉藩主堀田家墓所
佐倉藩主堀田家墓所
佐倉藩主堀田家墓所

1:25,000 地形図　NI-54-19-10-4
しすい　（千葉10号-4）

19 酒々井



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

索引図

千葉県
A.印旛郡　1.印旛村　2.酒々井町　3.富里村　4.八街町
B.成田市
C.佐倉市
D.山武郡　5.芝山町　6.山武町

大正10年測量
昭和55年第2回改測
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和58年6月撮影
2. 現地調査は昭和59年10月実施

1:25,000 酒々井

昭和61年5月30日発行（3色刷）

許可なく複製を禁ずる

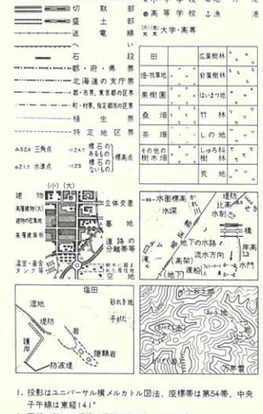
著作権所有兼発行者　国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-10-2
たこ　（千葉10号-2）

20 多古



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

索引図

千葉県
A.成田市
B.山武郡　1.芝山町　2.山武町　3.横芝町　4.松尾町
C.香取郡　多古町
D.印旛郡　富里村
E.八日市場市
F.匝瑳郡　光町

大正10年測量
昭和55年第2回改測
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和58年6月撮影
2. 現地調査は昭和59年9月実施

1:25,000 多古

昭和61年6月30日発行（3色刷）

許可なく複製を禁ずる

著作権所有兼発行者　国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-6-4
ようかいちば　（千葉6号-4）

21A 八日市場

1:25,000 地形図　NI-54-19-15-3
ちばせいぶ　（千葉15号-3）

22 千葉西部

21B 旭







記号



1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和57年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 船橋市
B. 習志野市
C. 千葉市

索引図

船橋	習志野	佐倉
浦安		千葉東部
	五井	蘇我

大正10年測量
昭和53年第2回改測
昭和57年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和56年10月撮影
2. 現地調査は昭和57年8月実施
3. 境界は昭和55年9月19日現在

1:25,000　千葉西部

昭和58年11月30日発行　（3色刷）

許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-15-1
ちばとうぶ　（千葉15号-1）

23 千葉東部





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）に25,000地形図図式

大正10年測量
昭和53年第2回改測
昭和57年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和56年10月撮影
2. 現地調査は昭和57年8月実施
3. 境界は昭和55年9月18日現在

1:25,000 千葉東部

昭和58年11月30日発行（3色刷）　許可なく（複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-11-3
やちまた　（千葉11号-3）

24 八　街

5340-32





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 右上の数字は地域メッシュコード
3. 図郭に付した短線は黒が経緯度差1分ごとの目盛、青（経緯度目盛と重複する場合は黒）が基準地域メッシュの目盛
4. 高さの基準は東京湾の平均海面、等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'
6. 図式は昭和61年1:25,000地形図図式

大正10年測量
昭和55年第2回改測
昭和62年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和61年6月撮影
2. 現地調査は昭和62年6月実施

1:25,000 八　街

昭和63年5月30日発行（3色刷）　許可なく（複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

25A 成　東

25B 木　戸

5340-34
5340-24

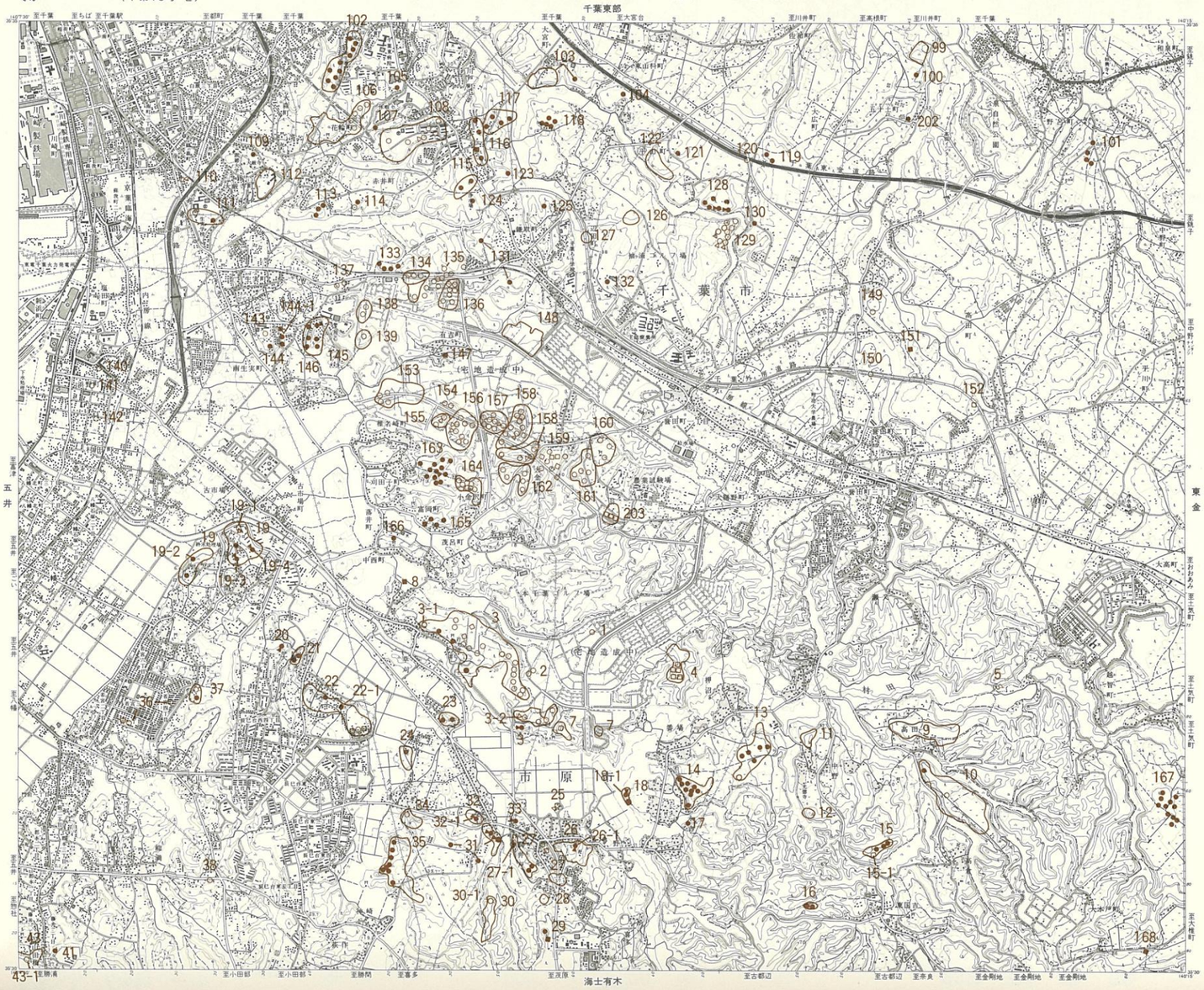
26A 五　井

26B 奈 良 輪

1：25,000 地形図　NI-54-19-15-2
そが　（千葉15号-2）

27 蘇　我

千葉東部

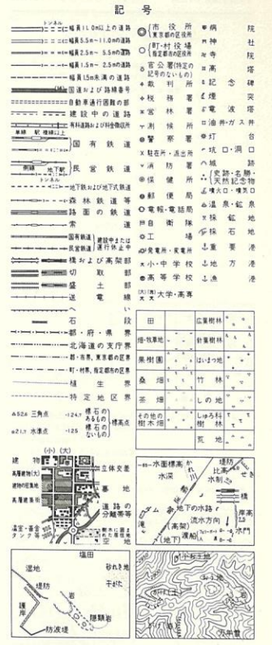

千葉
千葉東部
千葉中央
千葉駅
千葉港
千葉大宮台
千葉高根町
千葉川井町
千葉
千葉ポートタワー
千葉ポートパーク
千葉市役所
千葉市立病院
千葉市立中央図書館
千葉県庁
千葉県立中央博物館
千葉県立美術館
千葉県立中央図書館
千葉県立中央体育館
千葉県立中央公園
千葉県立中央プール
千葉県立中央球場
千葉県立中央運動場
千葉県立中央陸上競技場
千葉県立中央野球場
千葉県立中央テニスコート
千葉県立中央サッカー場
千葉県立中央ラグビー場
千葉県立中央バスケットボール場
千葉県立中央バレーボール場
千葉県立中央ハンドボール場
千葉県立中央ソフトボール場
千葉県立中央ホッケー場
千葉県立中央ゴルフ

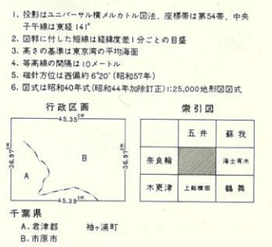
1:25,000 地形図　NI-54-19-16-3
あねさき　（千葉16号-3）

29 姉　崎



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短縮は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20′（昭和57年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加修訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 君津郡　袖ヶ浦町
B. 市原市

索引図

昭和37年測量
昭和53年改測
昭和57年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和56年10月撮影
2. 現地調査は昭和57年8月実施
3. 境界は昭和55年9月26日現在

1:25,000　姉　崎

昭和59年3月30日発行（3色刷）
許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-19-16-1
あまありき　（千葉16号-1）

30 海士有木



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短縮は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20′（昭和57年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加修訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 市原市
B. 長生郡　1. 長柄町　2. 長南町
C. 茂原市

索引図

昭和37年測量
昭和53年改測
昭和57年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和56年10月撮影
2. 現地調査は昭和57年8月実施
3. 境界は昭和55年9月26日現在

1:25,000　海士有木

昭和58年11月30日発行（3色刷）
許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

31A 茂　原

31B 上総片貝

1:25,000 地形図　NI-54-25-4-2
きさらづ　（東京４号-２）

32 木更津



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20′（昭和57年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 木更津市
B. 君津郡　袖ヶ浦町
C. 君津市

索引図

東京島	奈良輪	姉崎
大堀		上総橋田
富津	鹿野山	久留里

大正10年測量
昭和53年第２回改測
昭和57年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和56年10月撮影
2. 現地調査は昭和57年８月実施
3. 境界は昭和55年９月27日現在

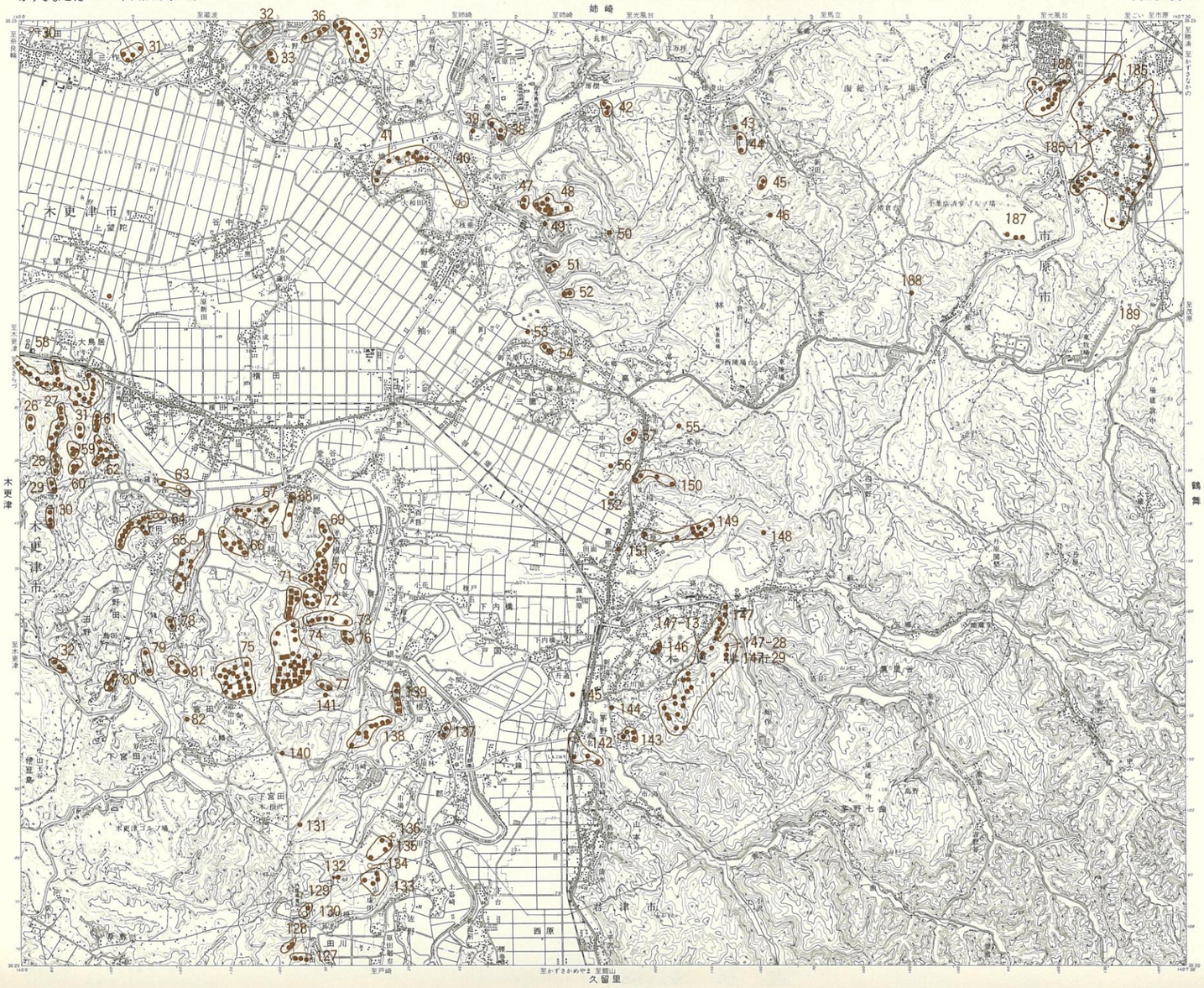
1:25,000 木更津

昭和58年10月30日発行（３色刷）
著作権所有兼発行者　国土地理院
許可なく複製を禁ずる

1:25,000 地形図　NI-54-19-16-4
かずさよこた　（千葉16号-4）

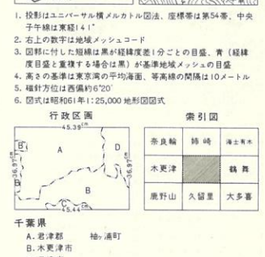
33 上総横田

5340-00



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標系は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 右上の数字は地域メッシュコード
3. 図郭に付した短線は黒が経緯度差1分ごとの目盛、青（経緯度目盛と重複する場合は黒）が基準地域メッシュの目盛
4. 高さの基準は東京湾の平均海面、等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'
6. 図式は昭和61年1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 君津郡　柚浦町
B. 木更津市
C. 君津市
D. 市原市

索引図

昭和45年測量
昭和53年改測
昭和62年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和61年 5月撮影
2. 現地調査は昭和62年 7月実施

1:25,000 上総横田

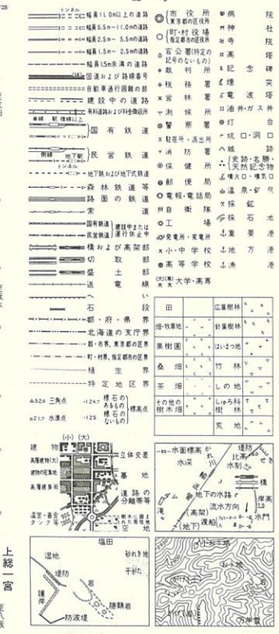
昭和63年11月30日発行（3色刷）　許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

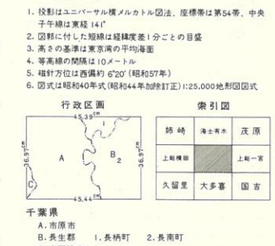
1:25,000 地形図　NI-54-19-16-2
つるまい　（千葉16号-2）

34 鶴　舞



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標系は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約 6°20'（昭和57年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 市原市
B. 長生郡　1. 長柄町　2. 長南町
C. 木更津市

索引図

昭和45年測量
昭和53年改測
昭和57年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和56年10月撮影
2. 現地調査は昭和57年 8月実施
3. 境界は昭和55年 9月26日現在

1:25,000 鶴　舞

昭和58年10月30日発行（3色刷）　許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-26-1-3

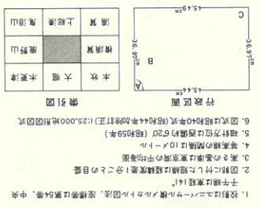
ふっさ　（横須賀Ｉ号-3）

36 富　津

大堀　　上総湊　　国道16号









1:25,000 地形図　NI-54-26-I-I
かのうざん　（横須賀I号-I）

37 鹿野山

木更津

至木更津

至ちば

至木更津

至木更津

至たてやま

至館山

至アザー牧場

至佐貫・凍

至鴨川

至久留里

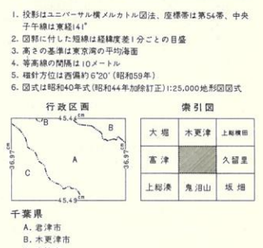
富津

鹿野山

鬼泪山

記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標系は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加修訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 君津市
B. 木更津市
C. 富津市

索引図

大堀	木更津	上総横田
富津		久留里
上総湊	鬼泪山	坂畑

大正10年測量
昭和45年改測
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和59年7月撮影
2. 現地調査は昭和59年11月実施

1:25,000 鹿野山

昭和61年1月30日発行（3色刷）
著作権所有兼発行者　国土地理院
許可なく複製を禁ずる

1:25,000 地形図　NI-54-20-13-3
くるり　（大多喜13号-3）

38 久留里

上総横田

至きさらず　至木更津

至木更津　至かずさかめやま　至館山

至鴨川

至館山

至木更津

至佐貫・凍

至アザー牧場

至鴨川

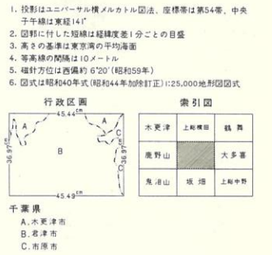
至久留里

鹿野山

大多喜

坂畑





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標系は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加修訂正）1:25,000地形図図式

行政区画

千葉県
A. 木更津市
B. 君津市
C. 市原市

索引図

木更津	上総横田	鎌倉
鹿野山		大多喜
鬼泪山	坂畑	上総中野

昭和45年測量
昭和59年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和59年7月撮影
2. 現地調査は昭和59年11月実施

1:25,000 久留里

昭和60年11月30日発行（3色刷）
著作権所有兼発行者　国土地理院
許可なく複製を禁ずる

1:25,000 地形図　NI-54-20-9-3

40 国 吉

（大多喜9号-3）

上総一宮



凡例



千葉県



鴨川	上総一宮	茂原北	
大多喜		上総東	
上総中野	御宿	上総大原	

A. 鴨川市　1. 長狭町　2. 鴨川市　3. 一宮町
B. 長南町　4. 大多喜町　5. 長南町　6. 睦沢町
7. 大原町

隣接図

1. 印刷はユニバーサルデザインフォント(見やすい文字)を使用しています。
2. 図郭に付した図種は図種変更(ページとの目安
3. 表示の基準は変更前の予約用図
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°0′（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式(改正昭和44年部分修正)1:25,000地形図図式

発行図

鉱 物	上総一宮	茂原北	
大多喜		上総東	
上総中野	御宿	上総大原	

千葉県

A. 鴨川市　1. 長狭町　2. 鴨川市　3. 一宮町
B. 長南町　4. 大多喜町　5. 長南町　6. 睦沢町
7. 大原町

昭和45年測量
昭和55年修正測量

1. この印（□）中の天地は昭和55年3月現在
2. 現地調査は昭和55年5月実施
3. 境界は昭和50年9月22日現在

1:25,000 国 吉

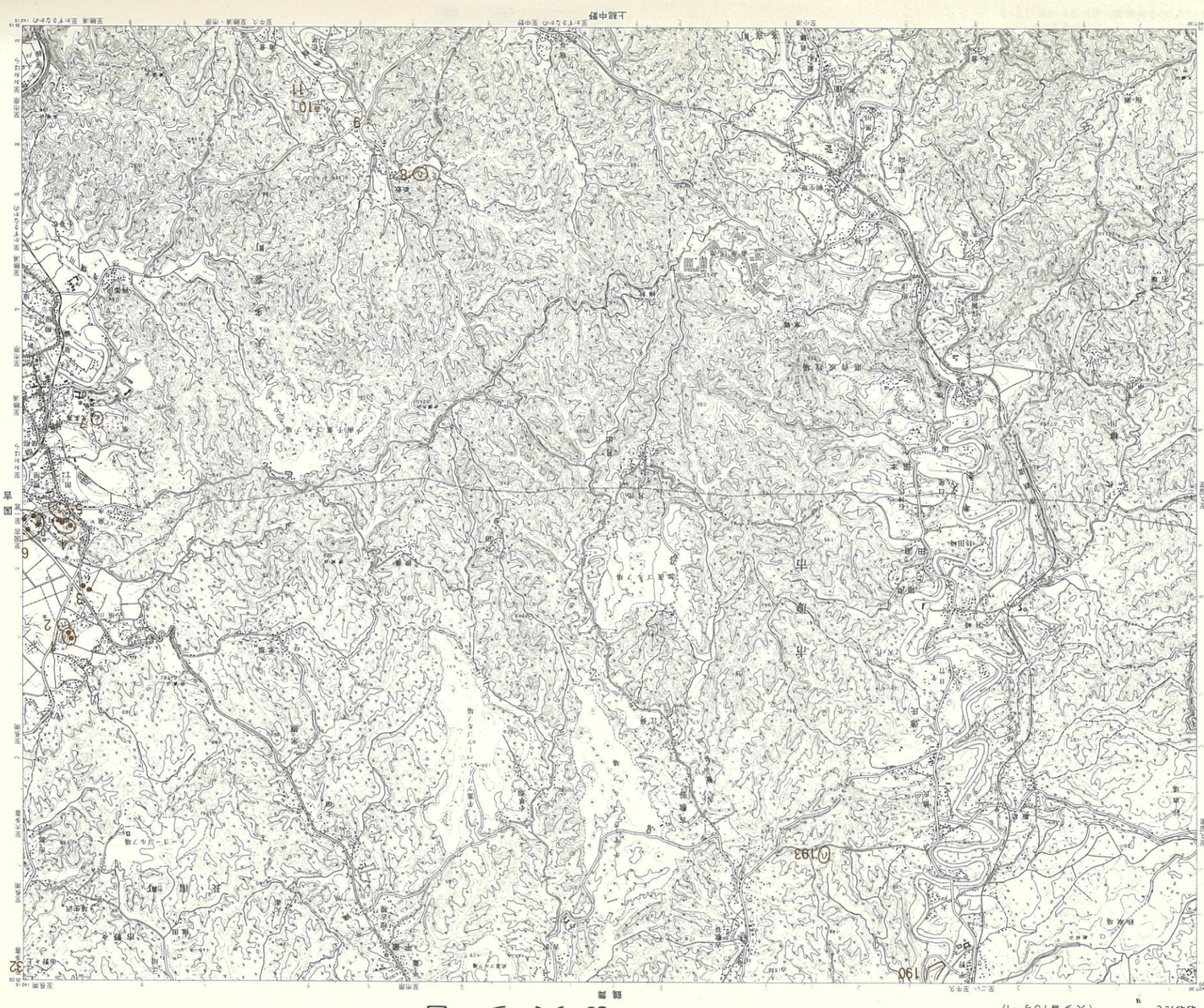
昭和57年1月30日発行（3色刷）　1ヤ7ム（様製七第7ヤ6
著作権者 国土地理院

1:25,000 地形図　NI-54-20-9-3

40 国 吉

（大多喜9号-3）

上総一宮



凡例

千葉県



上総興津	鉱 物	上総一宮	
久留里		茂原	
上総中野	御宿	東金	

A. 大多喜
B. 長南町
C. 長生郡
D. 鴨川郡　大多喜町

隣接図

1. 印刷はユニバーサルデザインフォント(見やすい文字)を使用しています。
2. 図郭に付した図種は図種変更(ページとの目安
3. 表示の基準は変更前の予約用図
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°0′（昭和59年）
6. 図式は昭和40年式(改正昭和44年部分修正)1:25,000地形図図式

発行図

昭和45年測量
昭和59年修正測量

1. この印（□）中の天地は昭和59年7月現在
2. 現地調査は昭和59年11月実施

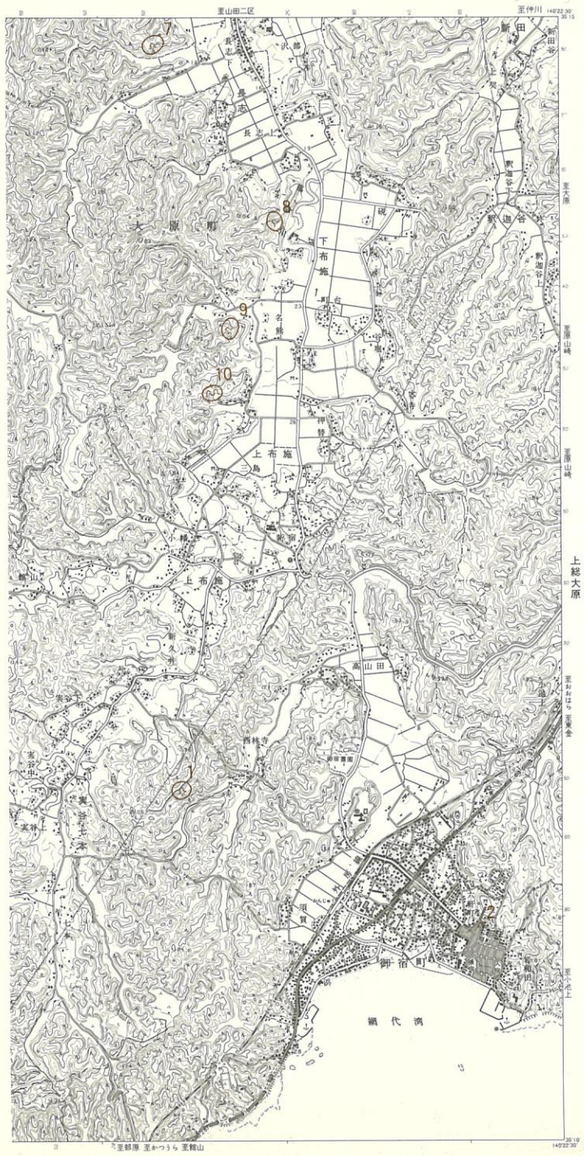
1:25,000 大 多 喜

昭和61年8月30日発行（3色刷）　1ヤ7ム（様製七第7ヤ6
著作権者 国土地理院

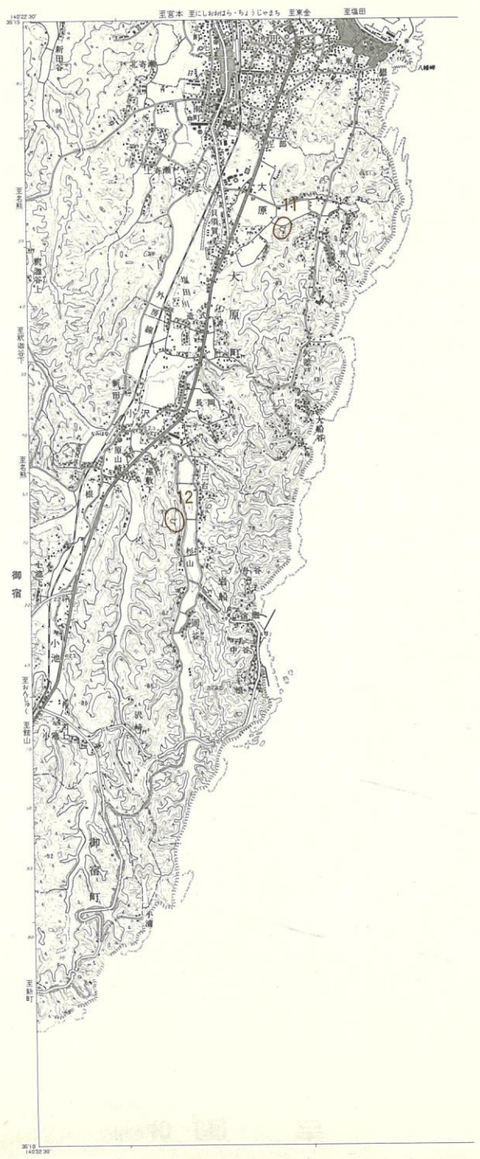
39 大 多 喜

（大多喜13号-1）

41A 御　宿



41B 上総大原



41C 上総長者



42A 上　総　湊



42B 鬼　泊　山

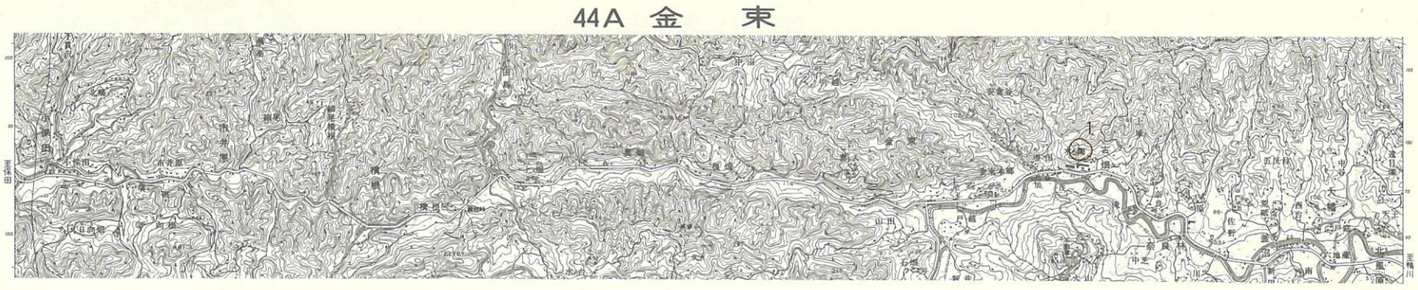


43A 保　田



43B 那　古

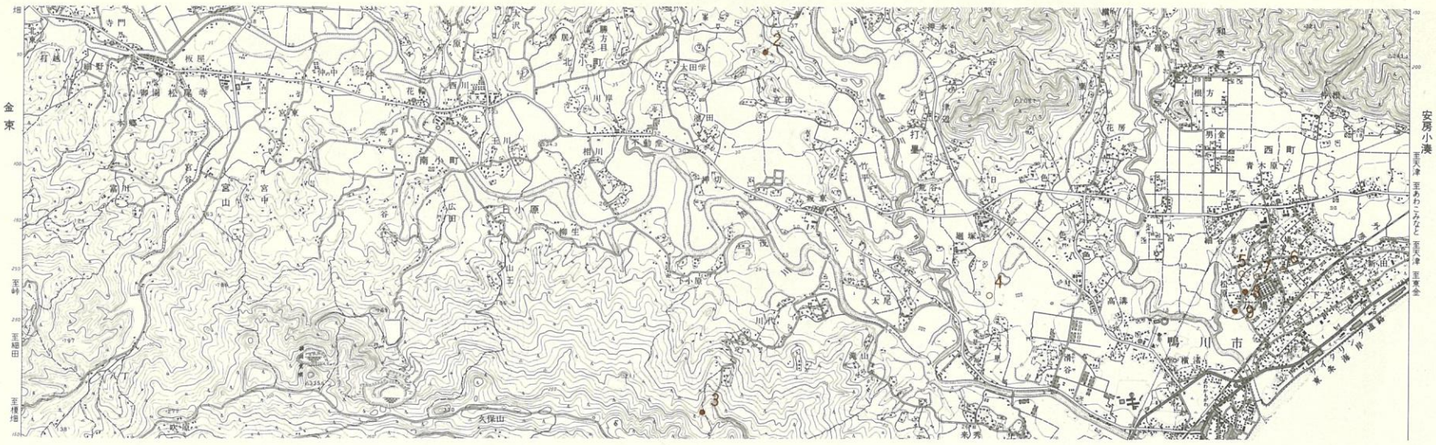
44A 金　束



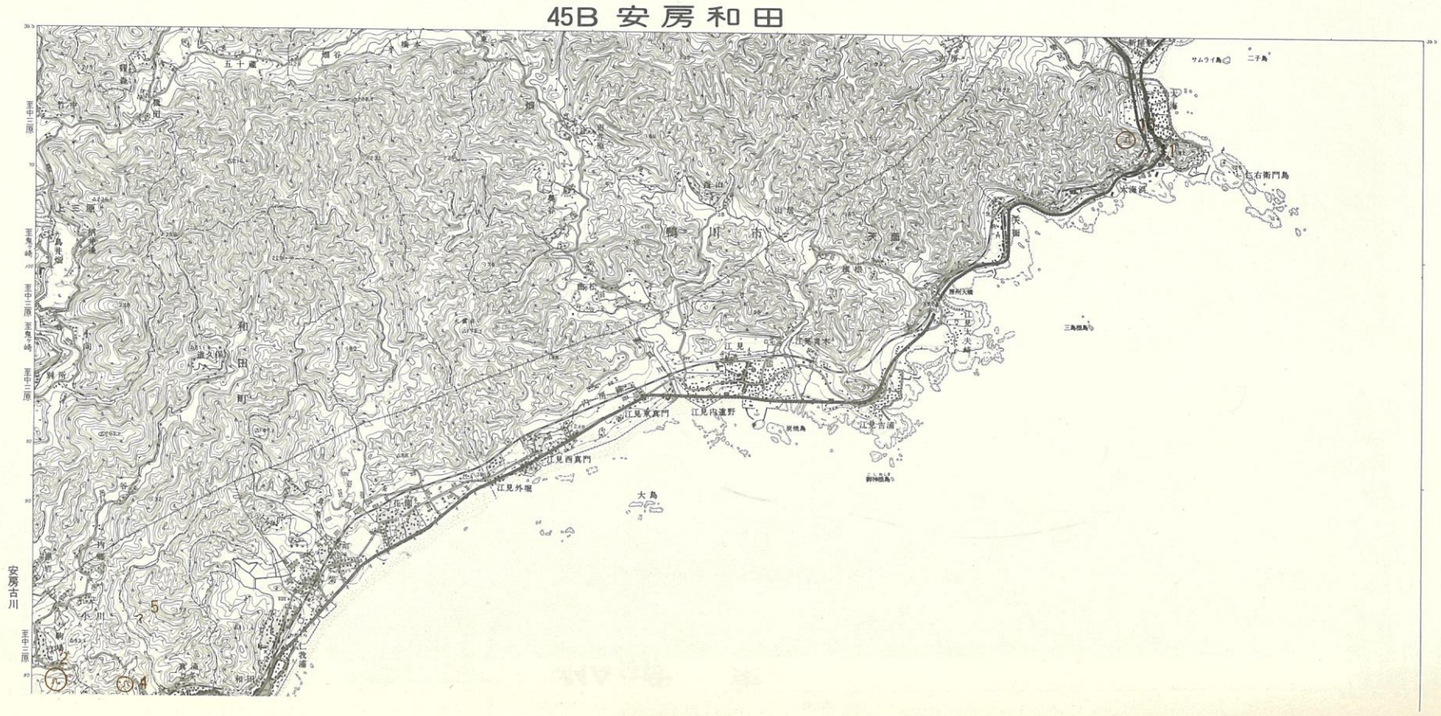
44B 安房古川



45A 鴨　　川

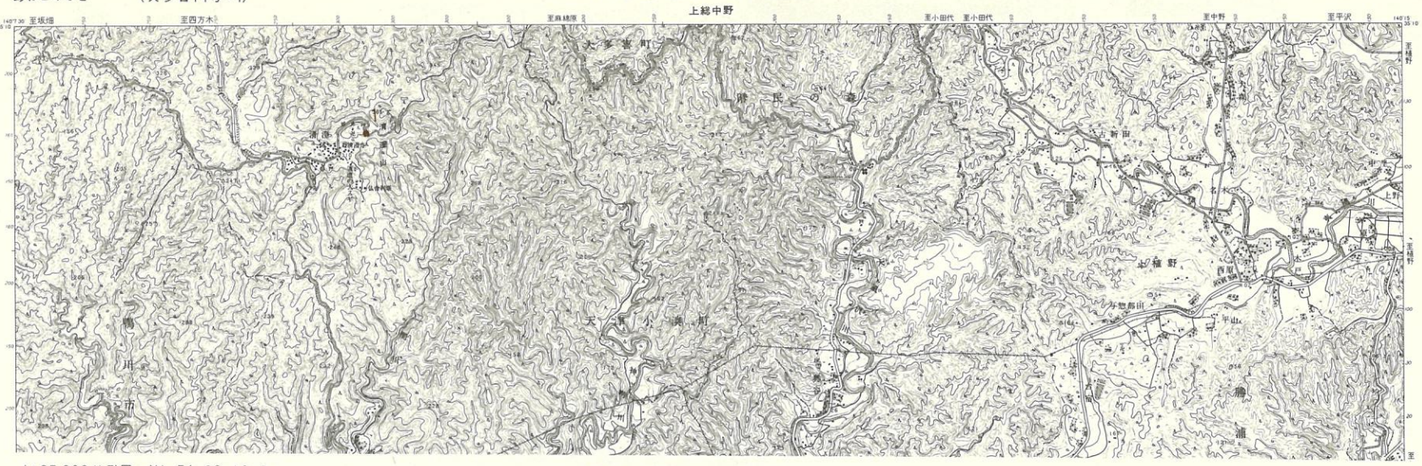


45B 安 房 和 田



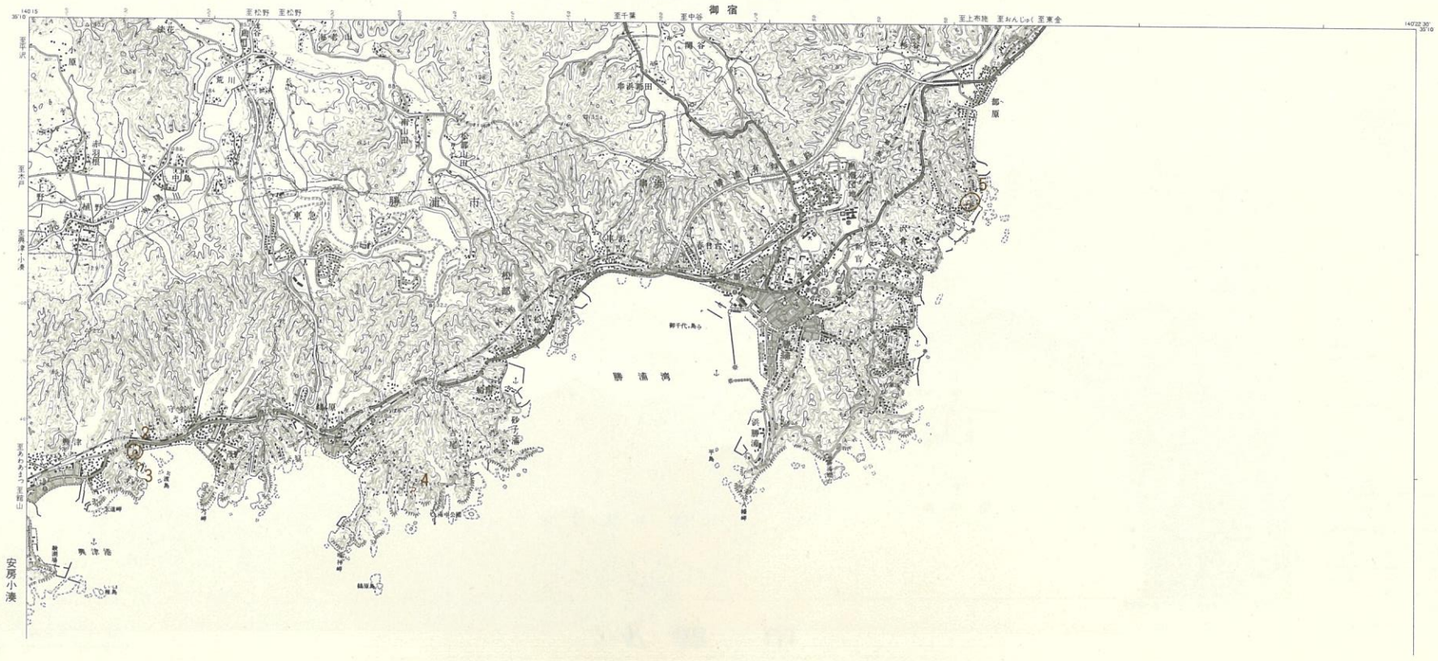
1：25,000 地形図　NI-54-20-14-1
あわこみなと　　（大多喜14号－1）

46A 安 房 小 湊



1：25,000 地形図　NI-54-20-10-3
かつうら　　（大多喜10号－3）

46B 勝　　浦



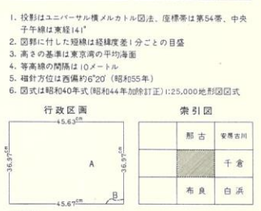
1:25,000 地形図　NI-54-26-3-3
たてやま　（横須賀3号-3）

47 館　山



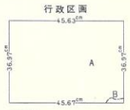
記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和55年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画



千葉県
A. 館山市
B. 安房郡　白浜町

索引図



昭和3年測量
昭和45年改測
昭和55年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和54年10月撮影
2. 現地調査は昭和55年6月実施
3. 境界は昭和47年3月7日現在

1:25,000　館　山

昭和57年8月30日発行（3色刷）　許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

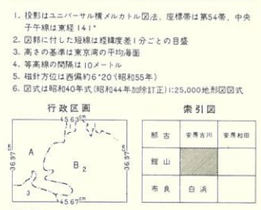
1:25,000 地形図　NI-54-26-3-1
ちくら　（横須賀3号-1）

48 千　倉



記号





1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線の間隔は10メートル
5. 磁針方位は西偏約6°20'（昭和55年）
6. 図式は昭和40年式（昭和44年加除訂正）1:25,000地形図図式

行政区画



千葉県
A. 館山市
B. 安房郡　1. 丸山町　2. 千倉町　3. 白浜町

索引図



昭和3年測量
昭和45年改測
昭和55年修正測量
1. 使用した空中写真は昭和54年10月撮影
2. 現地調査は昭和55年6月実施
3. 境界は昭和51年2月1日現在

1:25,000　千　倉

昭和57年3月30日発行（3色刷）　許可なく複製を禁ずる
著作権所有兼発行者　国土地理院

千葉県所在古墳詳細分布調査報告書

平成２年３月31日発行

発　行　者　　千葉県教育委員会

編　集　者　　千葉県教育庁文化課
千葉市中央４丁目13番28号

印　刷　所　　旭印刷株式会社